このたびは、スズキ　eエブリイ　を
お買い求めいただきありがとうございます。

ご使用の前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
お車の取扱いを誤ると、事故や故障の原因となります。本書をよくお読みいただき、いつまでも快適なカーライフをお楽しみください。

- 本書は、お車の取扱いや万一のときの処置などについて説明しています。
- 保証や点検整備については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。本書とあわせてお読みください。
- 本書とメンテナンスノートは、常にお車の中に保管してください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有されるかたのために、本書とメンテナンスノートをお車につけてお渡しください。
- 限定車の装備品や、スズキ販売店またはスズキ代理店で取り付けた装備品などについては、装備品に添付されている取扱説明書をお読みください。
- 車の仕様などの変更により、本書の内容やイラストとお車が一致しない場合があります。あらかじめご了承ください。
- ご不明な点は、担当セールススタッフにおたずねください。

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	**安全・安心のために**	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	**EV システム**	充電に関する情報など
3	**計器の見方**	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
4	**各部の操作**	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
5	**運転**	運転に必要な操作やアドバイス
6	**オーディオ**	オーディオの使い方など
7	**室内装備・機能**	室内装備の使い方など
8	**お手入れのしかた**	お車のお手入れ・メンテナンスの方法
9	**万一の場合には**	故障したときや、緊急時などの対処
10	**車両情報**	お車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと …… 6
本書の見方 …… 10
検索のしかた …… 11
イラスト目次 …… 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に …… 22
安全なドライブのために …… 24
シートベルト …… 26
SRS エアバッグ …… 30

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは …… 35
チャイルドシート …… 36

2 EV システム

2-1. EV システムについて
EV システムの特徴 …… 46
EV システムの注意 …… 50
電気自動車運転のアドバイス …… 55
航続可能距離について …… 57

2-2. 充電について
充電に関する装備について … 58
普通充電ケーブルについて … 61
接続可能な外部電源について …… 67
充電方法について …… 70
充電に関するアドバイス …… 71
充電の前に知っておいていただきたいこと …… 72
普通充電のしかた …… 77
急速充電・V2H 充電／V2H 給電のしかた…… 85
充電中に使用できる機能について …… 92
正常に充電できないときは … 94

3 計器の見方

3-1. 計器の見方
警告灯／表示灯 …… 104
計器類 …… 108
マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］… 109

4 各部の操作

4-1. キー
キー …… 132

4-2. ドアの開閉、ロックのしかた
キーフリーシステム …… 135
フロントドア …… 144
スライドドア …… 149
バックドア …… 154

4-3. シートの調整
フロントシート …… 158
リヤシート …… 160

4-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル …… 162
ルームミラー …… 163
デジタルルームミラー …… 164
ドアミラー …… 173
補助確認装置 …… 176

4-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドー …… 177
ポップアップ機構付リヤガラス …… 180

5 運転

5-1. 運転にあたって
運転にあたって …… 182
荷物を積むときの注意 …… 191

5-2. 運転のしかた
パワー（イグニッション）スイッチ …… 192
トランスミッション …… 197
方向指示レバー …… 202
パーキングブレーキ …… 203

5-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ …… 204
ADB（アダプティブドライビングビーム）…… 207
ワイパー & ウォッシャー（フロント）…… 212
ワイパー & ウォッシャー（リヤ）…… 214

5-4. 運転支援装置について
スマートアシスト …… 216
衝突警報機能（対車両、対歩行者 [昼夜]、対自転車）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両、対歩行者 [昼夜]、対自転車）…… 229
ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）… 242
車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制機能 …… 252
ふらつき警報機能 …… 259
先行車発進お知らせ機能 … 262
標識認識機能 [車両進入禁止、最高速度、一時停止]…… 265
コーナーセンサー …… 269
バックアイカメラ …… 275
運転を補助する装置 …… 279

5-5. 運転のアドバイス
寒冷時の運転 …… 285

6 オーディオ

6-1. オーディオの基本操作
オーディオの種類 …… 290
ラジオの使い方 …… 291
アンテナ …… 294

7 室内装備・機能

7-1. エアコンの使い方
オートエアコン …… 296
シートヒーター …… 303

7-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 …… 304

7-3. 収納装備
収納装備一覧 …… 306

7-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 …… 313
AC 電源コンセント［100V、1500W］［非常時給電システム付］… 318
正常に AC 電源コンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは …… 329

8 お手入れのしかた

8-1. お手入れのしかた

外装のお手入れ …… 334
内装のお手入れ …… 338

8-2. 簡単な点検・部品交換

点検口 …… 341
ボンネット …… 345
ガレージジャッキ …… 348
ウォッシャー液の補充 …… 349
タイヤについて …… 351
タイヤの交換 …… 354
タイヤ空気圧について …… 359
エアコンフィルターの交換 …… 361
ワイパーゴムの交換 …… 363
キーの電池交換 …… 367
ヒューズの点検・交換 …… 370
電球（バルブ）の交換 …… 373

9 万一の場合には

9-1. まず初めに

故障したときは …… 386
非常点滅灯（ハザードランプ）…… 387
発炎筒 …… 388
車両を緊急停止するには … 390
水没・冠水したときは …… 391
車中泊が必要なときは …… 392

9-2. 緊急時の対処法

けん引について …… 393
警告灯がついたときは …… 399
警告メッセージが表示されたときは …… 403
「スマアシ停止」が表示されたときは …… 421
パンクしたときは …… 424
EV システムが始動できないときは …… 435
携帯リモコンが正常に働かないときは …… 436
補機バッテリーがあがったときは …… 438
オーバーヒートしたときは …… 442
スタックしたときは …… 445

10 車両情報

10-1.仕様一覧
メンテナンスデータ …… 448
10-2.カスタマイズ機能
カスタマイズ機能一覧 …… 451
10-3.初期設定
初期設定が必要な項目 …… 456

さくいん

こんなときは（症状別さくいん） …… 458
お車から音が鳴ったときは（音さくいん） …… 461
アルファベット順さくいん …… 462
五十音順さくいん …… 463

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

スズキ販売店またはスズキ代理店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

●スズキが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

●車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、お車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●次の場合はスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

- タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
  異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
- 電装品・無線機の取り付け・取り外し
  電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
  RF 送信機の取り付けについては P. 9 も参照してください。

●フロントウインドーガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界を妨げるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

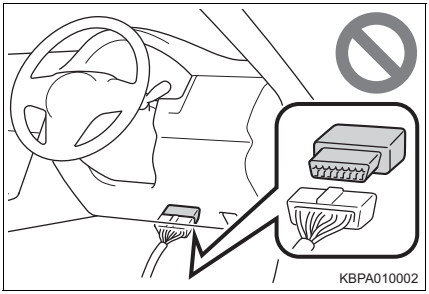
サイバー攻撃のリスクについて

電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

スズキ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してスズキは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。
電子機器に悪影響をおよぼしたり、補機バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

●データの取り扱いについて

スズキ、スズキの代理店・販売店およびスズキの委託先はコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、スズキ、スズキの代理店・販売店およびスズキの委託先は取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

●車両の各システムの作動状況

●アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況

●車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。スズキに加え、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

●EDR データの情報開示

次の場合を除き、スズキは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- スズキが訴訟で使用する場合

ただし、スズキは

- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

●EV システム

●スマートアシスト

●VSC

●SRS エアバッグ

●シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずスズキ販売店またはスズキ代理店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をスズキ販売店またはスズキ代理店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や電気製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

高電圧部位に貼り付けられている記号について

ESU（電力供給ユニット）などの高電圧部位には、取り扱いに注意することを示すラベルが貼り付けされている場合があります。

記号の示す意味は次のとおりです。

記号	意味	記号	意味
	危険であることを示しています。		手で触れてはいけない部位であることを示しています。
	高電圧部位であることを示しています。		高温部位であることを示しています。

本書の見方

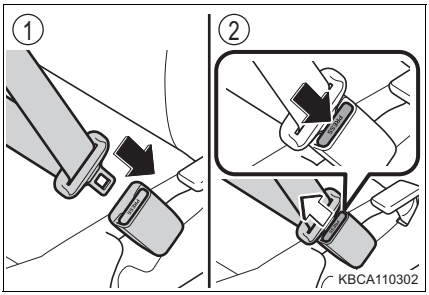
警告 お守りいただかないと、お客様ご自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

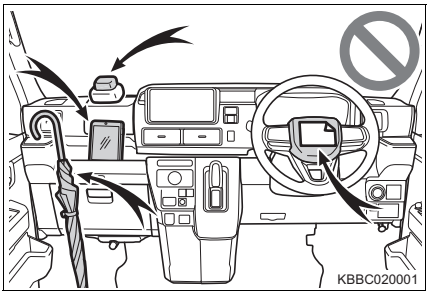
➡: 押す・回すなど、していただきたい操作を示しています。

⇨: ふたが開くなど、操作後の作動を示しています。



➝: 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⃠: “してはいけません”
“このようにしないでください”
“このようなことを起こさないでください”という意味です。

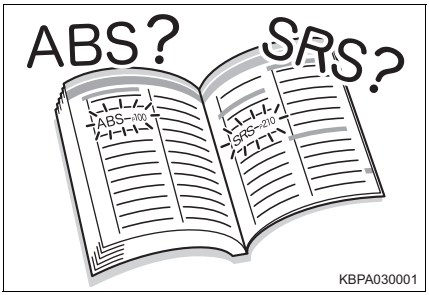


知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

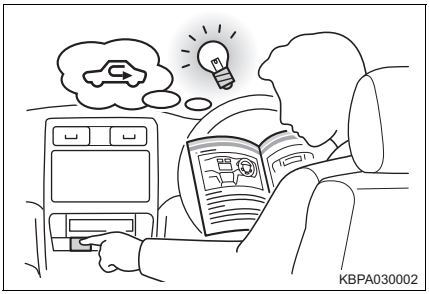
▶名称から探す

- 五十音順さくいん ……463
- アルファベット順さくいん ……462



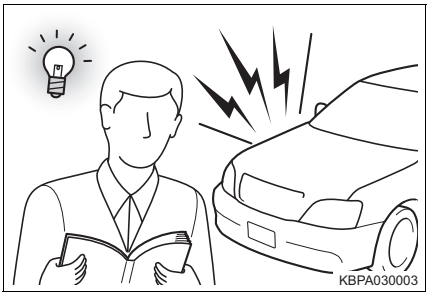
▶取り付け位置から探す

- イラスト目次 …… 12



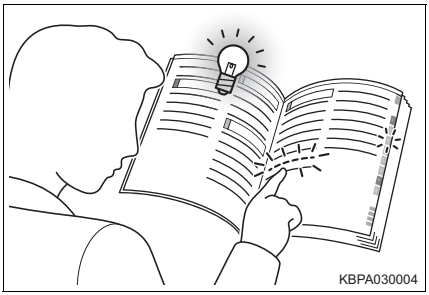
▶症状や音から探す

- こんなときは（症状別さくいん） ……458
- お車から音が鳴ったときは（音さくいん） ……461



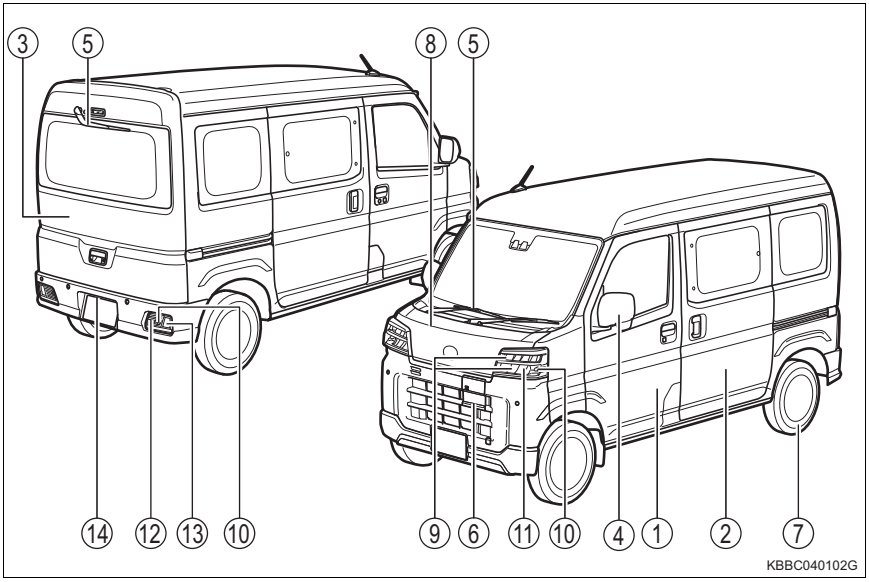
▶タイトルから探す

- 目次 …… 2



イラスト目次

外観



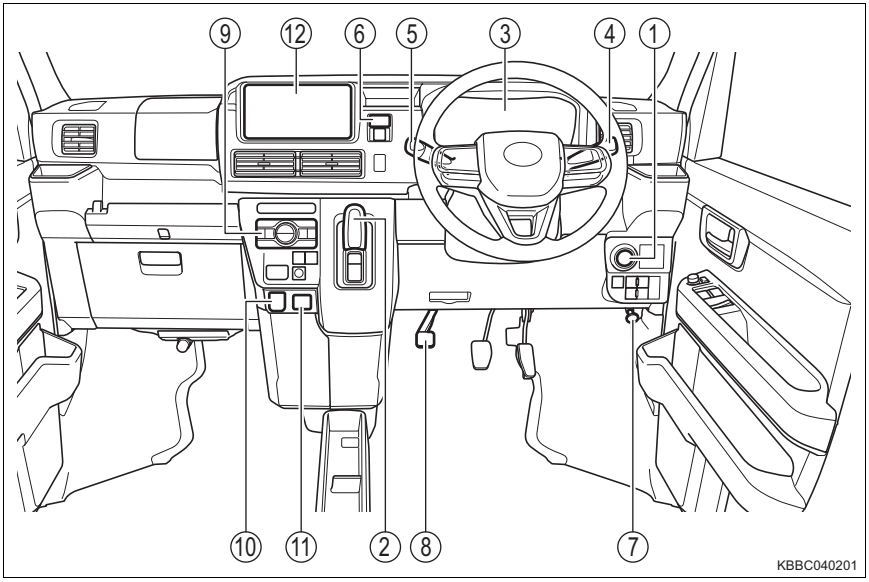
① ドア …… P. 144
施錠／解錠 …… P. 135, 144
ドアガラスの開閉 …… P. 177
キーでの施錠／解錠 …… P. 436
警告メッセージ …… P. 403
② スライドドア …… P. 149
施錠／解錠 …… P. 149
ドアガラスの開閉 …… P. 180
スライドドアの開閉 …… P. 149
警告メッセージ …… P. 403
③ バックドア …… P. 154
施錠／解錠 …… P. 135, 154
警告メッセージ …… P. 403

④ **ドアミラー** …… **P. 173**
鏡面の角度調整 …… P. 173
ミラーの格納 …… P. 174
⑤ **ワイパー** …… **P. 212, 214**
冬季の注意 …… P. 285
ワイパーゴムの交換 …… P. 363
⑥ **充電ポート** …… **P. 58**
充電方法 …… P. 70
⑦ **タイヤ** …… **P. 351**
サイズ・空気圧 …… P. 450
冬用タイヤ・タイヤチェーン …… P. 285
点検・ローテーション …… P. 351
パンク時の対処 …… P. 424
⑧ **ボンネット** …… **P. 345**
開け方 …… P. 345
オーバーヒート時の対処 …… P. 442

走行にかかわる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 373, ワット数：P. 450）

⑨ **ヘッドランプ** …… **P. 204**
⑩ **方向指示灯** …… **P. 202**
⑪ **車幅灯** …… **P. 204**
⑫ **後退灯**
シフトポジションをRにする …… P. 197
⑬ **尾灯** …… **P. 204**
⑭ **番号灯** …… **P. 204**

インストルメントパネル

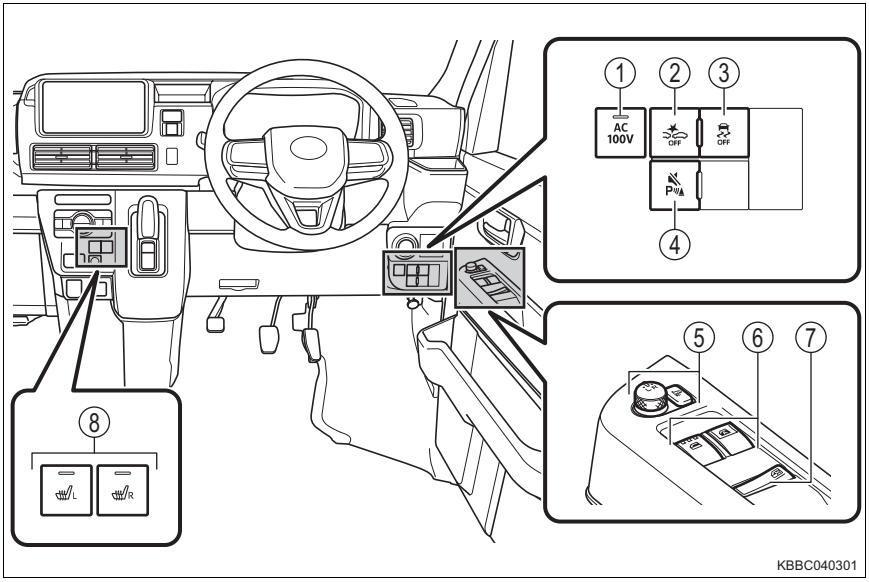


① パワースイッチ …… P. 192
EV システムの始動・モード切り替え …… P. 192
EV システムの緊急停止 …… P. 390
EV システムが始動できないときの対処 …… P. 435
警告メッセージ …… P. 403
② シフトレバー …… P. 197
シフトポジションの切り替え …… P. 197
けん引時の注意 …… P. 393
③ メーター …… P. 108
見方・明るさの調整 …… P. 116
警告灯／表示灯 …… P. 104
警告灯点灯時の対処 …… P. 399
マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］…… P. 109
表示内容 …… P. 109
警告メッセージ表示時の対処 …… P. 403

④ **方向指示レバー** …… **P. 202**
ランプスイッチ …… **P. 204**
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯など …… P. 204
⑤ **ワイパー&ウォッシャースイッチ** …… **P. 212, 214**
使い方 …… P. 212, 214
ウォッシャー液の補充 …… P. 349
⑥ **非常点滅灯スイッチ** …… **P. 387**
⑦ **ボンネット解除レバー** …… **P. 345**
⑧ **パーキングブレーキ** …… **P. 203**
かける・解除する …… P. 203
冬季の注意 …… P. 285
警告灯・警告メッセージ …… P. 399, 403
⑨ **エアコン** …… **P. 296**
操作方法 …… P. 296
リヤウインドーの曇り取り（リヤデフォッガー）…… P. 298
⑩ **アクセサリーソケット** …… **P. 314**
⑪ **USB ソケット** …… **P. 315**
⑫ **オーディオ★** …… **P. 290**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スイッチ類

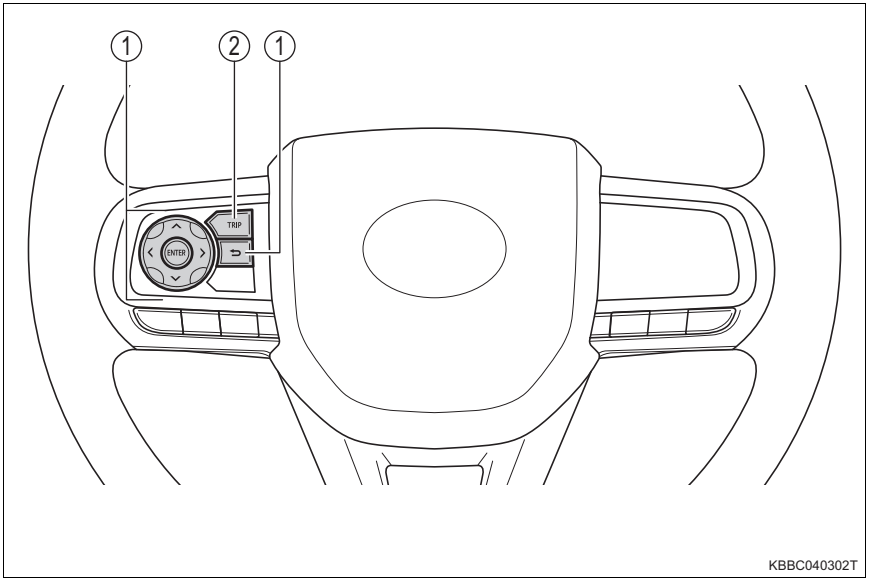


スイッチの配置は、グレードなどで異なります。

① AC100V スイッチ …… P. 318
② スマートアシスト OFF スイッチ …… P. 220
③ VSC・TRC OFF スイッチ …… P. 280
④ コーナーセンサーブザー OFF スイッチ …… P. 271
⑤ ドアミラースイッチ★ …… P. 173
⑥ パワーウインドースイッチ …… P. 177
⑦ ウインドーロックスイッチ …… P. 177
⑧ シートヒータースイッチ …… P. 303

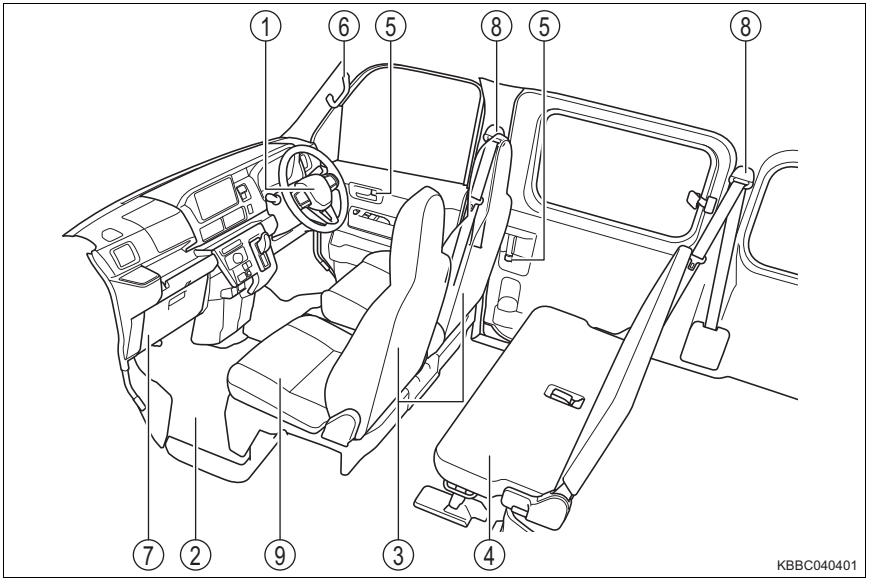
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングスイッチ



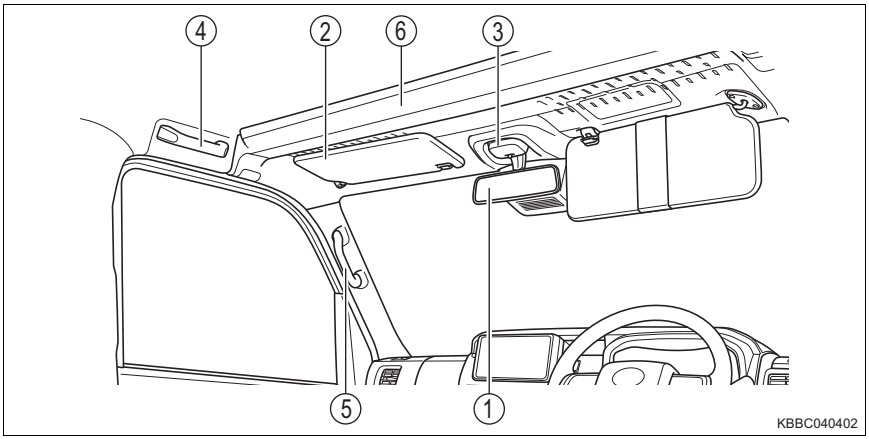
① メーター操作スイッチ …… P. 110
② TRIP スイッチ …… P. 110

室内



① SRS エアバッグ……P. 30
② フロアマット……P. 22
③ フロントシート……P. 158
④ リヤシート★……P. 160
⑤ ロックボタン／ロックレバー……P. 145, 149
⑥ 乗降グリップ……P. 316
⑦ グローブボックス……P. 307
⑧ シートベルト……P. 26
⑨ 点検口……P. 341

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



① ルームミラー …… P. 163, 164
② サンバイザー※ …… P. 313
③ ルームランプ …… P. 304
④ アシストグリップ …… P. 316
⑤ 乗降グリップ …… P. 316
⑥ オーバーヘッドシェルフ …… P. 307

※助手席側のサンバイザーに図のようなラベルが貼られています。このラベルは、助手席にチャイルドシートを後ろ向きに取り付けてはいけないということを示しています。ただし、このお車の助手席には、チャイルドシートを取り付けることはできないため、前向きであってもチャイルドシートを使用しないでください。（→ P. 39）



安全・安心のために
～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に …… 22
安全なドライブのために …… 24
シートベルト …… 26
SRS エアバッグ …… 30
1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは …… 35
チャイルドシート …… 36

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

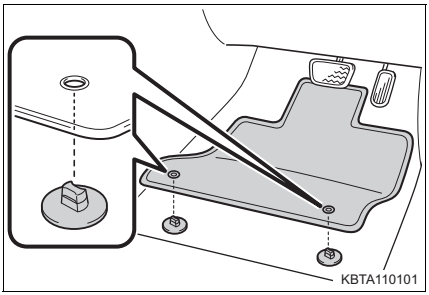
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

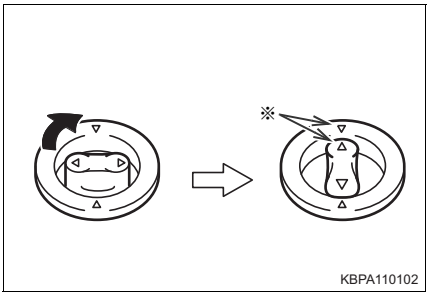
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかり固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーを回して、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

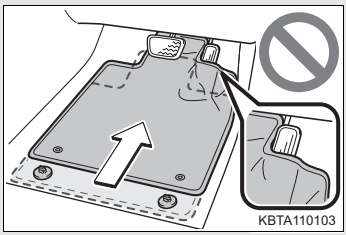
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりお車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- ●スズキ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- ●運転席専用のフロアマットを使用する
- ●固定フック（クリップ）を使って、常にしっかり固定する
- ●他のフロアマット類と重ねて使用しない
- ●フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- ●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかり固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ●EVシステム停止およびシフトポジションがＰの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する



安全なドライブのために

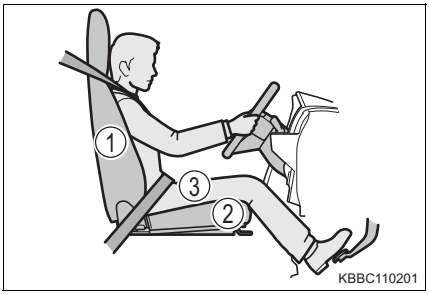
安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

① まっすぐ座り、運転操作時に背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 158）

② ペダルをしっかり踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 158）

③ シートベルトを正しく着用する（→ P. 26）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 36）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、ルームミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 163, 164, 173）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。

正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

●フロントシートの下にものを置かないでください。

ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。

●ペダル操作が確実に行える履物を着用してください。ペダル操作が確実に行えないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。

●他車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

●飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

●運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

●長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。

また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、ただちに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

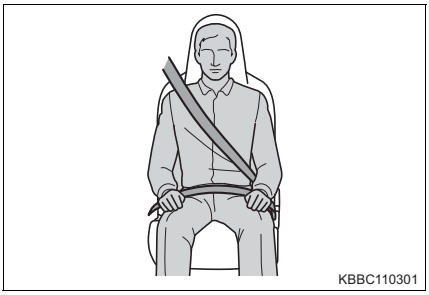
●肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩から外れないようにしてください。

●腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

●背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

●ねじれがないようにする

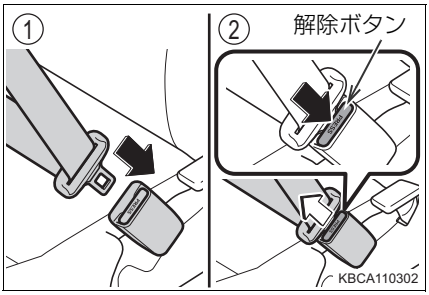

KBBC110301

着け方・外し方

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに差し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

ベルトは、自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがないかを確認しながら、プレートに手を添えてゆっくり戻してください。



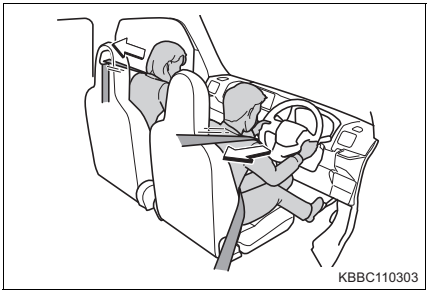
KBCA110302

シートベルトプリテンショナー & フォースリミッター（フロント席）

■ プリテンショナー

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、後ろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。


KBBC110303

■ フォースリミッター

前方からの強い衝撃を受けた場合、シートベルトにある一定以上の荷重がかかったときに、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸部への衝撃を緩和します。

前方からの衝撃が弱いときや、後ろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターについて（フロント席）

シートベルトプリテンショナー&フォースリミッターは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

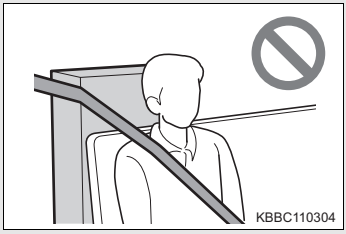
⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- ●全員がシートベルトを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- ●シートベルトの経路を妨げる荷物の積みかたはしない



- ●ハンドルやメーターに必要以上に近付いて運転しない
- ●シートベルトに、洗濯ばさみやクリップなどでたるみを付けない
- ●シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- ●お子さまは後席★に座らせてシートベルトを着用させる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

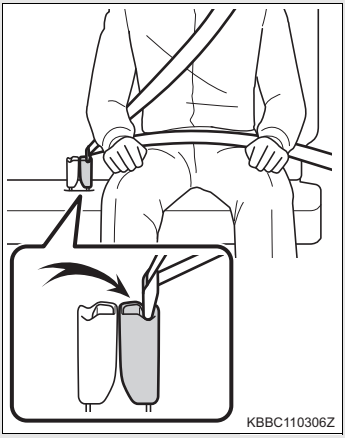
⚠ 警告

●背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る

●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない

●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

●後席★のシートベルトを着用するときは、体に近いバックルを使用する



■お子さまのシートベルトの使い方

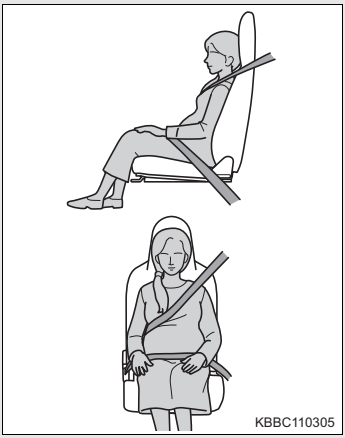
このお車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

●シートベルトを正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 36）

●シートベルトを正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 26）
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

→ P. 44

■シートベルトが汚れた場合

中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシートベルトの脱色や染色もやめてください。

■シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターについて（フロント席）

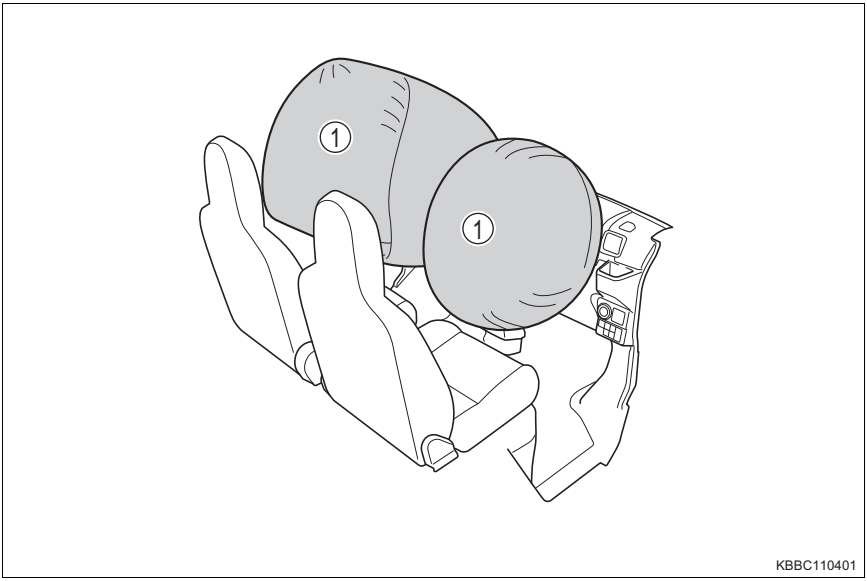
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点滅します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずスズキ販売店またはスズキ代理店で交換してください。

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。
- プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにスズキ販売店またはスズキ代理店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- シートベルトの取り付けや取り外し・改造をしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。
- プリテンショナー & フォースリミッター付きシートベルトの取り付けや取り外し・分解・廃棄などは、スズキ販売店またはスズキ代理店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRSエアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

⚠ 警告

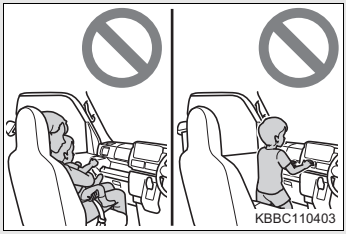
●お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまは後席★に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 36)

●シートのふちに座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

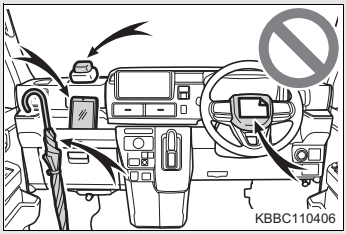


●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分やその周辺には何も取り付けたり、置いたりしない



●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、触れないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずスズキ販売店またはスズキ代理店で交換してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■SRS エアバッグが作動するとき

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に高い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

■改造・廃棄について

スズキ販売店またはスズキ代理店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取り外し・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・インストルメントパネル内の SRS エアバッグセンサー周辺の修理・取り外し・改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造

●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

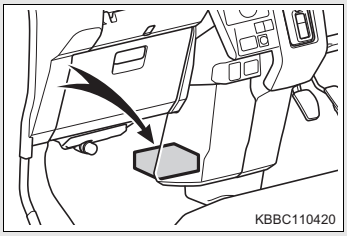
■エアバッグセンサーについて

インストルメントパネル内にSRSエアバッグのセンサーが装着されていますので、次のことをお守りください。お守りいただかないと、SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●エアバッグセンサーおよびその周辺を蹴ったり、強い衝撃を与えない

●エアバッグセンサーおよびその周辺に水などをかけない

●エアバッグセンサーを取り外さない



知識

■SRS エアバッグが作動するとき

●作動音とともに白いガスが発生します。

●エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）が数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドーガラスが破損することがあります。

●EV システムを停止します。（→ P. 54）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

- 前方約30°以上の角度でコンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき
- 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

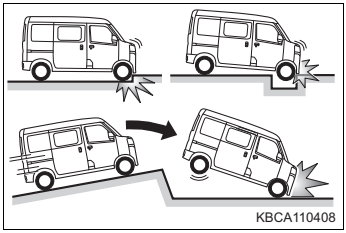
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき


KBCA110408

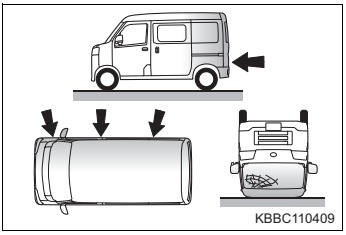
知識

■SRS エアバッグが作動しないとき

●SRS エアバッグはパワースイッチが“OFF”、“ACC”のときに衝突しても作動しません。

●フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

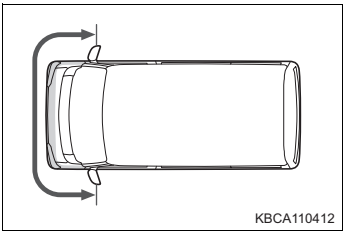

KBBC110409

■スズキ販売店またはスズキ代理店に連絡が必要な場合

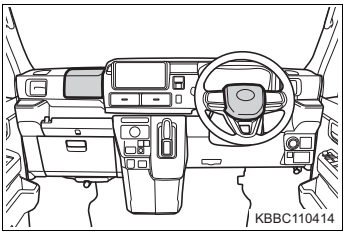
次のような場合には、修理・点検などが必要になります。できるだけ早くスズキ販売店またはスズキ代理店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


KBCA110412

●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


KBBC110414

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

●お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 36）

●運転装置に触れるのを防ぐため、お子さまは後席★に乗せることをおすすめします。

●パワーウインドーを誤操作しないように、ウインドーロックスイッチ（→ P. 177）を使用してください。

●小さなお子さまには、パワーウインドー・ボンネット・ドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告

●お子さまをお車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた P. 36 を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートを使用してください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシート★に取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

知っておいていただきたいこと

●チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。

●お子さまが成長し、適切にシートベルトを着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。

●お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。

●すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→ P. 40）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

チャイルドシートの適合性について

■ 質量グループについて

UN（ECE）R44※ の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

グループ 0： 10kg まで

グループ 0^+：13kg まで

グループⅠ： 9 ～ 18kg

グループⅡ： 15 ～ 25kg

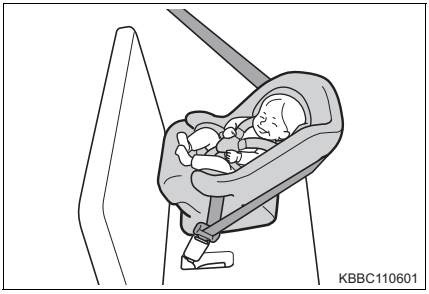
グループⅢ： 22 ～ 36kg

※UN（ECE）R44 は、チャイルドシートに関する国際法規です。

チャイルドシートの種類

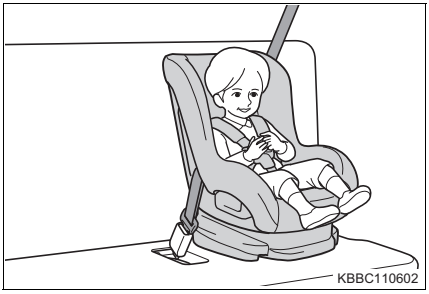
▶ベビーシート

UN（ECE）R44 基準のグループ 0、0^+ に相当



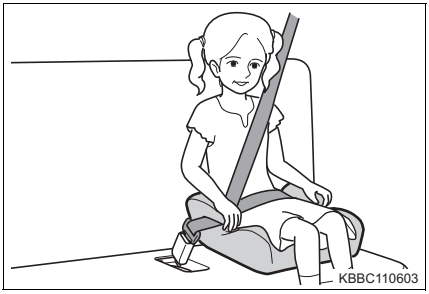
▶チャイルドシート

UN(ECE)R44 基準のグループ 0^+、Ⅰに相当



▶ジュニアシート

UN（ECE）R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当



⚠ 警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- ●スズキでは、お子さまの年齢や体格に合った適切なチャイルドシートをリヤシート★に取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシート★に適切に取り付けるほうがより安全です。
- ●お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドーガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●事故などで車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- ●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、お車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 40）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ●チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかり取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- ●チャイルドシートの取り外しが必要な場合は、車両から外して保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

チャイルドシートを使用するときは

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●助手席にチャイルドシートを取り付けないでください。事故などで助手席SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに図のようなラベルが貼られています。このラベルは、助手席にチャイルドシートを後ろ向きに取り付けてはいけないということを示しています。ただし、このお車の助手席には、チャイルドシートを取り付けることはできないため、前向きであってもチャイルドシートを使用しないでください。



■チャイルドシートを使用するとき

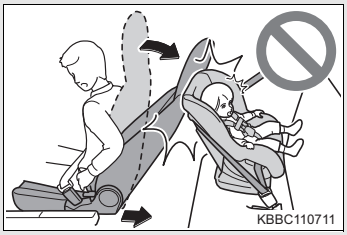
●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体格に合ったチャイルドシートを使用して、リヤシート★に取り付けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシート★に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 41）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

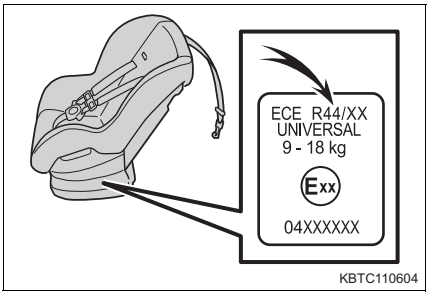
■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

▶法規番号の表示例

UN（ECE）R44 認可マーク※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



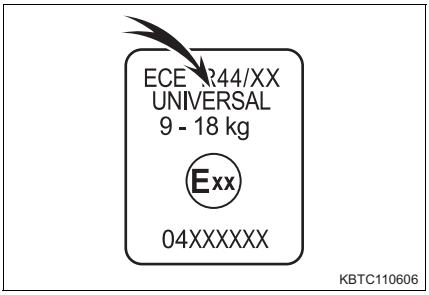
※1 UN（ECE）R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 表示されているマークは、商品により異なります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

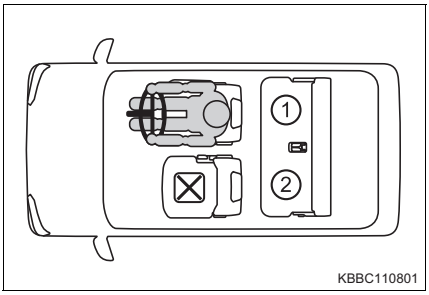
2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認いただくか、または販売業者へ確認してください。

- ユニバーサル
「universal（汎用）」
- セミユニバーサル
「semi-universal（準汎用）」
- リストリクティッド
「restricted（限定）」
- ビークルスペシフィック
「vehicle specific（特定車両）」



KBTC110606

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



KBBC110801

①	U ※
②	U ※

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

⊠ チャイルドシートの取り付けに適していません。

※チャイルドシートは必ず前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置		
シート位置の番号	①	②
ユニバーサル（汎用）ベルト式に搭載可能な着座位置（有／無）	有	有
ベルト固定の推奨チャイルドシートに適する着座位置（有／無）	無	無
i-Size 着座位置（有／無）	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシート着座位置の治具（L1 ／ L2）	×	×
搭載可能な後ろ向きチャイルドシートの治具 （R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	×	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	×	×
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3）	×	×

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型後ろ向きチャイルドシート
R2	小型後ろ向きチャイルドシート
R2X	小型後ろ向きチャイルドシート
R1	後ろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子さまやチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。

⚠ 警告

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをシートベルトで固定する

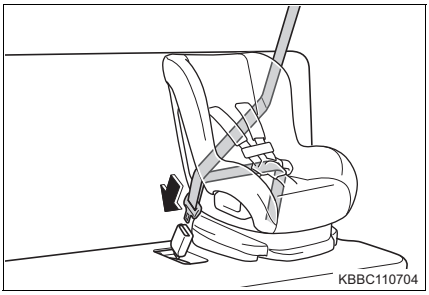
■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートの情報が表の中にない場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→ P. 41)

1 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込み、ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかり固定させてください。



2 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

■ チャイルドシートの取り外し

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取り外す

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを押さえながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくり戻してください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- ●シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- ●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- ●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。
- ●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

EV システム 2

2-1. EV システムについて

EV システムの特徴 …… 46

EV システムの注意 …… 50

電気自動車運転のアドバイス …… 55

航続可能距離について …… 57

2-2. 充電について

充電に関する装備について … 58

普通充電ケーブルについて … 61

接続可能な外部電源について …… 67

充電方法について …… 70

充電に関するアドバイス …… 71

充電の前に知っておいていただきたいこと …… 72

普通充電のしかた …… 77

急速充電・V2H 充電／V2H 給電のしかた …… 85

充電中に使用できる機能について …… 92

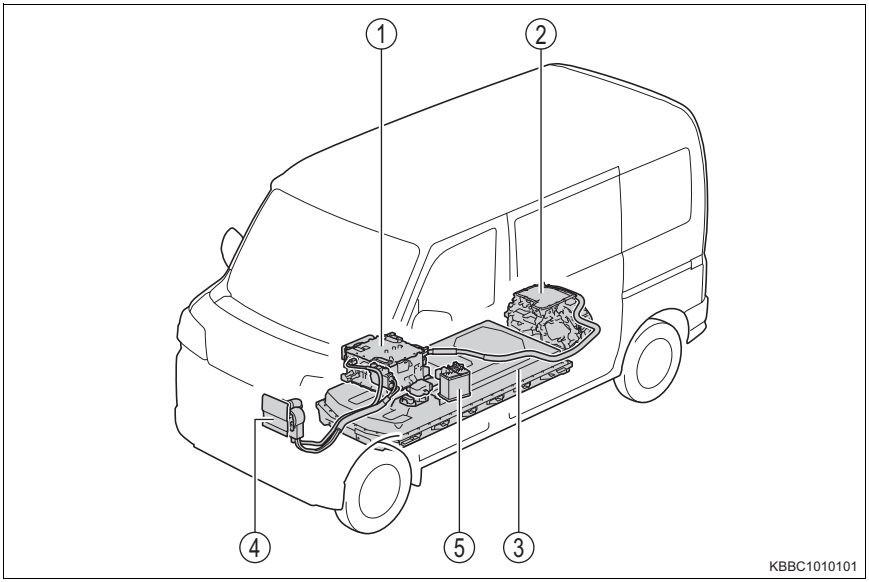
正常に充電できないときは … 94

EV システムの特徴

電気自動車は、従来の車両とは大きく異なり、駆動用電池に充電された電気で駆動モーターを駆動させることで走行します。

走行中は、CO_2（二酸化炭素）や NO_x（窒素酸化物）などを排出せず、電気を使用して走行するため、環境に優しい自動車です。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ESU（電力供給ユニット）：車載普通充電器 [6kW]・DC-DC コンバーター内蔵

② 駆動モーター／インバーター

③ 駆動用電池

駆動モーターに電気を供給します。

④ 充電ポート

⑤ 補機バッテリー

SRS エアバッグ、ヘッドランプ、ワイパーなどの様々なシステムに電力を供給します。

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が駆動モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

この回生ブレーキ機能を活用して駆動用電池に電気を蓄えることで、走行できる距離をのばすことができます。

充電について

●充電に関する装備について（→ P. 58）
●普通充電ケーブルについて（→ P. 61）
●接続可能な外部電源について（→ P. 67）
●充電の前に知っておいていただきたいこと（→ P. 72）
●充電方法について（→ P. 77、85）
●正常に充電できないときは（→ P. 94）

知識

■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電するとともに減速力を得ることができます。

- シフトポジションが D で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトポジションが D で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーは、EV システムが作動しているとき、または駆動用電池の充電中に、駆動用電池から充電されます。車両を長時間使用しないと、補機バッテリーの電力が自然放電のために低下する場合があります。この場合は、正しい手順に従って、対処してください。（→ P. 438）

■お車を長期間使用しないとき

- 駆動用電池の残量を 40 ～ 60%にし、炎天下を避けてお車を保管することをおすすめします。
  また、3 か月以上保管する場合は、3 か月ごとに駆動用電池を満充電した後、残量が 40 ～ 60%にしてください。
- 車両に普通充電ケーブルを接続したまま長期間放置すると、システムチェックなどの制御が働くことにより、補機バッテリーの電力消費量が増加します。普通充電ケーブルを接続しておく必要がないときは、ただちに車両から取り外しておいてください。

知識

■駆動用電池の充電について

●駆動用電池の残量が低下すると、電池残量警告灯が点灯または点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に警告メッセージが表示されます。

●必要に応じて駆動用電池を充電してください。駆動用電池が電欠になると、走行ができなくなります。駆動用電池の残量が少なくなっているときは、できるだけ早く充電してください。

■電気自動車特有の音と振動について

電気自動車は READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のようにエンジンの音や振動がないため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にパーキングブレーキをかけて、シフトポジションを P にしてください。

EV システム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる作動音

●シフトポジションを P から他のシフトポジションにしたとき、またはシフトポジションを P にしたときに聞こえる作動音

●ラジエーターから聞こえる冷却ファンの作動音

●空調システム（空調コンプレッサー、送風機モーターなど）の作動音

■メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

特に、お車を廃車するときは、駆動用電池の回収についてスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

車両接近通報装置

走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で通報音を鳴らします。車速が約 25km/h を超えると消音します。

知識

■**車両接近通報装置について**

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- ●周囲の騒音が大きい場合
- ●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

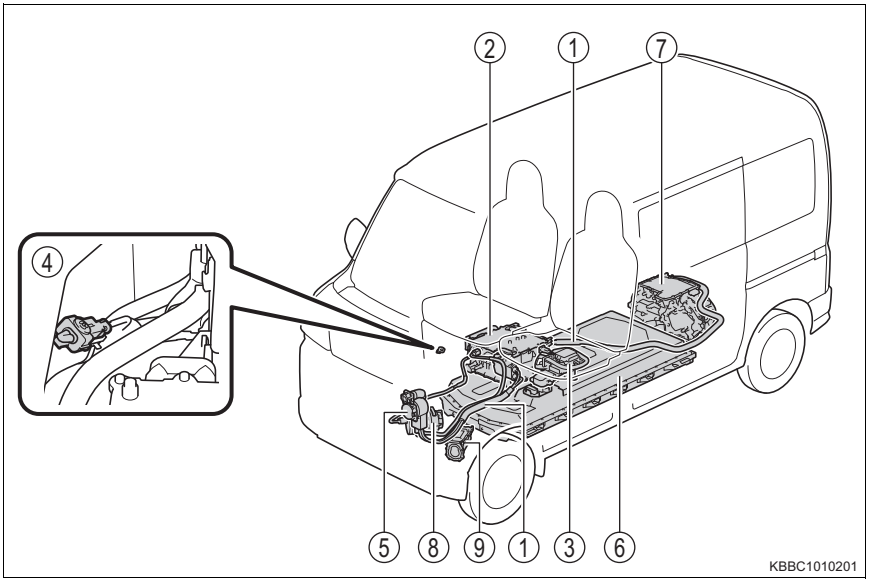
■**マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に「車両接近通報装置故障 販売店で点検を受けてください」が表示されたとき**

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店に連絡してください。

EV システムの注意

EV システムには、駆動用電池・ESU（電力供給ユニット）・オレンジ色の高電圧ケーブル・駆動モーターなどの高電圧部位（公称約 229V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。ご使用前に、ここで説明している内容をよくお読みいただき、正しく取り扱ってください。なお、高電圧部位には、取り扱い上の注意喚起のため⚠表示を含んだラベルが貼り付けされています。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① 高電圧ケーブル（オレンジ色）
② ESU（電力供給ユニット）：車載普通充電器 [6kW]・DC-DC コンバーター内蔵
③ 充電コントロールコンピューター
④ インターロックプラグ
⑤ 普通充電インレット／急速充電インレット
⑥ 駆動用電池
⑦ 駆動モーター／インバーター
⑧ 電動コンプレッサ ASSY
⑨ 高電圧水過熱ヒーター

知識

■電磁波について

●高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や電気製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。

●アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池（リチウムイオンバッテリー）について

駆動用電池には寿命があります。駆動用電池の容量（蓄電能力）は、他の充電式電池と同様に時間の経過や使用状況に伴い低下します。低下の程度は運転のしかた、充電のしかたなど、お車の使用状況や環境（外気温など）により大きく異なります。

これらはリチウムイオンバッテリー本来の特性であり、不具合ではありません。なお、電池の容量が低下すると走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

容量低下を抑えるためには、P. 74 の「駆動用電池の容量低下について」に記載されていることを心がけてください。

■駆動用電池を最適な状態に保つために

定期的に普通充電で駆動用電池を満充電してください。（2 週間に一度は満充電にすることをおすすめします）

■極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－25 ℃以下）、EV システムが始動できなくなることがあります。

その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

⚠ 警告

■高電圧・高温について

この車両は、高電圧システムを使用しています。

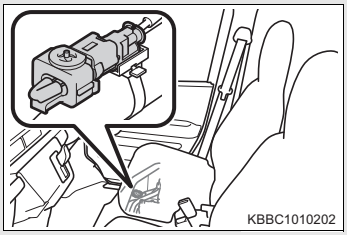
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取り外し・分解などは絶対に行わないでください。

●高電圧部位に触れないでください。特に走行後は高温になっており危険です。

⚠ 警告

●インターロックプラグが運転席下の点検口内（→ P. 341）に設置してあります。インターロックプラグは絶対に触れないでください。インターロックプラグは、スズキ販売店またはスズキ代理店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため、安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、EV システムを停止する

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）などには、絶対に触れない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対に触れない

●液体の付着や漏れがある場合は絶対に触れない

駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚に触れると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●駆動用電池の電解液が漏れている場合は、車両に近付かない

万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。

●火気や高温のものを絶対に近付けない

電解液に引火するおそれがあり危険です。

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する

水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●4 輪が接地した状態でけん引しない

駆動モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→ P. 393）

●お車の下の路面などを確認し、液体の漏れ（エアコンの水以外）が見つかった場合、駆動用電池が損傷している可能性があるため、できるだけ早く車両から離れる

この場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

軽度な事故であっても、駆動用電池や周辺部位が損傷している可能性がありますので、事故にあった場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で駆動用電池の点検を受けてください

⚠ 警告

■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取り外された駆動用電池は事故防止のため、駆動用電池の回収についてスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する
- 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取り外さないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターに触れると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、スズキ販売店またはスズキ代理店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

●電気自動車は走行時にエンジン音がないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●車両床下に強い衝撃を受けたときは、すぐに安全な場所に停車し下まわりを点検してください。

床下に駆動用電池の液漏れや損傷が見られる場合、絶対に車両に触れず、ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

また、床下に異常が見られない場合でも、駆動用電池が損傷している可能性がありますので、車両床下に衝撃を受けた場合には、スズキ販売店またはスズキ代理店で駆動用電池の点検を受けてください。

■改造について

車高を下げると、床下にある駆動用電池が衝撃を受けやすくなり、電池を損傷し、発火や車両火災などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。車高を下げる改造は絶対に行わないでください。

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、EV システムを停止して高電圧を遮断します。

この場合、EVシステムを再始動させることができなくなるためスズキ販売店またはスズキ代理店へご連絡ください。

警告メッセージ

EV システムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
(→ P. 102, 403)

知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

EV システムを再始動できないおそれがあります。

再度始動操作をしても READYインジケーターが点灯しない場合はスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

■駆動用電池が電欠になったとき

駆動用電池が電欠で EVシステムが始動できないときは、電池残量警告灯が消灯するまで、十分に充電（普通充電または急速充電 [V2H 充電]）してから再始動してください。

電気自動車運転のアドバイス

従来の車両とは異なり、高速道路での運転または平均車速の高い運転を続けた場合、走行できる距離が短くなる可能性があります。駆動用電池の残量が低下しているときは、表示された航続可能距離に頼りすぎたり、高速道路を運転したりしないでください。適度な車速で走行すると、電力消費を抑えることができます。経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

シフトポジションの操作

●信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションを D にしましょう。

●駐車するときは、シフトポジションを P にしましょう。

●シフトポジションを N にしても、電費向上の効果はありません。N では、駆動用電池は回生ブレーキで充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

渋滞

加速・減速の繰り返しや、長い信号待ちは電費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分な電気消費を抑えることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルを戻し、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

エアコンの ON ／ OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分な電力消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り、電費向上につながります。

冬季：過剰または不要な暖房は避けましょう。エアコンの使用を控え、シートヒーターを使用することで電費向上につながります。（シートヒーターは、エアコンに比べ消費電力が少ないため使用する電力を抑えられます）

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、電費悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では電力消費量が大きくなります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、電費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。

航続可能距離について

マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に表示される航続可能距離は、現在どのくらい走行が可能かの目安を示しており、表示の距離を実際に走行できない場合があります。

表示値について

マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］には、駆動用電池の残量や状態から十分な走行性能が出せる値を推定して表示しています。（→ P. 109）ただし、電池温度が低下することで航続可能距離の表示が短くなることがあります。

走行できる距離を伸ばすためのヒント

走行できる距離は、運転のしかた・道路状況・天候や気温・電装品の使用状況・乗車人数などに大きく左右されます。

次のことに気を付けて運転していただくと、より走行できる距離を伸ばすことが可能です。

●車間距離を十分にとり、不要な加減速をしない

●むだな加減速を繰り返さない

●走行中は、一定の速度で走行することを心がける

●エアコンを適切に使用し、過剰または不要な冷房・暖房は避ける

●指定されたサイズのタイヤを使用し、タイヤの空気圧を適正に維持する

●不要な荷物を積まないように心がける

知識

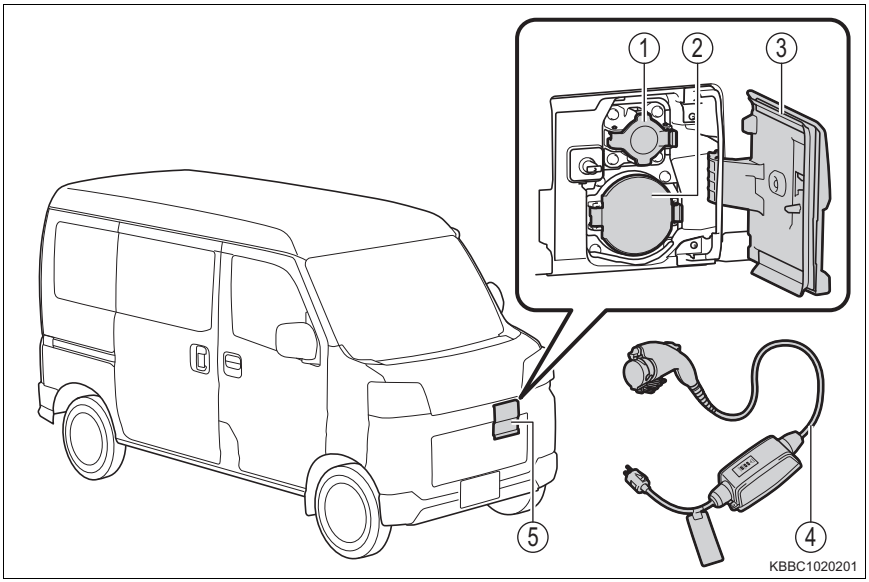
駆動用電池の残量が 20% 以下でパワースイッチを “OFF” にしたとき、駆動用電池の残量と航続可能距離が表示されます。できるだけ早く充電してください。



KBBC1010401

充電に関する装備について

充電装備と名称



① 普通充電インレット

② 急速充電インレット

③ 充電リッド（→ P. 59）

④ 普通充電ケーブル（→ P. 61）

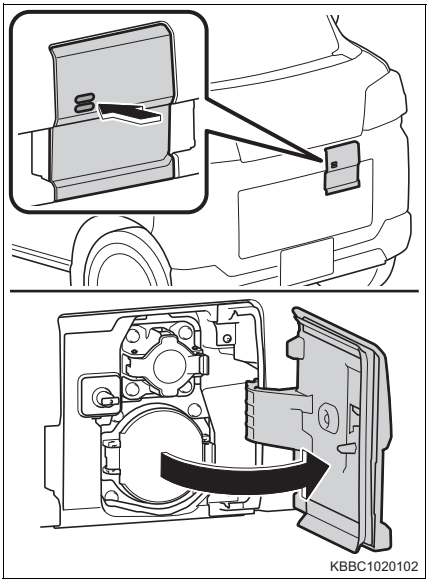
⑤ 充電ポート

充電リッドの開閉

■ 充電リッドの開け方

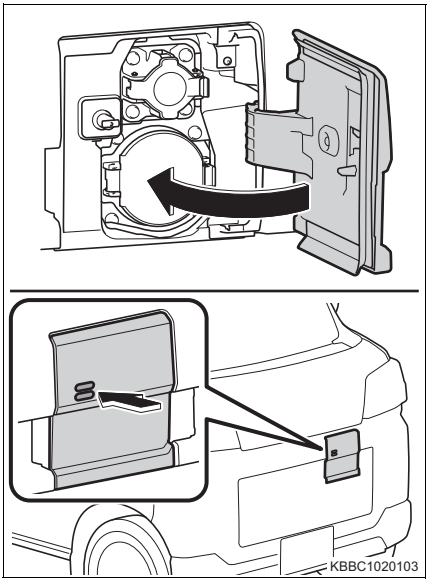
図に示す位置を押して、充電リッドを開ける。

押して手を離すと、充電リッドが少し開きます。その後、手で全開にします。



■ 充電リッドの閉め方

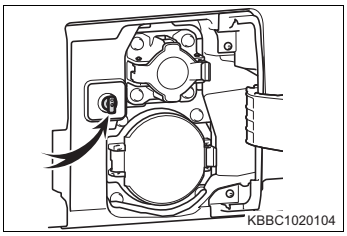
図に示す位置を押して、充電リッドを閉める



知識

■リッドリフターについて

充電リッドを閉める前に、リッドリフターが押し込まれている状態だと、充電リッドが閉まりません。その場合は、リッドリフターを押して飛び出ている状態にしてから、充電リッドを閉めてください。



普通充電ケーブルについて

普通充電ケーブルの機能や正しい取り扱い方法などについて説明しています。

⚠ 警告

■コントロールボックス付普通充電ケーブルを取り扱うとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールボックスの分解・修理・改造をしない
  コントロールボックス付普通充電ケーブルに異常が認められた場合は、ただちに使用を中止してスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
- ●普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールボックスに強い衝撃を与えたり落としたりしない
- ●普通充電ケーブルを無理に折り曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、引きずるなどの負担をかけない
- ●普通充電ケーブルを鋭利なもので傷付けたりしない
- ●電源プラグの端子を折り曲げたり異物を付けたりしない
- ●普通充電コネクター・電源プラグを水に浸けない
- ●普通充電ケーブルを熱器具などの高温物に近付けない
- ●普通充電ケーブル・電源プラグコードに負荷をかけない（コントロールボックス・普通充電コネクターに普通充電ケーブルを巻き付けるなど）
- ●コンセント・電源プラグに負荷がかかる状態で使用したり、放置したりしない（コントロールボックスが接地せず、宙吊りになっているなど）

⚠ 注意

■普通充電ケーブルの取り扱いに関する注意

次のことをお守りください。お守りいただかないと、普通充電ケーブルや普通充電インレットの故障につながるおそれがあります。

- ●普通充電コネクターは、斜めになったり傾いたりしないよう、普通充電インレットにまっすぐ差し込む
- ●普通充電コネクターを差し込んだあとは、普通充電コネクターに無理な力をかけたり、こじったりしない。また、体や荷物などをぶつけないように注意する
- ●普通充電ケーブルを踏んだり、つまずいたりしないように注意する
- ●普通充電ケーブルを取り外したあとは、ただちに所定の位置に片付ける
- ●普通充電コネクターを取り外したあとは、普通充電インレットキャップを確実に取り付ける

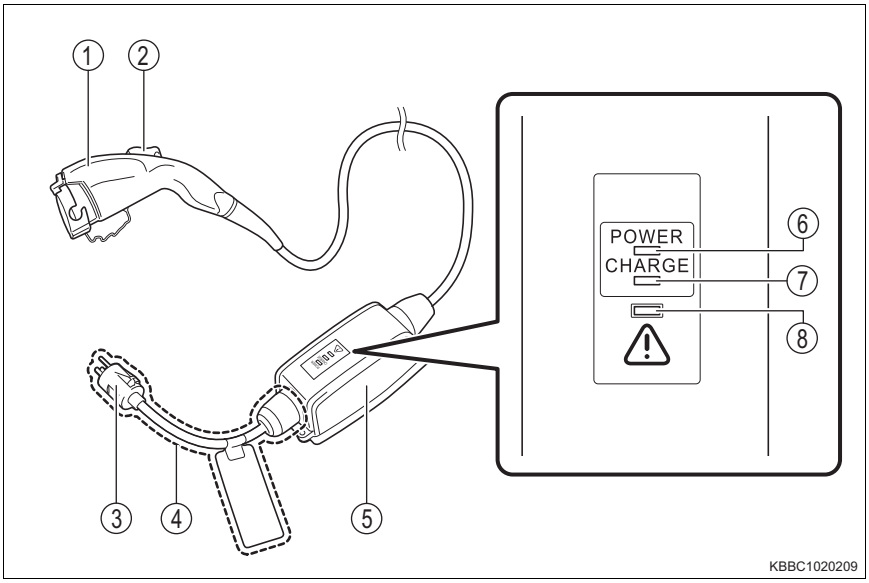
■普通充電ケーブルや関連部品などを取り扱うとき

→ P. 77

■寒冷時の注意

寒冷時は、普通充電ケーブル・電源プラグコードが通常より固くなることがあるため、固くなった状態で無理な力をかけないでください。普通充電ケーブル・電源プラグコードの損傷につながるおそれがあります。

各部の名称



① 普通充電コネクター
② ロック解除ボタン
③ 電源プラグ
④ 電源プラグコード
⑤ コントロールボックス
⑥ 電源インジケーター（→ P. 64）
⑦ 充電インジケーター（→ P. 64）
⑧ エラーインジケーター（→ P. 64）

安全機能について

普通充電ケーブルに取り付けられているコントロールボックスは、次のような安全機能を備えています。

■ 漏電検知機能

充電中に漏電を検知すると、自動的に電気を遮断し、漏電による感電や火災などを未然に防ぎます。

漏電検知機能により電気が遮断された場合は、エラーインジケーターが点滅します。（電気が遮断された場合の対処方法については、P. 65 を参照してください）

■ 自動チェック機能

漏電検知機能の作動に問題がないか、充電開始前に自動でシステムチェックが実施されます。

システムチェックの結果、漏電検知機能の異常が検出されると、エラーインジケーターの点滅でお知らせします。（→ P. 65）

■ 温度検知機能

電源プラグに温度検知機能が搭載されており、充電中、コンセント側のゆるみなどにより電源プラグ部が発熱した場合に、充電電流を制御することで発熱を抑制します。

■ 車両との通電の条件

電源プラグがコンセントに差してあっても、普通充電コネクターが車両に接続されていないと、普通充電コネクターに通電されない構造になっています。

コントロールボックス上のインジケーターについて

■ 各インジケーターの働き

3 つのインジケーターで、それぞれ次の状態を示します。

① 電源インジケーター

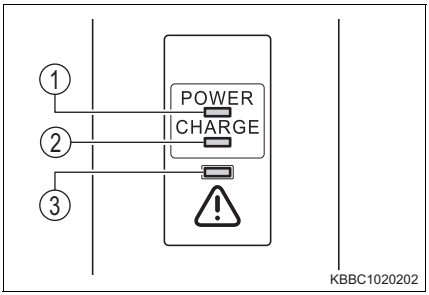
コントロールボックスに通電しているときに点灯します。

② 充電インジケーター

充電中に点灯します。

③ エラーインジケーター

漏電が発生したとき、またはコントロールボックスに異常が発生したとき点滅します。



■ 充電時に異常が発生したとき

コントロールボックス上のインジケーターの点灯・点滅状態の組み合わせにより、異常の内容をお知らせします。

エラーインジケーターが点灯・点滅したときは、一旦電源プラグをコンセントから抜き、再度コンセントに差し込んで、エラーインジケーターが消灯するか確認してください。

エラーインジケーターが消灯していれば、そのまま充電が可能です。

消灯しない場合は、次の表に従って対処してください。

状況	電源インジケーター	エラーインジケーター	原因・対処
充電システムエラー	消灯	消灯または点灯	**漏電を検知して充電を中断しているか、普通充電ケーブルが故障しています。** **→ スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。**
	点灯	点滅	
電源プラグ温度検知異常	点滅	点滅	**電源プラグの温度検知部品が故障しています。** **→ スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。**
電源プラグ温度上昇検知	点滅	消灯	**コンセントと電源プラグとの接触不良などにより、電源プラグの温度上昇を検知しました。** **→ 電源プラグがコンセントに確実に差し込まれているか確認してください。**
普通充電ケーブル寿命予告	点灯	点滅	**普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限に近付いています。** **→ スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。**
普通充電ケーブル寿命	点灯	点灯	**普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限を超えています。** **→ スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。**

普通充電ケーブルの点検・お手入れ

安全にお使いいただくために、日常的に次の事項を点検してください。

⚠ 警告

■日常点検について

定期的に次のことを確認してください。

点検をしないで使い続けると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールボックスに破損などがないこと
- ●コンセントに破損がないこと
- ●コンセントの差し込みがゆるくなっていないこと
- ●充電中に電源プラグが極端に熱くならないこと
- ●電源プラグの刃が変形していないこと
- ●電源プラグにほこりなどの汚れがないこと

電源プラグはコンセントから抜いて点検してください。また、点検の結果、普通充電ケーブルに異常が見つかった場合は、ただちに使用を中止して、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

■普通充電ケーブルのお手入れについて

汚れたときは固くしぼった布で汚れをふき取ったあと、乾いた布でからぶきしてください。

なお、水洗いは絶対に行わないでください。普通充電ケーブルを水洗いすると、充電時に火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■長期間普通充電ケーブルを使用しないとき

電源プラグをコンセントから抜いておいてください。電源プラグやコンセントにほこりがたまり、過熱や発火の原因となります。

また、普通充電ケーブルは水気がない場所で保管してください。

接続可能な外部電源について

この車両を充電するための外部電源は、ここで説明する要件を備えている必要があります。

充電作業を行う前に、あらかじめ次の事項をご確認ください。

⚠ 警告

■電気事故についての警告

車両の充電を行うときは、必ず本書に記載されている注意事項をお守りください。

必要要件を満たしていない電源を使用したり、記載されている禁止事項を守らずに充電を行ったりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

知識

■契約電力について

自宅の電源で充電する際は、契約電力※ をご確認ください。

200V 電源で充電する場合は、100V 換算での契約容量が必要となります（例えば 200V 電源で 30A の場合、100V 換算で 60A となります）。必要な電力に応じた契約電力でないと、充電時にブレーカーが作動する場合があります。

※ 電力会社との電気契約の変更が必要になる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。

■充電環境について

●必要な電力に対応した専用の普通充電器（スタンド）、または車両に搭載されている普通充電ケーブルを使用して、充電を行ってください。

- 200V 電源で 30A に対応した充電器（スタンド）を使用した場合、約 6kW で充電されます。
- 200V 電源で 16A に対応した普通充電器（スタンド）または普通充電ケーブルを使用した場合、約 3kW で充電されます。

●自宅で普通充電器（スタンド）を使用して充電するには、普通充電器（スタンド）の設置が必要です。普通充電器（スタンド）の設置については、販売業者にお問い合わせください。

電源について

●200V の充電用コンセントには、必ず専用回路を設置してください。

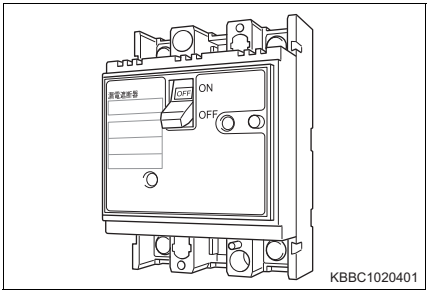
●AC200V で 16A（100V 換算で 32A）の電流が流れてもブレーカーが作動しない（電流が遮断されない）コンセントに接続してください。※

※電力会社との電気契約の変更が必要となる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。

●分岐回路内に専用の漏電遮断器が設置されていることを確認してください。

もし設置されていない場合は、必ず設置した上で車両の充電を行ってください。※

※建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。



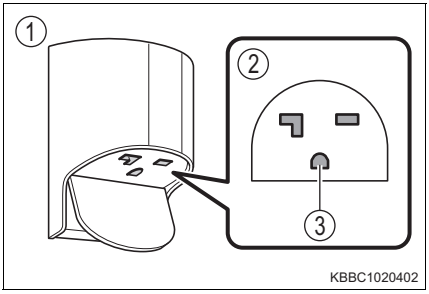
KBBC1020401

●BEV ／ PHEV 専用コンセントに接続してください。

①BEV ／ PHEV 専用コンセントの例

②200V コンセント極配置※

③接地極（アース）



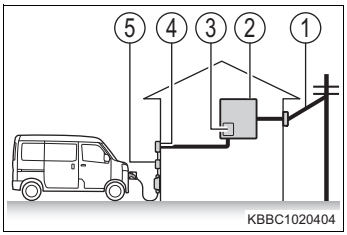
KBBC1020402

※図は代表的な形状を示したもので、実際のコンセントとは形状が異なる場合があります。

知識

■自宅の電源（コンセント）と普通充電ケーブルを使用して充電するとき

より安全に充電を行うために、次のような充電設備を設置することをおすすめします。



① 電線

② 分電盤

③ 分岐専用回路内高速高感度形漏電遮断器

万一、漏電が発生したときに住宅全体が停電する可能性を低減します。また、漏電発生時における人体への影響を最小限に抑えることができます。

④ 電源スイッチ（手元スイッチ）

スイッチ操作でコンセントへの電気を遮断し、電源プラグの抜き差しを安全に行うことができます。

⑤ BEV ／ PHEV 専用コンセント（→ P. 68）

BEV／PHEV専用コンセントは日々の使用に対する耐久性が確保されており、充電中に電源プラグがコンセントから脱落するのを防ぎます。

警告

■電源についての警告

充電時に使用する外部電源については、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●安全のため、必ず接地極（アース）付きのコンセントに接続してください。

●必ずブレーカーおよび漏電遮断器が設置されたコンセントを使用してください。

ブレーカーがないと、ショートなど異常時の過電流に対して安全を確保できません。

●普通充電コネクターと普通充電インレットは、必ず直接接続してください。

普通充電コネクターと普通充電インレットとの間に、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

充電方法について

この車両は、次の方法で駆動用電池を充電することができます。

充電方法の種類

■ 普通充電（→ P. 77）

AC コンセントと普通充電ケーブル、または普通充電器（スタンド）などで行う充電方法です。

■ 急速充電（→ P. 85）

CHAdeMO（チャデモ）※ 規格に準拠した急速充電器（スタンド）を使用して行う充電方法です。普通充電にくらべて短時間で駆動用電池を充電できます。

※ CHAdeMO はチャデモ協議会が提案する商標名です。

■ V2H（→ P. 85）

車両と V2H 機器双方向に電源供給することを「V2H（ヴィーツーエッチ）」といいます。V2H 機器から車両へ充電を行うことを「V2H 充電」、V2H 機器を経由して車両から自宅へ電源供給することを「V2H 給電」といいます。

このシステムを使用するには、V2H 機器※ が必要です。（車両には付属していません）

V2H の詳細については、各 V2H 機器の取扱説明書などをご確認いただくか、V2H 機器の製造元へお問い合わせください。

※ 車両から自宅へ電力を供給するために、車両から取り出した DC（直流）電力を AC（交流）電力に変換する機器。一般社団法人電動車両用電源供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2H DC 版に準拠したもの。

充電中に使用できる機能について

車両に充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力※ で、車両のエアコンやオーディオなどの電装品を使用できます。（→ P. 92）

※ 状況により、駆動用電池の電力が消費される場合があります。

充電に関するアドバイス

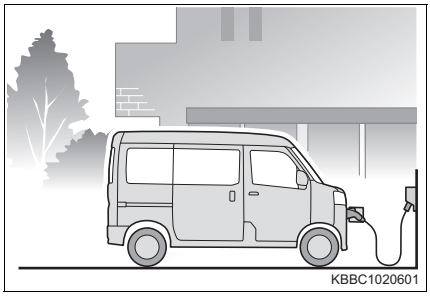
この車両の充電機能を活用する方法や、充電に関する情報の確認方法などを説明しています。

上手に充電するには

出発前・ドライブ中など、電気自動車の状況に応じて充電機能を使い分けると便利です。

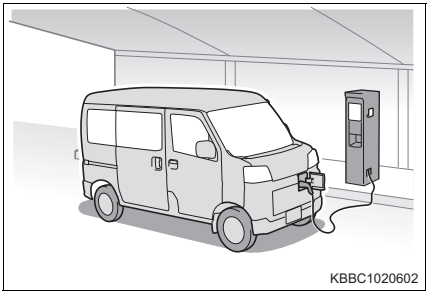
■ お出かけの前に

電気自動車を使用するために、お出かけの前には普通充電で駆動用電池を充電しましょう。（→ P. 77）


KBBC1020601

■ ドライブの途中で

ドライブ中に駆動用電池の残量が少なくなったら、最寄りの充電設備で駆動用電池を充電しましょう。


KBBC1020602

充電の前に知っておいていただきたいこと

充電を行う前に、必ず次の事項をご確認ください。

知識

■安全機能について

- 車両に充電ケーブルが接続されているときは、パワースイッチを操作してもEV システムを始動することはできません。
- READYインジケーターが点灯しているときに充電ケーブルを接続すると、EV システムは自動的に停止し、走行できなくなります。

⚠ 警告

■充電するときの警告

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、充電の操作はご自身ではなさらず、他の方にお願いしてください。

- 充電時は、普通充電器（スタンド）、急速充電器（スタンド）、充電ケーブルに近付かないでください。充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 充電中は車内にとどまらないでください。充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■車両に充電ケーブルが接続されているとき

シフトポジションを P から切り替えないでください。

万一、充電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションが P から他のシフトポジションに切り替わることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■充電に関する留意事項

一般的な電気製品と次の点が大きく異なるため、取り扱いを誤ると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●200V での普通充電時は、大電流で長時間電流が流れる（→ P. 67）
- ●お客様の充電環境によっては、屋外で充電作業を行う
- ●お子さまなど、不慣れな方だけで充電作業を行わないでください。また、普通充電ケーブルは幼児の手の届かない場所で保管してください。
- ●充電器（スタンド）で充電する場合は、機器の使用手順に従って作業を行ってください。

充電前の重要確認事項

必ず次の点をご確認ください。

- ●パーキングブレーキが確実にかかっていること（→ P. 203）
- ●パワースイッチが“OFF”になっていること（→ P. 192）
- ●ヘッドランプ、非常点滅灯・室内灯などのランプ類が消灯していること

  ランプ類が点灯していると、それらの機器に電力が消費され、充電時間が長くなります。

普通充電ケーブルの点検

充電の前に、普通充電ケーブル各部の状態に異常がないかご確認ください。（→ P. 66）

知識

■充電中は

- ●車両の状態により、充電が開始されるまでの時間が異なる場合がありますが、異常ではありません。
- ●充電中は、充電器冷却の作動に伴い、車両前方から音が聞こえることがあります。
- ●充電中・充電完了後は、充電器が搭載されている助手席下周辺が温かくなることがあります。
- ●コントロールボックスの表面が温かくなることがありますが、異常ではありません。
- ●電波の状況によっては、ラジオに雑音が入ることがあります。

■普通充電・急速充電について

普通充電と急速充電を同時に行うことはできません。2 つある充電インレットの両方に充電ケーブルを接続しても、いずれか一方のみで充電されます。

■駆動用電池の容量低下について

駆動用電池は使用していくうちに、徐々に電池容量が低下していきます。低下する割合は車の使い方、使用環境により異なります。電池容量の低下を抑えるために、次のことを心がけてください。

- ●満充電状態での高温炎天下での駐車は極力避ける
- ●走行中に頻繁な急加速、急減速をしない
- ●最高車速付近での走行を控える
- ●頻繁な急速充電は避ける

なお、電池の容量が低下すると走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

■充電後に駆動用電池の残量が低下するとき

次の場合、システムの保護のために、充電完了後の駆動用電池の残量が通常よりも少なくなる（満充電後の航続可能距離が短くなる）※ ことがあります。

- ●気温が低い、または高い環境で充電したとき
- ●高負荷走行の直後、かつ炎天下で充電したとき

上記に該当しないのに、充電完了後の駆動用電池残量が大幅に低下したときは、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

※ この場合、駆動用電池の残量表示が満充電になっていても、通常よりも早く残量が低下します。

■駆動用電池への充電量が減少するとき

普通充電器（スタンド）の供給電力が小さい、または駆動用電池への充電電力が小さくなった場合、駆動用電池への充電量が減少することがあります。

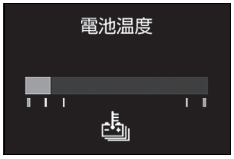
知識

■充電時間が長くなるとき

●次のような場合は、充電時間が通常より長くなることがあります。

- 外気温が低い、または高い環境下にあるとき
- 高速走行、または高負荷走行の直後などで駆動用電池の温度が高いとき
- 車両の電力消費量が大きいとき（ヘッドランプが点灯しているときなど）（→ P. 204）
- 充電中にエアコンやオーディオなどの電装品を使用しているとき（→ P. 92）
- 充電中に停電したとき
- 普通充電器（スタンド）・急速充電器（スタンド）で供給電力を調整しているとき
- 外部電源の供給電圧が低下したとき
- 車両を長期間放置したことなどにより、補機バッテリーの充電量が低下したとき
- 車両の充電電流設定で充電電流上限を変更したとき（→ P. 80）
- 接続先のコンセントなどに問題があるとき
- 急速充電後走行し、すぐに急速充電したとき

●急速充電にかかる時間は、駆動用電池の温度により大きく変化します。メーターの駆動用電池温度表示（→ P. 112）で、駆動用電池が低温、または高温になっているかを確認することができます。

駆動用電池温度表示	充電時間
	駆動用電池の温度が極端に低いため、急速充電の時間が大幅に長くなる、または急速充電できない
	駆動用電池の温度が低いため、急速充電の時間が大幅に長くなる
	駆動用電池の温度が高いため、急速充電の時間が大幅に長くなる

知識

●外気温の低下に伴い駆動用電池の温度が低下すると、充電時間が長くなる傾向にあります。特に急速充電の場合、充電時間が大幅に長くなることがあります。
また、駆動用電池残量計の表示が上昇しはじめるのに時間がかかることがありますが、異常ではありません。（充電時間や電池温度の上昇により、駆動用電池残量計が上昇します）

●夏場に連続で高速走行するなどして駆動用電池の温度が高くなると、急速充電の時間が大幅に長くなることがあります。速度を控えて運転してください。

■普通充電電力について

この車両は最大約 6kW の普通充電が可能です。

ただし、使用する普通充電器（スタンド）、または普通充電ケーブルによっては、充電電力が制限される場合があります。

普通充電のしかた

ここでは、普通充電ケーブルを使用して普通充電する手順を説明しています。

充電設備を利用する際は、普通充電器（スタンド）の取り扱い方法もご確認ください。

⚠ 注意

■普通充電ケーブルや関連部品などを取り扱うとき

普通充電ケーブルや充電関連部品などの損傷を防ぐため、取り扱いの際は次のことをお守りください。

- ●充電を中断・終了するときは、電源プラグを抜く前に普通充電コネクターを抜く
- ●普通充電コネクターの保護キャップ・普通充電インレットキャップを無理に引っ張らない
- ●充電中に普通充電コネクターをゆするなど振動を与えない
  充電を停止することがあります。
- ●普通充電インレットに普通充電コネクター以外のものを差し込まない
- ●電源プラグをコンセントに抜き差しするときは、必ず電源プラグ本体を持って操作する
- ●普通充電インレットキャップを鋭利なもので傷付けたりしない
- ●ケーブルが引っかかったり、絡んだ状態から無理に引っ張らない
  絡んだ場合は、ほどいてから使用してください。

■普通充電インレットについて

普通充電インレットの分解・修理・改造などをしないでください。修理が必要な場合は、必ずスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

充電前の重要確認事項

→ P. 72

充電するときは

1 普通充電ケーブルを用意する

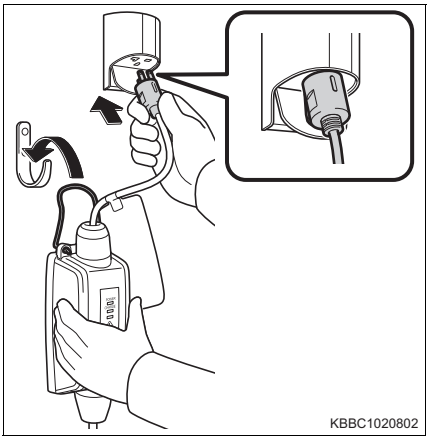
2 普通充電ケーブルの電源プラグを外部電源のコンセントに差し込む

必ず電源プラグ本体を持って、確実に奥まで差し込んでください。

手元スイッチがある場合は、スイッチをONにしてください。

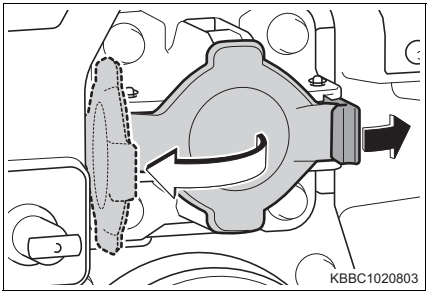
コントロールボックス上の電源インジケーターが点灯していることを確認してください。（点灯していないときは、P. 94 を参照してください）

コンセントや電源プラグへの負荷を軽減するために、電源プラグを差しているときは、ひもなどを使って、コントロールボックスをフックなどに引っかけて使用してください。

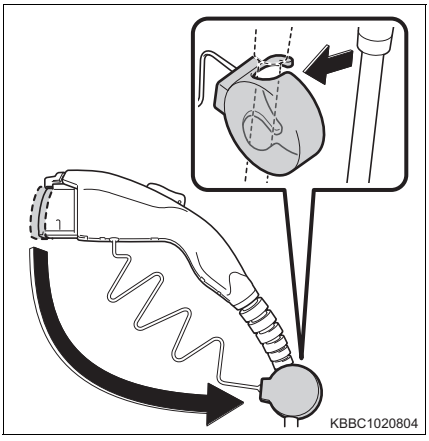

KBBC1020802

3 充電リッドを開ける（→ P. 59）

4 普通充電インレットキャップを開ける


KBBC1020803

5 普通充電コネクターの保護キャップを外し、ケーブルにかけて固定する


KBBC1020804

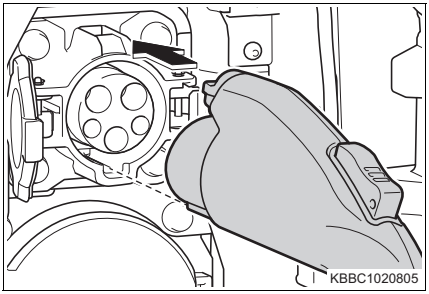
6 普通充電コネクターを普通充電インレットに差し込む

普通充電コネクターの下側にあるガイドの位置を合わせて、まっすぐにいっぱいまで差し込みます。

“カチッ”という音がして、普通充電コネクターが確実にロックされたことを確認してください。

充電時にコントロールボックス上のエラーインジケーターが点滅したときは、P. 65 の記載を確認し、対処してください。

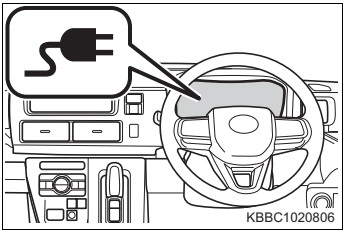
充電が完了すると、コントロールボックス上の充電インジケーターが消灯します。



知識

■普通充電コネクターが接続されているとき

普通充電コネクターが接続された状態でパワースイッチを“ON”にすると、メーターの充電コネクター接続表示灯を点灯させて充電コネクターを接続していることを通知します。



■安全機能について

普通充電コネクターを普通充電インレットに差し込んだ状態でも、ロック解除ボタンを押している間は、充電が開始されません。

なお、充電中に数秒程度ロック解除ボタンを押し続けると充電が中止されます。充電を再開したいときは、一旦普通充電コネクターを抜いてから再度、普通充電コネクターを差し直してください。

■充電時間が長くなるとき

→ P. 75

知識

■普通充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は

マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］の設定（→ P. 115）で充電電流の上限値を変更することができます。※1、2

充電電流上限を設定（MAX ／ 16A ／ 8A から選択）できます。

充電時の最大電流が選択した電流以下に制限されます。

充電電流の上限値を変更しても、充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は、接続した電源が充電に必要な要件を満たしているか確認してください。（→ P. 68）

※1 充電電流を制限すると、充電完了までの時間は長くなります。

※2 普通充電器（スタンド）で供給電力を調整しているときや使用する普通充電ケーブルによっては、設定した電流より小さくなる場合もあります。

⚠ 警告

■充電するときの警告

充電するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●必ず充電に必要な要件を満たす電源に接続する（→ P. 67）
- ●充電前に普通充電ケーブル・電源プラグ・コンセントに変形・破損・水分・腐食・ほこりなどの異物がないことを確認する
- ●充電前に普通充電インレットに変形・破損・腐食・ほこりなどの異物がないか、または雪・氷が付着していないことを確認する
  付着している場合は、普通充電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- ●普通充電インレットの端子部がぬれないようにする
- ●差し込みがゆるくなったコンセントは使用しない
- ●過熱するおそれがあるため、普通充電ケーブルを束ねたり巻いたりした状態で充電しない
- ●普通充電コネクター・普通充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの（針金など）で触れたり、手で触れたり、異物でショートさせたりしない
- ●屋外では必ず防雨形コンセントを使用する
  防雨スイッチプレートを確実に閉めてください。閉まらない場合は、新しいプレートに交換してください。
- ●充電を中断するときは、普通充電器（スタンド）の取り扱い方法に従う
- ●充電中に発熱･発煙･異臭･異音などを発見したときは､ただちに充電を中止する
- ●コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグは差さない

⚠ 警告

- ●雨や雪の中で充電を行うときは、ぬれた手で電源プラグの抜き差しを行わない。また、コンセントや電源プラグをぬらさない
- ●落雷の可能性がある天候のときは充電を行わない
- ●普通充電ケーブルをドアやバックドアで挟まない
- ●普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールボックスを車両で踏まない
- ●電源プラグはコンセントにいっぱいまで差し込む
- ●延長コード・変換アダプターを使用しない
- ●普通充電システムを使用するときは、ボンネットを閉める

  冷却ファンが急に回り出すことがあります。ファンなど回転部分に触れたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●普通充電ケーブルの接続後、どこかに巻き付いていないか確認する

■充電時にコントロールボックス上のエラーインジケーターが点灯・点滅したときは

電源経路に漏電が発生しているか、コントロールボックス付普通充電ケーブルに異常がある可能性があります。P. 65 の記載内容を確認し、対処してください。対処してもエラーインジケーターが消灯しない場合は、ただちに充電を中止し、普通充電ケーブルを取り外して、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。そのまま充電を続けると、思わぬ事故の発生や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

■車載普通充電器 [6kW] について

点検口内（→ P. 341）に車載普通充電器 [6kW]（→ P. 50）があります。車載普通充電器 [6kW] については、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●充電時は高温になります。やけどをするおそれがあるため、触れないでください。
- ●分解・修理・改造しないでください。修理が必要な場合は、必ずスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

⚠ 注意

■充電時の注意

普通充電インレットに電源プラグを差し込まないでください。

普通充電インレットが故障するおそれがあります。

■自家用発電機の使用について

充電用電源に自家用発電機は使用しないでください。

安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、充電が停止したりするおそれがあります。

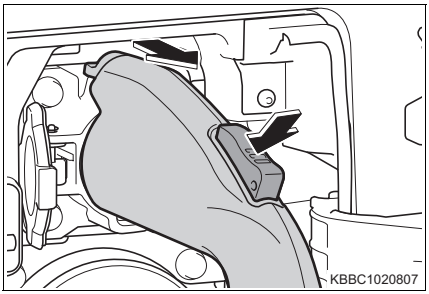
■充電設備について

電力設備などが併設された環境では、ノイズにより安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、充電が停止するおそれがあります。

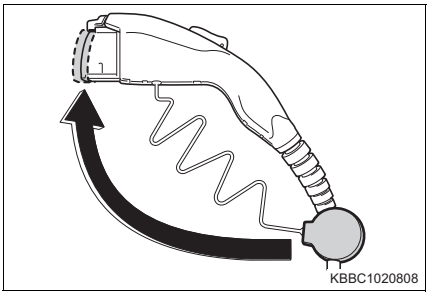
充電したあとは

1 ロック解除ボタンを押しながら手前に引いて、普通充電コネクターを取り外す

充電中にロック解除ボタンを押すと、充電が停止します。

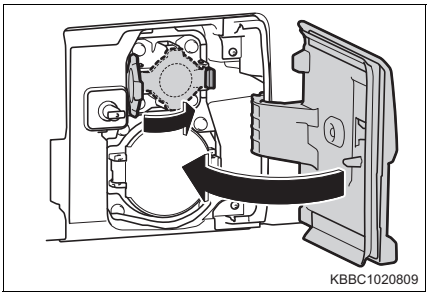

KBBC1020807

2 普通充電コネクターの保護キャップを取り付ける


KBBC1020808

3 普通充電インレットキャップを閉め、充電リッドを閉める

普通充電インレットキャップを閉めるときは、“カチッ”という音がして、確実に閉まっていることを確認してください。

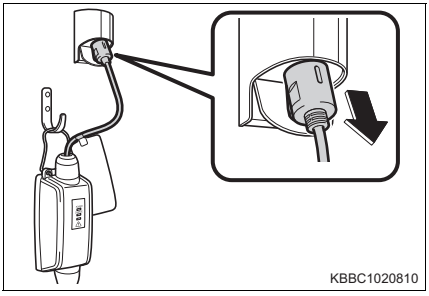

KBBC1020809

4 長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜く

必ず電源プラグ本体を持って抜いてください。

取り外した普通充電ケーブルは、ただちに片付けてください。(→ P. 84)

電源プラグを差したままにするときは、1 か月に 1 回は電源プラグに汚れやほこりがないか点検してください。


KBBC1020810

知識

■普通充電時の充電時間について

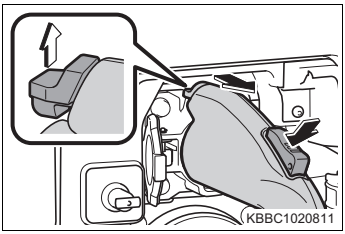
普通充電は、急速充電にくらべて駆動用電池への負荷が少ないため、駆動用電池を長持ちさせることができます。

■周囲の温度が低温または高温のとき

充電が完了して駆動用電池残量計（→ P. 109）が満充電の状態になっていても、パワースイッチを“ON”にすると残量表示がわずかに低下することがありますが、異常ではありません。

■普通充電コネクターを外すとき

ロック解除ボタンを押して、レバーが上がることを確認してから普通充電コネクターを手前に引いてください。



⚠ 警告

■充電後の警告

長期間使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。

電源プラグやコンセントにほこりなどの汚れがたまると、故障や火災などが発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■充電後の注意

- 普通充電ケーブルは幼児やお子さまの手の届かない場所で保管してください。
- コンセントから電源プラグを取り外したあとは、普通充電ケーブルをほこりや水などがかからない安全な場所に保管してください。
  普通充電ケーブルを足や車両で踏んだりすると、普通充電ケーブルや電源プラグが損傷する原因となります。
- 普通充電インレットから普通充電コネクターを取り外したあとは、必ず普通充電インレットキャップを閉め、充電リッドを閉めてください。
  普通充電インレットキャップを開けたたまま放置すると、普通充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電のしかた

ここでは、急速充電・V2H 充電／ V2H 給電の手順を説明しています。
充電設備を利用する際は、急速充電器（スタンド）および V2H 機器の取り扱い方法をご確認ください。

⚠ 警告

■急速充電器（スタンド）・V2H 機器を使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●CHAdeMO 規格に準拠した急速充電器（スタンド）を使用してください。
- ●電動自動車用充放電システムガイドライン V2H DC 版に準拠した V2H 機器を使用してください。
- ●30m を超えるケーブルを使用しないでください。
- ●本車両の急速充電は、30m 以内のケーブルでの充電、または他の機器／車両と同時充電しない急速充電器（スタンド）に対応しています。

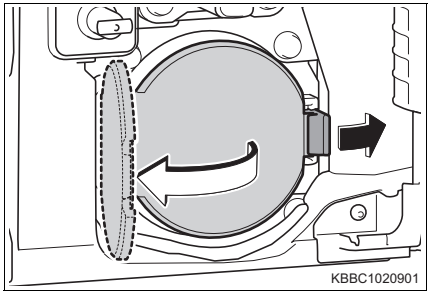
急速充電・V2H 充電／ V2H 給電前の重要確認事項

→ P. 72

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電するときは

1 充電リッドを開ける（→ P. 59）

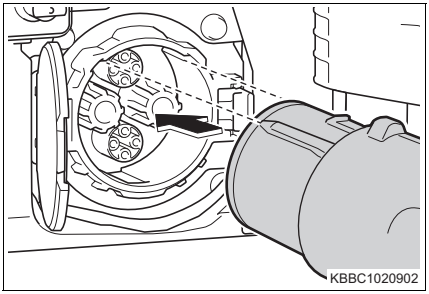
2 急速充電インレットキャップを開ける



3 急速充電コネクターを急速充電インレットに奥まで正しく差し込む

急速充電コネクターの形状や取り扱い方法などは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイプにより異なります。

急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、作業を行ってください。



4 急速充電器（スタンド）・V2H 機器を操作して急速充電・V2H 充電／V2H 給電を開始する

具体的な開始方法については、急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従ってください。

システムチェックが実施されたあと、急速充電・V2H充電／V2H給電が開始されます。

充電を中断したいときは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、停止してください。

知識

■充電時間が長くなるとき

→ P. 75

■急速充電器（スタンド）・V2H 機器に車両異常があるようなメッセージが表示されたとき

急速充電器（スタンド）・V2H 機器に車両異常があるようなメッセージ（例えば、「車両に異常がみつかりました」、「車両故障発生」など）が表示されても、車両の異常ではなく、急速充電器（スタンド）・V2H 機器と車両間の通信異常である可能性があります。

この場合、急速充電コネクター端子故障（接点不良）などが考えられます。

車両に異常がない場合は、急速充電器（スタンド）の管理者に連絡するか、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。

■急速充電器（スタンド）に表示される充電時間について

急速充電器（スタンド）によっては実際の充電時間より多めの充電時間が表示されることがありますが、故障ではありません。

■急速充電・V2H 充電中は

- 急速充電器（スタンド）での充電中、急速充電器（スタンド）に表示される充電時間と、実際の充電時間とは異なる場合があります。
- 急速充電中は、ノイズの発生によりラジオが聞こえなくなる場合があります。
- 満充電に近づくと充電速度が低下して、充電完了までの時間が長くなります。
- 急速充電器（スタンド）の仕様により、満充電になる前に充電停止する場合があります。

知識

●駆動用電池の残量・外気温・充電器（スタンド）の仕様などの条件により、充電完了までの時間が変化する、または充電量上限まで到達する前に充電が停止する場合があります。

●駆動用電池の容量の低下を防ぐため、頻繁な急速充電は避けることをおすすめします。

●急速充電が終了したあとは、他の利用者のため、ただちに急速充電スペースから移動してください。

■V2H 充電／ V2H 給電について

V2H 充電／ V2H 給電中は、エアコンは使用できません。（→ P. 92）

■停電中の V2H 機器の利用について

V2H 機器の中には、停電時に機器起動のため、車両から電源供給を必要とするものもあります。

停電時の V2H 機器の利用については、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。

■急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に「充電システム確認のため急速充電コネクターを接続してください 取扱書を確認」が表示されたとき

急速充電後･V2H充電／V2H給電後のシステムチェックが正常に終了しなかった場合は、ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押しても、EV システムを始動できなくなります。

急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後に EV システムを始動できなくなったときは次の手順で充電システムのチェックを実施してください。

1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、パワースイッチを“OFF”にする

2 急速充電コネクターを急速充電インレットに奥まで正しく差し込む

3 パワースイッチを“ON”にする

マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に「充電システム確認中」が表示されたことを確認してください。
充電システムのチェック中は、急速充電コネクターを抜かないでください。
システムチェックが終了すると、パワースイッチが自動で“OFF”になります。

4 急速充電コネクターを取り外す

5 ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押し、READYインジケーターが点灯することを確認する

充電システムのチェックを実施しても EV システムを始動できない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

⚠ 警告

■急速充電・V2H 充電／ V2H 給電するときの警告

充電するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●急速充電器（スタンド）・V2H 機器・急速充電インレットに破損箇所がないか確認する
  急速充電インレットに破損箇所がある場合は絶対に急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を行わず、ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
- ●急速充電コネクター・急速充電インレットの端子に手を触れたり、異物でショートさせたりしない
- ●急速充電インレットに急速充電コネクター以外のものを差し込まない
- ●急速充電コネクター・急速充電インレットの端子に、金属製の鋭利なもの（針金や針など）で触れない
- ●ケーブルが折れ曲がったり、重いものの下敷きになったりしていないことを確認する
- ●急速充電コネクターと急速充電インレットは、必ず直接接続する
  急速充電コネクターと急速充電インレットとの間に、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。
- ●急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を中断するときは、急速充電器（スタンド）の取り扱い方法・V2H 機器に付属している取扱説明書に従う
  急速充電中・V2H 充電／ V2H 給電中に発熱・発煙・異音・異臭などを発見したときは、ただちに急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を中止してください。
- ●急速充電コネクター・急速充電インレットに異物がないか、または、雪・氷が付着していないか確認する
  付着している場合は、急速充電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- ●落雷の可能性がある天候のときは急速充電・V2H充電／ V2H給電を行わない
  急速充電中・V2H 充電／ V2H 給電中、雷に気付いたときは、車両およびケーブルに触れないでください。
- ●急速充電インレットの端子部がぬれないようにする
- ●急速充電システムを使用するときは、ボンネットを閉める
  冷却ファンが急に回り出すことがあります。ファンなど回転部分に触れたり、近づいたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■V2H 充電／ V2H 給電するときの警告

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●傾いた場所や坂道などに停めて使用しない
- ●使用中に車両を移動させたり、傾けたりしない
- ●可燃物や危険物を車両の近くに置かない
- ●腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しない

■急速充電コネクターを接続するとき

- ●急速充電器（スタンド）の取り扱い方法に従って急速充電コネクターを接続してください。急速充電コネクターが正しく接続されていない場合、システムがコネクターの接続を認識できず、EV システムを始動できてしまうことがあります。充電完了後、EVシステムを始動する前に、必ず急速充電コネクターを車両の急速充電インレットから取り外してください。もしコネクターが接続されたままの車両を発進させると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●急速充電中に、急速充電インレットから急速充電コネクターを取り外さないこと。急速充電器（スタンド）を操作して充電を停止したあと、急速充電インレットから急速充電コネクターを取り外してください。

■車両に急速充電コネクターが接続されているとき

シフトレバーを操作しないでください。万一、急速充電コネクターが故障していた場合、シフトポジションが P から他のシフトポジションに切り替わることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■急速充電・V2H 充電／ V2H 給電するとき

必ず急速充電器（スタンド）の取り扱い方法・V2H 機器に付属している取扱説明書に従ってください。誤った取り扱いをすると、車両や急速充電器（スタンド）・V2H 機器などを損傷するおそれがあります。

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電したあとは

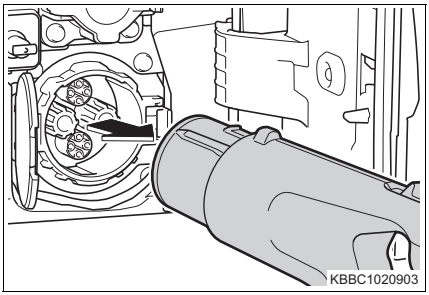
1 急速充電器（スタンド）・V2H 機器を操作して充電を停止する

2 急速充電コネクターを取り外す

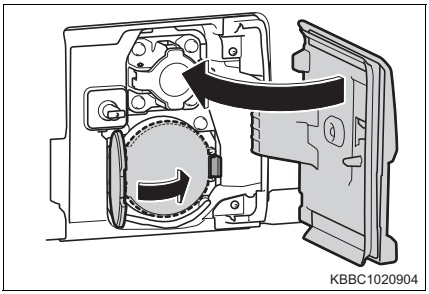
急速充電コネクターの形状や取り扱い方法などは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイプにより異なります。

急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、作業を行ってください。

取り外した急速充電コネクターは、もとの位置に戻してください。



3 急速充電インレットキャップを閉め、充電リッドを閉める



知識

■急速充電コネクターを解錠できないとき

- ●急速充電コネクターは、急速充電器（スタンド）によりロックしています。
- ●急速充電中は急速充電コネクターを外すことはできません。外す必要があるときは充電を中止してください。充電が停止すると急速充電コネクターを外すことができます。
- ●充電が停止しても急速充電コネクターが抜けない場合、急速充電器（スタンド）・V2H 機器に異常がある可能性があります。
  - ・急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。
  - ・V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。

⚠ 注意

■**急速充電・V2H 充電／ V2H 給電後の注意**

急速充電インレットから急速充電コネクターを取り外したあとは、必ず急速充電インレットキャップを閉めて、充電リッドを閉めてください。

急速充電インレットキャップを開けたまま放置すると、急速充電インレットに異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。

充電中に使用できる機能について

車両に充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力により、エアコンやオーディオなどの電装品を使用することができます。

1 車両に充電ケーブルを接続して充電を開始する
（普通充電するとき：→ P. 77）
（急速充電するとき：→ P. 85）
V2H 充電／ V2H 給電時は、エアコンは使用できません。

2 充電の実施中にパワースイッチを“ON”にする
車内でエアコンやオーディオなどの電装品が利用可能になります。
普通充電中の場合、AC 電源コンセント（100V 1500W）は使用できません。

3 使用を停止するときは、パワースイッチを“OFF”にする
急速充電が完了した場合も自動で停止します。

知識

■充電中に電装品を使用するときは

次のようなことが起こる場合があります。

- 駆動用電池の残量が下限に達すると、エアコンが自動的に停止する
（その場合は、駆動用電池の残量が増えるまでエアコンの使用ができなくなりますので、一旦パワースイッチを“OFF”にし、駆動用電池の残量が回復したあとで使用してください）
- 駆動用電池の充電時間が長くなる
- 電波の状況によっては、ラジオに雑音が入る
- 普通充電中・充電完了後は、車載普通充電器 [6kW] が搭載されている助手席下周辺が温かくなる

■急速充電中の電装品の使用について

急速充電中に電装品を使用すると、使用しないときと比べて、充電完了時の充電量が低下します。

■駆動用電池が満充電の状態で電装品を使用するとき

駆動用電池が満充電の状態で、充電を実施し電装品を使用すると、駆動用電池量の電力が消費されることがあります。その場合は、再度充電を行うことがあります。

⚠ 警告

■充電中に電装品を使用するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。システムの自動停止などにより車室内が高温または低温になり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。また、ワイパーなどが使用できる状態になるため、誤操作による事故につながるおそれもあります。

●車両の周囲の安全を十分に確認してから使用してください。

正常に充電できないときは

正しい手順に従って作業しても充電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］にメッセージが表示された場合は、P. 102 も併せて参照してください。

正常に普通充電できないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

■ コントロールボックス上のエラーインジケーターが点滅している

考えられる原因	対処方法
漏電検知機能、または自己診断機能が作動して電気が遮断された	電圧が不足している場合や、ノイズの影響を受けた場合などに、エラーインジケーターが点滅することがあります。リセット操作を行い、正常な電源に接続してください。（→ P. 65） 充電が開始されない場合は、ただちに充電を中止して、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

■ 電源プラグを外部電源に接続してもコントロールボックス上の電源インジケーターが点灯しない

考えられる原因	対処方法
電源プラグがコンセントに正しく接続されていない	電源プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。
停電している	停電の解消後、再度充電してください。
手元スイッチが OFF になっている	手元スイッチがある場合は、スイッチを ON にしてください。
建物側のブレーカーが作動して電気が遮断されている	ブレーカーの接続状態を確認し、異常がない場合は他のコンセントで充電可能かご確認ください。充電できた場合、最初に接続したコンセントの異常が考えられます。建物・設備の管理者、または電気工事業者にご連絡ください。
コントロールボックスから電源プラグまでの間に断線が発生している	ただちに充電を中止して、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

■ その他考えられる要因

考えられる原因	対処方法
普通充電コネクターが普通充電インレットに確実に接続されていない	普通充電コネクターの接続状態を確認してください。 ●普通充電コネクターを接続するときは、ロック解除ボタンに触れないように注意し、“カチッ”と音がするまで差し込んでください。ロック解除ボタンを押しながら差し込むと、正しく接続されないおそれがあります。 普通充電コネクターが確実に接続されているのに充電が開始されない場合は、すでに駆動用電池が満充電になっているか、システムに異常があるおそれがあります。ただちに充電を中止して、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
すでに駆動用電池が満充電になっている	駆動用電池が満充電の場合、充電は行われません。
普通充電器（スタンド）が作動しない	普通充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。
充電中に普通充電コネクターのロック解除ボタンを押した	充電中にロック解除ボタンを押し続けると、充電が停止します。充電を続ける場合は、普通充電コネクターを接続し直してください。
駆動用電池が高温の状態が続いたため、駆動用電池の保護のために充電が終了した	ご希望の充電量に到達していないときは、駆動用電池が冷えてから再度、充電を行ってください。

考えられる原因	対処方法
外部電源からの電源供給に問題がある	次の点をご確認ください。 ●電源プラグが抜けていないか ●手元スイッチが OFF になっていないか ●コントロールボックス上の電源インジケーターが点灯しているか ●ブレーカーが落ちていないか ●電源プラグがしっかりと差し込まれているか ●延長コードを使用したり、分岐用コンセントに接続したりしていないか ●専用回線に接続されているか ●停電が発生していないか ●外部電源の供給電圧が低下していないか 以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。（充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください）電源経路に問題がないのに充電できない場合は、システムの異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。なお、コントロールボックス上のエラーインジケーターが点滅している場合は、漏電の可能性があります。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

考えられる原因	対処方法
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	●普通充電器（スタンド）の仕様により、電源供給が停止されることで充電中止となることがあります。例えば、次のような場合があります。普通充電器（スタンド）の取り扱い説明をご確認ください。 ・普通充電器（スタンド）の停止ボタンを押した ・普通充電器（スタンド）にタイマー充電機能がある ●この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。この車両に装備されている普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
普通充電器（スタンド）が車両に適合していない	この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。この車両に装備されている普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
車両の電装品によって電力が消費されている	次の点をご確認の上、再度充電してください。 ●ヘッドランプやオーディオなどが ON になっている場合は、OFF にしてください。 ●パワースイッチを “OFF” にしてください。 以上を実施しても充電できない場合は、補機バッテリーの充電不足が考えられます。EV システムを約 15 分以上作動させて、補機バッテリーを充電してください。
充電システムに異常が発生した	スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

正常に急速充電・V2H 充電／ V2H 給電できないとき

■ 急速充電・V2H 充電／ V2H 給電が開始しない

考えられる原因	対処方法
急速充電コネクターが車両に正しく接続されていない	急速充電コネクターの接続状態を確認し、コネクターを確実にロックしてください。 接続状態に異常がないのに急速充電・V2H 充電／ V2H 給電が開始されないときは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器または充電システムに異常がある可能性があります。 ●急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 ●V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。 ●急速充電器（スタンド）・V2H 機器に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
急速充電コネクターが確実にロックされていない	
急速充電器（スタンド）・V2H 機器または車両のセルフチェック機能でエラーが検出された	急速充電器（スタンド）・V2H 機器、または充電システムに異常がある可能性があります。 ●急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 ●V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。 ●急速充電器（スタンド）・V2H 機器に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。 ●EV システムを始動できなくなった場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

考えられる原因	対処方法
急速充電器（スタンド）・V2H 機器の電源が OFF になっている	●急速充電器（スタンド）の管理者に連絡して、電源状態をご確認ください。 ●V2H 機器の取扱説明書を確認するなど、電源状態をご確認ください。
すでに駆動用電池が満充電になっている	駆動用電池が満充電の場合、充電は行われません。
普通充電コネクターも接続している	普通充電と急速充電を同時に行うことはできません。
EV システムが始動している	EV システムが始動していると、急速充電を開始できません。また、シフトポジションが P でないと急速充電システムを使用できません。
繰り返し急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を行った	EV システムを始動させた状態でしばらく待ってから、EV システムを停止して、再度充電してください。
急速充電器（スタンド）が故障している	急速充電器（スタンド）が故障している、または適合していないおそれがあるため、その急速充電器（スタンド）は使用しないでください。他の急速充電器（スタンド）での充電が可能かご確認ください。他の急速充電器（スタンド）でも充電ができない場合は、数 km 走行してから別の急速充電器（スタンド）で充電してください。
急速充電器（スタンド）が車両に適合していない	

■ 急速充電・V2H 充電／ V2H 給電が途中で停止する

考えられる原因	対処方法
急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイマーが作動した	急速充電器（スタンド）または V2H 機器によっては、一定時間で充電が停止するようにタイマーが設定されている場合があります。急速充電器（スタンド）の管理者に確認するか、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。
急速充電器（スタンド）・V2H 機器の電源が OFF になった	急速充電器（スタンド）または V2H 機器の電源状態を確認してください。電源の状態が不明な場合は、急速充電器（スタンド）の管理者に連絡するか、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。
駆動用電池の温度が極端に高い、または極端に低い	極端な高温、または極低温の環境下では、急速充電または V2H 充電／ V2H 給電できない場合があります。気温が安定してから急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を実施してください。
急速充電器（スタンド）・V2H 機器または車両のセルフチェック機能でエラーが検出された	急速充電器（スタンド）・V2H 機器、または充電システムに異常がある可能性があります。 ●急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 ●V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。 ●急速充電器（スタンド）・V2H 機器に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。 ●EV システムを始動できなくなった場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

考えられる原因	対処方法
充電関連部品の温度が高い	充電関連部品の温度が高いと急速充電・V2H 充電／ V2H 給電できない場合があります。しばらく時間をあけてから再度急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を行ってください。
満充電付近で車両のエアコンや電装品の使用を停止した	車両のエアコンや電装品が OFF の状態で、再度充電してください。
急速充電器（スタンド）の制限時間内に急速充電が完了しなかった	急速充電器（スタンド）によっては、一定時間で充電が停止するように、タイマーが設定されている場合があります。急速充電器（スタンド）の管理者に確認してください。
	車両の状態によっては、充電時間が長くなり、制限時間内に急速充電が完了しない場合があります。 ●エアコンやヘッドランプ、オーディオなどの電源が ON のため、消費電力が大きい可能性があります。電装品の電源を OFF にしてから、急速充電を行ってください。 ●駆動用電池の温度が低い可能性があります。駆動用電池が温まってから急速充電を行ってください。

■ 急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後に EV システムが始動できなくなった

考えられる原因	対処方法
充電後のシステムチェックが正常に終了しなかった	P. 87 の手順でシステムチェックを実施してください。再試行してもシステムチェックが正常に終了しない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
急速充電コネクターが接続されたままになっている	急速充電コネクターが接続されているときは、安全のため、EV システムを始動することができません。（→ P. 72）急速充電・V2H 充電／ V2H 給電終了後は、ただちに急速充電コネクターを取り外してください。
急速充電システムまたは V2H 充電／ V2H 給電システムが故障した	●故障の原因によっては、P. 87 のシステムチェックにより EV システムを始動できる場合があります。 ●始動できない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

充電に関するメッセージが表示されたときは

メッセージの指示に従って、必要な処置を行ってください。

■「充電システム確認のため急速充電コネクターを接続してください　取扱書を確認」と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
急速充電時・V2H 充電／ V2H 給電時のシステムチェックが正常に終了しなかった	この場合は、システムチェックが正常に終了するまで、システムを始動できなくなります。P. 87 の記載に従って、充電システムのチェックを実施してください。

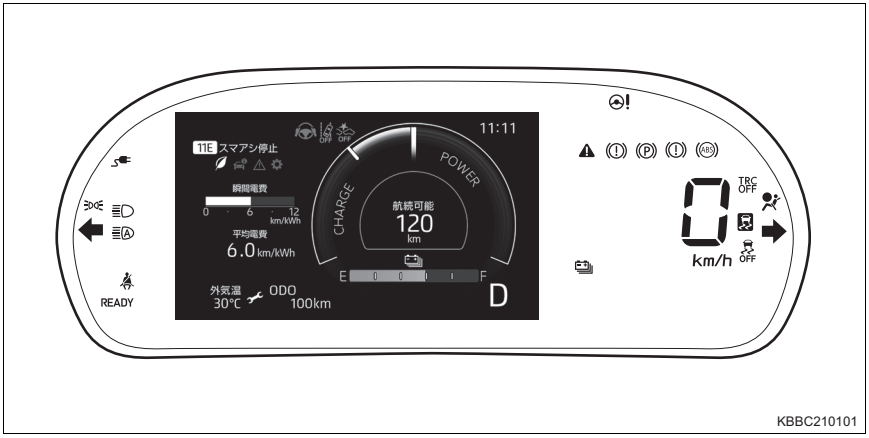
計器の見方 3

3-1. 計器の見方
警告灯／表示灯 …… 104
計器類 …… 108
マルチインフォメーション
ディスプレイ［カラー］… 109

警告灯／表示灯

メーター・インストルメントパネル中央の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

◆ メーター



警告灯

万一のシステム異常などを警告します。

警告灯			参照先
※1		ブレーキ警告灯（赤色／黄色）	399
※1		SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	399
※1		ABS 警告灯	399
※1		パワーステアリング警告灯（赤色／黄色）	399
※1		ADB（アダプティブドライビングビーム）警告灯（黄色）	399
※1、2		スマートアシスト OFF 表示灯（点灯または点滅）	400

警告灯			参照先
※1、3		車線逸脱警報 OFF 表示灯（点灯または点滅）	400
※1、4		マスターウォーニング	400
		スマートアシスト停止警告灯	421
※1、5		スリップ表示灯（点灯）	400
※1		手放し運転警告灯	400
		電池残量警告灯	400
		運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯	400
※6		後席シートベルト締め忘れ警告灯★	401
		パーキングブレーキ未解除警告灯	401

※1 作動確認のためにパワースイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後または EV システムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

※2 スマートアシストの機能を停止にしたときも点灯します。

※3 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・車線逸脱抑制機能・ふらつき警報機能を停止にしたときも点灯します。

※4 スマートアシストが作動したときも点灯します。

※5 点滅した場合はシステムが作動していることを示し、点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。

※6 インストルメントパネル中央に点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

	表示灯		参照先
		方向指示表示灯	202
		ハイビーム表示灯	205
		尾灯表示灯	204
※1		スリップ表示灯（点滅）	280
※1		VSC OFF 表示灯	281
※1		TRC OFF 表示灯	280
※1		スマートアシスト作動灯	222
※1、2		スマートアシスト OFF 表示灯（点灯）	220
※1		車線逸脱警報作動灯	224
※1、2		車線逸脱警報 OFF 表示灯（点灯）	220
		ADB（アダプティブドライビングビーム）作動灯（緑色）	208
		充電コネクター接続表示灯	79
		READY インジケーター	192

※1 作動確認のためにパワースイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後または EV システムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

※2 スマートアシストに異常があるときは点滅します。

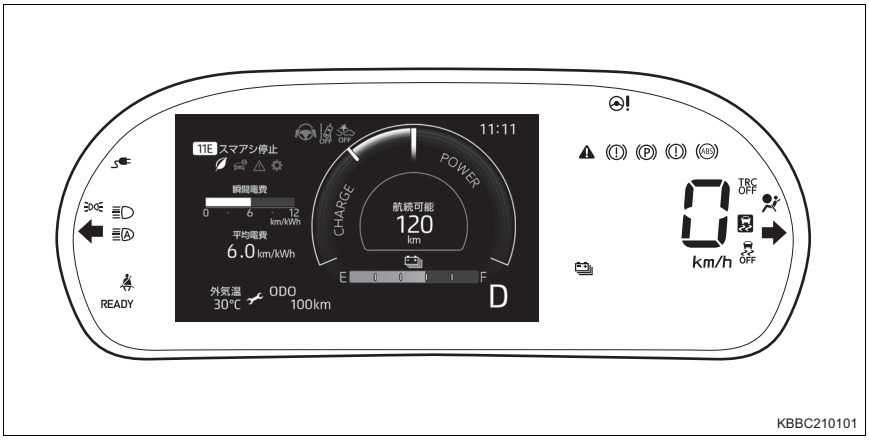
⚠ 警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、パワースイッチを“ON”にしても点灯しない場合や、数秒後または EV システムを始動しても点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

計器類



① マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］

車両に関する様々な情報を表示・設定します。（→ P. 109）

② スピードメーター

車両の走行速度を示します。

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが“ON”のとき

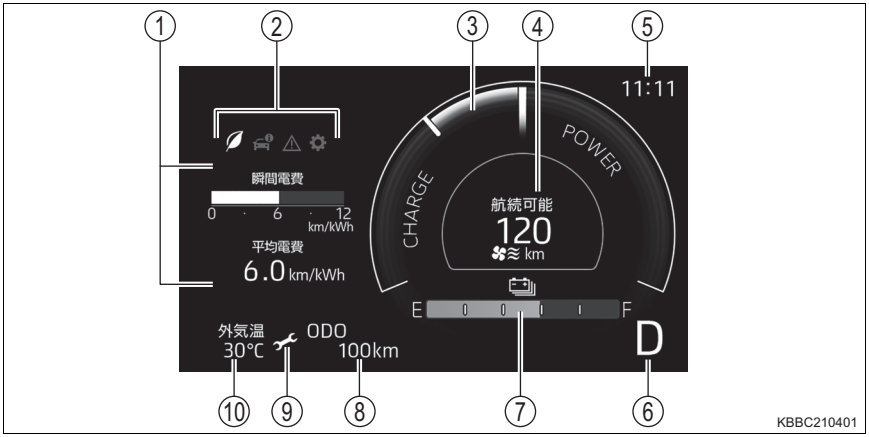
■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］は、車両や走行に関する様々な情報を表示したり、設定を変更することができます。



① コンテンツ表示

メニューアイコンを切り替えることにより、様々な情報を表示することができます。また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

② メニューアイコン

アイコンを切り替えてコンテンツを表示させます。

③ パワーメーター

走行中の出力（電力）や充電（電力の回収量）の状態を表示します。

- CHARGE エリア：回生ブレーキにより発生した電力を駆動用電池に充電している状態を示します。
- POWER エリア：一定の速度での走行時、または急加速時など、より多くの電力を消費して走行している状態を示します。

④ 航続可能距離

現在の駆動用電池の残量で走行できる、およその距離を表示します。

- エアコンを作動すると が表示され、エアコン作動時の航続可能距離が表示されます。

⑤ 時計表示

アナログ時計（→ P. 112）表示中は、日付が表示されます。

⑥ シフトポジション表示灯

選択されているシフトポジションを表示します。（→ P. 197）

⑦ 駆動用電池残量計

駆動用電池の残量を示します。

⑧ トリップインフォメーション（→ P. 111）

⑨ メンテナンスアイコン

お知らせがあるときに点灯します。

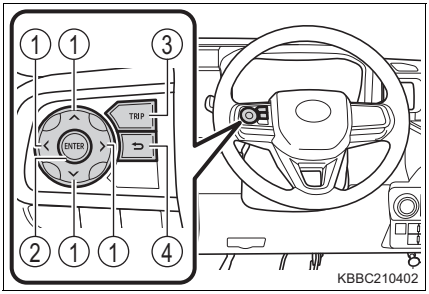
点灯しているときは、内容を確認し、メンテナンスを行ったあとは再度設定をしてください。（→ P. 114）

⑩ 外気温表示

- 外気温を表示します。
  外気温：-30 ℃～ 60 ℃の間で表示します。
- 外気温が 3 ℃以下になると路面凍結警告を表示します。
  温度表示が点滅し、路面凍結の可能性があることを表示します。

表示切り替え

操作スイッチを押して、画面の表示切り替え、設定の変更をします。



① ∧／∨／〈／〉スイッチ

- メニューを切り替えます。
- コンテンツの切り替え、ページ送り、カーソルを移動

② ENTER スイッチ

- 項目の決定・選択をします。
- 長押しすると、走行情報（→ P. 111）の項目をリセットします。

③ TRIP スイッチ

トリップインフォメーションの表示を切り替えます。（→ P. 111）

④ RETURN スイッチ

ひとつ前の画面に戻ります。

長押しすると、最初の画面に戻ります。

トリップインフォメーション

TRIP スイッチを押すごとに次のように切り替わります。

① オドメーター

走行した総距離を表示します。

② トリップメーター A※

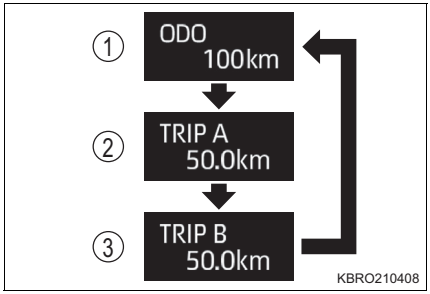
リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするには、トリップメーター A の表示中に TRIP スイッチを 1 秒以上長押します。

③ トリップメーター B※

リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするには、トリップメーター B の表示中に TRIP スイッチを 1 秒以上長押します。



※区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

走行情報

電費に関する様々な情報を表示します。

〈／〉スイッチを押してメニューを に切り替える

■ 瞬間電費／平均電費

●瞬間電費

現在の瞬間電費を表示します。

●平均電費

リセットしてからの平均電費を表示します。

- リセットするには、平均電費表示中に ENTER スイッチを長押しします。
- 表示される平均電費は、参考として利用してください。



車両情報

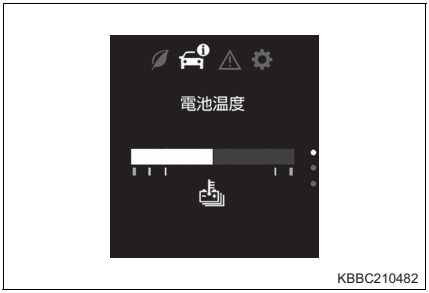
車両情報に関する様々な情報を表示します。

1 〈／〉スイッチを押してメニューを に切り替える

2 ∧／∨ スイッチを押して表示内容を切り替える

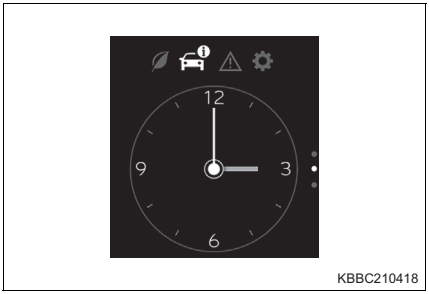
■ 駆動用電池温度表示

駆動用電池の温度を表示します。
低温時、または高温時は目盛りの色が変化します。



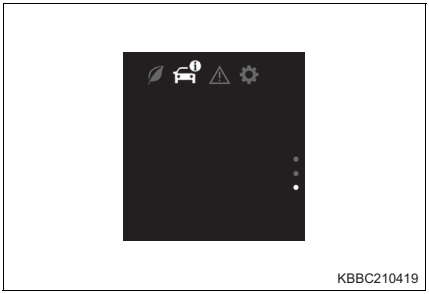
■ アナログ時計

アナログ時計を表示します。



■ 画面 OFF

コンテンツが非表示になります。



警告メッセージ

確認可能な警告メッセージがあるときのみ ⚠ が黄色になります。

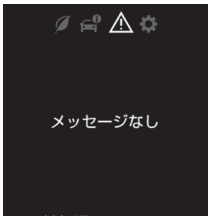
〈／〉スイッチを押してメニューを ⚠ に切り替えてください。

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。
複数のメッセージが表示されている場合は、∧／∨ スイッチを押してメッセージを切り替えます。



KBBC210420

メッセージを記憶していないときは「メッセージなし」と表示されます。



KBBC210421

ハンドルポジションモニター

シフトポジションを R にすると、前輪のタイヤの向きが表示されます。

コーナーセンサー（→ P. 269）の作動状態も同時に表示します。



KBBC210461

オープニング画面

パワースイッチを“ON”にしたとき、日付とお知らせ画面を数秒間表示します。

次のお知らせ画面を表示することができます。

●新年のごあいさつ
●誕生日
●記念日
●車検日
●点検日
●タイヤローテーション
●走行距離

■ 新年のごあいさつ

1 月 1 日に表示します。

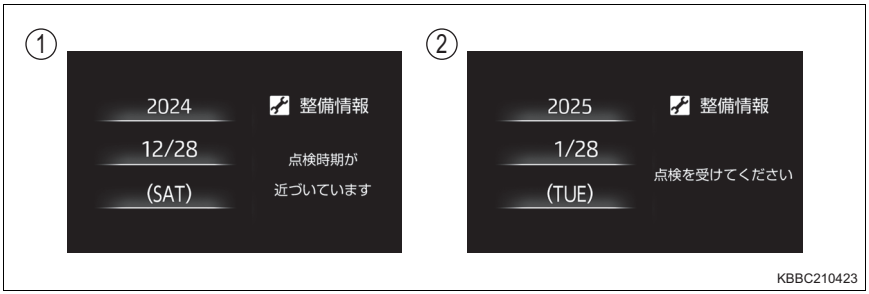
■ 誕生日、記念日

設定した日付に表示します。

■ 車検日、点検日

設定日まで残り 1 か月を切ったとき、設定日以降に 1 日 1 回表示します。

▶例：点検日

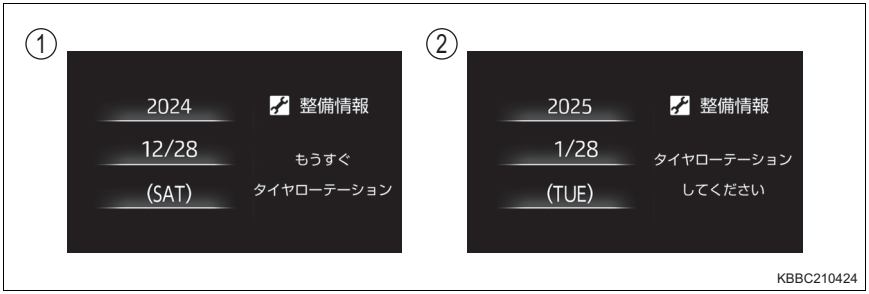


① 設定日まで残り 1 か月を切ったとき

② 設定日以降

■ タイヤローテーション

設定距離まで残り 500km を切ったとき、設定距離に到達したときに 1 日 1 回表示します。



① 設定距離まで残り 500km を切ったとき

② 設定距離に到達したとき

設定

パワースイッチが“ON”で停車時に、〈／〉スイッチを押してメニューを ⚙ に切り替え、表示の設定や調整、機能の設定をすることができます。



車両走行中は操作できません。必ず安全な場所に停車して操作してください。



次の内容を設定、調整ができます。

●メーター照度調整（→ P. 116）
●日時（→ P. 117）
●表示オプション（→ P. 118）
●ブザー（→ P. 118）
●お知らせ日（→ P. 119）
●充電設定（→ P. 120）
●スマートアシスト（→ P. 121）
●ドアロック（→ P. 122）
●ワイパー（→ P. 123）
●方向指示灯（→ P. 123）
●ウェルカムランプ（→ P. 124）
●ADB（アダプティブドライビングビーム）（→ P. 125）
●メンテナンス（→ P. 126）
●表示設定初期化（→ P. 128）

■ メーター照度調整

メーターの昼照度または夜照度（→ P. 129）を調整できます。

（初期設定：→ P. 128）

1 〈／〉スイッチを押してメニューを ⚙ に切り替える

2 ∧／∨ スイッチを押して「明るさ調整」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ENTER スイッチを押した後、∧／∨ スイッチを押して照度を調整する

- ▲▼ が表示されたあと、∧／∨ スイッチを押して照度を調整し、再度 ENTER スイッチを押します。
- 昼照度は周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているときに調整します。
- 夜照度は周囲が暗いときに車幅灯を点灯して調整します。
- 10 段階で調整できます。



■ 日時

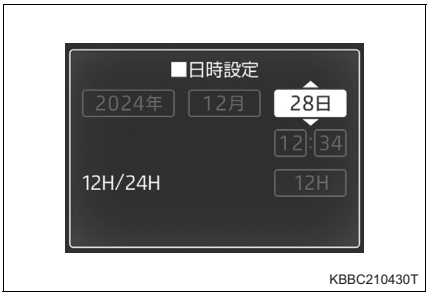
日時を設定できます。

1 〈／〉スイッチを押してメニューを ⚙ に切り替える

2 ∧／∨ スイッチを押して「日時設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨／〈／〉スイッチを押して設定したい項目を選択し、ENTER スイッチを押す

- 年･時･分は ▲ ▼ が表示されたあと、∧／∨ スイッチを押して数値を設定し、再度 ENTER スイッチを押します。
  設定時刻の 0 秒にリセットされた状態から時計が作動をはじめます。
- 12H／24H は ENTER スイッチを押すたびに「12H」（12 時間表示）と「24H」（24 時間表示）が切り替わります。
- 12H ／ 24H の設定にかかわらず時刻調整時は 24 時間表示になります。



KBBC210430T

■ 表示オプション設定

次の設定を変更することができます。

●オープニング画面表示の ON ／ OFF

●ハンドルポジションモニター（ハンドル位置の表示）の ON ／ OFF

（初期設定：→ P. 128）

1 〈／〉スイッチを押してメニューを ⚙ に切り替える

2 ∧／∨ スイッチを押して「表示オプション」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを押して各機能の設定を選択し、ENTER スイッチを押す

ENTER スイッチを押すごとに「ON」、「OFF」が切り替わります。



■ ブザー設定

次の設定を変更することができます。

●先行車発進ブザー音量（→ P. 262）

●車線逸脱警報・路側逸脱警報ブザー音量（→ P. 252）

●ターンシグナル（方向指示灯）ブザーの音色

●オープニング音量

●標識認識ブザーの ON ／ OFF（→ P. 265）

（初期設定：→ P. 128）

1 〈／〉スイッチを押してメニューを ⚙ に切り替える

2 ∧／∨ スイッチを押して「ブザー設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「ブザー設定」の画面を切り替える

▶1 画面目



▶2 画面目



4 ∧／∨ スイッチを押して各機能の設定を選択し、ENTER スイッチを押す

- ENTER スイッチを押すごとに表示される設定に切り替わります。
- ENTER スイッチを押したあと、  が表示されたときは ∧／∨ スイッチを押して設定を選択し、再度 ENTER スイッチを押します。

■ お知らせ日設定

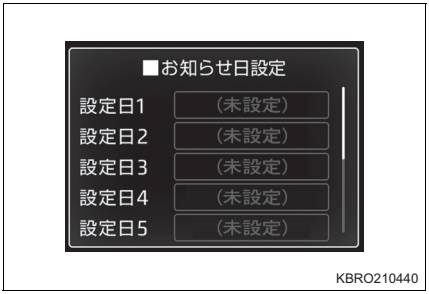
オープニング画面で表示される誕生日、記念日、車検日、点検日の通知日を設定できます。
（初期設定：→ P. 128）

1 〈／〉 スイッチを押してメニューを ⚙ に切り替える

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「お知らせ日設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを押して1～10の「設定日」を選択し、ENTER スイッチを押す

6～10の設定日は ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押すと表示できます。



4 カテゴリーで ENTER スイッチを押して ▲▼ が表示されたあと、∧／∨ スイッチを押して項目を選択する

誕生日、記念日、車検日、点検日のいずれかを選択し、再度 ENTER スイッチを押します。

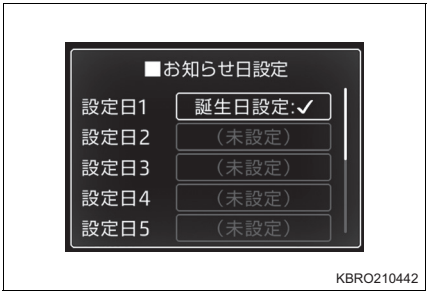


5 ∧／∨ スイッチを押して日付の「年」・「月」・「日」を選択し、ENTER スイッチを押す

- ▲▼ が表示されたあと、∧／∨ スイッチを押して数値を設定し、再度 ENTER スイッチを押します。
- 誕生日、記念日は、「年」の設定はありません。

6 設定完了後、RETURN スイッチを押す

選択したカテゴリーと ✓ が表示されます。



■ 充電設定

普通充電時の最大電流を設定することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 451）

1 〈／〉 スイッチを押してメニューを ⚙ に切り替える

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを押して「充電設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

4 ENTERスイッチを押して、



が表示されたあと、∧／∨ スイッチを押して設定を選択し、再度 ENTER スイッチを押します。



KBBC210479

■ スマートアシスト設定

次の設定を変更することができます。

●先行車発進お知らせの ON ／ OFF（→ P. 262）

●先行車発進お知らせのタイミング（→ P. 262）

●衝突警報のタイミング（→ P. 229）

●車線逸脱警報のタイミング（→ P. 252）

●標識認識機能の ON ／ OFF（→ P. 265）

●ふらつき警報機能の ON ／ OFF（→ P. 259）

●車線逸脱抑制機能の ON ／ OFF（→ P. 252）

●コーナーセンサーブザーの音量（→ P. 269）

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 451）

1 〈／〉スイッチを押してメニューを ⚙ に切り替える

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを押して「スマートアシスト設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

4 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「スマートアシスト設定」の画面を切り替える



KBBC210470

5 ∧／∨ スイッチを押して各機能の設定を選択し、ENTER スイッチを押す

・ ENTER スイッチを押すごとに表示される設定に切り替わります。

・ ENTER スイッチを押したあと、  が表示されたときは ∧／∨ スイッチを押して設定を選択し、再度 ENTER スイッチを押します。

■ ドアロック設定

次の設定を変更することができます。

●アンサーバックブザー音量（キーフリーシステム作動の合図）（→ P. 135）

●アンサーバック非常点滅灯の ON ／ OFF（キーフリーシステム作動の合図）（→ P. 135）

●ウェルカムドアロック解除の ON ／ OFF★（→ P. 145）

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 451）

1 〈／〉スイッチを押してメニューを ⚙ に切り替える

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを押して「ドアロック設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

4 ∧／∨ スイッチを押して各機能の設定を選択し、ENTER スイッチを押す

・ ENTERスイッチを押すごとに表示される設定に切り替わります。

・ ENTER　スイッチを押したあと、  が表示されたときは ∧／∨ スイッチを押して設定を選択し、再度 ENTER スイッチを押します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ワイパー設定

次の設定を変更することができます。

●車速連動間欠ワイパーの ON ／ OFF（→ P. 212）

●リバース連動リヤワイパーの ON ／ OFF（→ P. 215）

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 451）

1 〈／〉スイッチを押してメニューを ⚙ に切り替える

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを押して「ワイパー設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

4 ∧／∨ スイッチを押して各機能の設定を選択し、ENTER スイッチを押して設定を切り替える

ENTER スイッチを押すごとに「ON」、「OFF」が切り替わります。



■ 方向指示灯設定

ワンタッチターンシグナル（方向指示レバーを途中まで操作したときの方向指示表示灯 3 回点滅）の ON ／ OFF を設定することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 451）

1 〈／〉スイッチを押してメニューを ⚙ に切り替える

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「車両設定」の画面を切り替え、「方向指示灯設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

4 ENTER スイッチを押して設定を切り替える

ENTER スイッチを押すごとに「ON」、「OFF」が切り替わります。



■ ウェルカムランプ設定

次の設定を変更することができます。

●ルームランプ連動★（携帯リモコンを携帯して車両に近付くと、室内灯が点灯）の ON ／ OFF（→ P. 148）

●テールランプ連動★（ドアロック解除時に車幅灯、番号灯、尾灯が点灯）の ON ／ OFF（→ P. 147）

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 451）

1 〈／〉スイッチを押してメニューを ⚙ に切り替える

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「車両設定」の画面を切り替え、「ウェルカムランプ設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

4 ∧／∨ スイッチを押して各機能の設定を選択し、ENTER スイッチを押して設定を切り替える

ENTER スイッチを押すごとに「ON」、「OFF」が切り替わります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ADB（アダプティブドライビングビーム）設定

ADB（アダプティブドライビングビーム）（→ P. 207）の ON ／ OFF を設定することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 451）

1 〈／〉スイッチを押してメニューを ⚙ に切り替える

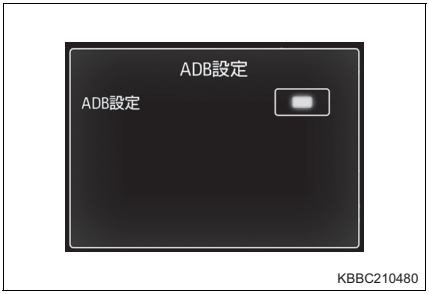
2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「車両設定」の画面を切り替え、「ADB 設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

4 ENTER スイッチを押して設定を切り替える

ENTER スイッチを押すごとに ON、OFF が切り替わります。

ADB（アダプティブドライビングビーム）を OFF にしても、サイドビューランプ（→ P. 209）は作動します。



■ メンテナンス設定

オープニング画面で表示されるタイヤローテーションの時期を距離で設定できます。

（初期設定：→ P. 128）

1 〈／〉スイッチを押してメニューを ⚙ に切り替える

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「メンテナンス設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ON ／ OFF を設定する場合は、∧／∨ スイッチを押して「ON」、または「OFF」を選択し、ENTER スイッチを押す

▶表示が「OFF」で距離が設定されていない場合は

手順 5 の「次回お知らせまで」の画面が表示されます。（→ P. 127）



▶すでに距離が設定されている場合は

ENTER スイッチを押すごとに「ON」、「OFF」が切り替わります。



4 距離を設定、リセットする場合は、∧／∨ スイッチを押して「お知らせ距離設定」を選択し、ENTER スイッチを押す



5 ∧／∨ スイッチを押して距離を選択し、ENTER スイッチを押す

-  が表示されたあと、∧／∨ スイッチを押して距離を設定し、再度 ENTER スイッチを押します。
- すでに距離が設定されている場合は、次回お知らせまでの距離が表示されています。
- リセットする場合は、∧／∨ スイッチを押してリセットを選択し、ENTER スイッチを押します。



■ 表示設定初期化

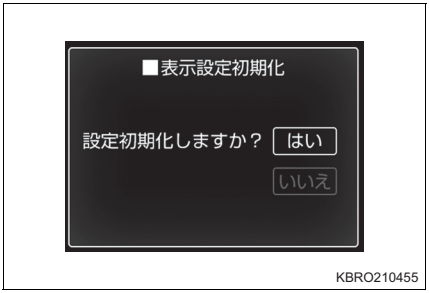
表示の設定を初期化（出荷時の状態）することができます。

1 〈／〉スイッチを押してメニューを ⚙ に切り替える

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「表示設定初期化」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを押して、「はい」を選択し、ENTER スイッチを押す

次の表の項目が初期化されます。



項目		初期設定
明るさ調整	昼間用	レベル 8
	夜間用	レベル 6
日時設定	12H ／ 24H	24H
表示オプション	オープニング表示	ON
	ハンドルポジションモニター	ON
ブザー設定	先行車発進ブザー音量	大
	車線逸脱警報ブザー音量	大
	ターンシグナル音色	トーン 1
	オープニング音量	大
	標識認識ブザー	OFF
お知らせ日設定	設定日 1 ～ 10	未設定
メンテナンス設定	タイヤローテーションお知らせ	OFF

知識

■メーター照度について（昼照度と夜照度）

●メーターの照度には昼照度と夜照度があり、次のときに照度が切り替わります。

・昼照度：周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているとき

・夜照度：周囲が暗いときに車幅灯を点灯しているとき

●夜照度になるとメーター照明が減光されます。ただし、夜照度の設定をいちばん明るくした状態では、照明が減光しません。

■「設定画面」の操作について

●「設定画面」操作中に次の状態になると操作が一時中断されます。

・警告メッセージが表示されたとき

・走行しはじめたとき

●操作を行っても、設定を変更できない場合は、「設定変更できません」のメッセージが表示されます。

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

■液晶ディスプレイについて

→ P. 108

■お知らせ画面について

●お知らせ画面は、1 日に 1 回表示されます。

●誕生日、記念日は、設定日 2 月 29 日にしている場合、うるう年以外の年は 3 月 1 日に表示します。

⚠ 警告

■走行中の警告

操作スイッチを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限の時間にしてください。

⚠ 注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切り替えが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてから使用してください。

■ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にEVシステムが作動している状態で実施してください。

各部の操作 4

4-1. キー
キー …… 132
4-2. ドアの開閉、ロックのしかた
キーフリーシステム …… 135
フロントドア …… 144
スライドドア …… 149
バックドア …… 154
4-3. シートの調整
フロントシート …… 158
リヤシート …… 160
4-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル …… 162
ルームミラー …… 163
デジタルルームミラー …… 164
ドアミラー …… 173
補助確認装置 …… 176
4-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドー …… 177
ポップアップ機構付
リヤガラス …… 180

キー

キーについて

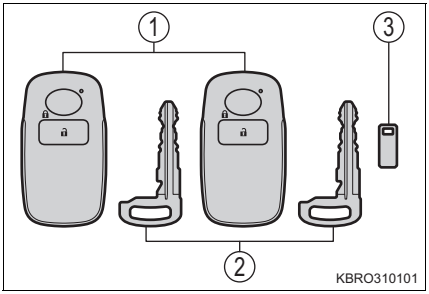
お客様へ次のキーをお渡しします。

① 携帯リモコン

キーフリーシステムの作動（→ P. 135）
ワイヤレス機能の作動（→ P. 144）

② エマージェンシーキー

③ キーナンバープレート

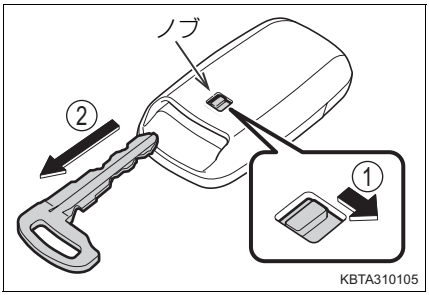


エマージェンシーキーを使うには

① ノブをスライドする

② エマージェンシーキーを取り出す

使用後はもとに戻し、携帯リモコンと一緒に携帯してください。携帯リモコンの電池が切れたときやキーフリーシステムが正常に作動しないとき、エマージェンシーキーが必要になります。（→ P. 436）



知識

■エマージェンシーキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、スズキ販売店またはスズキ代理店でスズキ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートはお車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

→ P. 142

知識

■携帯リモコンの状態や、パワースイッチモードに関する警告メッセージが表示されたときは

車内への携帯リモコンの閉じ込みや、同乗者による携帯リモコンの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、携帯リモコンやパワースイッチなどの状態の確認を促すメッセージがマルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に表示されたときは、表示内容に従ってただちに対処してください。（→ P. 418）

■マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に「キーの電池残量が残りわずかです」が表示されたときは

携帯リモコンの電池残量が残りわずかです。新しい電池と交換してください。（→ P. 367）

■電池の交換方法

→ P. 367

■キーのご購入について

携帯リモコンは最大 4 個まで設定することができます。ご購入方法、ご使用方法についてはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

⚠ 注意

■キーの故障を防ぐために

- ●直射日光や高温下に放置しない
- ●携帯リモコンをズボンなどの後ろポケットに入れない
- ●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- ●湿度の高いところに長時間放置しない
- ●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- ●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- ●分解しない
- ●キー表面にシールなどを貼らない
- ●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■キー取り扱いの注意

携帯リモコンは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- ●電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ●必ず日本国内で使用してください。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■キーフリーシステムの故障などでスズキ販売店またはスズキ代理店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての携帯リモコンをお持ちください。

■携帯リモコンを紛失したとき

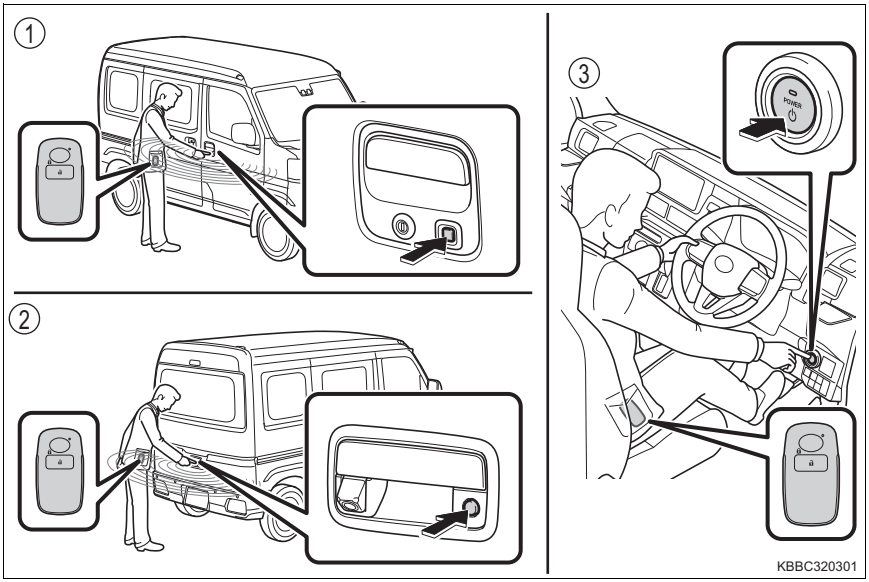
携帯リモコンを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの携帯リモコンをすべてお持ちの上、ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

キーフリーシステム※

※“キーフリーシステム”はダイハツ工業株式会社の登録商標です。

機能概要

携帯リモコンをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください）



① 全ドアを施錠・解錠する（リクエストスイッチ装着車）（→ P. 144）
② 全ドアを施錠・解錠する（リクエストスイッチ装着車）（→ P. 154）
③ EV システムを始動する（→ P. 192）

知識

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■カスタマイズ機能

作動の合図を変更することができます。
（カスタマイズ機能一覧：→ P. 451）
（マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］の設定画面から変更可能：→ P. 122）

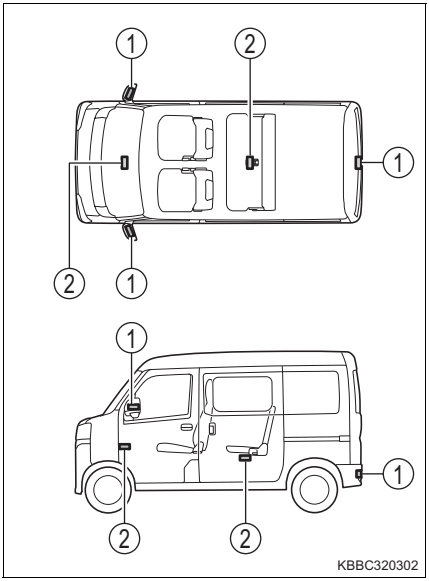
知識

■解錠操作のセキュリティ機能
→ P. 146

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

① 車外アンテナ
（リクエストスイッチ装着車）
② 車室内アンテナ

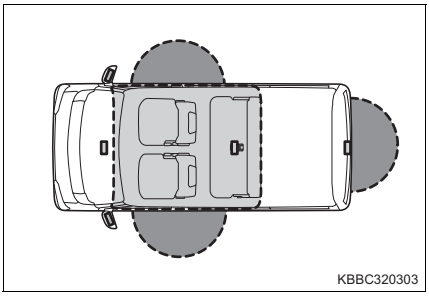


KBBC320302

■ 作動範囲（携帯リモコンの検知範囲）

●：ドアの施錠・解錠時
（リクエストスイッチ装着車）
ドアハンドルから周囲約 80cm 以内で携帯リモコンを携帯している場合に作動します。
（携帯リモコンを検知しているドアハンドルのみ作動します）

●：EV システム始動時またはモード切り替え時
車内で携帯リモコンを携帯している場合に作動します。


KBBC320303

知識

■警告音と警告灯について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴って、警告灯が点灯したり、警告メッセージが表示されることがあります。警告灯が点灯したり、メッセージが表示された場合は、状況に応じて適切に対処してください。(→ P. 399、403)

警告音が鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピピピピピ”、車外から“ピッピッピッ”と鳴る	パワースイッチが“ACC”または“ON”のときに、いずれかのドアを開けて携帯リモコンを車外に持ち出しドアを閉めた	携帯リモコンを携帯して乗車してください
車内から“ポーン ポーン ポーン･･･”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチを“ACC”にした（“ACC”のときに運転席ドアを開いた）	パワースイッチを“OFF”にして、ドアを閉めてください
車外から“ピーッ”と鳴る	パワースイッチが“ACC”または“ON”のときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチ★で施錠しようとした	パワースイッチを“OFF”にして施錠してください
	車内に携帯リモコンを置いたまま、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチ★で施錠しようとした	携帯リモコンを携帯して施錠してください
	いずれかのドアが開いているときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチ★や携帯リモコンで施錠しようとした	すべてのドアを閉めて施錠してください

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

警告音	状況	対処方法
車外から“ピーッ”と鳴って、すべてのドアが解錠した	パワースイッチが“OFF”のときに、車内に携帯リモコンを置いたまま、車内の運転席ドアのロックレバーを施錠側にして運転席のドアハンドルを引いたままドアを閉めた	携帯リモコンを携帯して施錠してください
	パワースイッチが“OFF”のときに、車内に携帯リモコンを置いたまま、すべてのドアが施錠されている状態で運転席以外のドアのロックレバーを解錠側にして、ドアを開けて閉めた	
車内から“ピッピッピッ”と鳴る	携帯リモコンの電池切れが近いときに、パワースイッチを“OFF”にした※	新しい電池に交換してください（→ P. 367）
車内から“ポーン ポーン ポーン･･･”と鳴り続ける	運転席ドアが開いているときに、パワースイッチを“ON”から“OFF”にした	運転席ドアを閉めてください

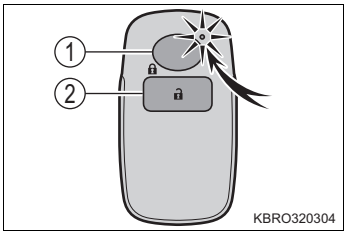
※ 電池切れが近い状態を継続すると、パワースイッチを“ACC”または“ON”にしたときも警告ブザーが鳴ります。

知識

■携帯リモコンの節電モードについて

●節電モードに設定すると、携帯リモコンによる電波の受信待機を停止し、携帯リモコンの電池の消耗を抑えることができます。

携帯リモコンの施錠スイッチ（①）を押しながら、解錠スイッチ（②）を２回押し、携帯リモコンのインジケーターが４回点滅することを確認してください。
節電モード中は、キーフリーシステムを使用できません。節電モードを解除するには、携帯リモコンのいずれかのスイッチを押してください。



●長期間使用しない携帯リモコンは、節電モードにしておくことをおすすめします。

●携帯リモコンの電池交換直後に節電モードにするときは、約 10 秒経過してから行ってください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

キーフリーシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は携帯リモコンと車両間の通信を妨げ、キーフリーシステムや携帯リモコンが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 436）

●携帯リモコンの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・コインパーキング・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●携帯リモコンが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
- アルミ箔などの金属の貼られたカード
- アルミ箔を使用したタバコの箱
- 金属製の財布やかばん
- 小銭
- カイロ
- CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

知識

●携帯リモコンを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
- 他車の携帯リモコンや電波式ワイヤレスリモコン
- パソコンや携帯情報端末（電子手帳）
- デジタルオーディオプレーヤー
- ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに携帯リモコンを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

●携帯リモコンが作動範囲内（検知範囲内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
- リクエストスイッチ装着車：ドアの施錠・解錠時に携帯リモコンがドアガラスやドアハンドルに近付き過ぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
- EVシステム始動時またはモード切り替え時に携帯リモコンがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケットまたはグローブボックス内などに置かれていた場合

●携帯リモコンをポケットに携帯していても、ポケットの位置や形状によっては、正しく作動しないことがあります。（作動範囲：→ P. 136）

●リクエストスイッチ装着車：インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に携帯リモコンを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、携帯リモコンが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●リクエストスイッチ装着車：携帯リモコンが作動範囲内にあれば、携帯リモコンを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、携帯リモコンを検知しているドア以外では、解錠できません。
場合によっては、解錠操作を行ったドアと反対側のドア付近に携帯リモコンがある場合でも、携帯リモコンを検知し、解錠されることがあります。

●車外でもドアガラスに近い位置に携帯リモコンがあるときは、EV システムの始動が可能になる場合があります。

●リクエストスイッチ装着車：携帯リモコンを携帯して洗車などで高圧な水をドアハンドルにあるスイッチにかけた場合、解錠・施錠を繰り返すことがあります。その場合は、次のような処置をしてください。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠されます）
- キーを車両から約 3m 以上離れた場所に置く（盗難に注意してください）
- キーを節電モードに設定してキーフリーシステムの作動を停止する（→ P. 139）

知識

●リクエストスイッチ装着車：車室内または車両に近い位置に携帯リモコンがあるときに携帯リモコンなどで施錠を行うと、キーフリーシステムによる解錠ができなくなることがあります。（携帯リモコンで解錠すると復帰します）

●リクエストスイッチ装着車：ドアハンドルにあるスイッチは確実に押して、施錠・解錠したことを確認してください。スイッチを早押しした場合、施錠・解錠されないことがあります。

●リクエストスイッチ装着車：ドアハンドルにあるスイッチに氷や雪、泥が付着した場合、スイッチが押せない場合があります。押せない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●リクエストスイッチ装着車：ドアハンドルにあるスイッチを操作するときに、爪がドアに当たる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないように注意してください。

●リクエストスイッチ装着車：周囲の状況により、フロントドアのリクエストスイッチを押しても施錠・解錠できないときがあります。ワイヤレス機能、またはエマージェンシーキーを使用して施錠・解錠してください。
（→ P. 144, 436）

●リクエストスイッチ装着車：次のような状況では、携帯リモコンの電池の消耗と車両の補機バッテリーあがりを防止するために節電機能が働き、キーフリーシステムによる施錠・解錠に時間がかかることがあります。

- 車両の周辺約 3m 以内に携帯リモコンを約 2 分以上放置した
- 約 5 日間以上キーフリーシステムを使用しなかった

■施錠時の留意事項（リクエストスイッチ装着車）

車内に携帯リモコンがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにあるスイッチにかけた場合、車内のブザーが鳴ることがあります。

■解錠時の留意事項（リクエストスイッチ装着車）

●ドアハンドルにあるスイッチを押しながらドアハンドルを引いたときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置に戻してから再度（バックドアを除く）スイッチを押し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の携帯リモコンがあるときは、ドアハンドルにあるスイッチを押してから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないとき

●リクエストスイッチ装着車：盗難防止のため、携帯リモコンを車両から約3m以上離しておいてください。

●あらかじめキーフリーシステムを非作動にすることができます。
詳しくはスズキ販売店またはスズキ代理店にお問い合わせください。

知識

■システムを正しく作動させるために

携帯リモコンを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は携帯リモコンを車両に近付け過ぎないようにしてください。

作動時の携帯リモコンの位置や持ち方によっては、携帯リモコンが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。：→ P. 146)

■キーフリーシステムが正常に作動しないとき

●ドアの施錠・解錠：→ P. 436

●EV システムの始動：→ P. 436

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●携帯リモコンは常に電波を受信しているため、使用していない間でも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

- キーフリーシステムや携帯リモコンが作動しない
- 作動範囲が狭くなった
- 携帯リモコンの LED が点灯しない

●電池残量が少なくなると、EV システムを停止した際に車内から警告ブザーが鳴ります。(→ P. 419)

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に携帯リモコンを保管しないでください。

- TV
- オーディオ
- パソコン
- AC アダプター
- 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- 電気スタンド
- 低周波治療器などの医療用電気機器
- 液晶表示器
- モーター類
- 電磁調理器

知識

●車内、または車両の近くに携帯リモコンを置かないでください。携帯リモコンと車両が常時通信状態になるため、電池が著しく消耗します。
常時通信状態になると、携帯リモコンのインジケーターが点滅しますので、消灯するまで携帯リモコンを車両から離してください。

●長期間使用しない携帯リモコンは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。(→ P. 139)

■電池が切れたとき

→ P. 367

■スズキ販売店またはスズキ代理店で設定可能な機能

キーフリーシステムを非作動にすることができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 451)

■スズキ販売店またはスズキ代理店でキーフリーシステムを非作動にしたとき

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはエマージェンシーキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 144, 436)

●EV システムの始動・パワースイッチモードの切り替え：→ P. 436

●EV システムの停止：→ P. 193

⚠ 警告

■電波がおよぼす影響について

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→ P. 136）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

キーフリーシステムを非作動にすることもできます。

詳しくはスズキ販売店またはスズキ代理店にお問い合わせください。

⚠ 注意

●リクエストスイッチ装着車：ドアハンドルにあるスイッチは強い力で押したり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

フロントドア

ドアの施錠／解錠

キーフリーシステムやワイヤレス機能、キー、ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

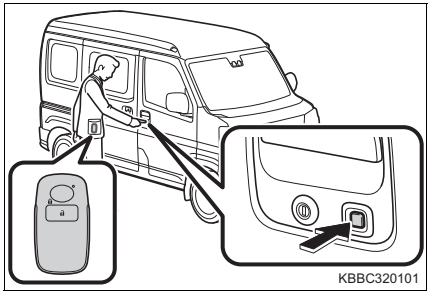
■ キーフリーシステム（リクエストスイッチ装着車）

携帯リモコンを携帯し、リクエストスイッチを押して全ドアを解錠･施錠する

スイッチを確実に押してください。

施錠したときは、必ず施錠されたことを確認してください。

施錠操作後約 3 秒間は解錠できません。


KBBC320101

▶ウェルカムドアロック解除★

携帯リモコンを携帯してキーの解錠範囲に入ると、すべてのドアが解錠する（→ P. 145）

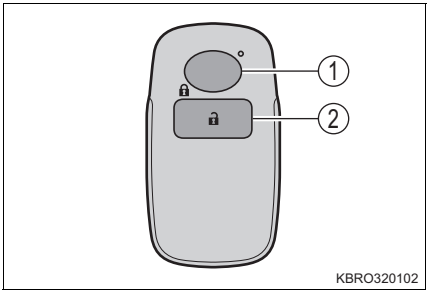
ウェルカムドアロック解除では施錠できません。

■ ワイヤレス機能

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

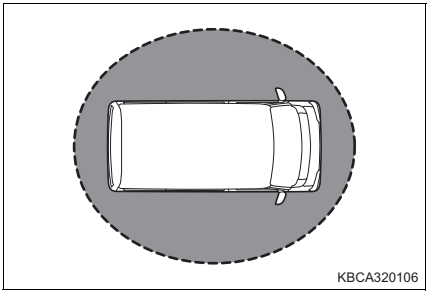
② 全ドアを解錠する



KBRO320102

▶作動範囲

● ：車両中心から周囲約 3m 以内


KBCA320106

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ キー

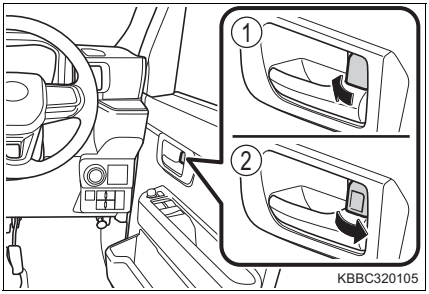
エマージェンシーキーを使ってドアを施錠・解錠できます。(→ P. 436)

■ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

- 運転席のドアを解錠（または施錠）すると、すべてのドアが解錠（または施錠）されます。
- 運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くとすべてのドアが解錠され、ドアが開きます。



キーを使わずに外側から運転席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

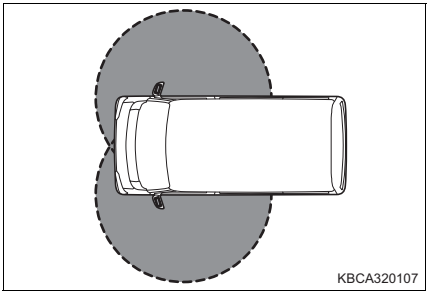
2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める
パワースイッチが“ACC”または“ON”のときや車内に携帯リモコンが放置されているときは施錠されません。
キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

ウェルカムドアロック解除★

携帯リモコンを携帯して解錠範囲に入ると、すべてのドアが解錠します。

■ ウェルカムドアロック解除の解錠範囲

：解錠範囲
ドアミラーから周囲約 1.5m 以内で携帯リモコンを携帯している場合に作動します



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 予約のしかた

1 お車から降り、キーフリーシステムまたはワイヤレス機能で施錠する（予約待機）

2 解錠範囲から出て、約 5 秒経過すると予約が完了する

予約の有効期間は約 5 日間です。有効期間を過ぎると、予約がキャンセルされます。

知識

■解錠操作のセキュリティ機能

キーフリーシステム・携帯リモコンによる解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■キー閉じ込み防止機能

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。

●パワースイッチが “ACC” または “ON” のときに、次の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。

- 運転席ドアが開いている状態で、運転席ドアのロックレバーを施錠側にしたとき
- すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき（パワースイッチが “ON” のときは作動しません）

●パワースイッチが “OFF” で車内に携帯リモコンがあるときに、次の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。

- 車内の運転席ドアのロックレバーを施錠側にし、運転席ドアハンドルを引いたままドアを閉めたとき
- すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき

■半ドア走行時警告ブザー

→ P. 410

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→ P. 139

■カスタマイズ機能

キーフリーシステムの機能の一部、ウェルカムドアロック解除★を変更することができます

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 451）

（マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］の設定画面から変更可能：→ P. 115）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ウェルカムドアロック解除★の作動について

●ウェルカムドアロック解除でドアを解錠したときは、ブザーと非常点滅灯の点滅（2 回）で知らせます。

●次のいずれかの場合は、ウェルカムドアロック解除の予約はできません。

・カスタマイズ機能でキーフリーシステムまたは携帯リモコンの室外自動検知機能を非作動にしたとき（→ P. 451）

・ウェルカムドアロック解除を OFF にしたとき（→ P. 122）

●ドアロック後、解錠範囲を出てから約 5 秒以内に解錠範囲に入ったときは予約が完了せず、ウェルカムドアロック解除は作動しません。

●携帯リモコンが解錠範囲内にあっても、携帯リモコンがドアガラスなどやドアハンドルに近付き過ぎる、または地面の近くや高い場所にある場合は正しく作動しないことがあります。

●携帯リモコンをポケットに携帯していても、ポケットの位置や形状によっては、正しく作動しないことがあります。

●予約が完了するまでの間に次の状況になると予約がキャンセルされます。

・ドアを施錠したあと、解錠範囲内に携帯リモコンがある状態が約 2 分以上続いたとき

●解錠範囲に入りドアが解錠されてから、ドアを開けずに約 15 秒経過すると、ドアが自動的に施錠され予約がキャンセルされます。

●予約完了後、車両の近くに携帯リモコンがあると意図せずウェルカムドアロック解除が作動する場合があります。

■ウェルカムドアロック解除★が正常に働かないおそれのある状況

キーフリーシステムが正常に働かないおそれのある状況にある（→ P. 139）

■ウェルカムドアロック解除★使用時の携帯リモコンについて

第三者に携帯リモコンを受け渡すときは、予約していることを伝えてください。

■ウェルカムランプ設定（テールランプ連動★）について

次の方法でドアロックを解除したときに車幅灯・番号灯・尾灯を約 15 秒間点灯させ、ドアロック解除をお知らせすることができます。（→ P. 124）

●キーフリーシステムによるドアロック解除（ウェルカムドアロック解除によるドアロック解除を含む）

●ワイヤレス機能によるドアロック解除

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ウェルカムランプ設定（ルームランプ連動）★について

●次の条件をすべて満たしている場合、携帯リモコンを携帯して車両に近付いた（ウェルカムドアロック解除の解錠範囲に入った）ときに、室内灯を点灯させることができます。

- 携帯リモコンの室外自動検知機能の作動（→ P. 451）が有効になっている
- ウェルカムランプ設定（ルームランプ連動）が有効になっている（→ P. 124）
- 室内灯のスイッチがドアポジションになっている

●室内灯の点灯時間は、イルミネーテッドエントリーシステム（→ P. 305）の点灯時間に連動します。

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを必ず使用する

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときの留意事項

●傾斜地・ドアと壁などの間が狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

●ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

■お子さまを乗せているときは

お子さまにドアの開閉をさせたり、いたずらをさせないでください。思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スライドドア

車外からの解錠／施錠

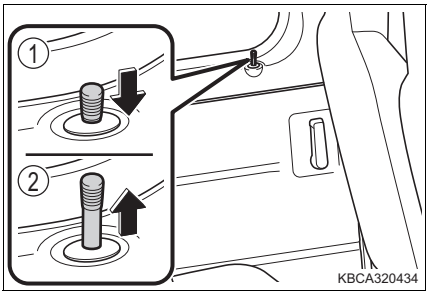
■ 携帯リモコン

→ P. 144

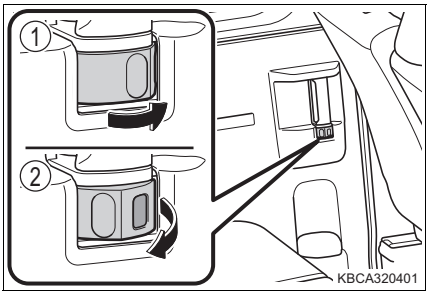
車内からの解錠・施錠

■ ロックボタン／ロックレバー

▶スライドドアクローザー非装着車



▶スライドドアクローザー装着車



① 施錠

② 解錠

スライドドアの手動開閉

ロックが解除されるまで確実にドアハンドルを操作します。

▶スライドドアクローザー非装着車
開くときに操作します。

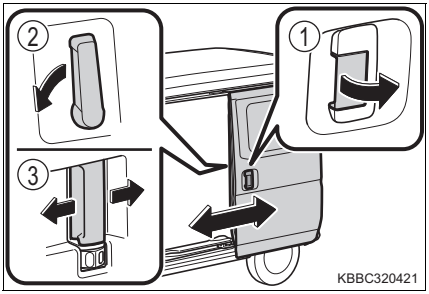
① スライドドアハンドル

② インサイドドアハンドル

▶スライドドアクローザー装着車

① スライドドアハンドル
開くときに操作します。

③ インサイドドアハンドル
開閉時に操作します。



知識

■スライドドアクローザー★

スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアクローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。

- パワースイッチが“OFF”でもスライドドアクローザーは作動します。
- 車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、スライドドアクローザーが作動しないことがあります。
- スライドドアクローザーが作動中でも、車内や車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーが施錠側のときを除く）

■半ドア走行時警告ブザー

→ P. 410

警告

■走行中の警告

走行中は次のことをお守りください。

お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉める
- すべてのドアを施錠する
- シートベルトを必ず着用する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない

■お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。

  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。

  不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

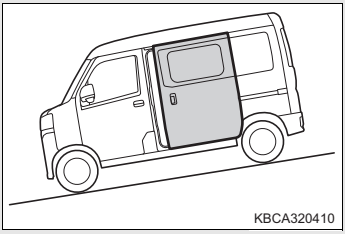
⚠ 警告

■スライドドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。

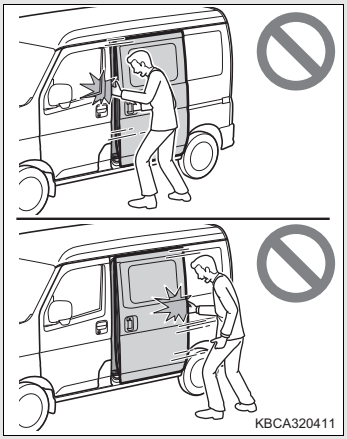
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。
- ●スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ●ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。
- ●人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ●ドアハンドルをしっかりと持ち、スライドドアのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
- ●スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます）半開状態ではスライドドアが確実に固定されないため、傾斜地などで不意に動き出すおそれがあります。
- ●車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ●傾斜が急な場所ではスライドドアを開けたままにしないでください。スライドドアの開閉スピードが速くなります。スライドドアに当たったり挟んだりしないように注意してください。
- ●下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。スライドドアが突然動き出すおそれがあります。

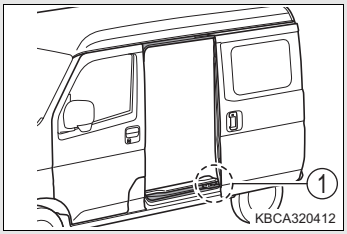

KBCA320410

⚠ 警告

●スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。


KBCA320411

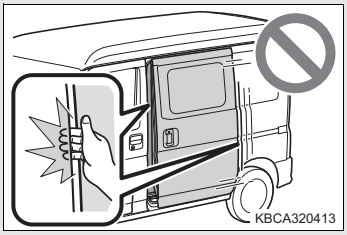
●スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。特に（①）の部分には十分注意してください。



KBCA320412

■スライドドアクローザー★について

●スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアクローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動しはじめるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。（→ P. 150）


KBCA320413

●ロックレバーが施錠側のとき、スライドドアクローザー作動中にドアハンドルを引くとスライドドアクローザーが半ドア状態で停止し、開けられません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

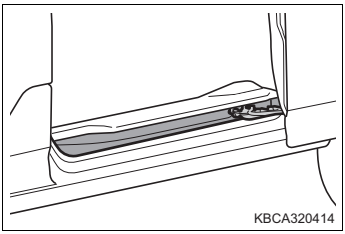
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

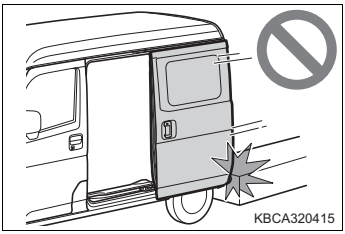
■スライドドアについて

●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。


KBCA320414

●スライドドアを開けるときは縁石や壁などに当たらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。


KBCA320415

■スライドドアクローザー★について

●スライドドアクローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

●ドアの開け閉めを短時間に繰り返すとスライドドアクローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

車外からの施錠／解錠

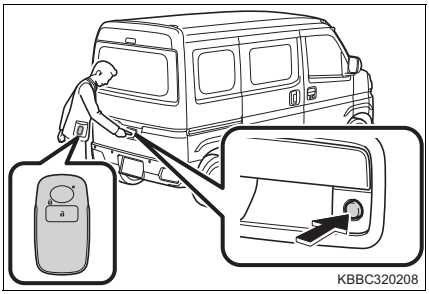
■ キーフリーシステム（リクエストスイッチ装着車）

携帯リモコンを携帯し、リクエストスイッチを押して全ドアを解錠･施錠する

スイッチを確実に押してください。

施錠したときは、必ず施錠されたことを確認してください。

施錠操作後約 3 秒間は解錠できません。


KBBC320208

■ 携帯リモコン

→ P. 144

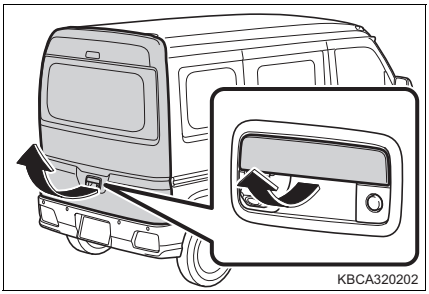
車内からの施錠／解錠

■ ロックレバー

→ P. 145

バックドアを開けるには

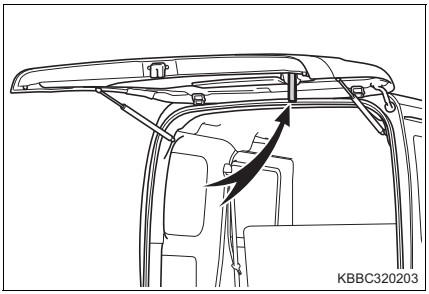
バックドアハンドルを引いたまま、バックドアを持ち上げる


KBCA320202

バックドアを閉めるとき

バックドア、またはバックドアストラップを持ってバックドアを引き下げる

必ず外から押して閉めてください。



知識

■半ドア走行時警告ブザー

→ P. 410

⚠ 警告

■走行中の警告

●走行中はバックドアを閉めてください。

開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームの中でお子さまを遊ばせないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。

不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

⚠ 警告

■バックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●バックドアを開ける前に、バックドアに張り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

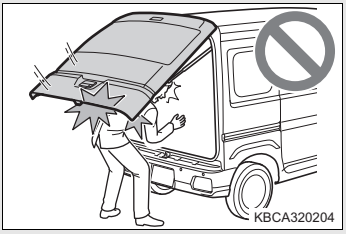
●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。

バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。


KBCA320204

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアストラップを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。


KBCA320205

●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。

手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

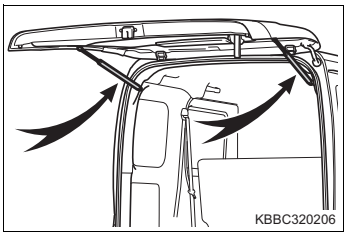
●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあるため十分注意してください。

⚠ 注意

■ダンパーステーについて

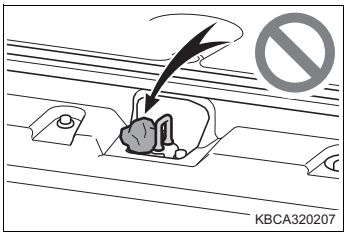
バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ●ロッド部を軍手などで触れない
- ●バックドアにアクセサリー用品を付けない
- ●ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



■ストライカーバーについて

バックドアを閉めるときはストライカーバーに異物がかみ込まないようにしてください。バーが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。

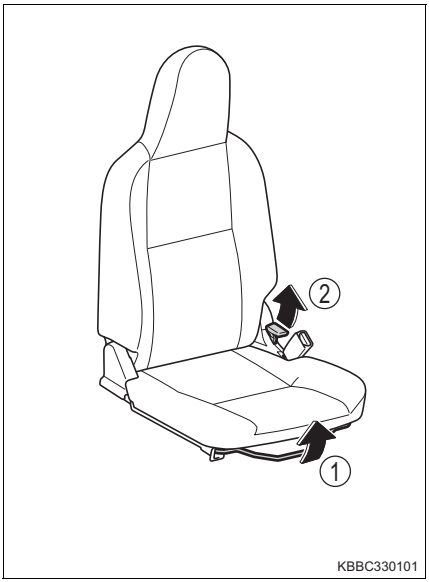


フロントシート

調整のしかた

① 前後位置調整

② リクライニング調整

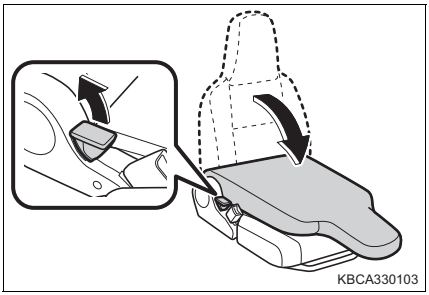


前倒しのしかた（助手席）

1 シートをいちばん後ろまでスライドする

2 レバーを操作しながら、背もたれを前方に倒す

ロックが確実に解除されるまで、レバーを引いてください。



3 背もたれをもとに戻すときは逆の手順で行う

⚠ 警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

●必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。背もたれが急に倒れるおそれがあります。

●背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒し過ぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり込み、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

■背もたれを前に倒すときは（助手席）

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションをPにする

●操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する

●倒した背もたれに人を乗せて走行しない

●必ず背もたれを手で押さえながら操作する

■背もたれをもとに戻したあとは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを前後に軽くゆすり、確実に固定されていることを確認する

●シートの間にシートベルトが挟み込まれていないか確認する

⚠ 注意

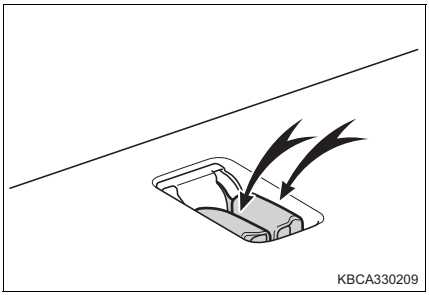
■背もたれを前に倒すときは（助手席）

助手席を前倒しした状態で、荷物を積むときは、鋭利なものが助手席の背もたれに当たらないようにしてください。背もたれの表皮が傷付くおそれがあります。

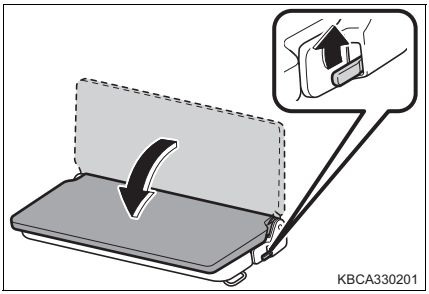
リヤシート★

格納のしかた

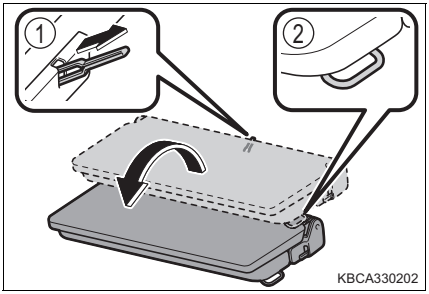
1 シートベルトのバックルを格納する



2 ロック解除レバーを引いて、背もたれを倒す



3 ロック解除ストラップを引きながら（①）、持ち手（レバー）を持ち（②）、格納する



4 シートをもとに戻すときは逆の手順で行う

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■シートを操作するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中にリヤシートを操作しない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションをPにする

●操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する

●操作をするときは、床にものがないことを確認してから行う

●折りたたんだシートやラゲージルームに人を乗せて走行しない

●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■シートをもとに戻したあとは

次のことをお守りください。

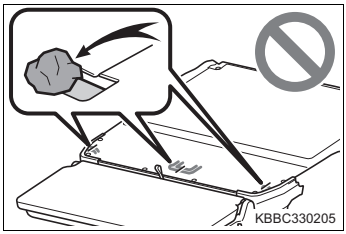
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを前後に軽くゆすり、確実に固定されていることを確認する

●シートの間にシートベルトが挟み込まれていないか確認する

⚠ 注意

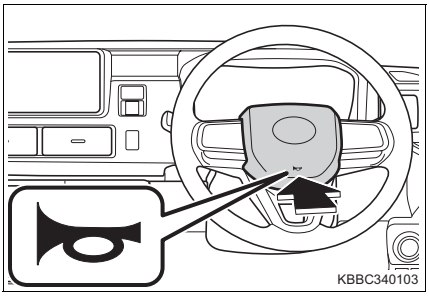
●リヤシートをもとに戻す前に、フロアのシート固定部周辺に異物がないことを確認してください。異物があると、ロック機構が損傷したりするおそれがあります。



ハンドル

ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



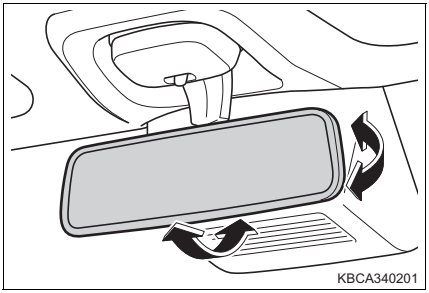
ルームミラー★

後方を十分に確認できるようにミラーの角度を調整することができます。

調整のしかた

運転姿勢に合わせてルームミラーの角度を調整することができます。

ルームミラー本体を持って調整する



⚠ 警告

■走行中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

デジタルルームミラー★

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。切り替えレバーを操作することで、鏡面ミラーモードからデジタルミラーモードに切り替えることができます。

荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができます。

●デジタルミラーモードのときにシフトポジションを R にすると、バックアイカメラの映像（→ P. 275）がミラー内に表示されます。

⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

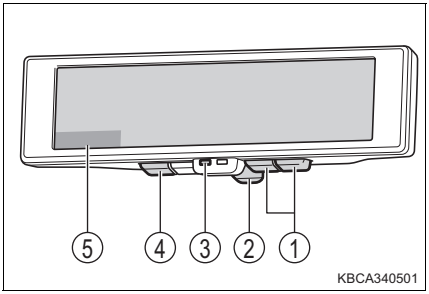
■デジタルルームミラーをお使いになる前に

●走行前に必ずミラー調整を行ってください。（→ P. 167）

- 鏡面ミラーモードに切り替えて鏡面を後方が正しく映る位置に調整する
- デジタルミラーモードに切り替えて、ディスプレイに表示される映像を調整する

●ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

各部の名称



① 調整／選択スイッチ
ディスプレイの調整、選択を行います。

② 切り替えレバー
デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードの切り替えを行います。

③ 作動表示灯
システムが正常に作動していることを示します。

④ メニュースイッチ
調整する機能の切り替えを行います。（調整アイコンの表示が切り替わります）

⑤ アイコン表示エリア
調整アイコン（→ P. 167）が表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

モードを切り替えるには

切り替えレバーを操作することで、デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードに切り替えることができます。

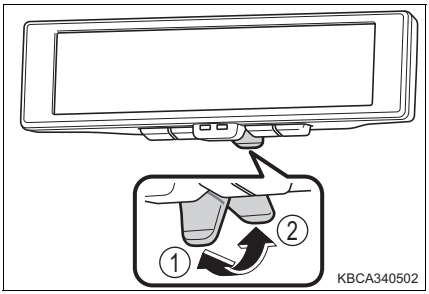
① デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに が表示されます。

② 鏡面ミラーモード

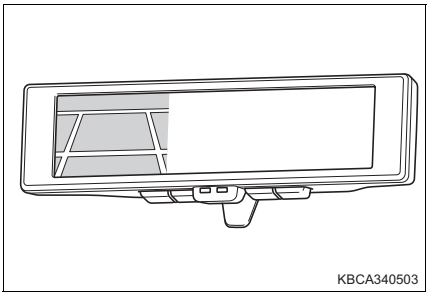
映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。



バックアイカメラの映像を映すには

デジタルミラーモードで使用中にシフトポジションを R にすると、バックアイカメラ（→ P. 275）の映像がミラー内に表示されます。

表示位置を左右入れ替えることができます。（→ P. 167）



知識

■デジタルミラーモードの作動条件

パワースイッチが“ON”のとき

■デジタルミラーモードについて

- ミラーの反射や汚れ、カメラに水滴やほこりが付いているなどでディスプレイに表示される映像が見えにくい場合や、後続のランプのちらつきや圧迫感が気になる場合は、鏡面ミラーモードに切り替えてください。
- バックドアが開いているときは、デジタルルームミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

知識

●夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
- 映像の色と実際の色が異なって見える
- 後続車のランプの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
- 周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、鏡面ミラーモードに切り替えてください。

●素早い動きには表示が追従できない場合があります。

●雨天時はリヤワイパーを併用してください。リヤワイパーを併用しても映像が見にくい場合は、リヤワイパーゴムの状態を確認してください。

●ミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。

●ミラー本体が低温になると、映像が遅れることがあります。

●体調・年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、鏡面ミラーモードに切り替えてください。

●同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

■システムに異常が発生したら

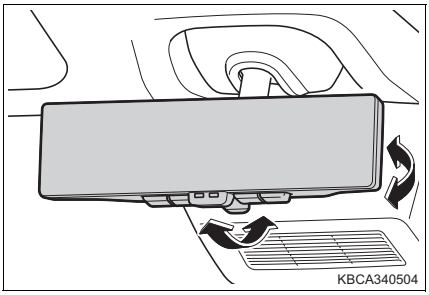
システムに異常が発生した場合、作動表示灯が消灯し、ディスプレイの映像が非表示になります。鏡面ミラーモードに切り替え、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

調整のしかた

■ ミラー本体の調整

運転姿勢に合わせてミラーの角度を調整することができます。

鏡面ミラーモードに切り替えて、ルームミラー本体を持って調整する



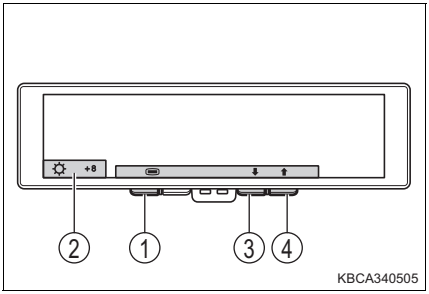
■ ディスプレイの調整（デジタルミラーモード）

デジタルミラーモードの各種調整ができます。

1 デジタルミラーモードにする

2 メニュースイッチ（①）を押して、調整する項目を選択する
調整アイコン（②）が表示されます。

3 調整／選択スイッチ（③）、（④）を押して調整、選択をする



項目	調整アイコン	調整／選択スイッチ	
	②	③	④
明るさ調整	☼	暗い ⬇	明るい ⬆
視野上下調整	⬍	下 ⬇	上 ⬆
視野左右調整	⬌	左 ⬅	右 ➡
視野回転調整	↺	反時計回り ↺	時計回り ↻
バックアイカメラ表示位置	▭	左 ⬅	右 ➡
ボタン照明	☼	消灯 OFF	点灯 ON

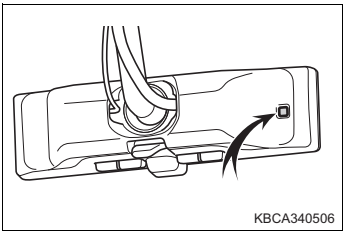
知識

■ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

- ●ミラー内にバックアイカメラの映像を表示しているときは、メニュースイッチを押してディスプレイの調整をすることができません。
- ●約5秒以上スイッチを操作しなかったときは、調整アイコンの表示が消えます。
- ●ディスプレイの調整を行うと、映像が歪む場合がありますが故障ではありません。
- ●ディスプレイが明る過ぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。
  目が疲れた場合には、鏡面ミラーモードに切り替えて使用してください。
- ●ディスプレイの明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動で替わります。

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーに触れたりセンサーを覆ったりしないでください。


KBCA340506

⚠ 警告

■走行中の留意事項

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●走行中は、デジタルルームミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。
  デジタルルームミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●必ず車両周辺の状況を直接確認してください。
  デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

■安全にお使いいただくために

煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

お手入れについて

■ デジタルルームミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

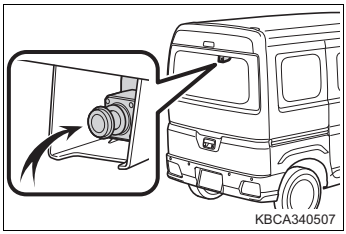
■ カメラのお手入れについて

カメラのレンズが汚れていると、鮮明な画像を得られません。水滴やほこりなどが付着したときは水で湿らせたやわらかい布や綿棒でカメラレンズを清掃ください。

知識

■カメラについて

デジタルルームミラーのカメラは、図の位置にあります。



⚠ 注意

■デジタルルームミラーの故障や誤作動を防ぐために

- ミラーをふくときはシンナー・ベンジン・アルコールなどの溶剤を使用しないでください。変色・劣化・故障の原因になります。
- ミラーの近くでは、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こしたりしないでください。故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- ミラー本体の取り外し・分解・改造はしないでください。
- 無線機のアンテナなどをミラー近くに取り付けないでください。
  無線機の電波により、映像が乱れる場合があります。

⚠ 注意

■カメラの故障や誤作動を防ぐために

●デジタルルームミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

- カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけたりするなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取り付け角度がずれるおそれがあります。
- カメラ部は取り外し・分解・改造をしないでください。
- 有機溶剤・ワックス・油膜取り剤・ガラスコーティングなどが付着したときはすぐにふき取ってください。
- カメラレンズをふくときは、水で湿らせたやわらかい布を使用してください。カメラレンズを強くこするとレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
- カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
- リヤウインドーガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼る場合は、カメラ前部に貼らないでください。
  カメラ前部に貼り付けた場合、映像が正しく映らなくなる場合があります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムが停止した状態で、デジタルミラーモードで長時間使用しないでください。

故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に次のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、再度確認してください。処置をしても直らないときは、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルルームミラーに当たった	鏡面ミラーモードに切り替えてください。
	●夜間など暗いところで使用した ●テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ●カメラ付近の温度が高い、または低い ●外気温が低い ●雨天時など湿度が高い ●太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズに当たった ●蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明の下で使用した	鏡面ミラーモードに切り替えてください。 （カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再度デジタルミラーモードを使用してください）

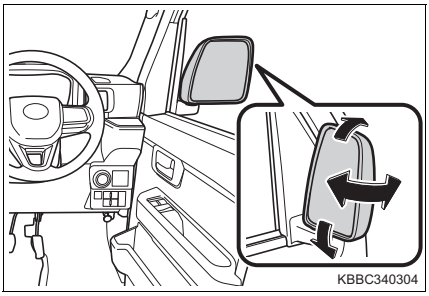
症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	カメラのレンズに水滴、ほこりなどの異物や汚れが付着している	水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズを清掃してください。
	ラゲージルームの荷物がガラスなどに反射して映り込んでいる	●鏡面ミラーモードに切り替えてください。 ●荷物を映りこまない位置に移動するか、黒い布などでガラスへの反射を抑えてください。
	リヤウインドーガラスが曇っている	●鏡面ミラーモードに切り替えてください。 ●リヤデフォッガー（→ P. 298）を使用し、曇りが取れてから再度デジタルミラーモードで使用してください。
	リヤウインドーガラスの外側が汚れている	リヤワイパーで汚れをふき取ってください。
	リヤウインドーガラスの内側が汚れている	水で湿らせたやわらかい布で清掃してください。
ディスプレイに表示される映像がずれている	バックドアが完全に閉まっていない	バックドアを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた	鏡面ミラーモードに切り替えて、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
作動表示灯が消灯し、ディスプレイの映像が非表示になった	システムに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切り替えて、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

ドアミラー

調整のしかた（手動タイプ）

ミラー全体を手で動かして調整する

調整後は運転席に座って、後方確認ができることを確認してください。



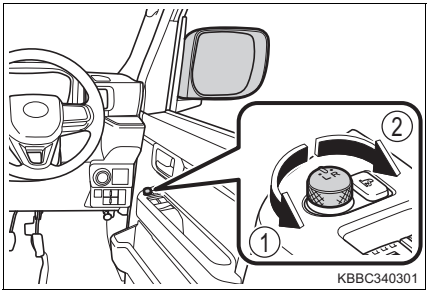
調整のしかた（電動タイプ）

スイッチで鏡面の角度調整をします。

1 調整するミラーを選ぶ

① 左

② 右



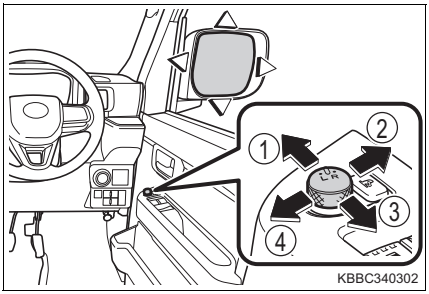
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

① 上

② 右

③ 下

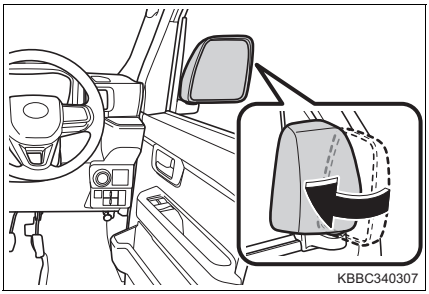
④ 左



ドアミラーを格納する（手動タイプ）

ドアミラーを手で後方に押して格納する

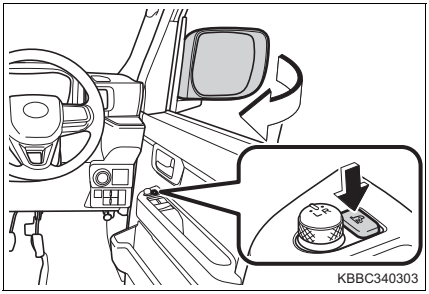
手で前方に押してもとの位置に戻します。



ドアミラーを格納する（電動タイプ）

スイッチを押してドアミラーを格納する

再度押すと復帰します。



知識

■ドアミラースイッチの作動条件（電動タイプ）

パワースイッチが“ACC”または“ON”のとき

■寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

⚠ 警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ミラーの調整をしない

●ドアミラーを格納したまま走行しない

●走行前に必ず運転席側および助手席側のミラーをもとの位置に戻して、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

手を触れないでください。

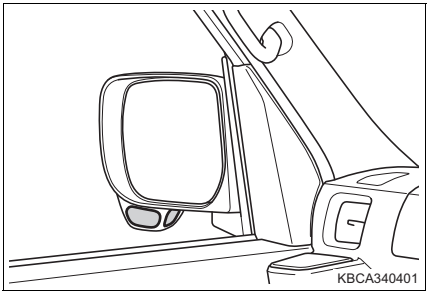
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーを調整するとき（手動タイプ）

汚れた手で調整しないでください。鏡面に汚れが付くと夜間など後方からのランプが乱反射し、視認が困難になるなどして大変危険です。

補助確認装置

発進時またはごく低速時に、助手席側車両側面を確認するときに役立ちます。

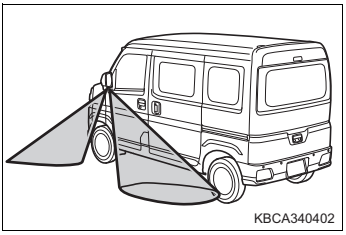


知識

■ミラーに映るおよその範囲

●運転者の身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

●ミラーの鏡面は固定式のため、鏡面を動かして確認できる範囲の調整をすることはできません。



●電動格納式ドアミラー以外：ミラー全体を手で動かすと、確認できる範囲が変わります。

⚠ 注意

■補助確認装置について

●補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。そのままにしておくと、視界の妨げとなるおそれがあります。

●車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかルームミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

パワーウインドー

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

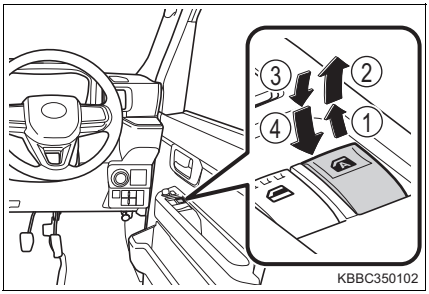
① 閉める

② 自動全閉（運転席のみ）※

③ 開ける

④ 自動全開（運転席のみ）※

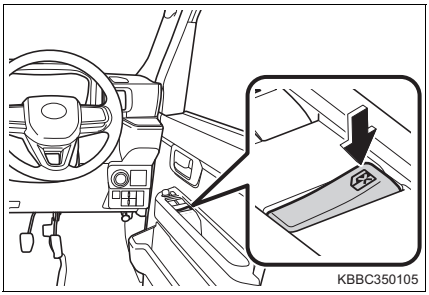
※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ軽く操作します。



ウインドーロックスイッチ

スイッチを押すと助手席のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

パワースイッチが“ON”のとき

■EV システム停止後の作動（運転席のみ）

パワースイッチを“ACC”または“OFF”にしたあとでも、約 40 秒間はドアガラスを開閉できます。

■挟み込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、少し開き、作動が停止します。

知識

■パワーウインドーモーターの過熱保護機能について

パワーウインドーモーターには、過熱保護機能を内蔵しています。パワーウインドーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、過熱保護機能が作動し一時的にパワーウインドーが停止することがあります。数十秒経過すると、通常通り使用できるようになります。

■運転席ドアガラスを閉めることができないとき

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、運転席ドアガラスを全閉できないときは、運転席ドアウインドースイッチで、次の操作を行ってください。

1 お車を停止し、パワースイッチを“ON”にする

2 運転席ドアウインドースイッチを「自動全閉」の位置まで引き続け、ドアガラスを全閉にしたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

■補機バッテリーを再接続したときは

パワーウインドーを適切に作動させるために、初期設定を次の手順で行ってください。

1 パワースイッチを“ON”にする

2 運転席ドアウインドースイッチを下に長押しし、全開にする

3 運転席ドアウインドースイッチを「自動全閉」の位置まで引き続け、ドアガラスを全閉したあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、2 からやり直しとなります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

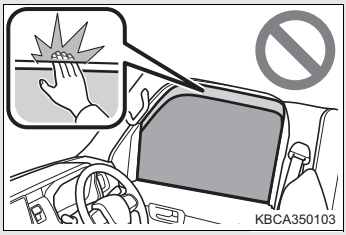
■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウインドーロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 177）

⚠ 警告

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●お車から離れるときはパワースイッチを“OFF”にし、キーを携帯してお子さまも一緒に連れて行ってください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能（運転席のみ）

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

●特に小さなものを挟み込んだとき、挟み込み防止機能が作動しないことがあります。

⚠ 注意

次のことをお守りください。お守りいただかないと、故障の原因となります。

■パワーウインドーの故障を防ぐために

●運転席ドアウインドースイッチと他のスイッチを同時に逆方向へ操作しない

●ドアガラスを完全に開閉した状態でウインドースイッチを操作し続けない

●ガラスが凍りついて固着したような状態でウインドースイッチを操作し続けない

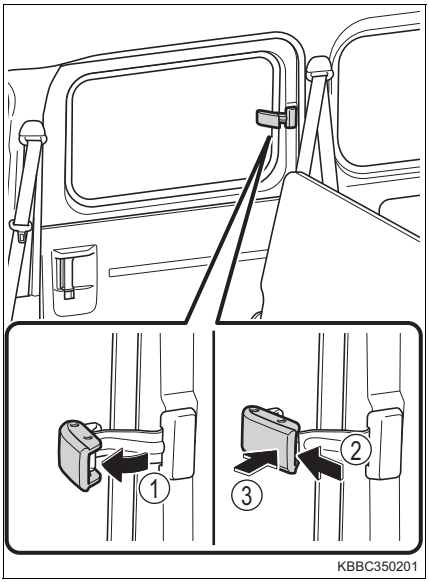
■補機バッテリーあがりを防止するために

EV システム停止中は、必要以上にパワーウインドーの開閉を行わないでください。

ポップアップ機構付リヤガラス★

開閉のしかた

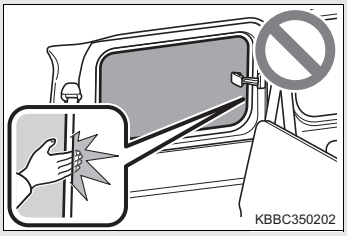
1 レバーを引いて（①）ロックを解除する
2 レバーを押して（②）ドアガラスを開ける
3 開いた状態でレバーを確実にロックするまで押す（③）
4 閉めるときは、逆の手順で行う



⚠ 警告

■ドアガラスを開閉するとき

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の指や手などを挟まないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

運転 5

5-1. 運転にあたって
- 運転にあたって …… 182
- 荷物を積むときの注意 …… 191

5-2. 運転のしかた
- パワー（イグニッション）スイッチ …… 192
- トランスミッション …… 197
- 方向指示レバー …… 202
- パーキングブレーキ …… 203

5-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
- ランプスイッチ …… 204
- ADB（アダプティブドライビングビーム）…… 207
- ワイパー & ウォッシャー（フロント） …… 212
- ワイパー & ウォッシャー（リヤ） …… 214

5-4. 運転支援装置について
- スマートアシスト …… 216
- 衝突警報機能（対車両、対歩行者 [昼夜]、対自転車）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両、対歩行者 [昼夜]、対自転車）…… 229
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）… 242
- 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制機能 …… 252
- ふらつき警報機能 …… 259
- 先行車発進お知らせ機能 … 262
- 標識認識機能 [車両進入禁止、最高速度、一時停止]…… 265
- コーナーセンサー …… 269
- バックアイカメラ …… 275
- 運転を補助する装置 …… 279

5-5. 運転のアドバイス
- 寒冷時の運転 …… 285

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

乗車前の確認事項

充電ケーブルが車両に接続されていないことを確認する（→ P. 77, 85）

EV システムを始動する

→ P. 192

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションをDにする（→ P. 197）
シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 203）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。（→ P. 197）

駐車する

1 ブレーキペダルを踏み、お車を完全に停止させる

2 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけて（→ P. 203）、シフトポジションをPにする（→ P. 197）

シフトポジション表示灯がPであることと、パーキングブレーキ未解除警告灯が点灯していることを確認します。

3 パワースイッチを“OFF”にしてEVシステムを停止する

4 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

上り坂の発進のしかた

1 ブレーキペダルをしっかり踏み、シフトポジションをDにする

ヒルホールドコントロールが作動します。

2 パーキングブレーキをかける（→ P. 203）

3 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み車を発進する

4 お車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除する（→ P. 203）

知識

■上り坂発進について

ヒルホールドコントロールが作動します。（→ P. 279）

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面が滑りやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がより滑りやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

知識

■EV システム出力の抑制制御について（ブレーキオーバーライドシステム）

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、EV システムの出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、警告メッセージが表示されます。（→ P. 409）

■急発進の抑制および後退速度の抑制について（ドライブスタートコントロール）

●次のような場合、ドライブスタートコントロールが作動します。

・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトポジションを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき※1 のような通常と異なる操作が行われると、EV システムの出力を抑制することがあります。この場合、警告メッセージが表示されます。（→ P. 409）

・後退時の速度が所定以下になるようにEVシステムの出力を抑制※2します。

※1状況によっては操作できない場合があります。

※2状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

●ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRCの作動を停止（→ P. 280）させることにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

●「DSC故障」の警告メッセージ（→ P. 409）を表示しているときは、ドライブスタートコントロールが作動しません。

■電動負圧ポンプシステム（→ P. 399）の作動音

EV システム始動時やブレーキペダルを踏んだときに、車両後ろ側から作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂部品（バンパーなど）に取り付けることはできません。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象でお車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
- アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- お車を少し移動させるときも正しい運転姿勢を取り、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●電気自動車は駆動モーターで走行するためエンジン音がありません。そのため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●通常走行時は、走行中に EV システムを停止しないでください。走行中に EV システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、ただちに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 390 を参照してください。

●急な下り坂では、回生ブレーキを併用して走行してください。フットブレーキを連続して使い過ぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。また、回生ブレーキは、駆動用電池が満充電に近くなるほど効きが弱くなり、満充電の状態では効かなくなります。あらかじめ速度を控えて走行してください。

●マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に「回生ブレーキ制限中 ブレーキを踏んで減速してください」が表示されたときは、ブレーキペダルをしっかり踏んで減速してください。（→ P. 410）

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・ルームミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

⚠ 警告

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部をお車から出さないようにしてください。

●オフロード走行をしないでください。

やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●河を渡るなどの水中走行はしないでください。

電装品のショートや EV システムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

●シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。

急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出して乗員に当たったり、荷物を破損したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●大きな段差がある場所や、輪止めなどがある場所では慎重に走行してください。バンパーを損傷するおそれがあります。

■滑りやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作は、お車が横滑りするなどのおそれがあります。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られるおそれがあります。

■シフトポジションを変更するとき

●前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。

思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いている間は、P ポジションスイッチを押さないでください。

トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

（完全に停車する前にシフトポジションをPにすると大きな作動音がする場合があります）

●車両が前進している間は、シフトポジションを R にしないでください。

トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退している間は、前進側のシフトポジションにしないでください。

トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

●走行中にシフトポジションをNにすると、EVシステムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトポジションがPまたはN以外にあると、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすとともに摩耗していきます。摩耗の限度を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションがPまたはN以外にあると、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●お車が動き出すことによる事故を防ぐため、READYインジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
- ライターやスプレー缶からガスが漏れたり、出火する
- プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
- 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

●ウインドーガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドーを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●お車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、EV システムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯している間は、お車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■仮眠するとき

必ず EV システムを停止してください。

READYインジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトポジションを切り替えたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車が発進して事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりかからないおそれもあります。

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●万一 EV システムが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

⚠ 警告

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、速度を下げてください。急ブレーキをかけるとハンドルを取られ、事故につながるおそれがあり危険です。

●ハンドルが取られる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 424 を参照してください。

⚠ 注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、EV システムの出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトポジションを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にしておかないと、お車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

⚠ 注意

■冠水路を運転するとき

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- ●電装品がショートする
- ●水の浸入による駆動用電池の破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずスズキ販売店またはスズキ代理店で次の点検をしてください。

- ●ブレーキの効き具合
- ●トランスミッションフルードなどの量および質の変化
- ●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良
- ●駆動用電池に接続されている構成部品

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションが P に切り替えられない、または P から他のシフトポジションに切り替えられなくなる可能性があります。その場合はスズキ販売店またはスズキ代理店へご連絡ください。

■事故にあったとき

駆動用電池や周辺部品が損傷すると、誤作動の原因になる可能性があります。軽度の事故であっても、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

- 運転席足元
- 助手席や後席★（荷物を積み重ねる場合）
- インストルメントパネル
- ダッシュボード
- ふたのない小物入れ／トレー

●室内に積んだ荷物はすべてしっかり安定させてください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

●リヤシート★の背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけフロントシートの背もたれの真後ろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワー（イグニッション）スイッチ

携帯リモコンを携帯して次の操作を行うことで、EV システムの始動またはパワースイッチモードを切り替えることができます。

EV システムを始動するには

1 充電ケーブルが車両に接続されていないことを確認する

2 正しい運転姿勢（→ P. 24）が取れるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

3 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

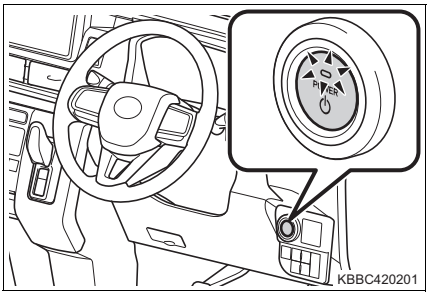
4 ブレーキペダルをしっかり踏む

パワースイッチの表示灯が緑色に点灯します。

緑色に点灯していないと、EVシステムは始動しません。

シフトポジションが N と表示されているときは、EV システムを始動できません。

EV システムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。（→ P. 197）



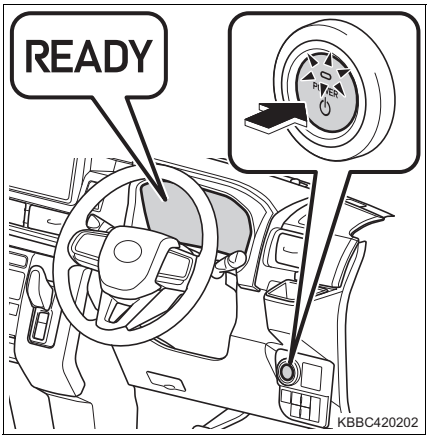
5 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、長押しする必要はありません。

READYインジケーターが点灯すれば、EV システムは正常に始動しています。

READYインジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモード（→ P. 193）からでもEVシステムを始動できます。



6 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅または消灯している状態では走行できません。

EV システムを停止するには

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて(→ P. 203)、シフトポジションをPにする

3 パワースイッチを押す

EVシステムが停止し、READYインジケーターが消灯します。(シフトポジション表示灯は、READYインジケーターが消灯したあとも数秒間表示されています)

4 ブレーキペダルから足を離して、パワースイッチの表示灯が消灯していることを確認する

パワースイッチモードの切り替え

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切り替えることができます。(スイッチを押すごとにモードが切り替わります)

"OFF"※

非常点滅灯が使用できます。

"ACC"

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

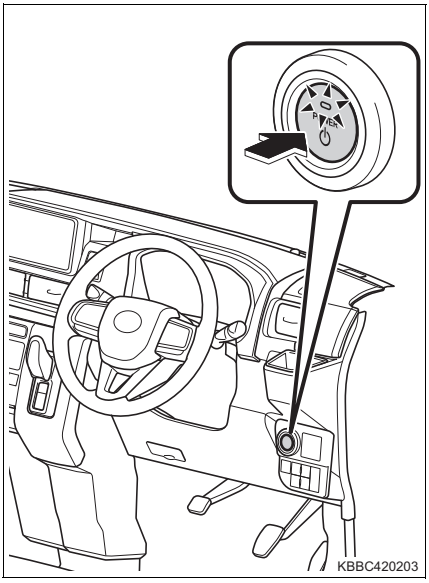
パワースイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

"ON"

すべての電装品が使用できます。

パワースイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※ シフトポジションが P 以外のときは "ACC" になり、"OFF" になりません。



知識

■自動電源 OFF 機能

シフトポジションを P にしているとき、20 分以上 “ON”（EV システムが作動していない状態）か 1 時間以上 “ACC” にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で “OFF” になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。EV システムが作動していないときは、パワースイッチを “ACC”、または “ON” にしたまま長時間放置しないでください。

■シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して “OFF” にしようとしても “OFF” にならないことがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると “OFF” にすることができる場合があります。

システムが故障した場合は、ただちに最寄りのスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

■携帯リモコンの電池の消耗について

→ P. 142

■キーフリーシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 139

■ご留意いただきたいこと

→ P. 140

■EV システムが始動しないとき

- 車両に充電ケーブルが接続されているときは、EV システムを始動することはできません。（→ P. 72）
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■外気温が低いとき

- EVシステム始動時にREADYインジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。
- 外気温の影響により駆動用電池の温度が低くなっている場合は、EV システムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再始動操作をしてください。

■電気自動車特有の音と振動について

→ P. 48

■補機バッテリーがあがったとき

キーフリーシステムで EV システムを始動することができません。EV システムを始動するには、P. 438 を参照してください。

知識

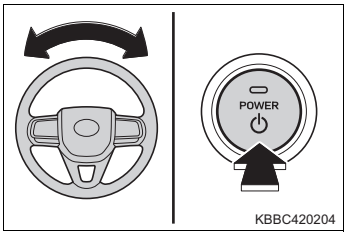
■ハンドルロックについて

●パワースイッチを“OFF”にしたあとにいずれかのドアを開閉（バックドアを開いたときを除く）すると、ハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ハンドルロックは自動で解除されます。

●車両の補機バッテリーがあがっている場合はハンドルロックが作動しません。

■ハンドルロックが解除できないときは

パワースイッチの表示灯がしばらく緑色に速く点滅します。



シフトポジションを P にしていることを確認して、ハンドルを左右に回しながら再操作してください。

■ハンドルロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間に EVシステムの始動・停止を繰り返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態に戻ります。

■万一、READY インジケーターが点灯しないとき

正しい手順で始動操作を行ってもREADYインジケーターが点灯しない場合は、ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店へご連絡ください。

■EV システムに異常があるとき

→ P. 54

■パワースイッチの表示灯が黄色に点灯または点滅したとき

システムに異常があるおそれがあります。ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

■携帯リモコンの電池が切れたときは

→ P. 367

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合や速く連続して押した場合は、モードの切り替えや EV システムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ“OFF”後、すぐに再始動した場合は、EV システムが始動しない場合があります。パワースイッチ“OFF”後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でキーフリーシステムを非作動にしたときは

→ P. 436

⚠ 警告

■EV システムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

EV システムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ハンドルロックが作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時の EV システム停止方法

- 走行中に EV システムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 3 秒以上長押しするか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 390)
  ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチに触れないでください。走行中に EV システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、ただちに道路脇に停車してください。
- 走行中に EV システムの緊急停止したあと、走行中に EV システムを再始動させる場合は、パワースイッチを押してください。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

- EV システム停止中は、パワースイッチを “ACC” または “ON” にしたまま長時間放置しないでください。
- パワースイッチの表示灯が消灯していない場合パワースイッチが “OFF” になっていません。パワースイッチを “OFF” にしてから車両を離れてください。
- シフトポジションが P 以外で EV システムを停止させないでください。シフトポジションが P 以外で EV システムを停止させた場合、パワースイッチが “ACC” となるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因となります。

■EV システムを始動するとき

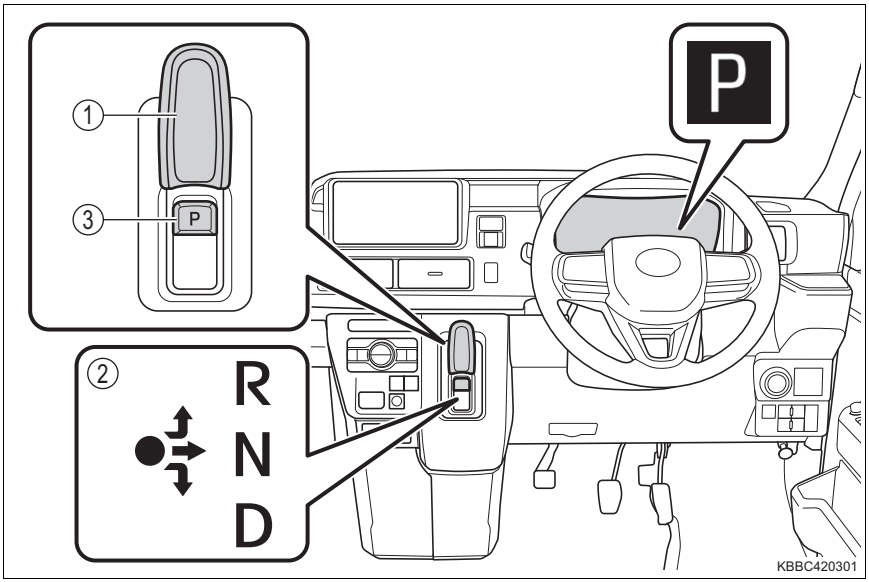
もし EV システムが始動しにくい場合は、ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

トランスミッション

シフトポジションの切り替え方法と表示について



① シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯の矢印に従って、ゆっくり確実に操作してください。

N に切り替えるときは、矢印に沿って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーがもとの位置に戻ります。

P から N・D・R、および N・D・R から P へ、または D から R、および R から D へ切り替えるときは、ブレーキペダルを踏み、お車が完全に停止している状態で行ってください。

② シフトポジション表示灯

メーター表示：現在のシフトポジションが表示されます。

シフトレバー表示：現在のシフトポジションが点灯表示されます。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切り替わったことを必ず確認してください。

③ P ポジションスイッチ

P ポジションに切り替えるには、お車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的
P	駐車または EV システムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行

知識

■シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に表示されたとき

誤操作やシステムの状況などによりシフトポジションが切り替わらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切り替えができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

■パワースイッチの各モードにおけるシフトポジション切り替え

- パワースイッチが“OFF”または“ACC”のときはシフトポジションの切り替えはできません。
- パワースイッチが“ON”で、READY インジケーターが消灯しているときは、N のみに切り替えが可能です。
- READY インジケーターが点灯中は、P から、D・N・R を選択できます。
- READY インジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作しても、P から他のシフトポジションへ切り替えることはできません。READY インジケーターが点滅から点灯に変わってから、再度シフトレバーを操作してください。

■P から他のシフトポジションに切り替える

- ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。（ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切り替えができません）
- 操作後は、メーターのシフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切り替わったことを必ず確認してください。

知識

■シフトポジションを切り替えられなかった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切り替えられなかったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切り替えてください。

- ブレーキペダルを踏まずに、P からシフトレバーを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、P からシフトレバーを操作したとき
- ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中にNからシフトレバーを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき
- 車両に充電ケーブルが接続されているとき
- 非常時給電システムを起動しているとき
- 走行中に、P ポジションスイッチを押したとき（極低速走行時は、P に切り替わることがあります）

■シフトポジションが自動的に N に切り替わった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが N に切り替わったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切り替えてください。

- 車両が前進しているときに R を選択した
  （低速走行時は R に切り替わることがあります）
- 車両が後退しているときに D を選択した
  （低速走行時は D に切り替わることがあります）

■走行中に N を選択した場合

一定以上の速度で走行中に N を選択した場合、シフトレバーを N の位置で保持しなくても N に切り替わります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に確認メッセージが表示され、N に切り替わったことを運転者に知らせます。

■リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■リバース警告ブザー（車外）★

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、車両が後退することを車外に知らせます。ただし、ランプ点灯時（車幅灯を含む）はブザー音量が小さくなります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■自動 P ポジション切り替え機能について

パワースイッチが “ON”、かつシフトポジションが P 以外の状態で、車両を停止させパワースイッチを押したとき（シフトポジションが P に切り替わったあと、パワースイッチが “OFF” になります）、自動的にシフトポジションが P に切り替わります。※

※ 停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切り替わる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でパワースイッチを押してください。

■シフトポジションが P から切り替わらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P. 438 を参照してください。

⚠ 警告

■シフトレバーについて

- シフトレバーのノブを取り外したり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置に戻らなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切り替わりを防止するため、操作時以外はシフトレバーに触れないでください。

■P ポジションスイッチについて

- お車が動いているときは、P ポジションスイッチに触れないでください。

  停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切り替わることがあるため、お車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切り替わりを防止するため、操作時以外は P ポジションスイッチに触れないでください。

⚠ 注意

■シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。

安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］にシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき（→ P. 416）
- シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

■お車を降りるとき（運転席のみ）

メーターのシフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

方向指示レバー

操作のしかた

レバーを操作したあと、すぐにもとの位置に戻ります。

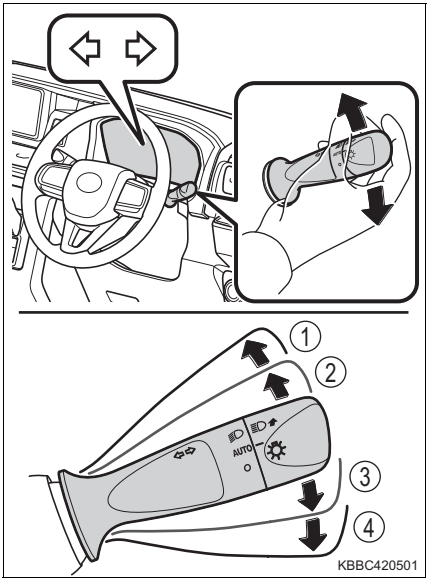
① 左折

② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持※）
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持※）
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折

※ ② または ③ の位置にレバー操作し、すぐに離したときは方向指示灯が 3 回点滅します。



■ 右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき

レバーを逆方向の ② または ③ の位置に操作してください。レバーを ① または ④ の位置まで操作すると、選択した方向指示灯が点滅します。

知識

■作動条件
パワースイッチが“ON”のとき

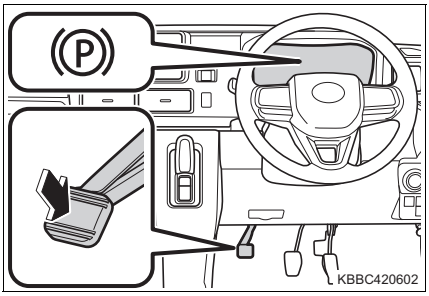
■表示灯の点滅が異常に速くなったとき
方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

■カスタマイズ機能
方向指示灯の設定を変更できます。
（カスタマイズ機能一覧：→ P. 451）
（マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］の設定画面から変更可能：→ P. 115）

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



知識

■冬季のパーキングブレーキの使用について
→ P. 286

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー
→ P. 401

警告

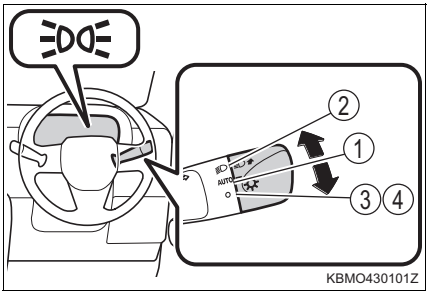
■走行前の留意事項
パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

パワースイッチが“ON”のとき、次のように ☼ スイッチを操作すると、次の表の通りランプ類が点灯･消灯します。



スイッチ位置		点灯・消灯するランプ	
		ヘッドランプ	車幅灯 番号灯 尾灯
①	**AUTO**	自動点灯・消灯	
②	≡D	点灯※1	
③※2、3	○ （約 1 秒以上操作）	消灯	点灯
④※2、4	○ （約 2 秒以上操作）	消灯	

※1　パワースイッチが“ACC”または“OFF”のときも点灯します。

※2　☼ スイッチを ○ の位置に操作して手を離すと、**AUTO** の位置に戻ります。

※3　自動点灯中で次のいずれかの状態のとき

- 車速が約 3km/h 以下
- 停車中から発進後約 20 秒経過していない、かつ車速が約 15km/h 以下

※4　停車中で次のいずれかの状態のとき

- シフトポジションが P
- パーキングブレーキがかかっている

■ ランプ類の再点灯について

☼ スイッチを ○ の位置に操作してランプ類を消灯したあと、次のいずれかの場合、ランプ類が再点灯します。

●再度 ☼ スイッチを ○ の位置に操作したとき

●パワースイッチを再度“ON”にしたとき

●車速が約 15km/h を超えたとき（③ のスイッチ操作時のみ）

●車速が約 15km/h 以下 (停車時を除く) の状態のまま約 20 秒経過したとき（③ のスイッチ操作時のみ）

●シフトポジションを P 以外にした、およびパーキングブレーキを解除したとき（④ のスイッチ操作時のみ）

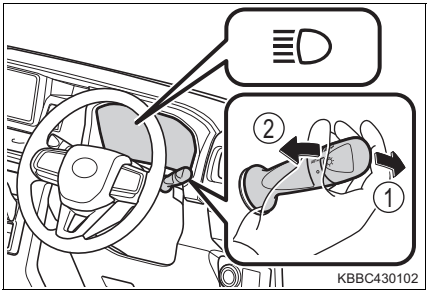
ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切り替え

レバーをもとの位置へ戻すとロービームに戻ります。

② レバーを引いている間、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームに戻る、または消灯します。



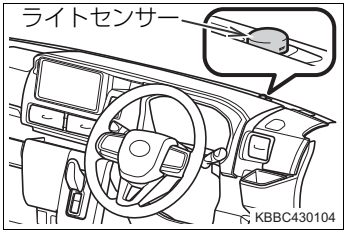
知識

■ライトセンサー

●次のことをお守りください。

お守りいただかないと自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

- センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドーガラスに貼らない
- ガラスクリーナーなどを吹きかけない



■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによるお車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

知識

■ランプ消し忘れ防止機能

●ランプ類が点灯している状態で、パワースイッチを“ON”から“ACC”または“OFF”にすると、点灯していたランプ類が自動で消灯します。

●再度ランプを点灯する場合は、パワースイッチを“ON”にするか、再度 の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

パワースイッチが“ACC”または“OFF”の状態で、ヘッドランプ・尾灯を点灯して運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

●ブザーとともに警告メッセージが表示されます。（→ P. 414）

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが“ACC”または“OFF”の状態で、ヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 10 分後にすべてのランプが自動消灯します。

自動消灯したあと、次のいずれかの操作を行うと、節電状態は解除され、ランプ類が点灯します。

●パワースイッチを“ON”にしたとき

●ランプスイッチを操作したとき（ただし、約 10 分後に再度自動で消灯します）

●いずれかのドアを開閉したとき（ただし、約 10 分後に再度自動で消灯します）

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。また、お車から離れるときは、必ずランプ類を消灯してください。

ADB（アダプティブドライビングビーム）

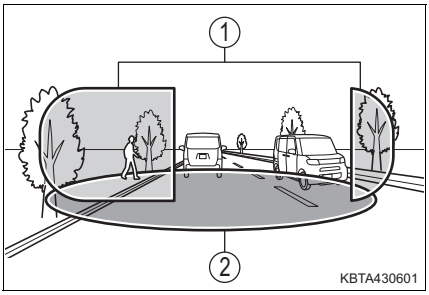
ADB（アダプティブドライビングビーム）は、フロントウインドーガラス上部に設置されたステレオカメラにより対向車または先行車のランプや街灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

●対向車または先行車の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）

対向車または先行車へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。

① ハイビームで照らす範囲

② ロービームで照らす範囲



⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

ADB（アダプティブドライビングビーム）を過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

⚠ 注意

■ADB（アダプティブドライビングビーム）を正しく作動させるために

●荷物を積み過ぎないでください。

●車両を改造しないでください。

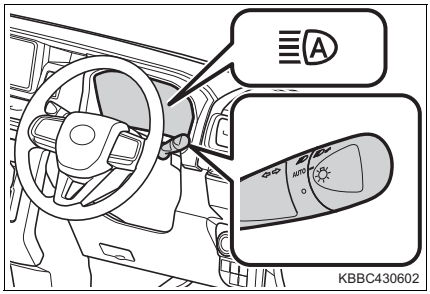
ADB（アダプティブドライビングビーム）の使い方

次の条件をすべて満たしているとき、ADB（アダプティブドライビングビーム）が作動し、ADB（アダプティブドライビングビーム）作動灯が点灯します。

●パワースイッチが“ON”のとき

●ランプスイッチが **AUTO** で、ロービームが点灯しているとき

周囲が明るいときは、ヘッドランプが点灯しないことがあります。



ヘッドランプ照射範囲の自動切り替え条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯します。

●車速が約 30km/h 以上

●車両前方が暗い

●対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない

●前方の街灯が暗い

次の条件をすべて満たすと、対向車または先行車の位置に応じて遮光ハイビームに切り替わります。

●車速が約 30km/h 以上

●前方にランプを点灯した車両がある

●車両前方が暗い

次の条件のいずれかのときはロービームに切り替わります。

●車速が約 20km/h 以下

●車両前方が明るい

●対向車または先行車の台数が多い

●前方の街灯が明るい

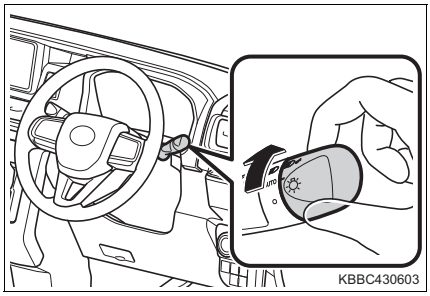
手動切り替えのしかた

■ ロービームへの切り替え

ランプスイッチを にする

ADB（アダプティブドライビングビーム）作動灯が消灯します。

ADB（アダプティブドライビングビーム）に戻すには、ランプスイッチを **AUTO** に戻します

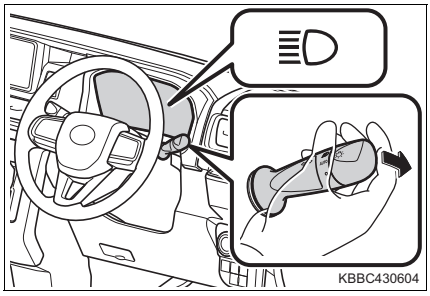


■ ハイビームへの切り替え

レバーを前方へ押す

ADB（アダプティブドライビングビーム）作動灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

ADB（アダプティブドライビングビーム）に戻すには、レバーをもとの位置に戻します。



サイドビューランプ

ADB（アダプティブドライビングビーム）作動灯点灯時に次のいずれかの条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、ロービームが追加点灯し車両進行方向を照射します。

ただし、車速約35km/h以上の場合は、サイドビューランプは点灯しません。

●ハンドルを操作したとき（操作した方向のサイドビューランプが点灯）

次のいずれかのとき消灯します。

- ロービームを消灯したとき
- ランプスイッチを **AUTO** 以外にしたとき
- ハンドルをまっすぐに戻したとき

●方向指示レバーを操作したとき（操作した方向のサイドビューランプが点灯）

次のいずれかのとき消灯します。

- ロービームを消灯したとき
- ランプスイッチを **AUTO** 以外にしたとき
- 方向指示レバーをもとに戻したとき

●シフトポジションが R のとき（左右両側のサイドビューランプが点灯）

次のいずれかのとき消灯します。

- ロービームを消灯したとき
- ランプスイッチを **AUTO** 以外にしたとき
- シフトポジションを D にして車速が約 5km/h 以上になったとき

知識

■ADB（アダプティブドライビングビーム）について

●次の状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切り替わらない場合があります。

- 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切り替わる場合があります。

●街灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切り替わる場合や、切り替わらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度や、ロービームへの切り替えのタイミングが変化する場合があります。

- 対向車または先行車のランプの明るさ
- 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- 対向車または先行車の動きや向き
- 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
- 対向車または先行車が二輪車のとき
- 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- 乗車人数や荷物の量

●ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●遮光ハイビームに切り替わってもハイビーム表示灯は点灯したままです。

知識

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や対向車または先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）
- フロントウインドーガラスの曇りや汚れ、雨粒、シールなどでステレオカメラ前方が覆われているとき
- フロントウインドーガラスに傷、ひびなどが生じたとき
- ステレオカメラの温度が高いとき
- ステレオカメラが変形しているときや汚れているとき
- 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- 対向車や先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道のとき
- 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ヘッドランプの破損や汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
- パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ハイビームとロービームを頻繁に切り替えているとき
- ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者や付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
- 著しくぬれた路面か圧雪路など、光を強く反射する路面のとき

■ADB（アダプティブドライビングビーム）警告灯が点灯、マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に「ヘッドランプ光軸異常」、または「ヘッドランプシステム故障」の警告メッセージが表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

■サイドビューランプ

サイドビューランプは、点灯したまま約 5 分経過すると、自動的に消灯します。

消灯後再度、方向指示レバー、ハンドル操作を行うか、シフトポジションを R にすると点灯します。

停車時に自動的に消灯した場合は、車速約 3km/h で走行すると点灯します。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

を選択しているとき、車速に応じて間欠作動の時間が変わります。

① O ：停止

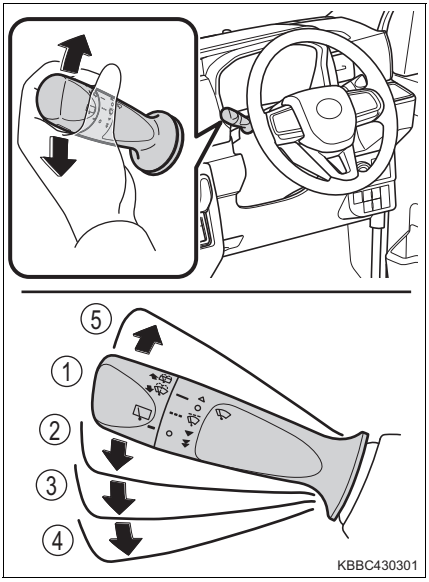
② ：間欠作動

車速が高くなると、作動頻度が増えます。

③ ▼ ：低速作動

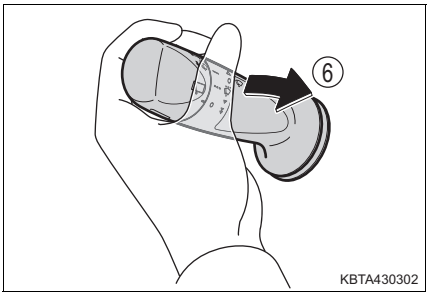
④ ▼▼ ：高速作動

⑤ △ ：一時作動



⑥ ：ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



知識

■作動条件

パワースイッチが“ON”のとき

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■カスタマイズ機能

車速感応機能の設定を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 451）

（マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］の設定画面から変更可能：→ P. 115）

⚠ 警告

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドーガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドーガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■フロントウインドーガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはスズキ販売店またはスズキ代理店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムを停止した状態でワイパーを長時間作動させないでください。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

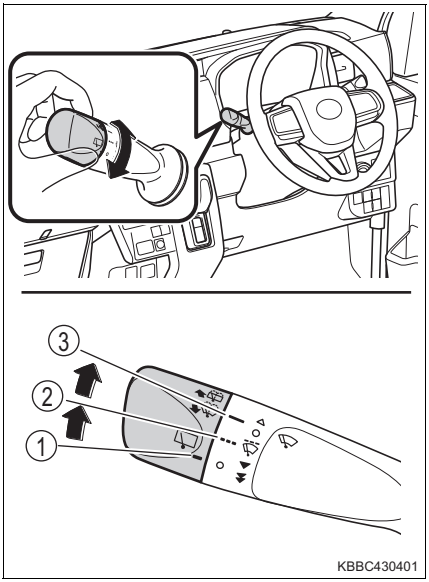
操作のしかた

次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。

① O ：停止

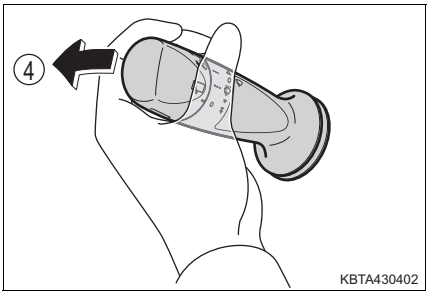
② ---：約4秒間低速作動したあと、間欠作動

③ ——：通常作動



④ ：ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



知識

■作動条件

パワースイッチが“ON”のとき

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■リバース連動機能

フロントワイパーが作動中、シフトポジションを R にするとリヤワイパーが数回作動します。フロントワイパーが停止後、約 10 秒以内にシフトポジションを R にしたときも、数回作動します。

■カスタマイズ機能

作動の間隔などの設定を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 451）

（マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］の設定画面から変更可能：→ P. 115）

⚠ 注意

■リヤウインドーガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはスズキ販売店またはスズキ代理店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムを停止した状態でワイパーを長時間作動させないでください。

スマートアシスト※

スマートアシストは、次の機能によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

※“スマートアシスト”はダイハツ工業株式会社の登録商標です。

◆ 衝突警報機能（対車両、対歩行者 [昼夜]、対自転車）

→ P. 229

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両、対歩行者 [昼夜]、対自転車）

→ P. 229

◆ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）

→ P. 242

◆ 車線逸脱警報機能

→ P. 252

◆ 車線逸脱抑制機能

→ P. 252

◆ 路側逸脱警報機能

→ P. 252

◆ ふらつき警報機能

→ P. 259

◆ 先行車発進お知らせ機能

→ P. 262

◆ 標識認識機能 [車両進入禁止、最高速度、一時停止]

→ P. 265

◆ ADB（アダプティブドライビングビーム）

→ P. 207

⚠ 警告

■スマートアシストについて

●スマートアシストは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。スマートアシストは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

●お客様ご自身でスマートアシストの作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●次の状況ではシステムは正しく作動しません。スマートアシストの機能を停止してください。（→ P. 220）

- タイヤの空気圧が適正でないとき
- スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
- 摩耗したタイヤ、摩耗差の激しいタイヤを装着しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤパンク応急修理セットを使用したとき
- サスペンションを改造したとき
- ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車両に取り付けたとき
- ヘッドランプの汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
- ヘッドランプの光軸がずれているとき
- ヘッドランプなどのランプ類を改造したとき
- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- 車両を改造・架装したとき
- けん引されるとき
- キャリアカー・船舶・列車などに積載するとき
- シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- リフトアップし、EV システムを始動させタイヤを空転させたいとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、ビニールカーテン、草むらや茂みなどに触れながら通過するとき
- サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 脱輪したときやぬかるみから脱出するとき
- 冠水した道を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ブレーキ警告灯が点灯しているとき
- 洗車機を使用するとき

車両データの記録について

スマートアシストには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

●アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況

●ハンドルおよびシフトレバーの操作状況

●車速などの車両情報

●スマートアシストの各機能の作動状況

●前方車両や歩行者、障害物との距離、相対速度などの情報

●ステレオカメラの画像情報（衝突回避支援ブレーキ作動時）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

■ データの取り扱いについて

スズキ、スズキの代理店・販売店およびスズキの委託先は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、スズキ、スズキの代理店・販売店およびスズキの委託先は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

●お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合

●警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合

●スズキが訴訟で使用する場合

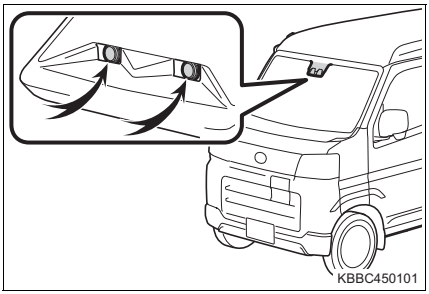
●統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

ステレオカメラ

ステレオカメラは、次の機能で必要な情報を認識します。

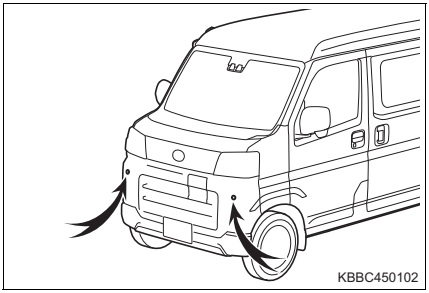

KBBC450101

- ●衝突警報機能（対車両、対歩行者 [昼夜]、対自転車）
- ●衝突回避支援ブレーキ機能（対車両、対歩行者 [昼夜]、対自転車）
- ●ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）
- ●車線逸脱警報機能
- ●車線逸脱抑制機能
- ●路側逸脱警報機能
- ●ふらつき警報機能
- ●先行車発進お知らせ機能
- ●標識認識機能 [車両進入禁止、最高速度、一時停止]
- ●ADB（アダプティブドライビングビーム）

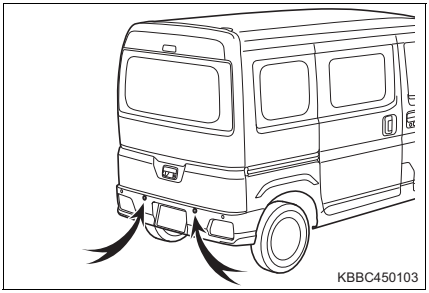
ソナー

ソナーは、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）で必要な情報を認識します。

▶フロントソナー


KBBC450102

▶リヤソナー


KBBC450103

スマートアシストの機能を停止するには

スマートアシスト OFF スイッチを押すことにより、スマートアシストの機能を停止することができます。

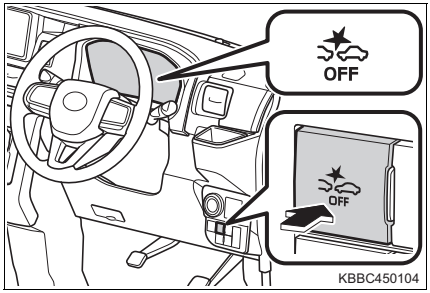
また、マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］の設定を変更することにより、スマートアシストの一部の機能を停止することができます。（→ P. 121）

■ 衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）・先行車発進お知らせ機能・標識認識機能 [車両進入禁止、最高速度、一時停止] を停止するとき

停車時にスマートアシスト OFF スイッチを２秒以上長押しする

“ピピッ”とブザーが鳴り、スマートアシスト OFF 表示灯が点灯します。

再度 2 秒以上長押しすると、“ピピッ”とブザーが鳴りスマートアシスト OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態に戻ります。

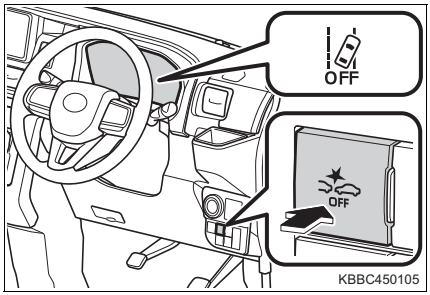


■ 車線逸脱警報機能・車線逸脱抑制機能・路側逸脱警報機能・ふらつき警報機能を停止するとき

スマートアシスト OFF スイッチを押す

“ピピッ”とブザーが鳴り、車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。

再度押すと、“ピピッ”とブザーが鳴り車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態に戻ります。



知識

■ステレオカメラについて

●ステレオカメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方車両や歩行者、障害物、車線を認識しづらくなります。

●ステレオカメラによる前方車両や歩行者、障害物、車線の認識は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでは数秒間かかります。

■スマートアシストが作動しない場合

次のいずれかの場合、スマートアシストの機能は作動しません。

●EV システム始動直後

●スマートアシスト OFF スイッチでシステムを停止しているとき

●スマートアシスト OFF 表示灯が点灯または点滅しているとき

●「スマアシ停止」が表示されているとき※（機能停止）

※「スマアシ停止」が表示されていても、一部の機能は作動します。詳しくは各機能の説明をお読みください。

■スマートアシストの機能停止について

次のようなときは、状況によってはスマートアシストの認識性能が下がる場合や一時停止状態になる場合があります。（→ P. 421）

状況が改善されれば再度機能は作動します。

●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）

●お車を炎天下で放置したあとなど、ステレオカメラの温度が極端に高くなった場合

●EV システム始動直後

●前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき

●街灯などがなく、真っ暗で周囲に建物や車両などが無い場合

●ステレオカメラ、ソナー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき

●重い荷物を積んでいるとき

●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき

●排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき

機能によって認識性能の低下する条件が異なります。詳しくは各機能の説明をお読みください。

知識

■スマートアシストの自動復帰について

スマートアシスト OFF スイッチを押して次の機能を停止した場合でも、一度パワースイッチを “OFF” にしてから “ON” にすることによって、自動的に作動可能状態に戻ります。

- ●衝突警報機能（対車両、対歩行者 [昼夜]、対自転車）
- ●衝突回避支援ブレーキ機能（対車両、対歩行者 [昼夜]、対自転車）
- ●ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）
- ●先行車発進お知らせ機能
- ●標識認識機能 [車両進入禁止、最高速度、一時停止]

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・車線逸脱抑制機能・ふらつき警報機能について

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・車線逸脱抑制機能・ふらつき警報機能の作動可能状態または停止状態は、EV システムを再始動しても維持されます。

■スマートアシストの作動状態について

ブザーとメーター、ディスプレイの表示でスマートアシストの作動状態をお知らせします。

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ	作動状態
“ピピピピピピッ”	 （点滅）		衝突警報機能が作動
“ピピピピピ” と鳴り続ける	 （点滅） 		衝突回避支援ブレーキ機能の 1 次ブレーキ、または 2 次ブレーキが作動

知識

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ	作動状態
“ピピピッ”と鳴り続ける	 （点滅）		衝突回避支援ブレーキ機能の 2 次ブレーキが作動したあと、車両が停止 運転者の操作でブザーとディスプレイの表示が終了します。
“ピピピピピピッ”	 （点滅）		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の警報が作動
“ピピピピピ”と鳴り続ける	 （点滅） 		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の警報が作動するとともに EV システムの出力を抑制
“ピピピピピ”と鳴り続ける	 （点滅） 		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のブレーキ制御が作動
“ピピピピピッ”	 （点滅）		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）の警報が作動

知識

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ	作動状態
“ピピピピピ”と鳴り続ける	 （点滅） 		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）の警報が作動するとともにEV システムの出力を抑制
“ピピピピピ”と鳴り続ける	 （点滅） 		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）のブレーキ制御が作動
“ピピピピッピピピピッ”	 （点滅）		車線逸脱警報・路側逸脱警報が作動
—	 （点灯）	—	車線逸脱抑制機能が作動
“ピピピピピッ”	  （点灯）		手放し運転をしているとシステムが判断しているとき、車線逸脱抑制機能が約 3 分の間に 2 回以上作動し、手放し注意が行われた
“ピピピピピ”と鳴り続ける	  （点灯）		手放し注意が行われている状態から、さらに車線逸脱抑制機能が作動し、手放し運転警告が行われた

知識

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ	作動状態
“ピピッピピッ”	（点灯）		ふらつき警報機能が作動
“ピピピッ”	（点滅）		先行車発進お知らせ機能が作動
—	（緑色）	—	ADB（アダプティブドライビングビーム）が作動
—※1	—	※2 	標識認識機能が作動

※1 標識認識機能（進入禁止）が作動したとき、ブザーが鳴るようにすることができます。（→ P. 118 ）

※2 認識する道路標識により、表示が変わります。（→ P. 265）

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞き取りにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

⚠ 警告

■ステレオカメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ステレオカメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ステレオカメラ前面のフロントウインドーガラスは常にきれいにしてください。

・フロントウインドーガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・ステレオカメラ前面に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・フロントウインドーガラス内側のステレオカメラ取り付け部が汚れた場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

●フロントウインドーガラスのステレオカメラ前面に、ステッカー（透明なものを含む）などを貼らないでください。やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、ステレオカメラの前面に重ならないようにしてください。

●フロントウインドーガラスが曇った場合は曇りを取ってください。（→ P. 298）

●フロントウインドーガラスのステレオカメラ前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換してください。（→ P. 363）

・ワイパーブレードの交換が必要な場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

●フロントウインドーガラスにフィルムを貼らないでください。

●事故などでステレオカメラ周辺が変形した場合はスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

●フロントウインドーガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換してください。特にステレオカメラ前面のフロントガラスに傷、ひびなどの損傷や部分修正があると、システムが正しく作動しなくなることがあります。

フロントウインドーガラスの交換が必要な場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

●スズキ純正品以外のフロントウインドーガラスに交換しないでください。

●ステレオカメラに液体をかけないでください。

●ステレオカメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしないでください。レンズに汚れ、傷がある場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

●ステレオカメラに強い衝撃を加えないでください。

⚠ 警告

- ステレオカメラ取り付け位置や向きを変更したり、取り外したりしないでください。
- ステレオカメラを分解しないでください。
- ステレオカメラ付近に電子機器やアンテナなど、強い電波を発信する機器を取り付けないでください。
- ステレオカメラに強い光を照射しないでください。
- ステレオカメラをサンシェードで覆わないでください。覆うとステレオカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。
- ルームミラーなどのステレオカメラ周辺部品や天井を改造しないでください。
- インストルメントパネル上部にものを置かないでください。フロントウインドーガラスに反射してシステムが正しく作動しなくなる場合があります。
- インストルメントパネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせた場合、フロントウインドーガラスへの映り込みにより、ステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーなどに、ステレオカメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けないでください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積むときは、ステレオカメラの視界をさえぎらないようにしてください。
- スズキ純正品以外のルームミラー（ワイドタイプミラーなど）、サンバイザーを装着しないでください。

⚠ 警告

■ソナーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ソナーは常にきれいにしてください。

・雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着した場合は、取り除いてください。

・お手入れする際は、ソナーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●ソナーにウォッシャー液やオイルが付着した場合は、ただちにふき取ってください。

●ソナーにワックスや撥水剤などをぬらないでください。

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水を当てないでください。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付け過ぎないようにしてください。

●ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。強い衝撃を受けたときは、必ずスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

●ソナーを取り外したり、分解したりしないでください。

●ソナーの取り付け位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。また、ソナーを塗装したりしないでください。

●ソナー、およびその周辺部分にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。

●バンパー部分に腰かけたり、寄りかかったりしないでください。

●バンパーを交換・修理する場合や、事故などでソナー周辺が変形した場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

■汚れ検知機能について

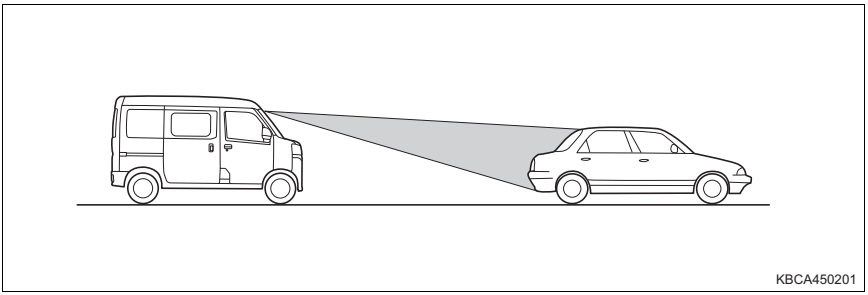
●ステレオカメラとソナーは汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
汚れを検知した場合は、スマートアシストの機能が自動的に停止します。

衝突警報機能(対車両、対歩行者[昼夜]、対自転車)、衝突回避支援ブレーキ機能(対車両、対歩行者[昼夜]、対自転車)

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車両※1、歩行者※2 を認識して、衝突の危険性が高い場合に作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行い、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

※1 二輪車、自転車を含む(人が乗車している場合のみを対象物としています)

※2 昼間、夜間対応



◆ 衝突警報機能(対車両、対歩行者[昼夜]、対自転車)

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブザーとディスプレイの表示(→ P. 222)で注意を促します。

状況によっては、壁、ガードレールなどの障害物に対しても衝突警報は作動します。

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能(対車両、対歩行者[昼夜]、対自転車)

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示(→ P. 222)で注意を促し、衝突の直前で緊急ブレーキが作動して、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

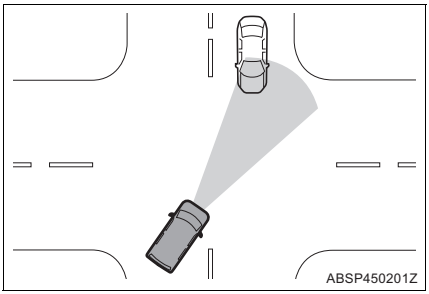
◆ 被害軽減ブレーキアシスト

緊急ブレーキ作動中、ブレーキペダルを踏み込むと、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

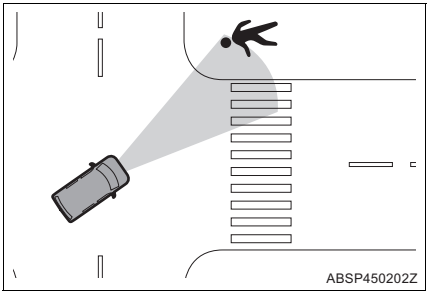
◆ 交差点衝突回避支援（右左折）

次のような状況で、衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報および衝突回避支援ブレーキによる支援を行います。交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

●交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



●右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき



⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
衝突回避支援ブレーキ機能を日常のブレーキ操作の代わりには絶対に使用しないでください。衝突回避支援ブレーキ機能はあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●衝突回避支援ブレーキ機能は、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。衝突が避けられないと判断した段階で緊急ブレーキが作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますが、常に同じ性能を発揮できるものではありません。その効果は様々な条件により変わるため、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ 衝突の可能性がなくても機能が作動するおそれがあるとき：→ P. 238
・ 機能が正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 231, 238

⚠ 警告

■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能について

●衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラが認識した前方車両※ や歩行者に作動します。電柱、壁などに対しても作動することがありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。

●運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりする場合、その操作状態によって衝突の可能性が低いと判断されると、衝突警報や衝突回避支援ブレーキが作動しない、作動が遅れる、または作動が解除されることがあります。

●衝突回避支援ブレーキ機能は、前方車両※ との速度差が約 120km/h（対歩行者の場合は速度差が約 80km/h）を超える場合は作動しません。

●シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、衝突回避支援ブレーキが作動したときに危険な場合があります。（→ P. 26）

※ 二輪車、自転車を含む

■衝突回避支援ブレーキについて

緊急ブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。緊急ブレーキは車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動しないおそれのある状況

次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。

●前方車両※ や歩行者との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合

●自車の状態（積載量・乗員など）

●路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）

●前方の視界が悪いとき（豪雨、吹雪、濃霧、土ぼこりなど）

●運転者の操作状態（アクセルペダル・ブレーキペダル・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき

●EV システム始動直後

●外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき

●下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき

●水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき

●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）

・ フロントウインドーガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき

⚠ 警告

- ガラスコーティング剤を使用したとき
- フロントウインドーガラスにフィルムを貼ったとき
- フロントウインドーガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
- フロントウインドーウォッシャーの使用中または使用後で、フロントウインドーガラスが十分にふき取れていないとき
- フロントウインドーガラスに傷、ひびなどが生じたとき
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
- スズキ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
- 雨滴やウインドーウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、対象物の認識が不完全になったとき
- ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
- ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車両※、歩行者に接近するとき
- トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ステレオカメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているとき
- 強い光が車両※ や歩行者、路面に反射しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道のとき
- 路面に水たまりや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路など、凹凸やわだちのある道路のとき
- 自車や対象物がふらついているとき
- 対象物が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- 右折中に、対向車が自車の走行する車線から離れた車線を走行しているとき
- 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき
- 右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき
- 移動する自転車が集団で前方にいるとき
- 歩行者や移動する自転車が対向して接近してきたとき
- 対象物が対向車であっても、対象物とシステムが認識する前に、自車が対向車の進行路に進入している場合
- 対象物が対向車であっても、自車が対向車線に進入している場合
- 前方車両※ や歩行者との距離が極端に短いとき
- 自車の前方に車両※ や歩行者が急に割り込んだり、飛び出したりしたとき

⚠ 警告

- 急加速やハンドル操作をしながら、前方車両※、歩行者に接近したとき
- 前方車両※ の一部しかステレオカメラの認識範囲内に入っていないとき
- 小さい速度差で接近する場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状･大きさによっては最後面がステレオカメラの視野範囲から外れる場合があります）
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 自車が車線変更を行い、前方車両※ のすぐ後ろに接近したとき
- 前方車両※ が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）のとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車、タンデム自転車など）
- 前方車両の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- 車両背面のガラスが大きく前が見えてしまうような前方車両に接近したとき
- 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが前方車両のとき
- 後端から積荷が飛び出している車両などのとき
- 車両が斜め、または横向きに走行や停止しているとき
- 二輪車が横向きに走行しているとき
- 二輪車や自転車、または歩行者が斜めに走行・横断しているとき
- 歩行者、二輪車や自転車の運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコートなどを着用しているとき）
- 対向車※ やバックしてくる車両などのとき
- 車高の低い車両などのとき
- 停車している車両※ の前に壁などがあるとき
- 重い荷物を積むなど、前方車両※ が傾いているとき
- 二輪車、自転車の運転者や歩行者の一部（頭や手足など）が荷物や傘、帽子、車両、建物などに隠れているとき
- 二輪車、自転車の運転者や歩行者が背景にまぎれて、ステレオカメラが認識できないとき
- 二輪車、自転車の運転者や歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢を取っているとき、横たわっているとき、手を振ったり走っているとき
- 身長の低い子供や高身長の歩行者のとき（接近してから制御を行うため、歩行者の体形によってはステレオカメラの視野範囲から外れてしまい、作動しなかったり、作動が解除されたりすることがあります）
- 歩行者が大きな荷物を背負っていたり、抱えたり、自転車やカートなどを押しているとき
- 歩行者が長いスカートや和服などを着用していて足元が見えないとき

⚠ 警告

- 集団で歩いているときなど、ステレオカメラが歩行者として認識できないとき
- ヘッドランプ照射範囲外に対象物がある場合
- 周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）
- 対象物と背景のコントラストが少ないとき（森の中の黒車両、白壁前の白服歩行者、夜間の黒服歩行者など）
- 上方に構造物がある場所の下に対象物がいるとき
- 対象物が複数重なっているとき
- 2 人以上乗車している自転車

●タイヤ径が小さい二輪車※ や全長が長い二輪車※ のとき

●歩行者や二輪車、自転車の移動速度が速いとき

●二輪車、自転車に運転者が乗車していないとき

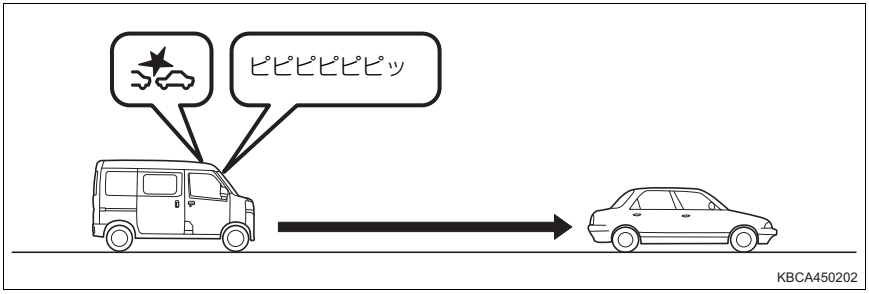
※ 二輪車、自転車を含む

衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・被害軽減ブレーキアシストの作動

1 ～ 4 の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

- システム作動中は、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示で運転者に注意を促します。
- ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。
- ブレーキ制御中にブレーキペダルを踏み込むと、被害軽減ブレーキアシストが作動し、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

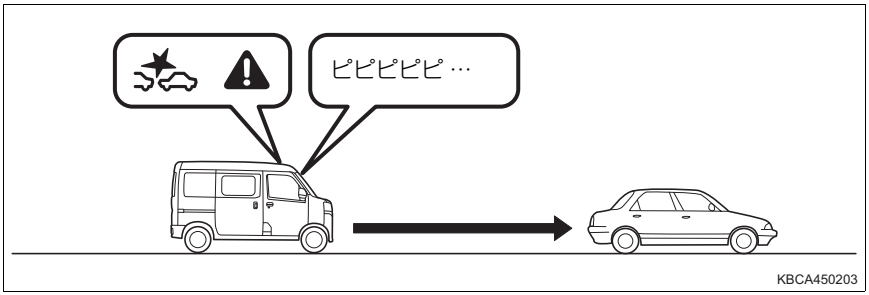
1 衝突警報



前方車両※・歩行者に対し、衝突の危険性があると判断したときに、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 222）で運転者に注意喚起して衝突回避操作を促します。

※ 二輪車、自転車を含む

2 1 次ブレーキ

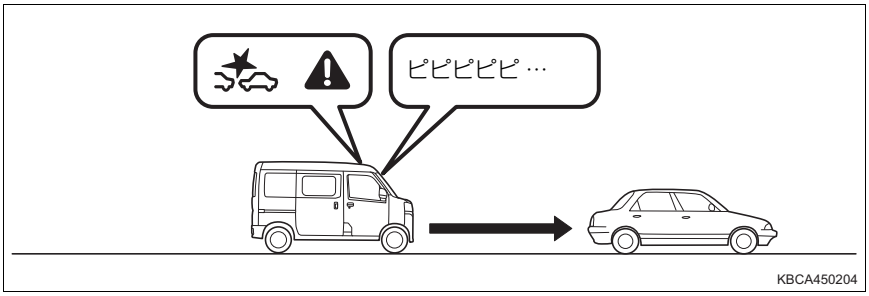


前方車両※・歩行者を認識して、衝突の可能性が高いと判断したときに、ブザーを変化させブレーキ制御を行います。

- 前方車両※・歩行者と認識していない場合、またはブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離を取った場合は、ブレーキ制御を行いません。

※ 二輪車、自転車を含む

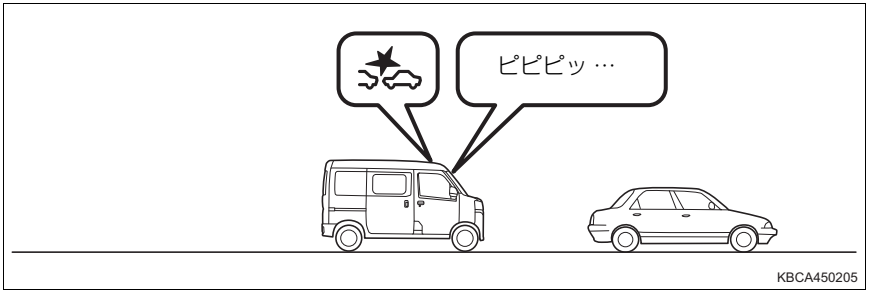
3 2 次ブレーキ



前方車両※・歩行者に対し、衝突の危険性が非常に高いと判断したときに、1 次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。

※ 二輪車、自転車を含む

4 停止保持



停止後にブザーが鳴り、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続したあと、ブレーキ制御を解除します。※

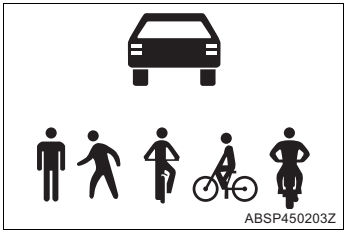
停止保持後にブレーキ制御が解除されると、クリープ現象により車両がゆっくりと動き出します。停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。

※ アクセルペダルを踏んだときも、ブレーキ制御が解除される場合があります。

知識

■ステレオカメラについて

ステレオカメラは対象物の大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、対象物の動き・姿勢・角度などによっては、対象物を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシスト、交差点衝突回避支援の作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- ●パワースイッチが“ON”のとき
- ●スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●「スマアシ停止」が表示されていないとき
- ●メーター内の VSC OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●シフトポジションが P・R 以外のとき
- ●次の表に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき（交差点衝突回避支援以外の場合）

機能	対象	作動車速、速度差※1
衝突警報機能	対車両	約 4 ～ 120km/h
	対歩行者※2	約 4 ～ 80km/h
	先行二輪車、自転車	約 4 ～ 120km/h
	横断自転車	約 4 ～ 80km/h
衝突回避支援ブレーキ機能	対車両	約 4 ～ 120km/h
	対歩行者※2	約 4 ～ 80km/h
	先行二輪車、自転車	約 4 ～ 120km/h
	横断自転車	約 4 ～ 80km/h
被害軽減ブレーキアシスト※3	対車両	約 30 ～ 120km/h
	対歩行者※2	約 30 ～ 80km/h
	先行二輪車、自転車	約 30 ～ 120km/h

知識

●次の表に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき（交差点衝突回避支援の場合）

機能	対象	作動車速度	対向車速度
衝突警報機能	対車両※4	約 4 ～ 30km/h	約 20 ～ 60km/h
	対歩行者	約 4 ～ 30km/h	—
衝突回避支援ブレーキ機能	対車両※4	約 4 ～ 30km/h	約 20 ～ 60km/h
	対歩行者	約 4 ～ 30km/h	—

※1自車と前方車両、歩行者との速度差は作動車速の数値と同じです。

※2昼間、夜間対応

※3緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込んだ場合

※4方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

■衝突回避支援ブレーキについて

●状況によっては、1 次ブレーキや 2 次ブレーキから作動することがあります。

●衝突回避支援ブレーキ中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。

●衝突回避支援ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

■衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。

●左折、または右折している前方車両※ がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき

●先行車※ を追い越すときに車両に接近して走行する場合

●車線変更や右左折している前方車両※ などを追い抜くとき

●右左折待ちの前方車両※ などとすれ違うとき

●前方車両※、横断歩行者などの対象物が自車進路内に入る手前で停止したとき

●道路上方に物体（道路標識、看板、または樹木の枝など）がある場所を走行するとき

●右左折中に、対向車や横断歩行者が自車の前方を通過したとき

●右左折中に、対向車や歩行者の手前を通過しようとしたとき

●右左折中に、対向車や横断歩行者が自車進路に入る手前で停止したとき

知識

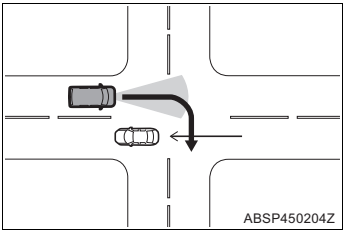
●交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき

●対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき

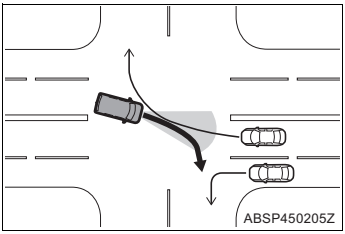
●カーブの入口や道路脇に対象物が存在するとき

●前方の壁に対象物と区別がつきにくい映り込みやペイントがあるとき

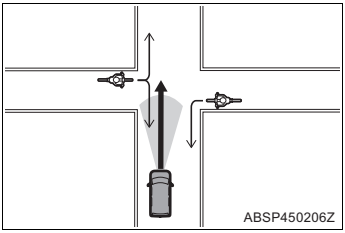
●右左折時に、対向車線に進入する直前に対向車が通過したとき



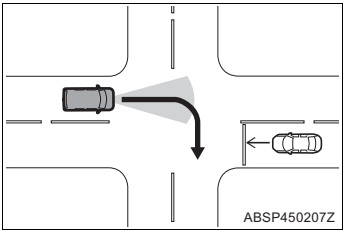
●右左折時に、対向車線に進入する直前に右左折する対向車とすれ違ったとき



●車両※ 歩行者が自車の前に飛び出してくる直前に、向きを変えて合流またはすれ違ったとき



●右左折時に、対向車線に進入する直前に対向車が交差点手前で減速または停止したとき



知識

- 狭い橋、小トンネル、田舎道、ETC　ゲート、狭いガードレール、雪だまり、洗車機など、両脇に壁や障害物がある細い道を走行するとき
- 前方車両※ に接近して走行するときや、前方の壁や前方車両※ の寸前まで接近して停止するとき
- 停止車両※ などの横を至近距離で通過するときや対向車※ が自車に向かって接近するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- ステレオカメラの光軸がずれているとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントなどがある場合
- カーブの入口や交差点にガードレールや看板、木立などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車※ があるとき
- 駐車場のバーや遮断機のバーが上がりきる前のとき
- 下り坂走行中、路面にキャッツアイやマンホール、路面電車のレールなどがあるとき
- バンプや段差を乗り降りしたときに、目の前に標識の影や、路面の継ぎ目などがあった場合
- 複数台の前方車両※ などが重なって見えるような場合
- 上り坂走行中、上方に看板や樹木の枝があるとき
- 縦縞フェンス、タイル壁、縦縞服など、連続する縦模様があるとき
- 前方車両※ の方向指示／非常点滅灯、制動灯が点灯したとき
- 水たまり、ぬれた路面、ボデー鏡面への風景写り込みやランプ反射があるとき
- 外部から光の差し込みがあるとき
- 車両※ と車両※、車両※ と歩行者、歩行者と歩行者、遠方のランプ群など、並進物があるとき
- 進路脇に歩行者、または歩行者と同じような大きさのものが並んでいるとき
- すれ違う歩行者、前方車両※　の二車線変更など、二つのものが交差して入れ替わるとき

知識

●ダンプカー、空荷トラック、スーツケースを持った人など、背面に前後差があるとき

●複雑な形状の車両※ のとき

●風に揺れる旗や木の枝、衣服の揺れがあるとき

※ 二輪車、自転車を含む

■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を停止するには

→ P. 220

■カスタマイズ機能

衝突警報機能の設定を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 451）

（マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］の設定画面から変更可能：→ P. 115）

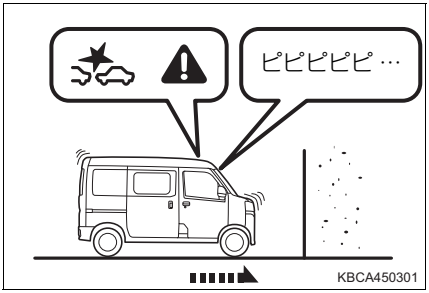
ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）

ブレーキ制御付誤発進抑制機能は、前方、または後方に障害物を認識している場合、停車または徐行（車速約 10km/h 以下）状態で、ペダルの踏み間違いなどにより必要以上にアクセルペダルが踏み込まれたとシステムが判断したときに、ブザーとメーター、ディスプレイの表示（→ P. 222）による運転者への警報と EV システム出力の抑制制御に加え、ブレーキ制御を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

◆ 前方

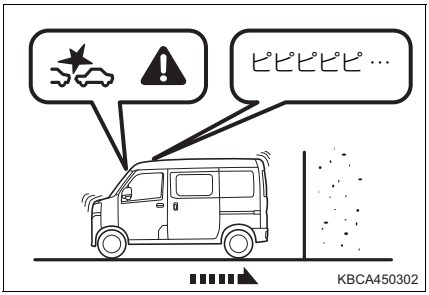
次の場合に作動します。

- ステレオカメラが前方約 4m 以内に障害物を認識している場合
- フロントソナーが前方約 2 ～ 3m 先までの壁などの障害物を認識している場合



◆ 後方

リヤソナーが後方約 2 ～ 3m 先までの壁などの障害物を認識している場合に作動します。



⚠ 警告

■ブレーキ制御付誤発進抑制機能について

- ●ブレーキ制御付誤発進抑制機能を過信しないでください。ブレーキ制御付誤発進抑制機能はあらゆる状況で衝突を回避、または衝突被害を軽減するものではありません。発進時はシフトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。機能に頼っていると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●ブレーキ制御付誤発進抑制機能は停止状態を保つものではありません。機能が作動していても、勾配が急な坂道などではお車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ●ブレーキ制御付誤発進抑制機能は前方、または後方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で作動するものではありません。
- ●故意に対象物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節をブレーキ制御付誤発進抑制機能に頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- ●前方と後方では、認識できる障害物が異なります。
- ●ブレーキ制御付誤発進抑制機能とコーナーセンサーでは作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーのブザーが鳴っていてもブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しなかったり、コーナーセンサーのブザーが鳴っていなくても、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動する場合があります。
- ●万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラ、またはソナーが遮断機を対象物と認識し、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合は、あわてずにアクセルペダルを踏み続けるか、スマートアシストを停止してください。（→ P. 220）
- ●運転者がハンドル操作をしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しない場合があります。
- ●TRC を停止、または VSC・TRC を停止にした場合、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は作動しません。
- ●EV システム出力の抑制制御をしたときに、アクセルペダルを約 8 秒以上踏み続けると、作動を解除します。また、すばやく 3 回以上、全開まで踏み直すと、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は作動しません。
- ●ブレーキ制御が作動すると、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は一定時間作動しません。
- ●シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、ブレーキ制御が作動したときに危険な場合があります。（→ P. 26）

⚠ 警告

■ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が適切に作動しないおそれのある状況

次の条件の違いにより、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動しなかったり、ブレーキ制御が作動しても止まりきれないことがあります。

- ●前方障害物との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- ●車両の状態（積載量・乗員など）
- ●路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- ●運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- ●車両の整備状態（ブレーキ関係・タイヤの摩耗・空気圧・スペアタイヤ装着など）
- ●車両や二輪車などの急な割込み、歩行者の飛び出し
- ●EV システム始動直後
- ●荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- ●前方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- ●勾配が急な坂道を走行しているとき
- ●外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- ●下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- ●水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
  - ・悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
  - ・前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
  - ・フロントウインドーガラスに曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこりなどが付着して覆っているとき
  - ・ステレオカメラの温度が極端に高いとき
  - ・夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき
  - ・屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
  - ・ヘッドランプ照射範囲外に障害物が存在するとき
  - ・雨滴やウインドーウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、障害物の認識が不完全になったとき
  - ・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき

⚠ 警告

- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- 前方車両などの水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
- 障害物が道路標識やポールなどの細い棒状のもの
- 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
- 自車が進路変更して障害物のすぐ後ろに接近したとき
- 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
- ステレオカメラの認識範囲外に障害物が存在するとき
- 障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両、縁石など）
- しゃがんでいる人や横たわっている人などのとき
- 障害物が小さいとき（小動物、幼児など）
- 障害物や前方車両（トレーラーや対向車など）の自車からいちばん近い面および最後面が小さいときや、障害物に接近し過ぎたとき（自車からいちばん近いところではない部分を認識して作動し、効果が十分でないこともあります）
- 障害物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき
- 障害物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
- 自車の前方に車、二輪車、自転車、歩行者などが横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●ソナーが認識できない障害物（特に次のようなもの）

- 背の低い障害物
- 小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物
- 針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物
- 急に前方に現れたもの
- 車両前方を横切るもの
- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
- 地面に対して垂直でない壁、車両前面に対して斜めの壁
- 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
- ソナーの認識範囲外に存在する障害物

●ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）

- バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
- 動いているもの
- スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
- 障害物の面が車両の前方に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき

⚠ 警告

- 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
- 壁から柱や配管などが突き出しているとき
- 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物がある場合
- 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
- 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
- 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・二輪車のエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
- ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリー用品などを取り付けたとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動しない場合

次のような障害物に対しては、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）は作動しません。

●背の低い障害物

●小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物

●針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物

●急に後方に現れたもの

●車両後方を横切るもの

●人や綿、雪など音波を反射しにくいもの

●地面に対して垂直でない壁、車両後面に対して斜めの壁

●凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁

●ソナーの認識範囲外に存在する障害物

■ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が適切に作動しないおそれのある状況

次のような場合は、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動しなかったり、ブレーキ制御が作動しても止まりきれないことがあります。

●運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）

●路面の状態（勾配・凹凸など）

●車両の状態（積載・乗員など）

●悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）

●EV システム始動直後

⚠ 警告

●荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
●後方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
●勾配が急な坂道を走行しているとき
●外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
●下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
●水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
●ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
・バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
・動いているもの
・スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
・障害物の面が車両の後面に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
・障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
・壁から柱や配管などが突き出しているとき
・認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物がある場合
・炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
・雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
・周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・二輪車のエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
・ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリー用品などを取り付けたとき
・ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
・衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ブレーキ制御について

ブレーキ制御作動時は、強いブレーキがかかります。ブレーキ制御は車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、ただちにブレーキペダルに踏み替えてください。

ブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動

■ 警報

車速が約 10km/h 以下で、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 222）で警報し、運転者に衝突回避操作を促します。

●後方で作動したとき、ブザーはリバース警告ブザーよりも早い間隔で鳴ります。（→ P. 222）

■ EV システム出力の抑制制御

車速が約 10km/h 以下で、アクセルペダルがすばやく、かつ必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 222）で運転者に警報するとともに、EV システム出力の抑制制御を行います。

●EV システム出力の抑制制御はアクセルペダルを踏み続けている間、最長約8秒間継続します。

●EV システム出力の抑制制御中は、メーター内のマスターウォーニングが点灯します。

■ ブレーキ制御

EVシステム出力の抑制制御が行われてもそのままアクセルペダルを踏み続け、障害物との衝突が避けられないとシステムが判断したときに、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 222）で運転者に警報するとともに、ブレーキ制御を行います。

●ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。

●停止後、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続したあと、ブレーキ制御を解除します。ただちにブレーキペダルに踏み替えてください。

知識

■ブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- ●READY インジケーター点灯中
- ●スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●ブレーキペダルを踏んでいないとき
- ●車速が 0 ～約 10km/h のとき
- ●方向指示表示灯が消灯しているとき
- ●メーター内の VSC OFF 表示灯・TRC OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●前方の場合は、次の条件をすべて満たしているとき
  - ・シフトポジションが D のとき
  - ・機能停止コード「5E」※1、「6E」、「11E」※2、「12E」、「14E」が表示されていないとき
- ●後方の場合は、次の条件をすべて満たしているとき
  - ・シフトポジションが R のとき
  - ・機能停止コード「12E」、「14E」、「15E」、「16E」が表示されていないとき
- ●フロントワイパーを“高速”で作動させていないとき※3

※1 機能停止コード「5E」のみが表示されているときは、ステレオカメラの認識によるブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）は作動します。

※2 機能停止コード「11E」のみが表示されているときは、「スマアシ停止」が表示されていても、ソナーの認識によるブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）は作動します。

※3 フロントワイパーを“高速”で作動させていても、ステレオカメラの認識によるブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）は作動します。

■ブレーキ制御について

- ●ブレーキ制御中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
- ●ブレーキ制御中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

■衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動することがあります。

- ●前方車両に接近して走行するときや、前方障害物の寸前まで接近して停止するとき
- ●路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ●水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき

知識

- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントや段差、縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- カーブの入口にガードレールや看板などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車があるとき
- カーブや交差点に障害物があるとき
- 縦列駐車から本線に合流するとき
- 駐車場ゲートや遮断機のバーが上がりきる前のとき
- キャリアカーに積載するとき
- 河川敷や生い茂った草むらや木立の中を走行するとき
- 縦列駐車をするとき
- 前方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）
- 他車のホーン・二輪車のエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にあるとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- 排水溝などの金属のふた（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

知識

■衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動することがあります。

- ●障害物の寸前まで接近して停止するとき
- ●路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ●ビニールカーテン・旗などをもぐって通過するとき
- ●水しぶき・雪などの巻上げがあったとき
- ●障害物の横を至近距離で通過するとき
- ●車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- ●縦列駐車をするとき
- ●後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- ●車両側面の近くに障害物があるとき
- ●路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- ●狭いスペースに進入するとき
- ●立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき
- ●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ●悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）
- ●他車のホーン・二輪車のエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にあるとき
- ●ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- ●車両姿勢が大きく傾いたとき
- ●積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- ●衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- ●雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- ●排水溝などの金属のふた（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

■ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）を停止するには

→ P. 220

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能は、フロントウインドーガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白（黄）線を認識し、車速が約 60km/h 以上で、運転者が意図せず車線または道路※ から逸脱する可能性があるとシステムが判断したときに作動します。

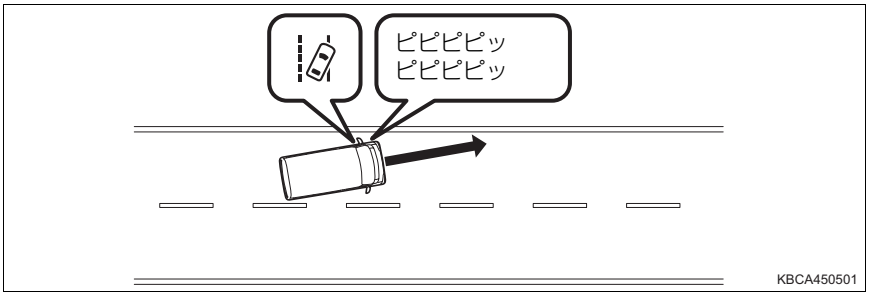
車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能は車線または道路※ を認識し、ブザーとメーター内の表示灯、またはディスプレイの表示（→ P. 222）で運転者に注意を促します。

車線逸脱抑制機能は、フロントウインドーガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白（黄）線を認識し、車速が約 60km/h 以上で、運転者が意図せず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したときに作動します。

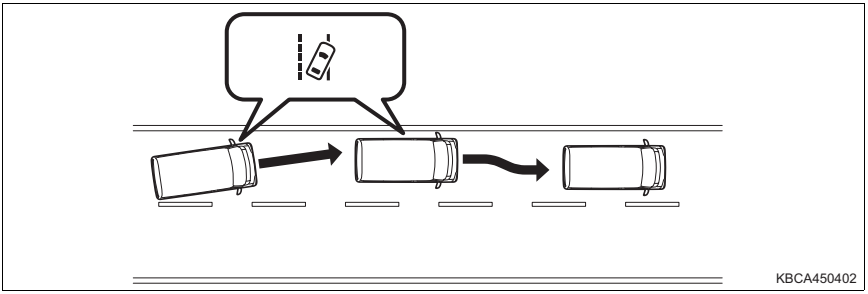
車線逸脱抑制機能は車線を認識し、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援し、メーター内の表示灯、またはディスプレイの表示（→ P. 222）で運転者に注意を促します。

※ アスファルトと草・土などの境界

▶車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能



▶車線逸脱抑制機能



⚠ 警告

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制機能について

- ●車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制機能は、車線・道路※の逸脱を防止するものではありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制機能に頼っていると、車線・道路※の逸脱による事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制機能が作動した場合は、周囲の状況に応じてハンドル操作を行うなどの適切な操作をしてください。
- ●車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制機能は路肩や側溝などの道路の端を認識して作動する機能ではありません。

※ アスファルトと草・土などの境界

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能について

車線または道路※ がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動しない場合があります。

※ アスファルトと草・土などの境界

■車線逸脱抑制機能について

車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったり、制御タイミングが運転者の意思と異なるように感じる可能性があります。

⚠ 警告

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制機能が作動しない場合

次のような条件では、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制機能が作動しない場合があります。

- ●車線内を走行していないとき
- ●カーブ内側にはみ出して走行してしまっているとき
- ●車線／道路の幅が狭いときや広いとき
- ●方向指示レバーを使用しているとき
- ●急なハンドル操作などにより、運転者に回避の意思があるとシステムが判断したとき
- ●ハンドルに異常な振動を感じるとき、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき
- ●ハンドルをスズキ純正品以外に交換、またはハンドルにアクセサリーを取り付けているとき

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制機能が適切に作動しない、または不適切に作動するおそれのある状況

次の条件では白（黄）線または道路※ を正確に認識できず、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制機能が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

- ●白（黄）線と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- ●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）により白（黄）線が見えにくいとき
- ●路面に雪が残っていたり湿っているとき
- ●前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- ●トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ●雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- ●木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- ●夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき

⚠ 警告

●道路の状態（特に次のような場合）
- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白（黄）線のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白（黄）線のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線／道路の幅が狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白（黄）線の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
- 坂道や丘の頂上に近付いているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石･ガードレール･パイロンなど）を白（黄）線と認識したとき
- 道路がうねって車線が歪んで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線や区画線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- ぬれた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 急なカーブのある道路を走行するとき
- カーブの形状が変化するとき
- 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、車線以外の線が路面に描かれているとき

●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
- フロントウインドーガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
- フロントウインドーガラス内側が曇っているとき
- フロントウインドーウォッシャーの使用中、または使用後などで、フロントウインドーガラスが十分にふき取れていないとき
- 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- 自車が白（黄）線に対してまっすぐに走行していないとき
- ステレオカメラが高温になったとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき

⚠ 警告

- ●アスファルトと草・土などの境界が不明瞭または直線的でないとき
- ●照り返しなどにより明るくなった場所を走行しているとき
- ●横風を受けているとき
- ●周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- ●車線変更をした直後
- ●冬用タイヤなどを装着しているとき
- ●過度な高速走行をしているとき
- ●隣車線から車が割り込んできたとき
- ●路肩に縁石や側壁があるとき
- ●先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土ぼこり、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
- ●白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき
- ●夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- ●区画線に急に接近する場合
- ●雪景色など、周囲一面が同じような色合いのとき

※ アスファルトと草・土などの境界

知識

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- ●パワースイッチが“ON”のとき
- ●車速が約 60km/h 以上のとき
- ●車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●「スマアシ停止」が表示されていないとき
- ●方向指示表示灯が消灯しているとき（方向指示表示灯が消灯してから約 4 秒間は作動しません）
- ●急なハンドル操作をしていないとき
- ●直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ●システムが左右いずれかの白（黄）線または道路※ を認識しているとき
- ●走行している車線の幅が約 3m ～ 4m のとき

※ アスファルトと草・土などの境界

■車線逸脱抑制機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- ●パワースイッチが“ON”のとき
- ●車速が約 60km/h 以上のとき
- ●ABS、VSC、TRC が作動していないとき
- ●衝突回避支援ブレーキ機能（対車両、対歩行者 [昼夜]、対自転車）が作動していないとき
- ●ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動していないとき
- ●車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●VSC OFF 表示灯、TRC OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●「スマアシ停止」が表示されていないとき
- ●逸脱側の方向指示表示灯が消灯しているとき（方向指示表示灯が消灯してから約 1 秒間は作動しません）
- ●マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］の設定（→ P. 121）で「車線逸脱抑制」を ON にしているとき
- ●ブレーキペダルを踏んでいないとき
- ●一定以上の加減速がないとき
- ●シフトポジションが D のとき
- ●急なハンドル操作をしていないとき
- ●直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ●システムが左右の白（黄）線を認識しているとき

知識

●走行している車線の幅が約 3m ～ 4m のとき

■機能の一時解除

作動条件（→ P. 257）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱抑制機能について

●車線逸脱抑制機能は、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能にくらべて早いタイミングで作動します。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時にくらべて早いタイミングで作動します。

●車線逸脱抑制機能によるハンドル操作支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

●車線逸脱抑制機能が約 7 秒以上続けて作動したときは、ブザーが鳴ります。

■手放し運転に対する注意喚起について

手放し運転をしているとシステムが判断しているときに、車線逸脱抑制機能が約 3 分の間に 2 回以上作動したときは、手放し運転警告灯が点灯し、ハンドル保持を促す注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］にメッセージが表示されます。

●さらに操作しない状態が続きハンドル操作支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操作支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

●運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制機能を停止するには

→ P. 220

■カスタマイズ機能

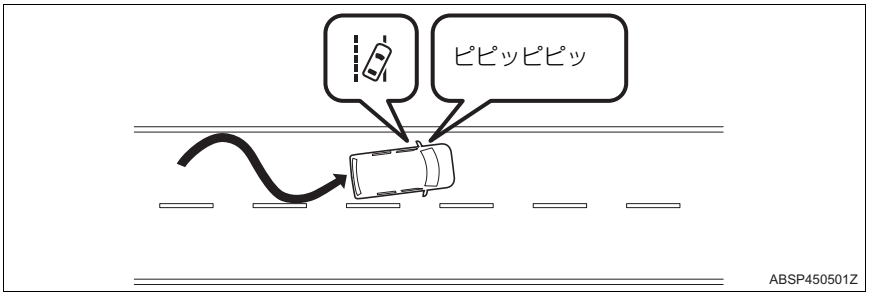
車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制機能の設定を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 451）

（マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］の設定画面から変更可能：→ P. 115）

ふらつき警報機能

ふらつき警報機能は、フロントウインドーガラス上部に設置されたステレオカメラによって白（黄）線を認識し、長時間走行中、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したときに、ブザーとメーター内の表示灯、またはディスプレイ表示（→ P. 222）で運転者に注意を促します。



⚠ 警告

■ふらつき警報機能について

ふらつき警報機能を過信しないでください。ふらつき警報機能はあらゆる状況で機能を発揮できるものでありません。また、運転者に注意を促す機能であり、ふらつきを自動的に回避するものではありません。走行中は常に安全運転に努めてください。

知識

■ふらつき警報機能の作動条件

次のような条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- パワースイッチが“ON”のとき
- 車速が約 60km/h 以上のとき
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯しているとき
- カスタマイズ機能の設定で「ふらつき警報」を ON にしているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 方向指示表示灯が消灯しているとき（方向指示表示灯が消灯してから約 5 秒間は作動しません）
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- システムが白（黄）線を認識しているとき
- 走行している車線の幅が約 3 ～ 4m のとき

知識

●車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動していないとき

■機能の一時解除

作動条件（→ P. 259）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、再度作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ふらつき警報機能について

●車線がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は、ふらつき警報機能が作動しない場合があります。

●ふらつき警報機能は、運転者の操作と車両の動きから総合的にふらつきを判断しています。

■ふらつき警報機能が適切に作動しない、または不適切に作動するおそれのある状況

次の条件では白（黄）線を正確に認識できず、ふらつき警報機能が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

●白（黄）線と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき

●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）により白（黄）線が見えにくいとき

●路面に雪が残っていたり湿っているとき

●前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき

●トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき

●雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき

●木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき

●夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき

●道路の状態（特に次のような場合）

- 車線の幅が狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 急なカーブのある道路を走行するとき
- 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき

知識

●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）

- フロントウインドーガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
- フロントウインドーガラス内側が曇っているとき
- フロントウインドーウォッシャーの使用中、または使用後などで、フロントウインドーガラスが十分にふき取れていないとき
- 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき

●照り返しなどにより明るくなった場所を走行しているとき

●車線変更をした直後

●過度な高速走行をしているとき

●先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土ぼこり、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき

●白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき

●夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき

■ふらつき警報機能を停止するには

→ P. 220

■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。

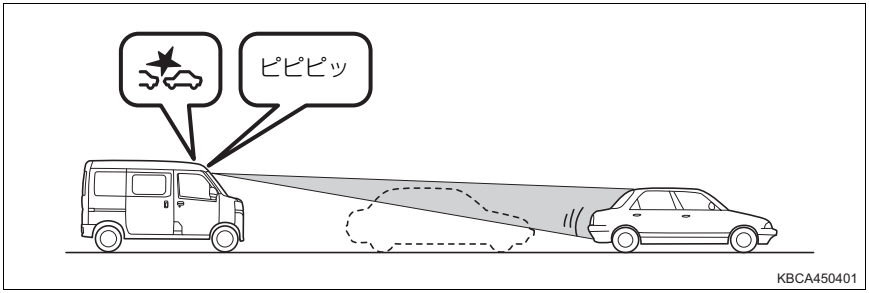
（カスタマイズ機能一覧：→ P. 451）

（マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］の設定画面から変更可能：→ P. 115）

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 222）で運転者にお知らせします。

先行車に続いて停車中（車間距離が約 10m 以内、かつ自車がしばらく停車中）、先行車が発進して約 3m 以上進んでも自車が発進しないときに作動します。



⚠ 警告

■先行車発進お知らせ機能について

安全に発進できる状態を知らせたり、あらゆる状況での先行車の発進を知らせたりするものではありません。先行車発進お知らせ機能に頼らず、十分に安全を確認して運転してください。

知識

■先行車発進お知らせ機能の作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- パワースイッチが “ON” のとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- シフトポジションがDでブレーキペダルを踏んでいる、またはシフトポジションが N のとき
- 停止してから数秒経過したとき

知識

■先行車発進お知らせ機能が正常に作動しない場合

次のような場合は、先行車が発進していなくても機能が働いてしまう場合や、発進していても作動が遅れたり、機能が働かない場合があります。

- ●停止した先行車との間に二輪車などが割り込んできたとき
- ●停止した先行車との間を歩行者などが通過した場合
- ●天候や道路形状などにより先行車を認識できないとき
- ●ステレオカメラが先行車を見失ったとき
- ●横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- ●自車が停止したときに先行車が動いている場合
- ●先行車との距離が極端に短いとき
- ●先行車が急発進や急旋回した場合
- ●先行車が特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）の場合
- ●先行車が二輪車・自転車などのとき
- ●先行車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- ●車両背面のガラスが大きく、前が見えてしまうような先行車のとき
- ●荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが先行車のとき
- ●後端から積荷が飛び出している先行車のとき
- ●車高の低い先行車のとき
- ●車両が斜め、または横向きに停まっているとき
- ●ハンドルを大きく切った状態で停止しているとき
- ●凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
- ●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
  - ・フロントウインドーガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
  - ・ガラスコーティング剤を使用したとき
  - ・フロントウインドーガラスにフィルムを貼ったとき
  - ・フロントウインドーガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
  - ・フロントウインドーウォッシャーの使用中または使用後で、フロントウインドーガラスが十分にふき取れていないとき
  - ・フロントウインドーガラスに傷、ひびなどが生じたとき
  - ・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
  - ・スズキ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）

知識

- 雨滴やウインドーウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、対象物の認識が不完全になったとき
- ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
- ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車両※、歩行者に接近するとき
- トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ステレオカメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているとき
- 強い光が車両※ や歩行者、路面に反射しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道のとき
- 路面に水たまりや水膜があるとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 重い荷物を積むなど、前方車両※ が傾いているとき
- 先行車が背景にまぎれて、ステレオカメラが認識できないとき
- 暗がりで先行車のランプが片側のみ点灯しているときや、ランプが無灯火のとき

※ 二輪車、自転車を含む

■先行車発進お知らせ機能を停止するには

→ P. 220

■カスタマイズ機能

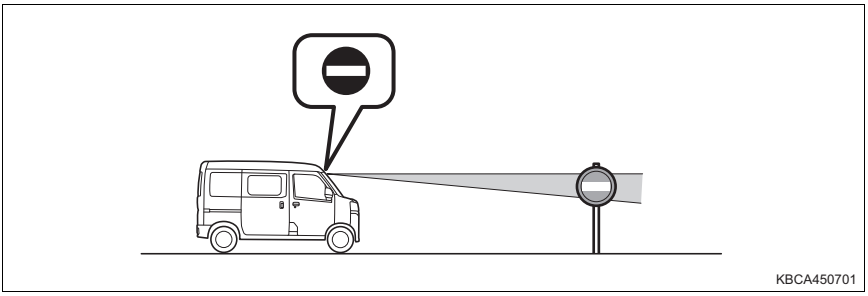
ブザーの音量、ブザーが鳴るタイミングの設定を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 451）

（マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］の設定画面から変更可能：→ P. 115）

標識認識機能 [車両進入禁止、最高速度、一時停止]

標識認識機能 [車両進入禁止、最高速度、一時停止] は、フロントウインドーガラス上部に設置されたステレオカメラによって特定の道路標識を認識し、ディスプレイに表示して道路標識の情報を運転者にお知らせします。状況によっては、道路標識の表示が正常に作動しない場合があります。



⚠ 警告

■標識認識機能 [車両進入禁止、最高速度、一時停止] をお使いになる前に

標識認識機能 [車両進入禁止、最高速度、一時停止] は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者ご自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。標識認識機能 [車両進入禁止、最高速度、一時停止] に頼らず、常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。

50：最高速度

：車両進入禁止

止まれ：一時停止

知識

■標識認識機能 [車両進入禁止、最高速度、一時停止] の作動条件

次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

●パワースイッチが “ON” のとき

●スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき

●マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］の設定（→ P. 121）で、「標識認識機能」を「ON」にしているとき

●「スマアシ停止」が表示されていないとき

●車速が次のとき

- 車両進入禁止、一時停止：約 60km/h 以下
- 最高速度：0km/h 以上

●シフトポジションが D のとき

■標識認識機能 [車両進入禁止、最高速度、一時停止] の作動終了

次の状況になってから一定の時間が経過したときは、標識の表示が消えます。

▶最高速度

●一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき

●右左折などにより走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

●補助標識（終わり）を認識したとき

●シフトポジションを D 以外にしたとき

▶車両進入禁止

●車両進入禁止標識を通過したとき

●シフトポジションを D 以外にしたとき

●方向指示レバーを操作したとき

▶一時停止

●一時停止標識を通過したとき

●シフトポジションを D 以外にしたとき

知識

■標識認識機能 [車両進入禁止、最高速度、一時停止] が正常に作動しないおそれのある状況

次の条件では標識を正確に認識できず、標識認識機能 [車両進入禁止、最高速度、一時停止] が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

- ●最高速度標識の速度と車速が大きく離れているとき
- ●標識の手前で減速したときや、右左折前、右左折後
- ●標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- ●認識対象の標識の色、形、数字に似たものが周辺にある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など）
- ●補助標識が設置されている場合
- ●電光標識に数字が表示されていない場合
- ●ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- ●ステレオカメラが認識しにくい状況（特に次のような場合）
  - ・ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
  - ・ステレオカメラが標識を認識する時間が短いとき
  - ・フロントウインドーガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面またはステレオカメラ付近が覆われているとき
  - ・フロントウインドーウォッシャーの使用中または使用後で、フロントウインドーガラスが十分にふき取れていないとき
  - ・スズキ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
  - ・悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）
  - ・夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に標識に接近するとき
  - ・屋内の駐車場など暗い場所で標識に接近するとき
  - ・トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
  - ・前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
  - ・強い光が路面に反射しているとき
  - ・水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
  - ・排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
  - ・前方車両の後ろ部分にステッカーが貼ってあるとき
  - ・荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
  - ・周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）

知識

●標識の状態（特に次のような場合）
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 標識の向きが変わっているとき
- 標識が破損しているとき
- 標識のまわりが込み入って見つけにくいとき
- 標識が泥、雪、または霜などで覆われたとき
- 標識の上や下に、規制や条件などを示す補助標識が設置されているとき
- 標識が街灯などの光や建物の影などで見えにくくなっているとき
- 標識が高い位置にあるとき
- 標識が低い位置にあるとき
- 標識が急な上り坂、急な下り坂にあるとき
- 標識が曲がり角やカーブの先にあるとき
- 夜間で標識に自車のヘッドランプの光が届きにくい位置にあるとき
- 標識が自車から遠く離れた位置にあるとき
- 小さいサイズの標識のとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 電光標識が極端に明るい、または暗いとき
- 側道の標識がステレオカメラの認識範囲内に入ったとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

●運転の状況（曲がる・車線変更など）が誤って判断されたとき

●ヘッドランプの汚れなどで照射が弱いときや光軸がずれているとき

■カスタマイズ機能

標識認識機能 [車両進入禁止、最高速度、一時停止] の設定を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 451）

（マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］の設定画面から変更可能：→ P. 115）

コーナーセンサー

コーナーセンサーは車速が約 10km/h 以下のときに、車両と障害物とのおおよその距離をソナーによって認識してブザーとディスプレイの表示で運転者にお知らせする装置です。

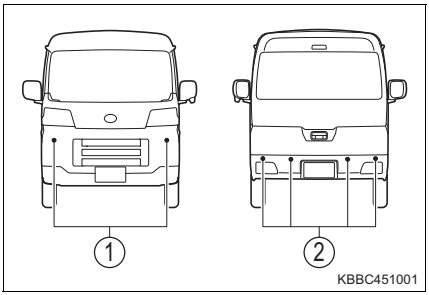
ソナーの位置・種類

① フロントソナー

フロントコーナーセンサーで必要な情報を認識します。

② リヤソナー

リヤコーナーセンサーで必要な情報を認識します。

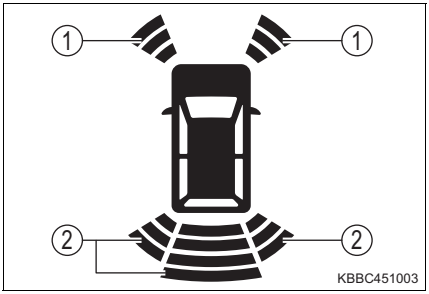


コーナーセンサーの表示のしかた

障害物を認識すると自動的に表示されます。

① フロントコーナーセンサー作動表示

② リヤコーナーセンサー作動表示



距離表示の見方

作動条件をすべて満たした状態で、障害物を認識すると、ブザーとディスプレイの表示で運転者にお知らせします。

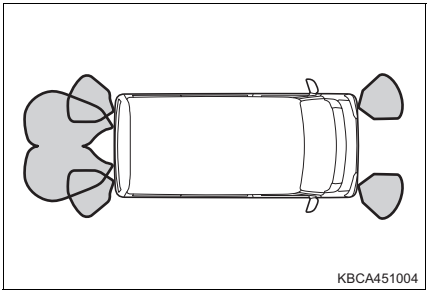
●障害物との距離が短くなると、ブザーおよびディスプレイの表示が次の表の通り変化します。

ブザー	ディスプレイの表示	ソナーと障害物との距離
ピッ…ピッ…ピッ…（断続音）		約 150 ～ 60cm
ピッピッピッ…（断続音）		約 60 ～ 45cm
ピピピ…（断続音）		約 45 ～ 30cm
ピー（連続音）		約 30cm 以内

●ソナーが複数の障害物を同時に認識しているときは、もっとも近い障害物との距離のブザーが鳴ります。

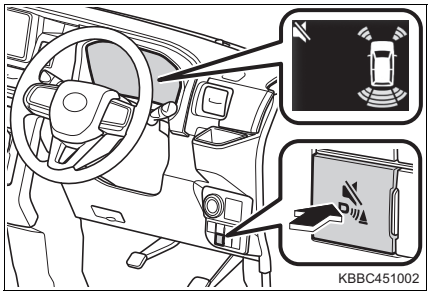
ソナーが障害物を認識できる範囲

認識できる範囲は右図の通りです。
ただし、障害物がソナーに近付き過ぎると認識できません。
障害物の形状・条件によっては認識できる距離が短くなることや、認識できないことがあります。



ブザーについて

コーナーセンサー作動中にコーナーセンサーブザー OFF スイッチを押すと、ブザーが止まります。このときブザー OFF を示すアイコンが表示されます。



知識

■作動条件

●フロントコーナーセンサー：
- パワースイッチが“ON”のとき
- シフトポジションが P 以外で、車両の速度が約 10km/h 以下のとき

●リヤコーナーセンサー：
- パワースイッチが“ON”のとき
- シフトポジションが R のとき

●作動条件をすべて満たした状態で、障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。

■ブザーについて

コーナーセンサーブザー OFF スイッチでブザーを止めたあと、次の操作をすると再度ブザーが鳴るようになります。

●コーナーセンサーブザー OFF スイッチを押す

●シフトポジションを切り替える

●一定以上の車速で走行する

●一度パワースイッチを“OFF”にしてから“ON”にする

■ソナーの認識について

●ソナーの認識範囲は車両前部、および後部のバンパーのソナー周辺に限られます。

●障害物を認識してから、コーナーセンサーが作動するまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でもブザーが鳴る前に、障害物に近付き過ぎると、ブザーが鳴らない場合があります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーが聞き取りづらくなる場合があります。

知識

■ブザーが「ピピピ、ピピピ、ピピピ」と鳴り、コーナーセンサーの作動表示が後方1か所表示されるか、前方2か所または後方2か所同時に表示されたときは※

- ●コーナーセンサーの機能が低下しています。
  コーナーセンサーの機能が一時停止しますので、雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないか確認し、取り除いて正常復帰させてください。
- ●マスターウォーニングが同時に点灯したときは、システムに異常があるおそれがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
- ●状態により「ソナーセンサー機能低下」、「ソナーセンサー故障」の警告メッセージが表示されます。

※ 前方2か所および後方1か所、前方2か所および後方2か所、後方3か所、または5か所同時に表示されたときも含みます。

■コーナーセンサーについて

次のような場合は、障害物が作動範囲になくても作動することがあります。

- ●路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ●ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- ●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- ●障害物の横を至近距離で通過するとき
- ●車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- ●付近に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- ●車両側面の近くに障害物があるとき
- ●路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- ●狭いスペースに進入するとき
- ●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- ●他車のホーン、二輪車のエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にあるとき
- ●ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- ●車両姿勢が大きく傾いたとき
- ●積載状況などにより車高が著しく変化したとき
- ●衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- ●雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき

■カスタマイズ機能

ブザーの音量を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 451）
（マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］の設定画面から変更可能：→ P. 115）

⚠ 警告

■コーナーセンサーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車両の速度が約 10km/h を超えないようにしてください。

●ソナーの認識範囲、作動速度には限界があります。お車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）ソナーの認識範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。

●ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

●「ソナーセンサー機能低下」の警告メッセージが表示された場合、ソナーの状態を確認してください。雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないのに警告メッセージが表示されている場合は、コーナーセンサーの異常が考えられますのでスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

■コーナーセンサーについて

次のとき、コーナーセンサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●路面の状態（勾配、凹凸など）

●車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤ装着など）

●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）

●荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化したとき

●障害物との距離や向き、位置（車両中央付近に障害物がある）

●勾配が急な坂道を走行しているとき

●ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）

- ソナーに非常に近い障害物のとき（障害物に接近し過ぎると、ブザーが連続音から断続音になる場合があります）
- 地面から高い位置に存在する障害物のとき
- 背の低い障害物のとき
- 小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物のとき
- 動いているもの（急に現れたり、車両を横切るものなど）
- スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物のとき
- 障害物の面が車両に対して斜めのとき
- 地面に対して垂直でない壁のとき
- 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁のとき

⚠ 警告

- 針金、金網、ロープ、道路標識、電柱やポールなどの細い障害物のとき
- 壁から柱や配管などが突き出しているとき
- 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物があるとき
- ソナーの認識範囲外に存在する障害物のとき
- 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温のとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
- 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、二輪車のエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■コーナーセンサーとブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動について

●コーナーセンサーとブレーキ制御付誤発進抑制機能では作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーが作動していてもブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しなかったり、コーナーセンサーが作動していなくても、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動する場合があります。

⚠ 注意

■コーナーセンサーの異常について

次のとき、ソナーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

●障害物を認識していない状態で、コーナーセンサーが作動したとき

●ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えたとき

●事故などでソナー周辺が変形したとき

●スマートアシストに異常があるとき、または「スマアシ停止」が表示されているとき（→ P. 400, 421）

■洗車時の注意

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付け過ぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

バックアイカメラ★

バックアイカメラは車両を後退させるとき、デジタルルームミラー★の画面上に車両後方の映像を表示させることで、駐車時などの運転を補助する装置です。

本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

バックアイカメラの画面表示について

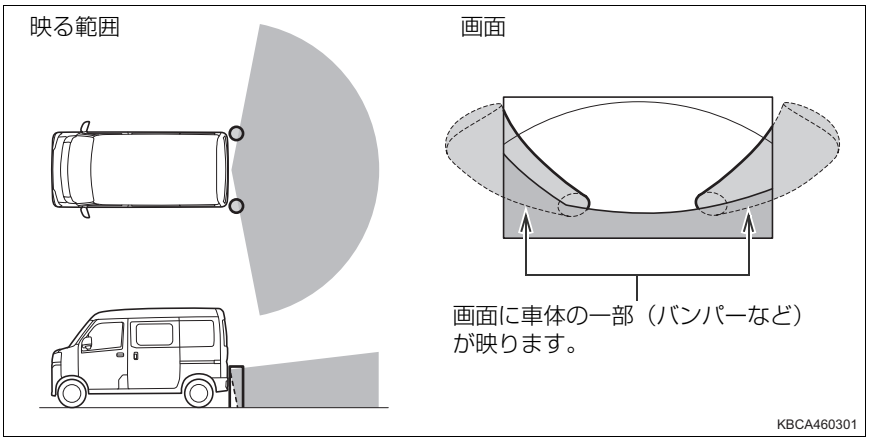
パワースイッチが“ON”のときに、シフトポジションを R にすると、デジタルルームミラー★の画面に車両後方の映像を表示します。

シフトポジションを R 以外にすると、もとの画面に戻ります。

バックアイカメラの映像は、どの画面表示よりも優先して表示されます。

バックアイカメラの注意点について

■ 画面の映る範囲について



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。

●バックアイカメラの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。

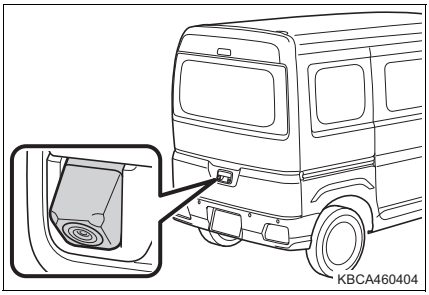
●バックアイカメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。

●後方の映像は実際の色合いと異なる場合があります。

●バックアイカメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。

■ **カメラについて**

バックアイカメラは次の位置にあります。



●カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、水でカメラの汚れを流し、水で湿らせたやわらかい布でふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。

知識

●次のようなときは、画面が見づらくなることがありますが、異常ではありません。

- 暗いところ（夜間など）
- レンズ付近の温度が高い、または低いとき
- バックアイカメラに水滴がついたときや、湿度が高いとき（雨天時など）
- バックアイカメラ付近に異物（泥など）がついたとき
- 太陽やヘッドランプの光が直接バックアイカメラのレンズに当たったとき

⚠ 警告

■バックアイカメラについて

次のことをお守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●バックアイカメラを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物、人などに接触しないようにしてください。

●後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。

●画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。

画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て、後退することは絶対にしないでください。お車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やルームミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。

●次のような状況では、使用しないでください。

- 凍結したり、滑りやすい路面、または雪道
- タイヤチェーン、スペアタイヤを使用しているとき
- バックドアが完全に閉まっていないとき
- 坂道など平坦でない路面

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

⚠ 注意

■カメラの取り扱いについて

●バックアイカメラが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

- カメラ周辺にはカメラの視野に影響をおよぼすもの（視野をさえぎるもの、光を発するもの、光沢素材でできているものなど）は取り付けないでください。
- カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけたりして、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
- カメラ部は防水構造となっていますので、取り外し・分解・改造をしないでください。
- カメラレンズを洗うときは、水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でふき取ってください。

  カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
- カメラのカバーは樹脂でできていますので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
- 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、カメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロック防止に貢献し、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC※

急なハンドル操作や滑りやすい路面で旋回するときに横滑りを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC※

滑りやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力の確保に貢献します。

◆ ヒルホールドコントロール

上り坂で発進するときにお車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ スマートアシスト

→ P. 216

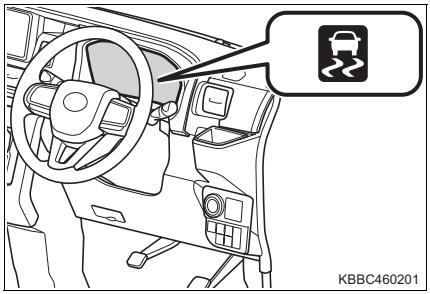
◆ エマージェンシーストップシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意を促し、追突される可能性を低減させます。

※ “VSC”、“TRC” はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

VSC・TRC が作動しているとき

VSC・TRC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。


KBBC460201

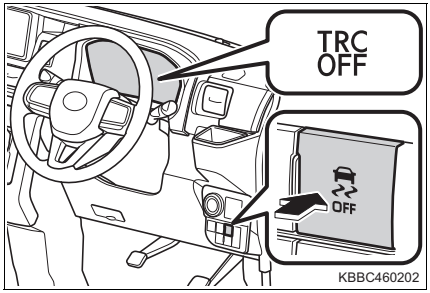
TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでも EV システムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに OFF を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

再度 OFF を押すと、システム作動可能状態に戻ります。



KBBC460202

知識

■VSC と TRC を停止するには

VSCとTRCを停止するには、停車時に  を3秒以上長押ししてください。

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

再度  を押すと、システム作動可能状態に戻ります。

■  を押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC およびヒルホールドコントロールが作動できない状態になっています。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

■ABS・VSC の作動について

ABS・VSC は、低速では作動しません。通常のブレーキと同じ作動になります。

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルホールドコントロールの作動音と振動

- EV システム始動時や発進直後、ブレーキペダルを繰り返し踏んだときに、点検口内（→ P. 341）から作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - 車体やハンドルに振動を感じる
  - 車両停止後もモーター音が聞こえる
  - ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
  - ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■VSC や TRC の自動復帰について

VSC や TRC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態に戻ります。

- パワースイッチを“OFF”にしたとき
- （TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき

  ただし、VSC と TRC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

知識

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを回し続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、EV システムを停止してください。10 分程度でもとの状態に戻ります。

■ヒルホールドコントロールの作動条件

次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。

- シフトポジションが P または、N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルホールドコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトポジションを P または、N にした
- アクセルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■スリップ表示灯が点灯したとき

システムに異常があるおそれがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店に連絡してください。

■エマージェンシーストップシグナルの作動条件

次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 60km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された、または ABS が作動した

■エマージェンシーストップシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離した
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された
- ABS が作動停止した

⚠ 警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面や滑りやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離を取ってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差を越えたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■VSC や TRC の効果を発揮できないとき

タイヤチェーンを装着したときなどには VSC や TRC が正確に機能しないおそれがあります。

■TRC の効果を発揮できないとき

滑りやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルホールドコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルホールドコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルホールドコントロールが効かないことがあります。

●ヒルホールドコントロールはパーキングブレーキのようにお車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●停車するときのブレーキペダルの踏みかたが不十分であったり、乗車人数、荷物の重さによっては、ヒルホールドコントロールが作動しない場合があります。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC・TRC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ABS 警告灯、またはスリップ表示灯が点灯しているときは

エマージェンシーストップシグナル（→ P. 279）が作動しないことがあります。

⚠ 警告

■VSC や TRC を OFF にするとき

VSC や TRC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は VSC・TRC を作動停止状態にしないでください。VSC や TRC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、指定された空気圧にしてください。（→ P. 450）

異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC・TRC が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える準備

●次のものはそれぞれ外気温に適したものを使用してください。

- 冷却水
- ウォッシャー液

●補機バッテリーの点検を受けてください。

●冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後輪用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも同一サイズ、同一銘柄で著しい摩耗差のないものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。

（タイヤについて：→ P. 351）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

●ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

●フロントウインドーガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

●外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

●お車の下まわりをのぞいて、足まわりなどに氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうかも確認してください。

●乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

●ゆっくりスタートし、車間距離を十分に取って控えめな速度で走行してください。

●積雪、寒冷時ではブレーキ装置に付着した水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

●雪道走行時、タイヤハウス裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき異常のないことを確認してください。ランプ類などは、走行中に雪のために暗くなることがあるので、ときどき異常のないことを確認してください。

駐車するとき

●パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションを P にして駐車し、必ず輪止め※ をしてください。
輪止めをしないと、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトポジションを P にした状態でシフトポジションが動かないことを確認してください。

※輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取り外し・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●後 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

●取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

⚠ 警告

■ブレーキが凍結したとき

万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- ●指定サイズのタイヤを使用する
- ●同一メーカー·同一銘柄·同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用する
- ●摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しない
- ●空気圧を指定値に調整する
- ●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない
- ●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全にお車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●装着したタイヤチェーンに定められた制限速度、または 30km/h のどちらか低いほうを超える速度で走行しない
- ●路面の凹凸や穴を避ける
- ●急加速、急ハンドル、急ブレーキは避ける
- ●カーブの入り口手前で十分減速して、お車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■タイヤチェーンの使用について

●スズキ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

スズキ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体に当たり、走行の妨げとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

●タイヤチェーン装着時は、次のシステムが正確に作動しない場合があります。

- VSC
- TRC

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

■ドアやワイパー、ガラスが凍結したとき

●ぬるま湯をかけるなどして氷を解かしてください。

熱湯をかけると部品が破損したり、変形するなどのおそれがあります。

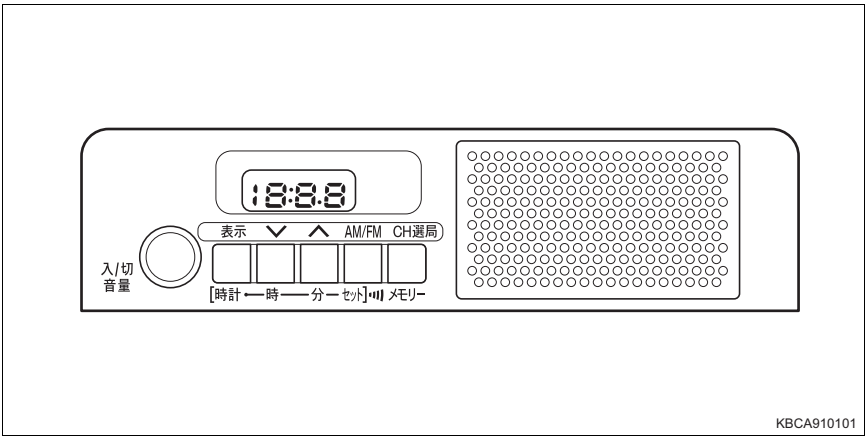
●凍結したまま、または雪が固まったままワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどを無理に作動させると、ワイパーゴムを損傷したり、モーターなどが故障するおそれがあります。

オーディオ 6

6-1. オーディオの基本操作
オーディオの種類 …… 290
ラジオの使い方 …… 291
アンテナ …… 294

オーディオの種類★

AM ／ FM ラジオ



知識

■携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえることがあります。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

EV システム停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■オーディオの取り扱いについて

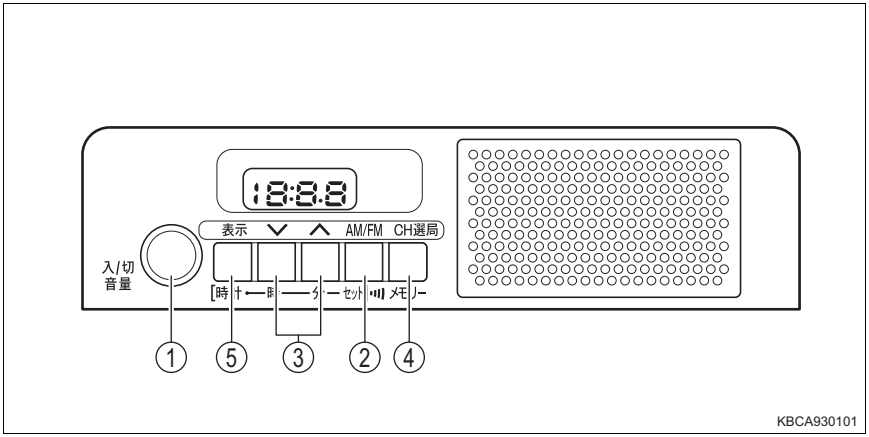
オーディオに飲みものなどをこぼさないように注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ラジオの使い方★

ラジオを聞くためにパワースイッチを“ON”または“ACC”にしてください。

前回、パワースイッチを“OFF”にしたときにラジオの電源が入っていた場合は、自動的に電源が入ります。



① 電源の ON ／ OFF：押す
音量調節：回す

② AM ／ FM 切り替え※

③ 周波数の検索※
自動検索するときは、“ピッ”と音がするまで押し続ける。
再度押すと解除されます。

④ 選局／放送局の自動設定

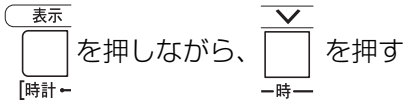
⑤ 周波数の表示※

※時計調整スイッチ

時計表示

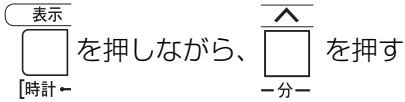
時計調整スイッチを押して時刻を調整することができます。

■ “時” を調整する



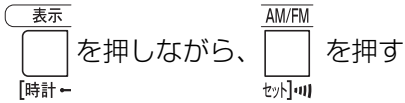
を押しながら、 を押す

■ “分” を調整する



を押しながら、 を押す

■ “分” を “:00” にする



を押しながら、 を押す

（例）1:00 ～ 1:29 → 1:00
　　1:30 ～ 1:59 → 2:00

放送局を記憶させる

1 CH選局 メモリー を押して記憶させるチャンネルを選択する

2 お好みの放送局を探す

▶手動で探すには

（高い周波数）、または （低い周波数）を押す

3 CH選局 メモリー を “ピッ” と音がするまで押し続け、周波数を記憶させる

AM ／ FM 各 6 局まで周波数を記憶させることができます。

選局する

CH選局



メモリー

を押すごとに、次のようにチャンネルが切り替わり、ディスプレイ部に表示されます。

▶AM 放送受信中

A01 → A02 → A03 → A04 → A05 → A06

▶FM 放送受信中

F01 → F02 → F03 → F04 → F05 → F06

交通情報に切り替えるには

AM ／ FM ボタンを“ピッ”と音がするまで押し続けると交通情報に切り替わります。再度ボタンを押すと、解除されます。

知識

■補機バッテリーとの接続が断たれたときは

時計の設定や記憶された放送局が消去され、初期設定の状態に戻ることがあります。

■受信感度について

お車の向きにより、アンテナの向きも変わるため、電波の強さが変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合があります。

■交通情報について

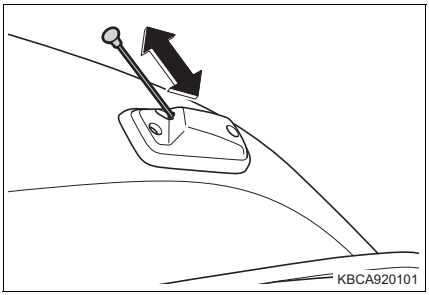
- ●受信できる周波数は 1620kHz のみです。他の周波数の交通情報放送局をこのボタンで受信することはできません。
- ●交通情報が行われていない地域では受信できません。

■アンテナについて

→ P. 294

アンテナ

ラジオ受信時は、いっぱいまで引き出して使用してください。



⚠ 注意

■ **アンテナの取り扱いについて**

アンテナを取り扱うときは、無理な力をかけないでください。ボデーの変形やアンテナの破損などにつながるおそれがあります。

■ **アンテナの損傷を防ぐために**

●次のようなときはアンテナを格納してください

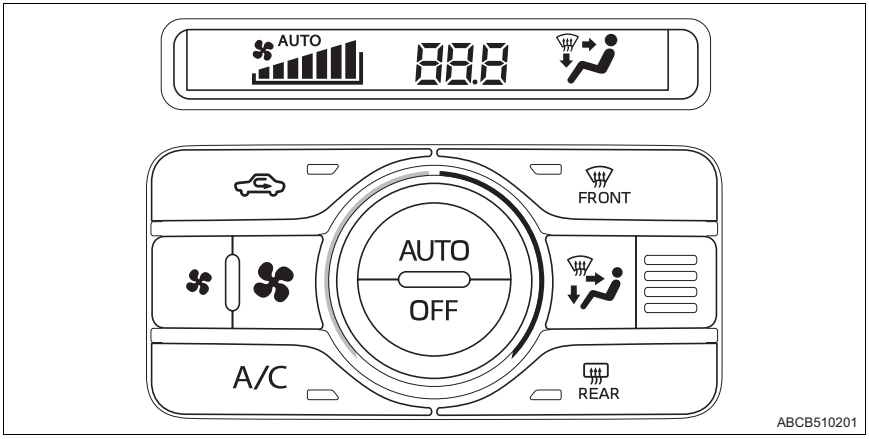
- 車庫の天井などにアンテナが当たるとき
- カーカバーをかけるとき
- 自動洗車機を使用するとき
- 降雪時に長時間駐車するとき

室内装備・機能 7

7-1. エアコンの使い方
オートエアコン …… 296
シートヒーター …… 303
7-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 …… 304
7-3. 収納装備
収納装備一覧 …… 306
7-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 …… 313
AC 電源コンセント［100V、1500W］［非常時給電システム付］…318
正常に AC 電源コンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは …… 329

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

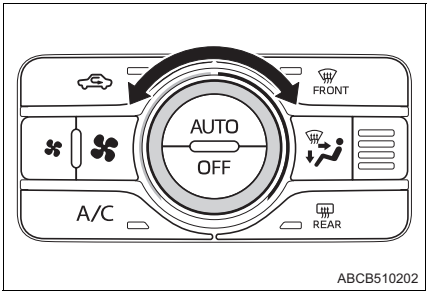


エアコンの操作について

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調節ダイヤルを右に、下げるときは左に回す

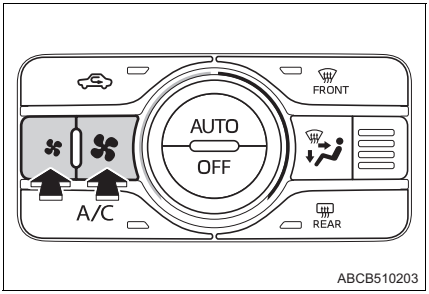
A/C が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。



■ 風量を切り替える

風量を調節するには の （増）か （減）を押す

OFF を押すと、送風が止まります。



■ 吹き出し口を切り替える


を押す

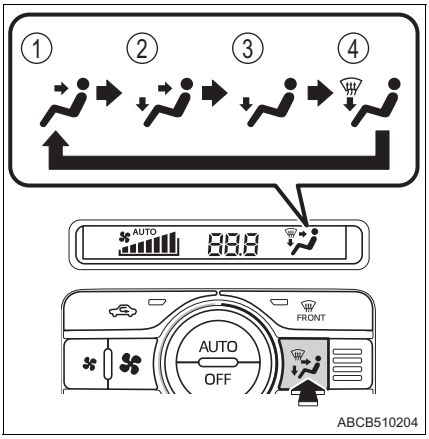
押すたびに吹き出し口が切り替わります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風・フロントウインドーガラスの曇りを取る



オート設定を使うとき

1 AUTO を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

2 温度を設定する

3 A/C を押す

押すたびにエアコンの ON ／ OFF が切り替わります。

4 送風を止めたいときは OFF を押す

■ オート設定時の表示について

風量や吹き出し口を切り替えると、AUTO の表示が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

その他の機能

■ 外気導入・内気循環を切り替えるには

を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切り替わります。内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

■ フロントウインドーガラスの曇りを取るには

FRONT を押す

エアコンが作動し、自動的に外気導入に切り替わります。

曇りが取れたら再度 FRONT を押すと、前のモードに戻ります。

■ リヤデフォッガー

リヤウインドーの曇りを取るときに使用してください。

REAR を押す

リヤデフォッガーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

吹き出し口について

■ 風が出る位置と風量

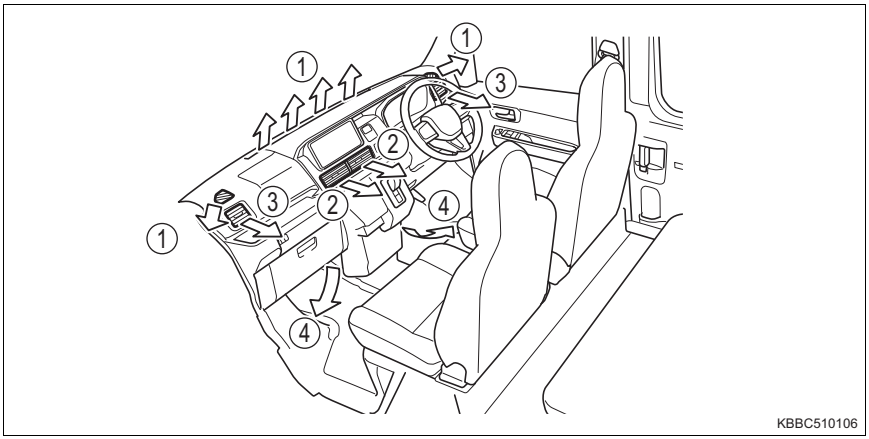
吹き出し口の設定により、風が出る位置や風量が次の表の通り変化します。

風量は吹き出し口によって異なります。

設定					FRONT
吹き出し口	② ③	② ③ ④	③ ④ (①)	① ③ ④	① ③

( ) は特に風量が少ないものを示します。

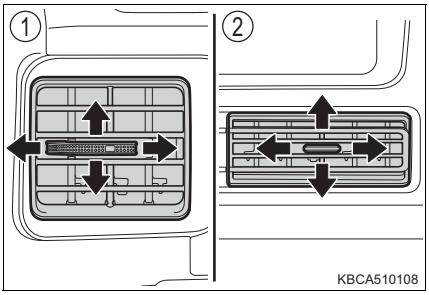
▶吹き出し口の位置



■ 風向きの調整

① 左右吹き出し口

② 中央吹き出し口



知識

■オート設定の作動について

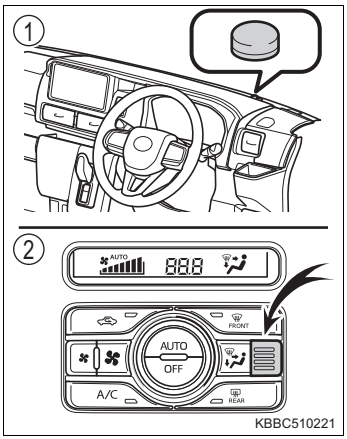
風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTOを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■温度調節センサーについて

オートエアコンには自動的に温度調節を行うために、センサーが取り付けられています。

① 日射センサー
日射量を検知します。

② 内気センサー
室内温度を検知します。



日射センサーの上にものを置いたり、内気センサーをシールなどでふさぐなどすると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

■ガラスの曇りについて

● 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。

その場合は A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■冷房で使用しているとき

まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

■内外気切り替えについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切り替わる場合があります。

知識

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より温められて送風されます。

■外気温度が 0 ℃付近まで下がったとき

A/C を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■駆動用電池の残量が少ないとき

エアコンの効きが弱くなることがあります。

■エアコン使用時の流水音

エアコン使用時に“ポコポコ”、“ジュルジュル”という音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外の様々な臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。また、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■エアコンフィルターについて

→ P. 361

■カスタマイズ機能

オートエアコンの設定を変更できます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 451）

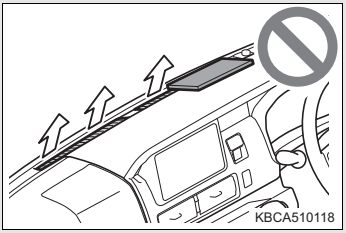
⚠ 警告

■フロントウインドーガラスの曇りを防止するために

●湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、 

を押さないでください。また、吹き出し口を  に切り替えないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界を妨げる場合があります。

●フロントウインドーガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

EV システム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■吹き出し口について

暖房で使用するときは、吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。

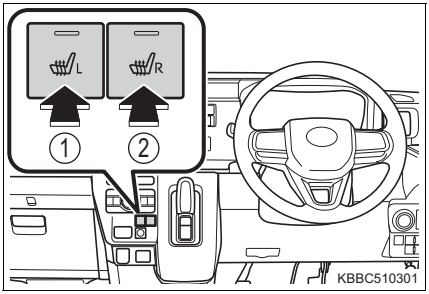
シートヒーター

スイッチを押すと、シートヒーターが作動します。

① 助手席を温める

② 運転席を温める

シートヒーター作動中は、スイッチの作動表示灯が点灯します。
再度押すと OFF になり、スイッチの作動表示灯が消灯します。



知識

■作動条件
パワースイッチが“ON”のとき

■使用しないときは
スイッチを再度押してください。作動表示灯が消灯します。

⚠ 警告

●低温やけどを負うおそれがあるため、次の方がシートヒーターに触れないようにご注意ください。
- 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

●異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
- 長時間連続で使用しないでください。
- 毛布・クッションなどを使用しないでください。

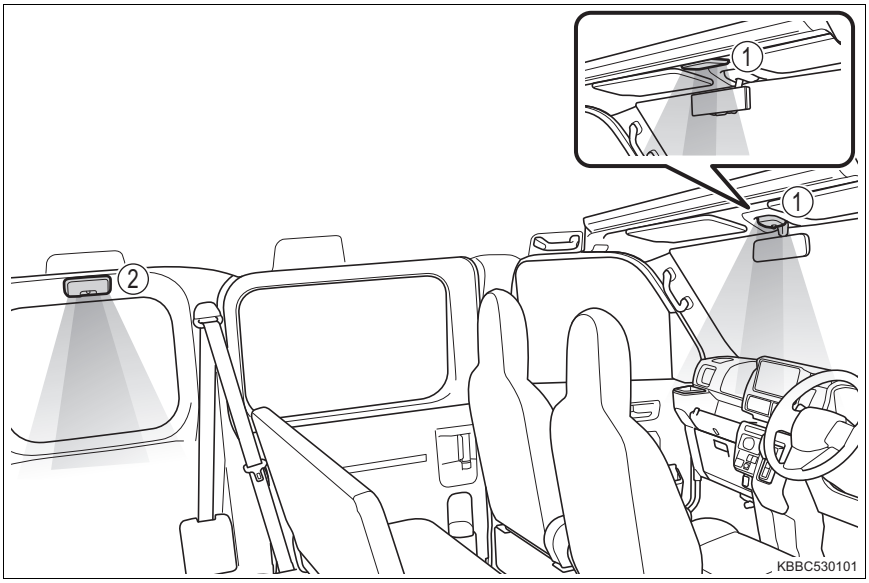
⚠ 注意

■シートヒーターの故障を防ぐために
凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防止するために
EV システムを停止した状態で使用しないでください。

■使用中に異常が発生したときは
ただちに作動を停止し、スズキ販売店またはスズキ代理店に連絡してください。

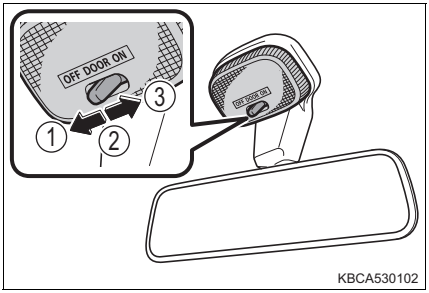
室内灯一覧



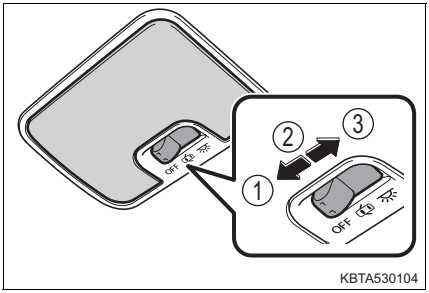
① ルームランプ
② 荷室灯

ルームランプ

▶タイプ A



▶タイプ B



① ランプを消灯する
② ドアポジション（ドア連動）
ドアの開閉動作に連動してランプが点灯・消灯します。
③ ランプを点灯する

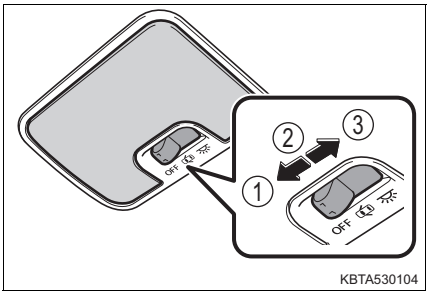
荷室灯

① ランプを消灯する

② ドアポジション（ドア連動）

ドアの開閉動作に連動してランプが点灯・消灯します。

③ ランプを点灯する



知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

ランプのスイッチがドアポジションのとき、次の場合に各部の照明が自動的に点灯、消灯します。

- ●携帯リモコンを携帯して車両に近付いたとき

  （ウェルカムランプ設定（ルームランプ連動★）：→ P. 124）
- ●ドアを施錠・解錠したとき
- ●ドアを開閉したとき
- ●パワースイッチを操作したとき

■補機バッテリーあがりを防止するために

- ●半ドア状態でランプのスイッチがドアポジションのときは約 10 分後に自動消灯します。
- ●ランプが点灯したままの場合、約 12 分後に自動消灯します。

■カスタマイズ機能

イルミネーテッドエントリーシステムの消灯までの時間などの設定を変更できます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 451）

（マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］の設定画面から変更可能：→ P. 115）

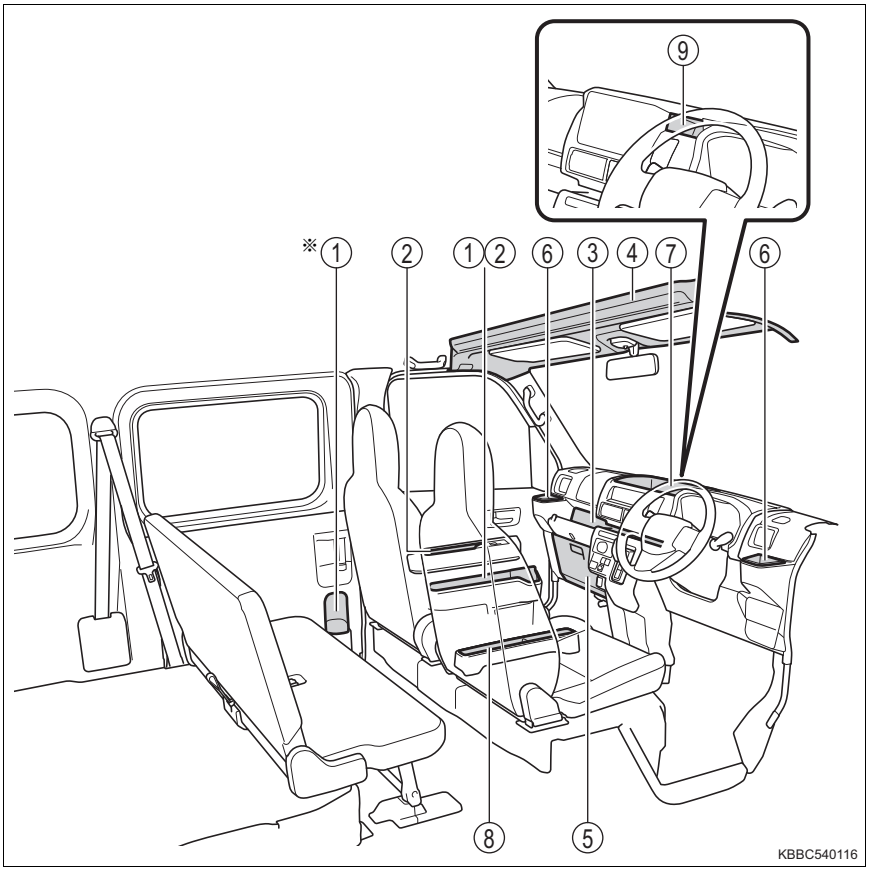
⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

収納装備一覧



※スライドドアクローザー装着車

① ペットボトルホルダー（→ P. 309）

② ドアポケット（→ P. 311）

③ インパネトレー［フック付］／センターミドルトレー（→ P. 311）

④ オーバーヘッドシェルフ（→ P. 307）

⑤ グローブボックス（→ P. 307）

⑥ ドリンクホルダー（→ P. 309）

⑦ アッパートレー★（→ P. 308）

⑧ センターコンソールトレー（→ P. 312）

⑨ 運転席左側ポケット★（→ P. 311）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

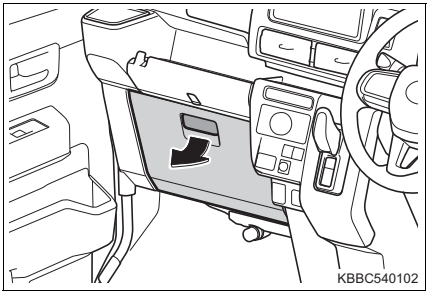
●メガネ･ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスが漏れるなどして火災につながる

●走行中にものを出し入れしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

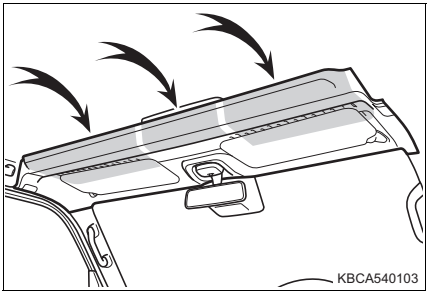
●収納装備を使わないときは、ふたを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

レバーを引いて開ける


KBBC540102

オーバーヘッドシェルフ


KBCA540103

⚠ 警告

■オーバーヘッドシェルフについて

●オーバーヘッドシェルフにぶら下がったり、体重をかけたりしないでください。収納物が落ちてけがをするおそれがあります。

●加速したときなどの走行時に、収納物がすべり落ちてけがをしないよう、次のことを守ってください。

・ オーバーヘッドシェルフ内に固いものや鋭利なものを収納しないでください。

・ オーバーヘッドシェルフ内に本や雑誌などを重ねて収納しないでください。

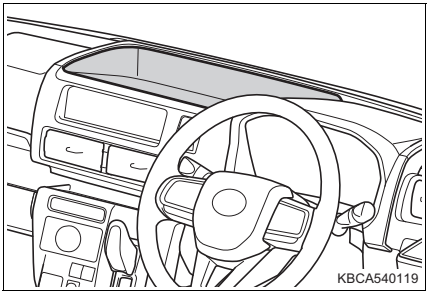
・ 缶ジュースなどの転がりやすいものを収納しないでください。

⚠ 注意

■オーバーヘッドシェルフについて

●オーバーヘッドシェルフに収納することができる重さは、各ポケット部最大0.5kg です。

アッパートレー★



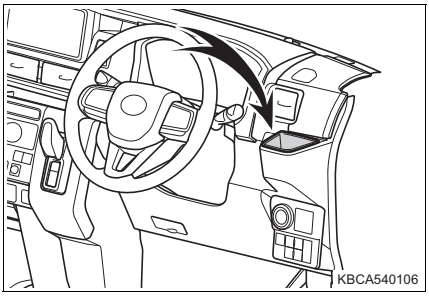
⚠ 警告

走行中はアッパートレーにものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

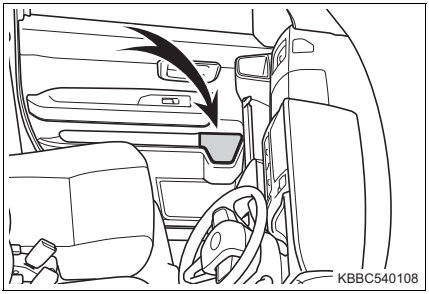
ドリンクホルダー／ペットボトルホルダー

■ ドリンクホルダー

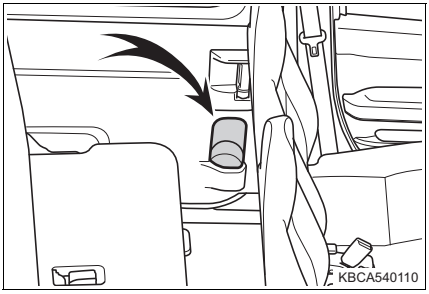


■ ペットボトルホルダー

▶フロントドア



▶リヤサイド★



知識

■ペットボトルホルダーについて

- ●ペットボトルのふたを必ず閉めてから収納してください。
- ●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

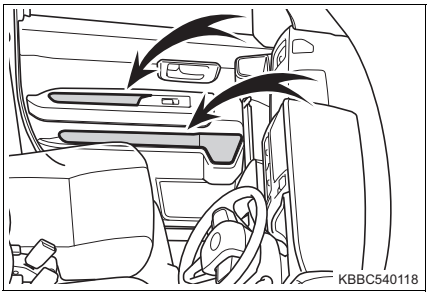
- ドリンクホルダーには、カップ・缶・ペットボトル以外のものを置かないでください。
  急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- ペットボトルホルダーには、ペットボトル以外のものを置かないでください。
  急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- やけどを防ぐために、ドリンクホルダーに温かい飲みものを置くときはふたを閉めておいてください。
- 運転席側のドリンクホルダーを使用するとき、背の高いカップを置くと、運転者の視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中はホルダー内に転がりやすいものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

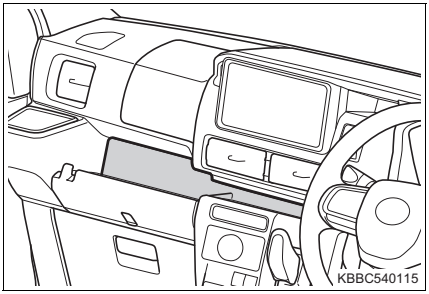
- ペットボトルのふたを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。
- 故障を防ぐため、飲みものがこぼれたときはただちにふき取ってください。スイッチ類や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。

オープントレー

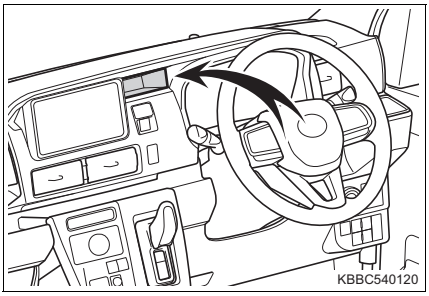
■ ドアポケット



■ インパネトレー［フック付］／センターミドルトレー

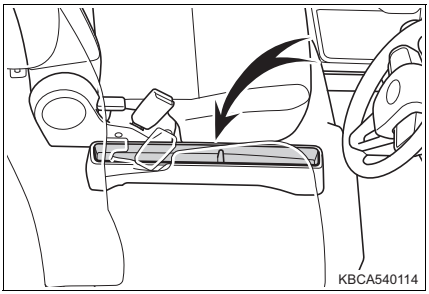


■ 運転席左側ポケット★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ センターコンソールトレー



⚠ 警告

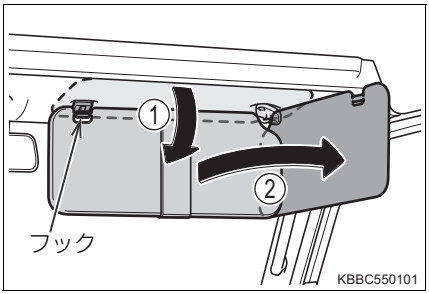
走行中はトレー内に転がりやすいものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

その他の室内装備

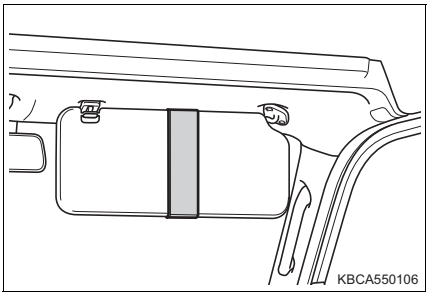
サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックから外し、横へ回す



■ サンバイザーチケットホルダー



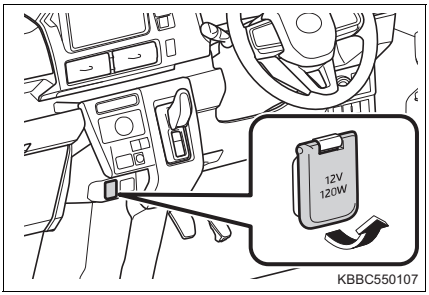
⚠ 警告

- サンバイザーと天井の間にものを挟まないでください。発進時などにものが落ちるおそれがあり危険です。
- サンバイザーのサンバイザーチケットホルダーには、使用用途以外のものを入れないでください。発進時などにものが落ちるおそれがあり危険です。

アクセサリーソケット

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源として使用してください。

ふたを開けて使用する



知識

■作動条件

パワースイッチが“ACC”または“ON”のとき

■パワースイッチを“OFF”にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品を外してください。接続したままにしておくと、パワースイッチを正常に“OFF”にすることができなくなる場合があります。

⚠ 注意

■電気容量について

電気容量は、DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）です。この容量を超える電気製品を使用しないでください。最大電気容量を超える電気製品を使用すると、ヒューズが切れるおそれがあります。

■ショートや故障を防止するために

異物が入ったり、液体などがかかったりしないように、使用しないときは、ふたを閉めておいてください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

EVシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを使用しないでください。

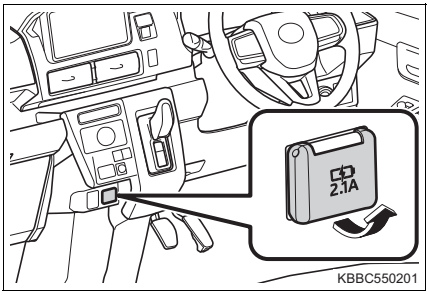
USB ソケット（充電用）

最大消費電力 10.5W(DC5V/2.1A)以下の電源として使用してください。

充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。お使いになる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

1 ふたを開ける



2 ケーブルをソケットの向きに合わせてしっかり奥まで差し込む

機器やケーブルは、運転の妨げにならない場所に固定してください。

3 使用後は必ずケーブルを抜く

ふたが閉まっていることを確認してください。

知識

●EVシステムが再始動したときに、一時的に充電を停止することがある場合は、補機バッテリーの劣化が考えられますのでスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

●一部の機器では、充電中に充電が一旦停止後、再充電を開始する場合がありますが、異常ではありません。

■作動条件

パワースイッチが“ACC”または“ON”のとき

■正常に働かないおそれのある状況

●最大定格を超える電力を要求する機器を接続したとき

- 保護機能が働くため充電できないことがあります。
- 充電できた場合でも充電完了までの時間がかかることがあります。

●炎天下に放置した直後など、車内が高温になっているとき

- エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから充電を開始してください。
- 高温状態で充電した場合、温度センサーが自動的に充電を停止する場合があります。

⚠ 警告

●USB ソケットに指や金属類などの異物、液体が入ると故障やショートの原因になったり、感電するおそれがあります。

●接続したケーブルに足を取られないように注意してください。機器が故障したり、転倒するなどして思わぬけがをするおそれがあり危険です。

⚠ 注意

●強い衝撃や力を加えないでください。

■**補機バッテリーあがりを防ぐために**

●EVシステムが停止した状態で、USBソケットを長時間使用しないでください。

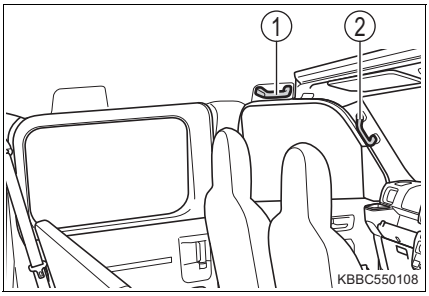
●走行中の使用でも充電が不要になったらケーブルを抜くように心がけてください。

アシストグリップ／乗降グリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。
乗降時などでは、ピラーに取り付けられている乗降グリップを使用してください。

① アシストグリップ（助手席）

② 乗降グリップ（運転席、助手席）



⚠ 警告

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

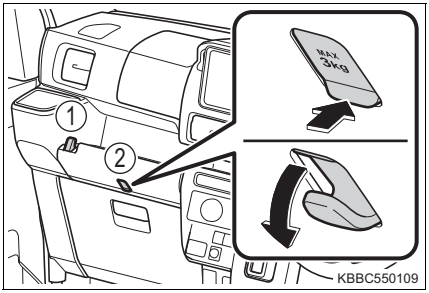
⚠ 注意

破損を防ぐために、アシストグリップ／乗降グリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

ショッピングフック

① 非格納式

② 格納式



⚠ 警告

■ショッピングフックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置に戻しておいてください。

⚠ 注意

■ショッピングフックの破損を防ぐために

格納式は 3kg、非格納式は 0.3kg を超えるものをフックに吊り下げないでください。

フックが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

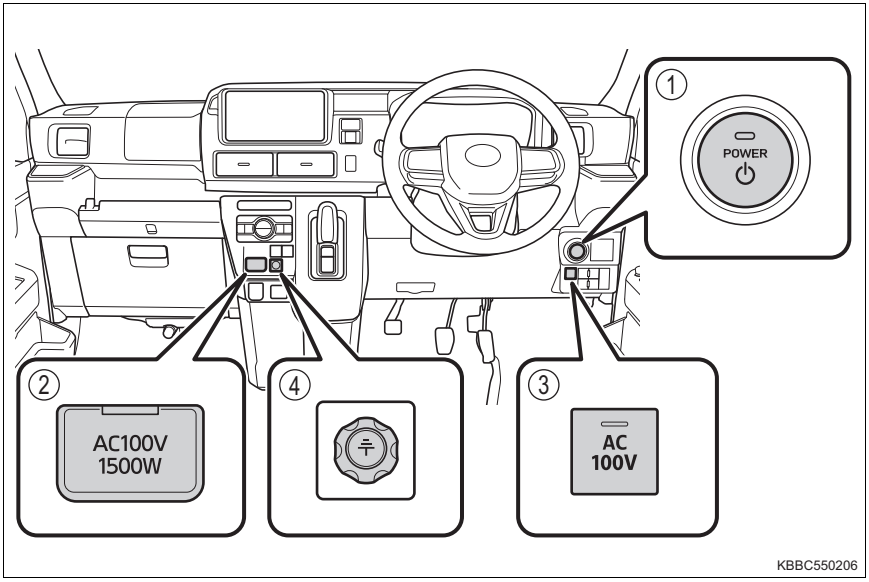
AC 電源コンセント［100V、1500W］［非常時給電システム付］

AC 電源コンセントは、車内において、AC100V で消費電力の合計が1500Wの電気製品を使用することができるシステムです。(→ P. 319)

災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。(→ P. 320)

非常時給電システムは、災害などによる非常時に電力が必要なとき、車両の走行機能を停止した状態で、AC100Vで消費電力の合計が1500W以下の電気製品を使用することができるシステムです。(→ P. 320)

システムの構成部品



① パワースイッチ（→ P. 192）

② コンセント

③ AC100V スイッチ

④ アース端子

駐車中に使用するときの重要確認事項

必ず、給電作業前に次の点をご確認ください。

●普通充電・急速充電を行っていないこと

●V2H 給電を実施していないこと

●地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止め※ の使用をおすすめします。

●ボンネット、点検口が閉まっていること

●パーキングブレーキがかかっていること

●シフトポジションが P になっていること

●パワースイッチが “OFF” になっていること

※ 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

AC 電源コンセントを使用するには

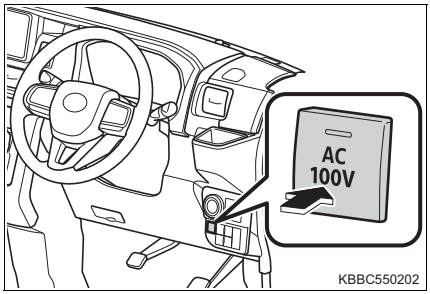
■ コンセントを ON するとき

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押す（→ P. 192）

2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100Vスイッチを押す

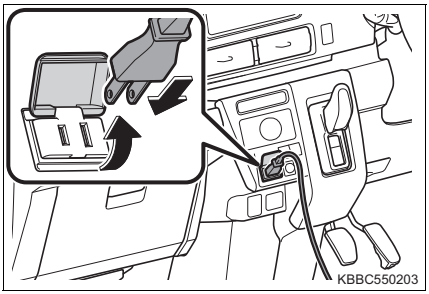
AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

AC100V スイッチを押すたびにコンセントの ON/OFF が切り替わります。



■ 電気製品の電源プラグを接続するとき

ふたを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む



■ コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

2 AC100V スイッチを押して OFF にする

3 コンセントから電源プラグを取り外す

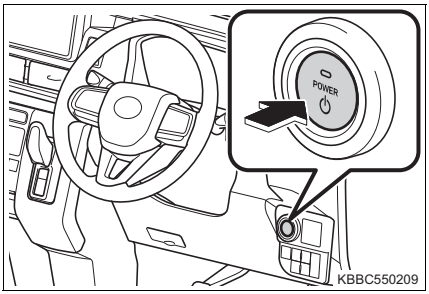
4 コンセントのふたを閉める

非常時給電システムを使用するには

■ 非常時給電システムを起動するとき

1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを 2 回押して“ON”にする（→ P. 192）

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯した場合、非常時給電システムは使用できません。

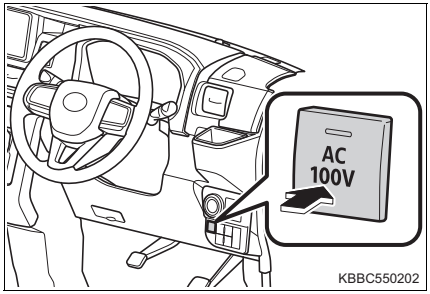


2 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、AC100V スイッチを 3 回連続で押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に非常時給電モードの表示がされ、起動が完了します。

AC100V スイッチを押す間隔が 1 秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に表示されないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

AC100V スイッチを 4 回以上連続で押した場合、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。



3 ふたを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む

■ 非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

2 AC100V スイッチを押して OFF にする

3 コンセントから電源プラグを取り外す

4 コンセントのふたを閉める

5 パワースイッチを “OFF” にする

電気製品の電源プラグを接続するには

■ 電源プラグを接続するとき

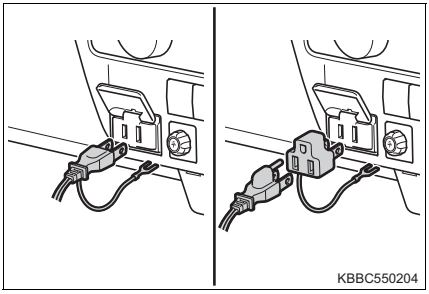
●各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。

●電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

●ふたを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込んでください。（電源プラグが半差しの状態にならないようにしてください）

●アース線のある電気製品を使用するときは、アース線をアース端子に接続してください。

また、接地極付きプラグのある電気製品を使用するときは、電気用品安全法で定められている技術基準に適合した市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。



●次の場合は、延長コードなどを使用し、電源プラグを確実に接続して使用してください。

- 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかり差し込めない
- 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある

知識

■AC 電源コンセント、非常時給電システムについて

- AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用してください。規定容量を超える電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合は、他の電気製品と併用しないでください。
- 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W を超えるときがあります。この場合は、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- AC 電源コンセントは、アクセサリーソケットと同時に使用することができます。
- 非常時給電システムは、マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に非常時給電モードのメッセージが表示されていない場合、使用することができません。パワースイッチが “OFF” の状態から操作し、非常時給電モードのメッセージが表示されることを確認してください。（→ P. 320）
- 非常時給電システムを使用することで、災害などによる非常時に電力が必要な時、車両の走行機能を停止した状態で、電池残量警告灯が点灯するまで、AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用できます。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

知識

■停車中または駐車中に使用するとき

- ●キーフリーシステムでドアの施錠・解錠することはできません。
- ●ワイヤレス機能でドアを施錠･解錠することはできません。エマージェンシーキー（→ P. 132）でのみドアを施錠・解錠することができます。
- ●ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に「キーが見つかりません」と表示されたりすることがあります。携帯リモコンを携帯していることを確認ください。
- ●V2H 給電は使用できません。
- ●車両への充電は実施できません。

■システム過熱防止によるパワースイッチのモード切り替え制限について

短時間で非常時給電システムの起動と停止を繰り返すと、システム過熱防止のためにパワースイッチの切り替えを制限する場合があります。
制限された場合は、一時的に操作を控えてください。1 分程度で通常の状態に戻ります。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。

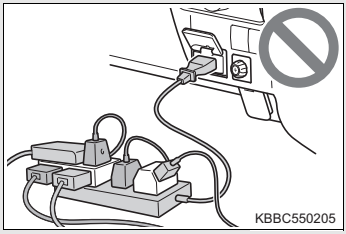
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●非常時給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止などにより室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。
- ●お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。
- ●ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをコンセントに差したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- ●コンセントを利用して、電気自動車やプラグインハイブリッド車への普通充電は絶対に行わないでください。また、家屋内の電力線や配電盤をつなぐことは絶対にしないでください。感電や故障につながるおそれがあります。
- ●コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- ●お子さまにコンセントを触れさせないでください。
- ●コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

⚠ 警告

●コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き差しをし、プラグの刃に触れないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。

●コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。
- コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続しない
- コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す



●アース線のある電気製品を使用するときは、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付きプラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。

●コンセントに飲み物などをこぼしたりしないでください。感電、発煙や発火のおそれがあります。

●電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

■接続する電気製品について

●使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

●電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。

●特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。

●水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。

●防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。

●水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。

●車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください。

⚠ 警告

■電源周波数について

●工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。
コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切り替え（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。車両側の電源周波数切り替えが必要な場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

●特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

■駐車中または停車中に使用するとき

●コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に使用する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

●コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P から切り替えないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●コンセントの使用中は車両から離れないでください。

●落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。

●粉じんの多い場所や直射日光の当たる場所では使用しないでください。

●車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。

●雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。雨や水でコンセントがぬれると感電するおそれがあります。

●暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。

●傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。

●車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。

・雨水の浸入などに注意する
コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。
・コードを窓やドアで挟まない
・たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする
・誤って車両を発進させない

⚠ 警告

●洗車は行わないでください。

●ボンネット、および点検口が閉まっていることを確認してください。
また、点検口内（→ P. 341）に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急に回りだすことがあります。ファンの回転部分に触れたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。

●燃えやすいものの近くで停車しないでください。

●腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。

■走行中に使用するとき（AC 電源コンセント）

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。
- わき見運転など、安全運転の妨げになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
- 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定が不完全で転倒のおそれがある場合
- 落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合
- やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
- ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）
- 強い光が目に入り、視界の妨げになるおそれがある場合（照明器具など）

また、使用しない場合であっても、調理機器などに内容物を入れたまま走行しないでください。

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

⚠ 注意

次のことをお守りください。お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ショートや故障を防ぐために

- ●車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や燃焼のおそれがあります。
- ●振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- ●電気製品の電源プラグを差し込むときは、まっすぐに根本まで差し込んでください。差し込みが不十分な場合、発熱によりコンセントが損傷するおそれがあります。
- ●コンセントを使用しないときは、ふたを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- ●ドアガラス、ドアやバックドアを閉める際、電源コードを挟まないように注意してください。
- ●コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続しないでください。
- ●車内温度および屋外温度は極寒地や炎天下などでは、作動不良や故障につながる可能性がありますので、電気製品を車内や屋外に放置しないでください。

■非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電モードを停止してから EV システムを始動してください。

正常に AC 電源コンセント（100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは

正しい手順に従って作業しても AC 電源コンセントまたは非常時給電システムが使用できない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常に AC 電源コンセントが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください

■ AC 電源コンセントが使用できない

考えられる原因	対処法
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池を充電して駆動用電池の残量を回復させてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている	車両を日陰などへ移動するなどして駆動用電池の温度を下げ、しばらくしてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている	しばらく走行する、エアコンを使用する、車両を日向へ移動するなどして駆動用電池の温度を上げ、しばらくしてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
電気製品が作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、電気製品自体が故障していないか確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているか確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、次の項目を確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。 ●ピンなどの異物が刺さっていないか ●飲料水、雨水、雪などが付着していないか ●ほこりやゴミが付着していないか

以上の処置を行っても AC 電源コンセントが使用できない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

正常に非常時給電システムが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ 非常時給電システムが使用できない

考えられる原因	対処法
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが“ACC”になっている	パワースイッチが“OFF”の状態から、ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを“ON”にしてください。（→ P. 192）マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に「非常時給電モード」と表示されることを確認してください。
AC100V スイッチを押す間隔が長すぎる、または AC100V スイッチを 3 回よりも多く押している	AC100V スイッチは 1 秒以上間隔をあけずに 3 回連続で押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている	車両を日陰などへ移動するなどして駆動用電池の温度を下げ、しばらくしてから、パワースイッチを“OFF”にし、はじめから操作をやり直してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている	しばらく走行する、エアコンを使用する、車両を日向へ移動するなどして駆動用電池の温度を上げ、しばらくしてから、パワースイッチを“OFF”にし、はじめから操作をやり直してください。
電気製品が作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認後、パワースイッチを“OFF”にし、はじめから操作をやり直してください。電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているかを確認後、パワースイッチを“OFF”にし、はじめから操作をやり直してください。

考えられる原因	対処法
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、次の項目を確認後、パワースイッチを“OFF”にし、はじめから操作をやり直してください。 ●ピンなどの異物が刺さっていないか ●飲料水、雨水、雪などが付着していないか ●ほこりやゴミが付着していないか
普通 / 急速充電を実施している	普通／急速充電を終了してからパワースイッチを“OFF”にし、はじめから操作をやり直してください。
短時間での非常時給電システムの起動と停止の繰り返しによりシステム過熱防止機能が働いている	一時的 (1 分程度) に操作を控えてからはじめから操作をやり直してください。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

非常時給電システムが停止したとき

メーターに駆動用電池の残量低下について表示されますので、必要な処置を行ってください。

■「駆動用電池の残量低下により給電停止しました」と表示されたとき、または電池残量警告灯が点灯したとき

考えられる原因	対処法
駆動用電池の残量が少なくなった	駆動用電池を充電後、非常時給電システムを起動することが可能になります。

■「シフトポジション切りかえにより給電停止しました」と表示されたとき

考えられる原因	対処法
シフトポジションを P から切り替えた	パワースイッチを“OFF”にし、はじめから操作をやり直してください。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

お手入れのしかた 8

8-1. お手入れのしかた
外装のお手入れ …… 334
内装のお手入れ …… 338
8-2. 簡単な点検・部品交換
点検口 …… 341
ボンネット …… 345
ガレージジャッキ …… 348
ウォッシャー液の補充 …… 349
タイヤについて …… 351
タイヤの交換 …… 354
タイヤ空気圧について …… 359
エアコンフィルターの交換 …… 361
ワイパーゴムの交換 …… 363
キーの電池交換 …… 367
ヒューズの点検・交換 …… 370
電球（バルブ）の交換 …… 373

外装のお手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

●水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす

●車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う

●汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す

●水をふき取る

●水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

知識

■自動洗車機を使うとき

●お車を洗う前に：

- ドアミラーを格納して、洗車機の「ドアミラーを洗車しない」モードを選択する
- アンテナを格納する

車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態に戻してください。

●ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗車機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付け過ぎたり、同じ場所に連続して当てたりしないでください。

■洗車などで車に水をかけたとき（リクエストスイッチ装着車）

携帯リモコンが作動範囲内にあるとき、ドアハンドルにあるスイッチに水がかかると、ドアが施錠・解錠を繰り返すことがあります。その場合は、次のような処置をしてください。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠されます）

●キーを車両から約 3m 以上離れた場所に置く（盗難に注意してください）

●キーを節電モードに設定してキーフリーシステムの作動を停止する（→ P. 139）

知識

■洗剤やワックスを使うとき

●お使いになる洗剤やワックスの説明をよく読んで、正しくお手入れを行ってください。

●塗装されていない樹脂部品にワックスを使用しないでください。ワックスが付着すると、白くなったりムラになることがあります。

■ホイール・ホイールキャップについて

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

- 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
- 硬いブラシを使用しない
- 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

●光沢を失うおそれがあるため、スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

⚠ 警告

■洗車をするとき

●点検口内（→ P. 341）に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●下まわり足まわりを洗うときは手をけがしないように注意してください。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

- 海岸地帯を走行したあと
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
- ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ほこり・泥などで激しく汚れたとき
- 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

⚠ 注意

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ドアミラーの損傷を防ぐために

自動洗車機を使用するときは、ドアミラーを格納して、洗車機の「ドアミラーを洗車しない」モードを選択してください。

■アンテナの取り扱いについて

アンテナを取り扱うときは無理な力をかけないでください。ボデーの変形やアンテナの破損などにつながるおそれがあります。

■アンテナの損傷を防ぐために

●次のようなときはアンテナを格納してください

- 車庫の天井などにアンテナが当たるとき
- カーカバーをかけるとき
- 自動洗車機を使用するとき
- 降雪時に長時間駐車するとき

■洗車時の注意

●洗車をするときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。車体がへこむおそれがあります。

●充電リッドが閉まっていることを確認してください。高い水圧により充電リッドが勢いよく開き、車体や充電リッドが損傷するおそれがあります。

●高温の湯で洗車すると樹脂部品などが損傷するおそれがあります。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付け過ぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤、ワックスは使用しないでください。

■自動洗車機を使用するときは

エアコンは“内気循環”にしてください。車内に水が入り、故障の原因になります。

⚠ 注意

■高圧洗車機を使用するときは

●洗車時に高圧洗車機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装備が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ノズルの先端を、次の部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクター類に近付け過ぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
- 駆動系部品
- ステアリング部品
- サスペンション部品
- ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水を当てないでください。

●フロントウインドーガラス下部へ連続して水を当てないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。駆動用電池の中に水が浸入し、EV システムの不調や故障の原因になります。

●充電リッド付近に使用しないでください。充電インレットに水が入り、車両故障につながるおそれがあります。

内装のお手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内のお手入れ

●掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

●汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分のお手入れ

●掃除機などでほこりや砂を取り除く

●薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。

●水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分のお手入れ

●掃除機などでほこりを取り除く

●中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安
品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄
カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くようにぬり込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト
刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。

シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

知識

■デジタルルームミラー★のお手入れについて
→ P. 164

⚠ 警告

■車両への水の浸入

●車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 30)
電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装のお手入れをするときは（特にインストルメントパネル）
艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドーガラスへ映り込み、運転者の視界を妨げ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シート周辺の注意
車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などに当たり、けがをするおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
- シート・デジタルルームミラー★以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
- シート・デジタルルームミラー★部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

●メーターのレンズカバーにガラスクリーナーやアルコールなどを使用しないでください。
変色・ひび割れの原因になるおそれがあります。

●各スイッチの周辺にシリコン系のスプレーを使用しないでください。シリコンが内部の電気部品に付着し、故障の原因となります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- ●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- ●直射日光に長時間さらさないようにする
  特に夏場は日陰でお車を保管する
- ●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、お車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドーガラスの内側を清掃するとき

ステレオカメラに触れないように注意してください。

誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、スマートアシストの誤作動や故障につながるおそれがあります。

■リヤウインドーガラスの内側を掃除するときは

- ●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- ●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■液体芳香剤を使用するときは

こぼれないように容器を確実に固定してください。また、インストルメントパネルの上やメーターの近くに置かないでください。

液体がこぼれて樹脂部品や布材、メーターのレンズカバーに付着すると、変色・ひび割れの原因になるおそれがあります。

点検口

フロントシートを持ち上げて、補機バッテリーやヒューズの点検などが行えます。

点検口の開け方（フロントシートの後ろにガードバーがない場合）

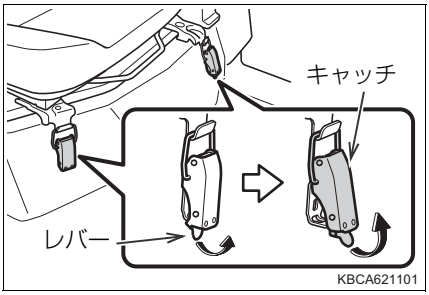
■ 開けるときは

1 フロントシートをいちばん後ろまでスライドする

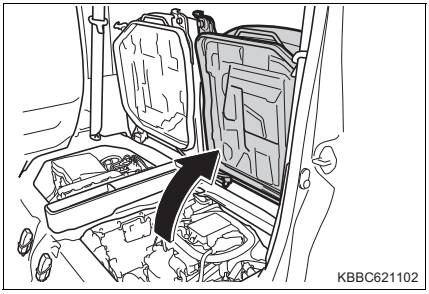
2 フロントシートを前倒しする（→ P. 158）

3 運転席 2 か所、助手席 2 か所のキャッチのロックを解除する

レバーを手前に引き、キャッチを引き上げてロックを解除してください。



4 フロントシートを持ち上げて、後ろ側に倒す

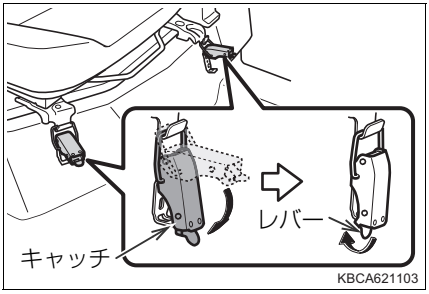


■ 閉めるときは

1 フロントシートを起こす

2 運転席 2 か所、助手席 2 か所のキャッチを確実にロックする

キャッチをロックするときは、レバーが押し込まれ、確実にロックしたことを確認してください。



3 フロントシートの背もたれをもとに戻す（→ P. 158）

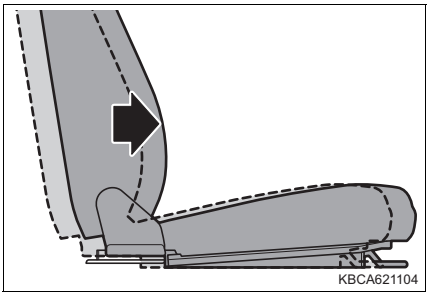
点検口の開け方（フロントシートの後ろにガードバーがある場合）

■ 開けるときは

1 運転席側フロントシートをいちばん後ろまでスライドする（→ P. 158）

2 運転席側フロントシートを手順7で持ち上げたとき、ハンドルに当たらない位置に調整する（→ P. 158）

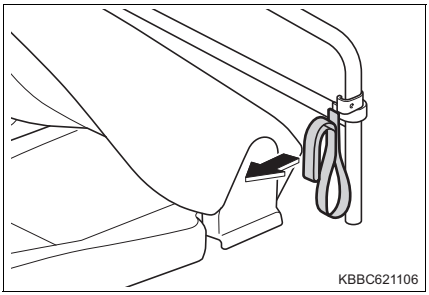
手順 7 で、バンドをフックにかけられるようにするため、できるだけ前の位置に調整してください。


KBCA621104

3 助手席側フロントシートをいちばん前までスライドする（→ P. 158）

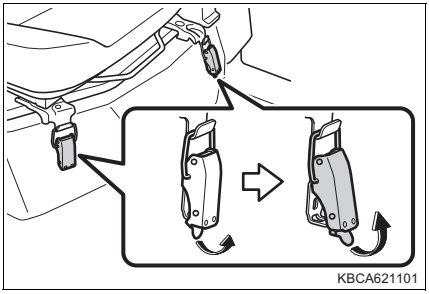
4 フロントシートを前倒しする（→ P. 158）

5 ガードバーにあるバンドを取り出す

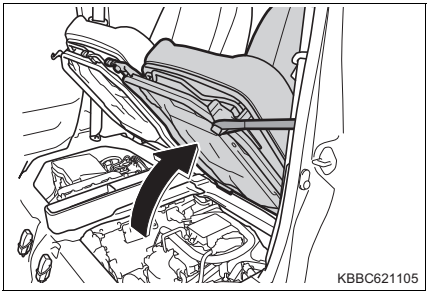

KBBC621106

6 運転席 2 か所、助手席 2 か所のキャッチのロックを解除する

レバーを手前に引き、キャッチを引き上げてロックを解除してください。


KBCA621101

7 フロントシートを持ち上げて、バンドをフックにかけて固定する

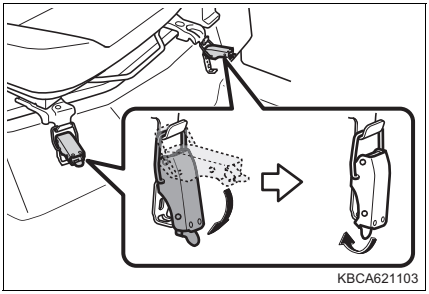

KBBC621105

■ 閉めるときは

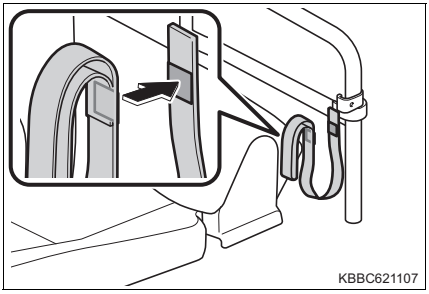
1 フックにかけたバンドを外し、フロントシートを下ろす

2 運転席 2 か所、助手席 2 か所のキャッチを確実にロックする

キャッチをロックするときは、レバーが押し込まれ、確実にロックしたことを確認してください。


KBCA621103

3 ガードバーにバンドを収納する


KBBC621107

4 フロントシートの背もたれをもとに戻す（→ P. 158）

知識

■補機バッテリー端子を外すときは

補機バッテリー端子を外すと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子を外すときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

⚠ 警告

■走行前の確認

点検口を閉めたあとは、確実にロックされていることを確認してから走行してください。確実にロックされていないと、走行中にシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切り替える必要がありますので、必ずスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために

走行後の点検口内は高温になっています。熱くなった部品に触れるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■点検口を点検したあとは

EVシステム始動前に点検口内に可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、点検口内に小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。

また、走行中に点検口内からこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

■補機バッテリーの取り扱いについて

→ P. 440

■フロントシートを持ち上げるときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中にフロントシートを持ち上げない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションをPにする

●お子さまに操作させない

■フロントシートを下ろすときは

フロントシートを下ろすときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■フロントシートを下ろすときは

シートベルトを挟み込まないように注意してください。

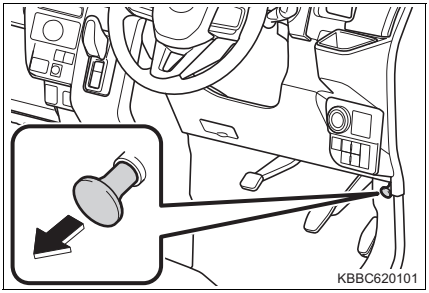
ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

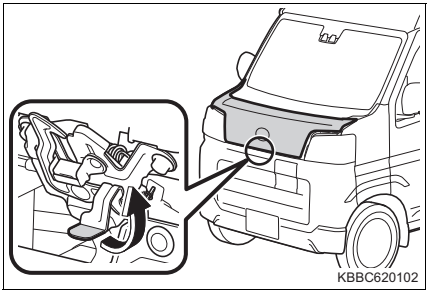
ボンネットを開ける

1 ボンネット解除レバーを引く

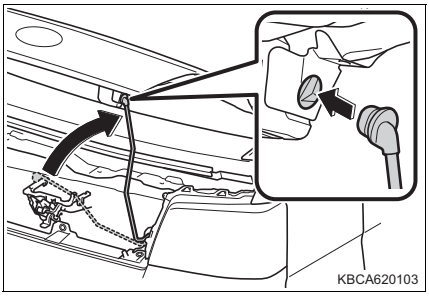
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



3 ボンネットステーを外し、ステー穴に差し込む



ボンネットを閉める

1 ボンネットを片手で支える

2 ボンネットステーを外してもとの位置へ戻す

3 ボンネットを静かに下げ、手で押さえるようにして閉める

⚠ 警告

■走行前の確認

●ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ボンネットを開けているとき風にあおられるとボンネットステーが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。特に風の強い日はご注意ください。

■けがを防ぐために

走行後のボンネット内は高温になっています。熱くなった部品に触れるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

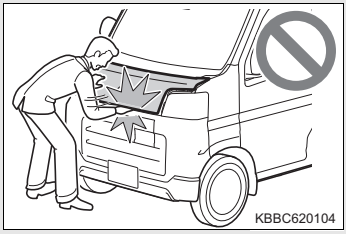
■ボンネット内点検後の確認

EVシステム始動前にボンネット内に可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、ボンネット内に小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。

また、走行中にボンネット内からこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠ 注意

■ **ボンネットを開けるとき**

フロントワイパーアームを起こしたままボンネットを開けないでください。ワイパーがボンネットに当たり、傷付くことがあります。

■ **ボンネット内を点検するときは**

フロントガラス下部周辺にものを置かないでください。ボンネット内部にものが落下し、故障につながるおそれがあります。

■ **ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。

ボンネットがへこむおそれがあります。

■ **ボンネットを閉めるときは**

ボンネットステーをステー穴から取り外し、クリップに正しく戻してください。

ステーを正しく戻さない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

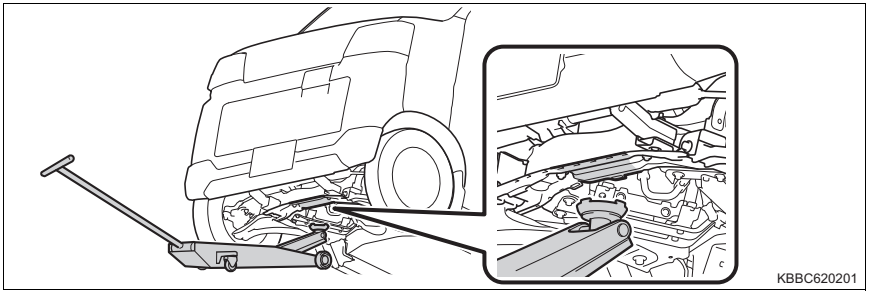
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

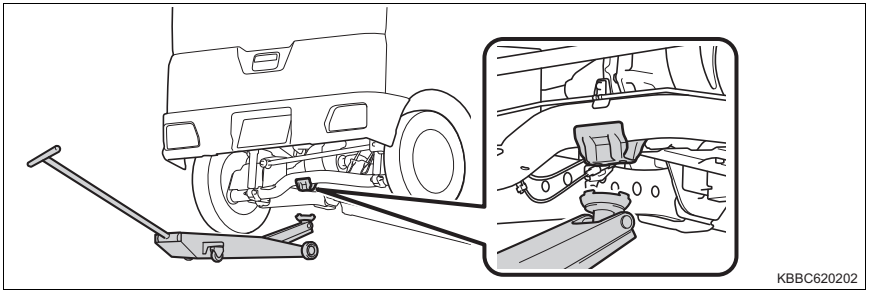
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側



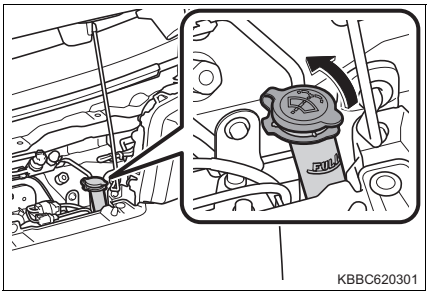
◆ リヤ側



ウォッシャー液の補充

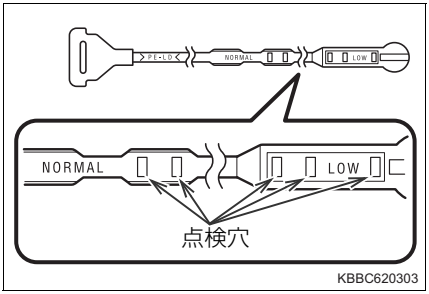
点検のしかた

1 ウォッシャータンクのキャップを外す



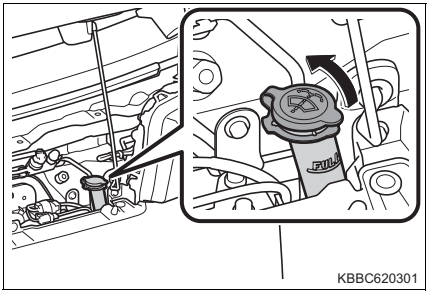
2 セットしてあるレベルゲージを引き抜く

“NORMAL” ～ “LOW” の点検穴すべてに膜が張っているかを確認します。

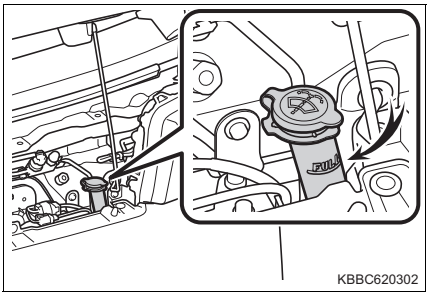


補充のしかた

1 ウォッシャータンクのキャップを外す



2 ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して、ウォッシャータンクの “FULL” まで補給する



知識

■ウォッシャー液の薄め方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

⚠ 警告

■ウォッシャー液を補充するとき

EV システムが熱いときや EV システム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、EV システムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液の代わりに、せっけん水や不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

●タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

●タイヤの亀裂・損傷の有無

●タイヤの溝の深さ

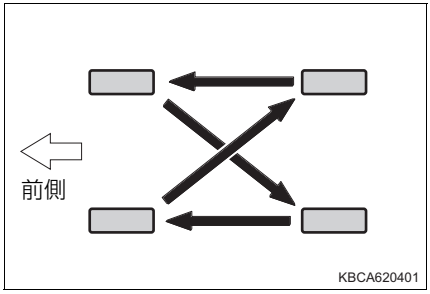
●タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、スズキは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーションを行ったあとは、指定された空気圧に調整してください。

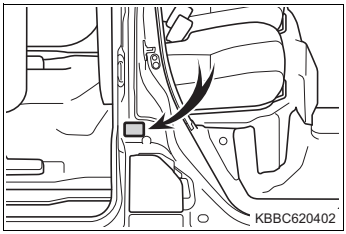


知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
	前輪	後輪
145/80R12 86/84N LT	300（3.0）	450（4.5）

タイヤの指定空気圧は、運転席側ドア開口部のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■タイヤ空気圧の点検

- 1 か月に 1 回程度は、空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
- 空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

■タイヤローテーションについて

この車両には、スペアタイヤが搭載されていないため、スペアタイヤを利用するタイヤローテーションができません。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

⚠ 警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）で、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド&スノータイヤ）・冬用タイヤを混在使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

⚠ 警告

●他車で使用していたタイヤを使用しない

以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●破裂などの修理できない損傷を与える

●車両が横滑りする

●車両の本来の性能（電費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。（→ P. 358）

テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ネジ部にオイルやグリースをぬらないでください。

ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したりディスクホイールが損傷するおそれがあります。

またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがネジ部についている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■走行中に空気漏れが起こったら

走行を続けないでください。

タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤの交換

ご自身でタイヤを交換するときは、工具とジャッキをご準備ください。

ご自身でのタイヤの交換に不安がある場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

この車両には、ジャッキ※、ジャッキハンドル※、ホイールナットレンチ※ が搭載されていません。

※ スズキ販売店またはスズキ代理店で購入することができます。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

●地面が固く平らで安全な場所に移動する
●パーキングブレーキをかける
●シフトポジションを P にする
●EV システムを停止する

⚠ 警告

■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、お車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取り外し以外の目的で使用しない
●他車のジャッキをお客様の車に使用しない
●ジャッキはジャッキセット位置（→ P. 356）に正しくかける
●ジャッキで支えられているお車の下に体を入れない
●お車がジャッキで支えられている状態で、EV システムを始動したりお車を走らせない
●車内に人を乗せたままお車を持ち上げない
●お車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
●お車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
●お車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
●お車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

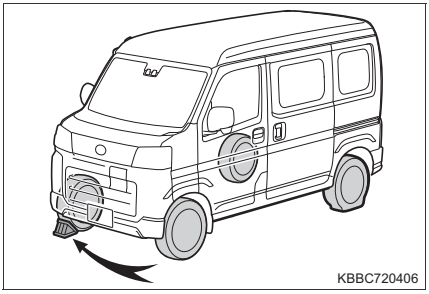
⚠ 注意

■ジャッキハンドルを使用するときは

ジャッキハンドルはジャッキに対し、まっすぐにして回してください。まっすぐにして回さないと、ジャッキハンドルおよびジャッキが破損するおそれがあります。

タイヤの交換

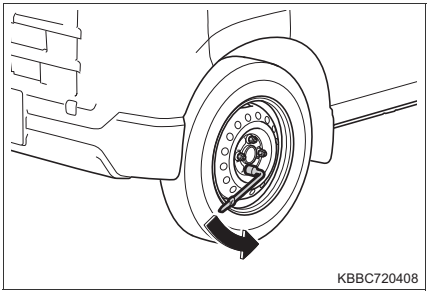
1 輪止め※ をする


KBBC720406

※ 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

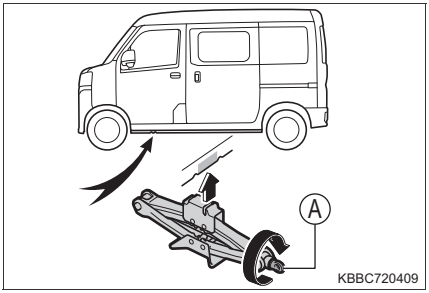
交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

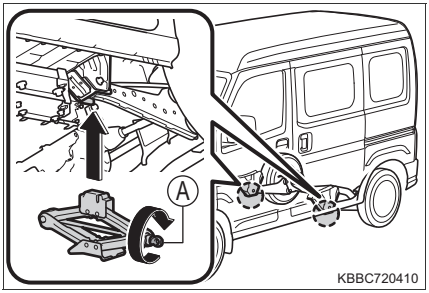

KBBC720408

3 ジャッキのA部を手で回して、ジャッキをジャッキセット位置にしっかりかける

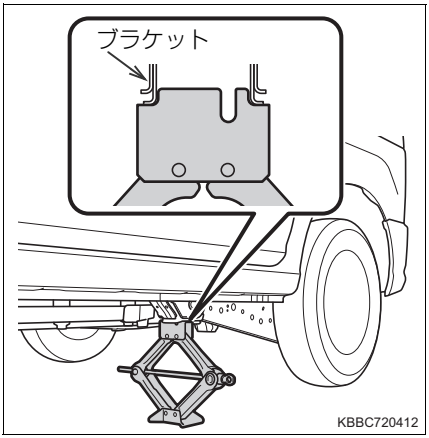
▶フロント側ジャッキセット位置



▶リヤ側ジャッキセット位置

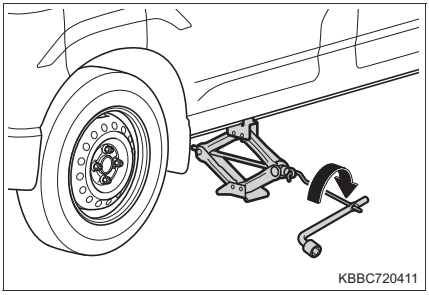


- フロント側は、ジャッキ溝をジャッキセット位置（切り欠きと切り欠きの間）にかけてください。
- リヤ側は、図のようにジャッキ頭部をブラケットにかけてください。



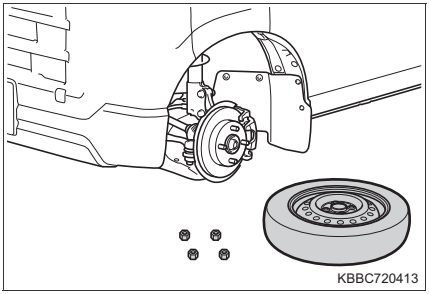
4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

- ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせて使用してください。
- ジャッキハンドルはジャッキに対し、まっすぐにして回してください。



5 ナットすべてを取り外し、タイヤを取り外す

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。


KBBC720413

⚠ 警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。

走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

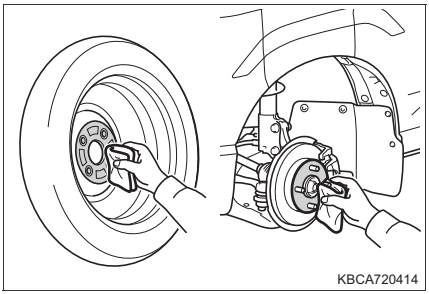
●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールが外れ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ネジ部やナットのテーパー部にオイルやグリースをぬらない
  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがネジ部に付いている場合はふき取ってください。
- タイヤを交換したあとは、ただちに締め付けトルクを確認する
  お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ボルトやナットのネジ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受ける
- ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける

タイヤの取り付け

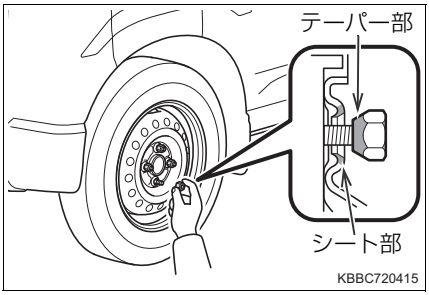
1 ホイール接触面の汚れや異物をふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあります。


KBCA720414

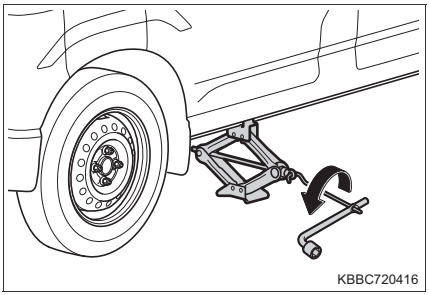
2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽く当たるまで回す



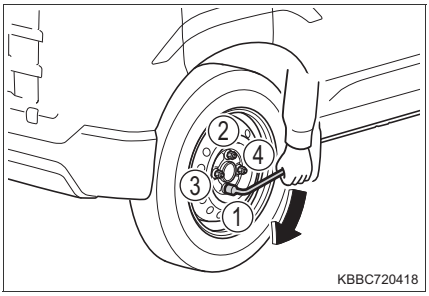
KBBC720415

3 車体を下げる


KBBC720416

4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを2､3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



KBBC720418

5 すべての工具・ジャッキを収納する

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。(→ P. 450)

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- ●電費の悪化
- ●乗り心地や操縦安定性の低下
- ●摩耗によるタイヤ寿命の低下
- ●安全性の低下

頻繁にタイヤ空気圧が低下する場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- ●タイヤが冷えているときに点検する
- ●タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- ●走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- ●荷物を積むとき、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

⚠ 警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●過度の摩耗
- ●偏摩耗
- ●操縦安定性の低下
- ●タイヤの過熱による破裂
- ●タイヤとホイールの間からの空気漏れ
- ●ホイールの変形、タイヤの損傷
- ●走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

⚠ 注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップを外していると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

1 パワースイッチを“OFF”にする

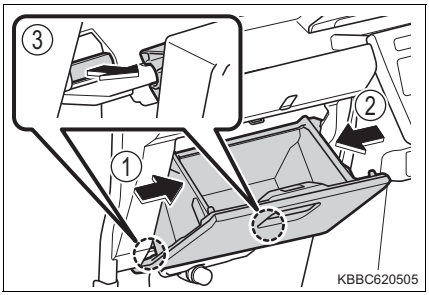
充電コネクターが接続されていないことを確認してください。

2 グローブボックスを取り外す

① 左側面を内側に押して上部のツメを外す

② 右側面を内側に押して上部のツメを外す

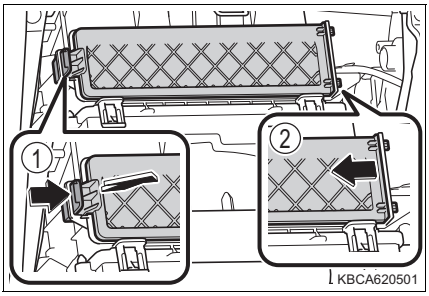
③ 下部のツメを外す



3 フィルターカバーを取り外す

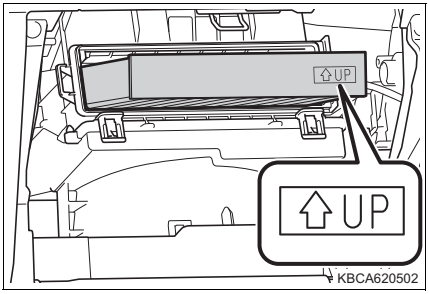
① フィルターカバーの固定を解除する

② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、フィルターカバーを抜く



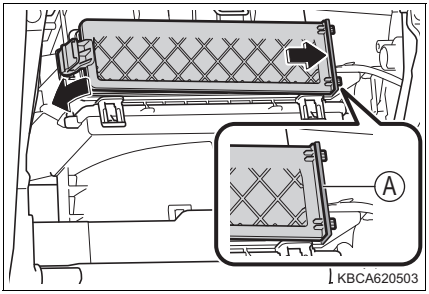
4 フィルターを取り外し、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



5 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で取り付ける

フィルターカバーは A 部に入れてから、取り付けてください。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

20,000km[10,000km※] ごと

※ 大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所や山岳地、丘陵地など地域により花粉が多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠ 注意

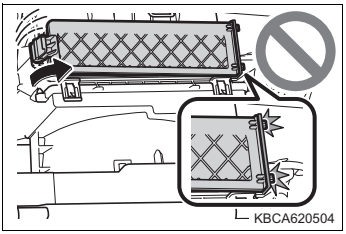
■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。

  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。



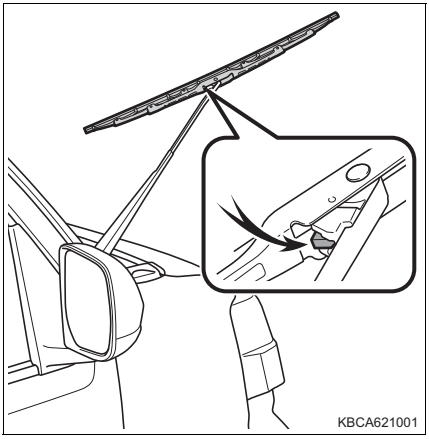
ワイパーゴムの交換

ワイパーゴムを交換する際は、次の要領でワイパーの各部品を操作してください。

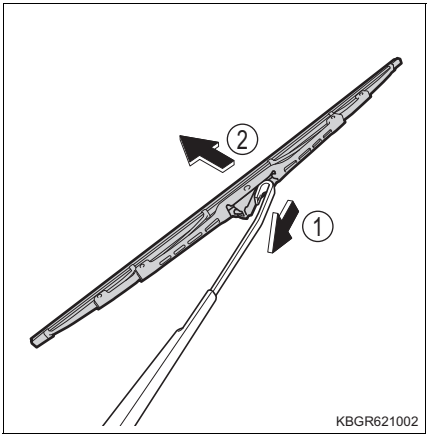
フロントワイパー

■ フロントワイパーブレードの脱着

1 ワイパーアームを起こし、ブレードのツメが見える角度まで傾ける



2 ツメを押しながら、ワイパーブレードをスライドさせ（①）、ワイパーアームから取り外す（②）

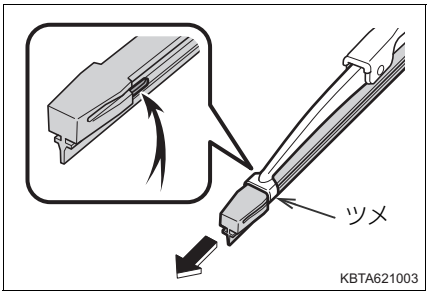


3 取り付けるときは、逆の手順で取り付ける

起こしたワイパーアームを戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。

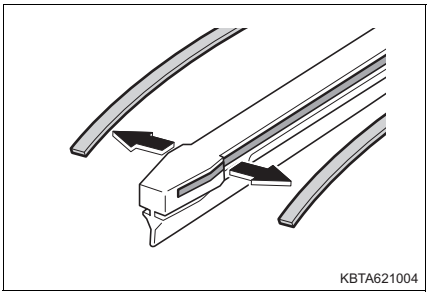
■ フロントワイパーゴムの交換

1 ワイパーゴムを引っ張り、ストッパーをワイパーブレードのツメから外し、そのまま引き抜く



2 古いワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取り外し、新しいワイパーゴムに付け替える

金属プレートの反りの向きに注意して取り付けてください。



3 取り付けるときは、ワイパーゴムのストッパーがないほうからワイパーブレードに挿入する

4 ワイパーゴムのストッパーをワイパーブレードのツメで確実に固定する

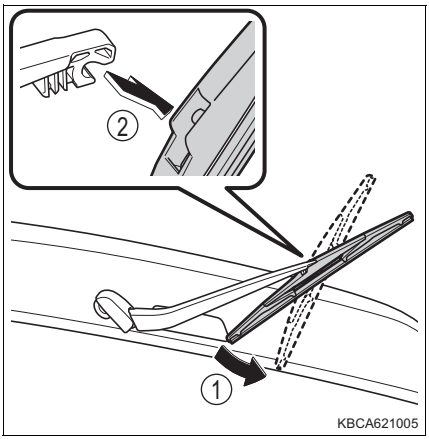
リヤワイパー

■ リヤワイパーブレードの脱着

1 ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを取り外す

① ツメのかん合が外れる位置までワイパーブレードを回す

② ワイパーアームからワイパーブレードを取り外す



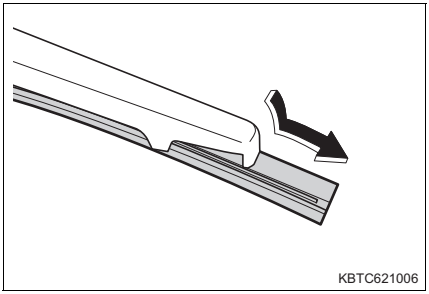
2 ワイパーブレードを取り付けるときは 1 と逆の手順で取り付ける

起こしたワイパーアームを戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。

ワイパーブレードを取り付けたあとは、接続部が確実にロックされていることを確認してください。

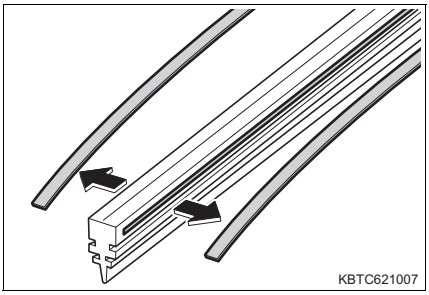
■ リヤワイパーゴムの交換

1 ワイパーブレードのストッパーからワイパーゴムを引き出し、そのまま引き抜く


KBTC621006

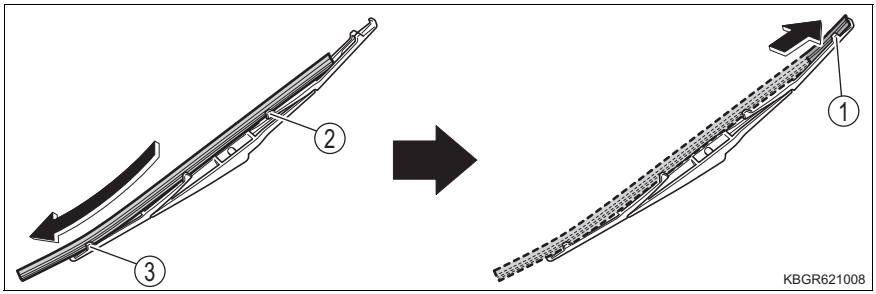
2 古いワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取り外し、新しいワイパーゴムに付け替える

金属プレートの反りの向きに注意して取り付けてください。


KBTC621007

3 ワイパーブレードの②のツメを通してワイパーゴムを挿入し、③のツメに通したらストッパーからはみ出させ、残った ① のツメに通す

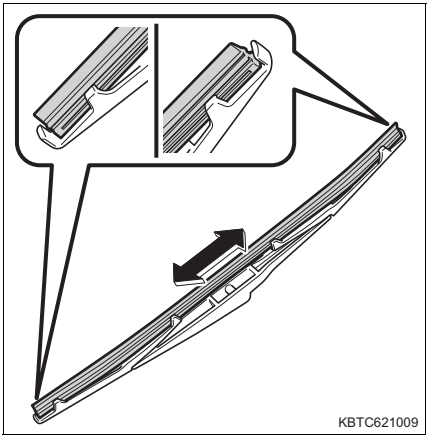
ワイパーゴムにウォッシャー液を少量塗布すると、溝に入れやすくなります。



KBGR621008

4 ワイパーブレードのツメがワイパーゴムの溝に入っているか確認する

- ワイパーゴムの溝にワイパーブレードのツメが入っていない場合は、ワイパーゴムをつまみ、数回スライドすると溝に入れることができます。
- ワイパーゴムの中央部を軽く持ち上げると、スライドさせやすくなります。



知識

■ワイパーブレード・ワイパーゴムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身でのワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

⚠ 注意

- ワイパーブレードの部分だけを持って起こすと、ブレードが変形するおそれがあります。必ずワイパーアームの部分を持って起こしてください。
- ワイパーを交換するときはツメの破損に注意してください。
- ワイパーアームからワイパーブレードを取り外したあとはウインドーガラスが傷付かないように、ウインドーガラスとワイパーアームの間に布などを挟んでください。
- 無理にワイパーゴムを引き出したり、ワイパーゴムの金属プレートが変形しないようにしてください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

●薄刃のマイナスドライバーなど（くぼみに入る程度の幅のもの）

●エマージェンシーキー

●リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

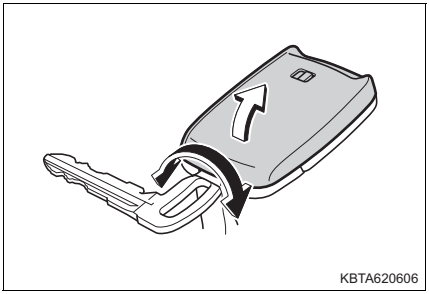
1 エマージェンシーキーを取り出す（→ P. 132）

2 カバーを外す

スズキマーク側を下にして外してください。

エマージェンシーキーをしっかり奥まで差し込んでください。

傷が付くのを防ぐため、エマージェンシーキーに布などを巻いて保護してください。

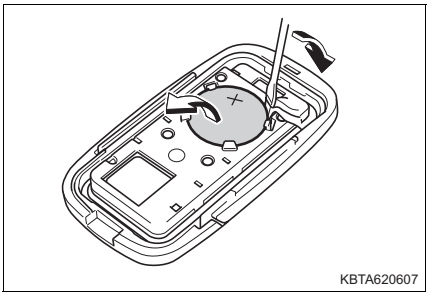

KBTA620606

3 消耗した電池を取り出す

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。

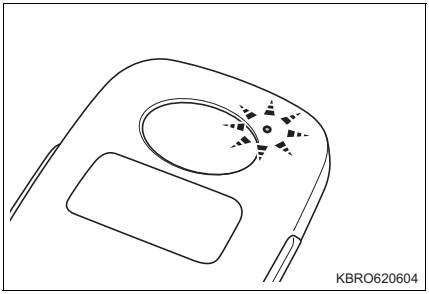
カバーを外したときに、上側のカバーに携帯リモコンのモジュール（基板）が貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、携帯リモコンのモジュール（基板）をひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は ＋ 極を上にして取り付けます。


KBTA620607

4 カバーを取り付ける

スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認する



知識

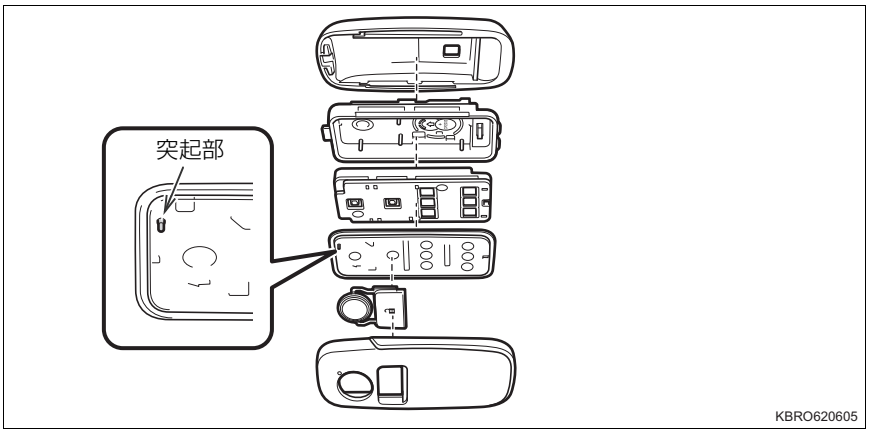
■電池の交換について

誤った取り扱いをすると、キーが損傷するおそれがあります。ご自身での電池の交換に不安がある場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

■携帯リモコンの部品がばらばらになったときは

図を参考に組み付けてください。

組み付けるときは、突起部を下に向けてください。



■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はスズキ販売店またはスズキ代理店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■携帯リモコンの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- ●キーフリーシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- ●作動距離が短くなる
- ●インジケーターが点滅しない

⚠ 警告

■携帯リモコンの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- ●携帯リモコンにはコイン電池またはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●新しい電池および取り外した電池は、お子さまに触れさせないでください。
- ●カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
- ●誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- ●同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- ●極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- ●電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意

■電池交換の留意事項

電池交換をする場合は、必ず体や衣類に帯電している静電気を放電してください。静電気により、キーが損傷するおそれがあります。静電気を放電する場合は、静電気が除去できるものをあらかじめ用意しておくか、金属部分などに手を触れてください。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ●ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- ●電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- ●電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

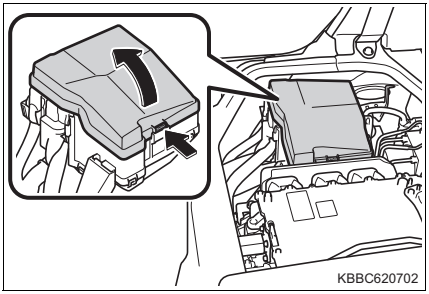
1 パワースイッチを“OFF”にする

充電コネクターが接続されていないことを確認してください。

2 ヒューズボックスを開ける

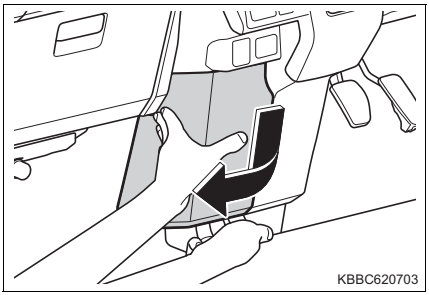
▶点検口

点検口（→ P. 341）を開けて、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

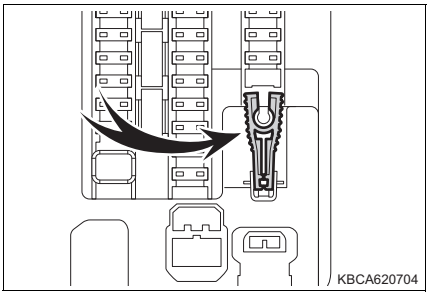

KBBC620702

▶インストルメントパネル中央

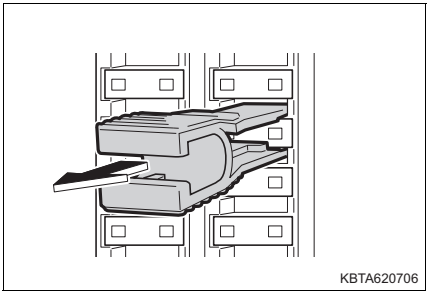
カバー下部の穴に指をかけ、上部を手で押さえながら、カバーを取り外す


KBBC620703

3 ヒューズ外しをインストルメントパネル中央のヒューズボックスから取り出す


KBCA620704

4 ヒューズをヒューズ外しで挟んで外す


KBTA620706

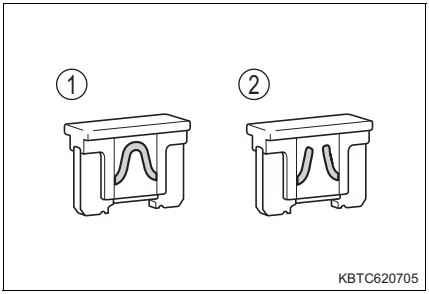
5 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

他に原因が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



KBTC620705

6 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で取り付ける

知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 373）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合、または電気系統の装置が働かない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているスズキ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のスズキ純正品以外は使用できない場合があります。

⚠ 警告

■お車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、お車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずスズキ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

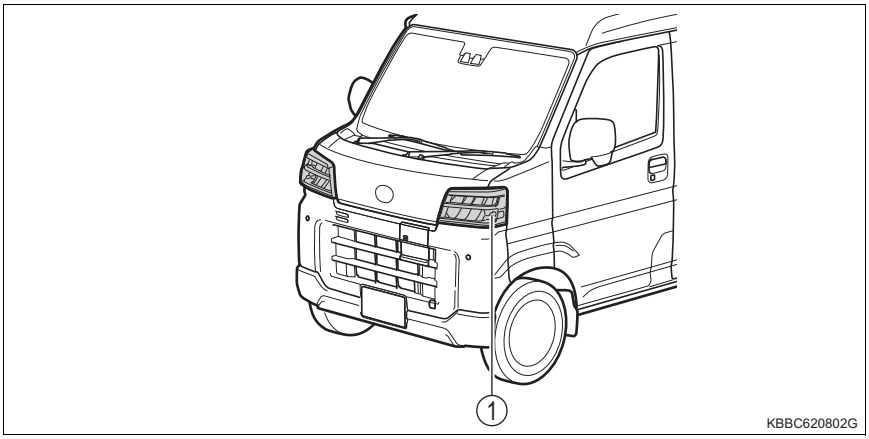
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、スズキ販売店またはスズキ代理店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 450）

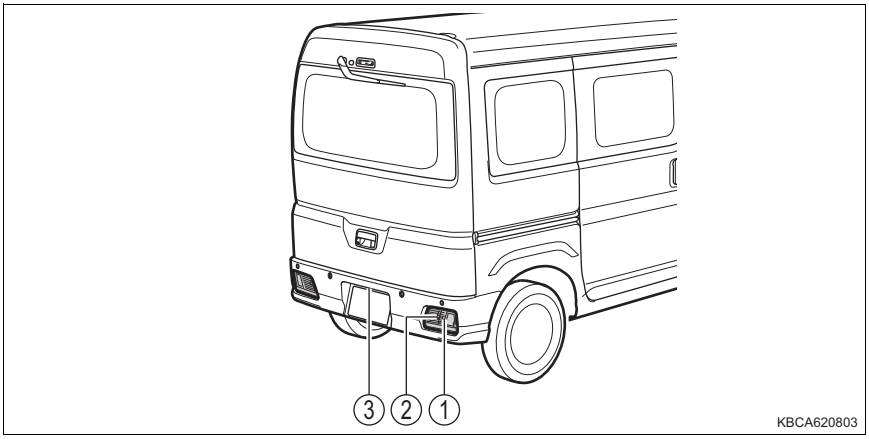
バルブ位置

■ フロント



① フロント方向指示／非常点滅灯

■ リヤ



① リヤ方向指示／非常点滅灯

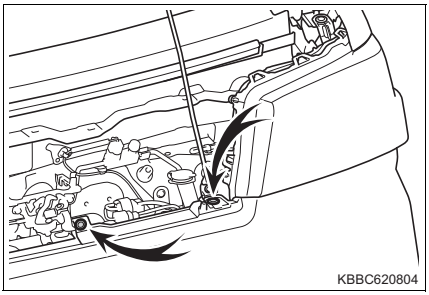
② 後退灯

③ 番号灯

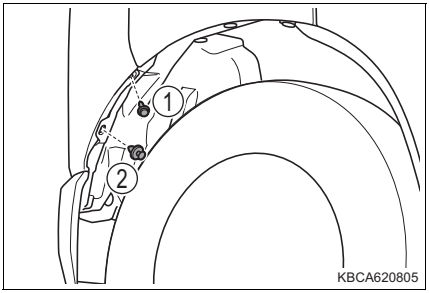
電球交換のしかた

■ フロント方向指示／非常点滅灯

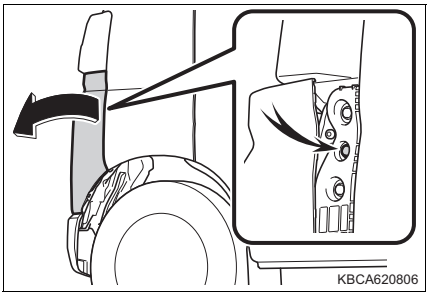
1 クリップ（2 個）を取り外す



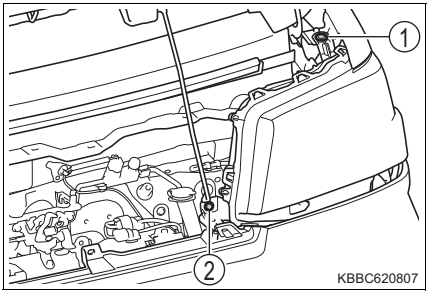
2 ボルト（①）とクリップ（②）を取り外す



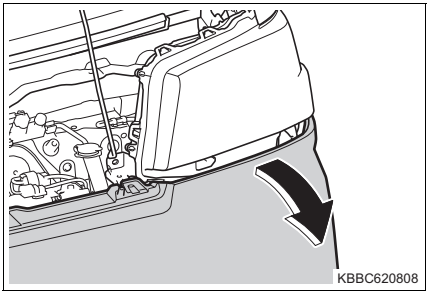
3 フロントバンパーを矢印の方向にめくって、ボルトを取り外す



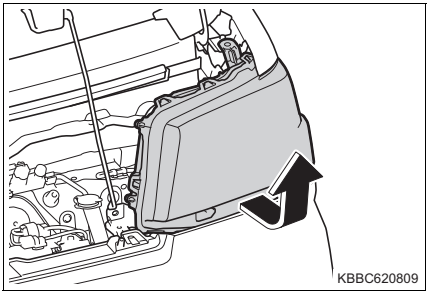
4 クリップ（①）とボルト（②）を取り外す



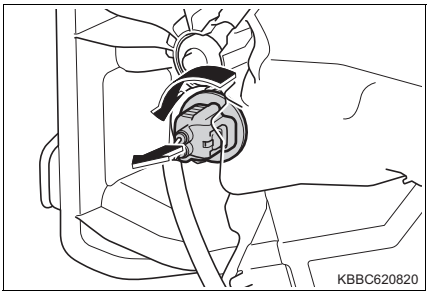
5 フロントバンパーを矢印の方向にめくる



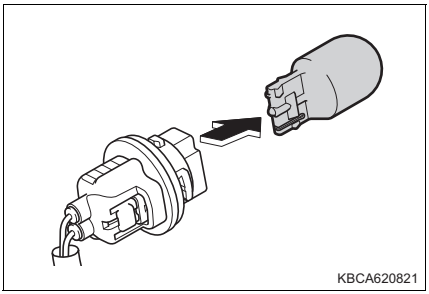
6 ランプ本体を取り外す



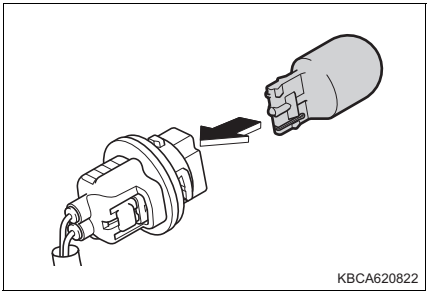
7 ソケットを回して取り外す



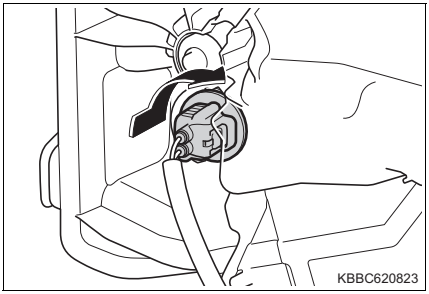
8 電球を取り外す



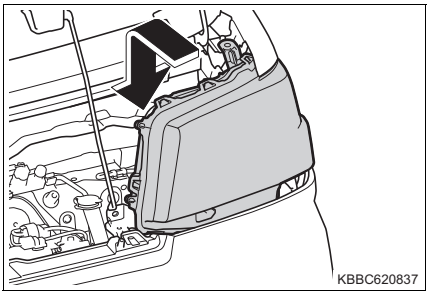
9 新しい電球を取り付ける



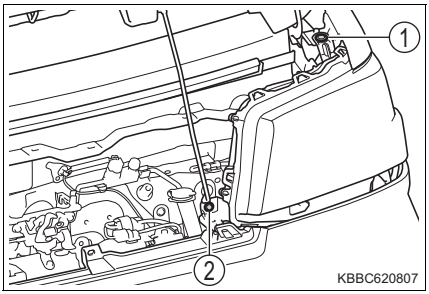
10 ソケットを回して取り付ける



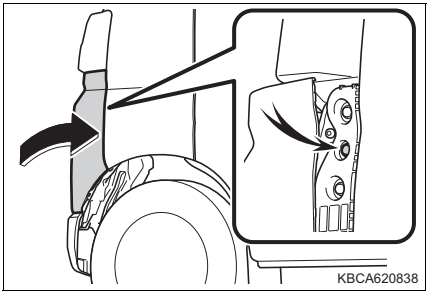
11 ランプ本体を取り付ける



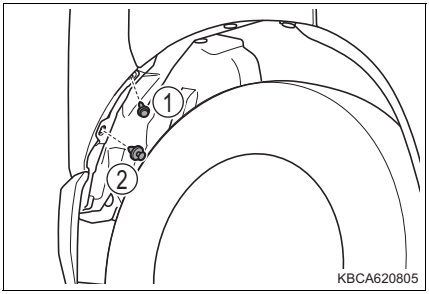
12 ヘッドランプのクリップ（①）とボルト（②）を取り付ける



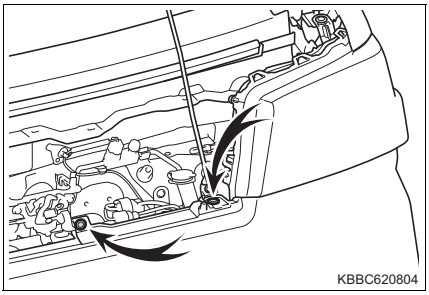
13 ボルトとフロントバンパーを取り付ける



14 ボルト（①）とクリップ（②）を取り付ける

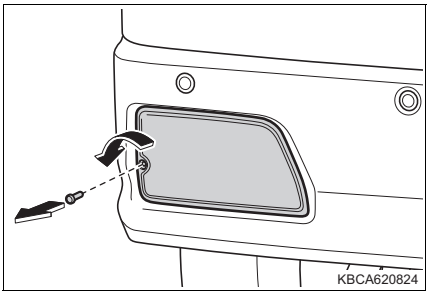


15 クリップ（2 個）を取り付ける

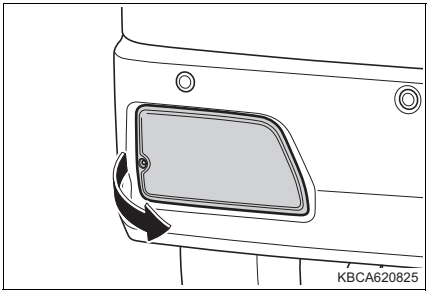


■ 後退灯・リヤ方向指示／非常点滅灯

1 ネジを取り外す



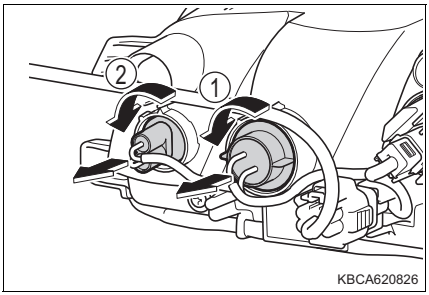
2 ランプ本体を矢印の方向に引き、取り外す



3 ソケットを取り外す

① リヤ方向指示／非常点滅灯

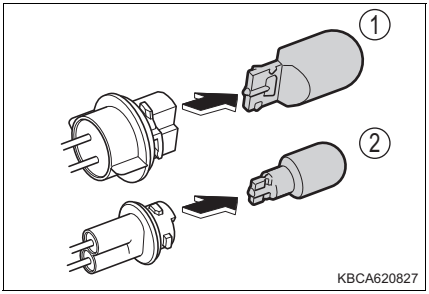
② 後退灯



4 電球を取り外す

① リヤ方向指示／非常点滅灯

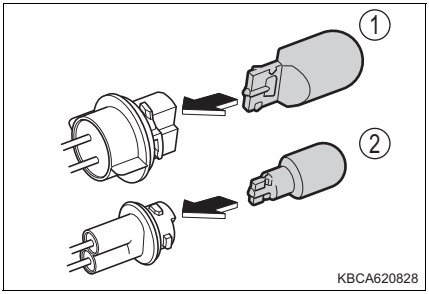
② 後退灯



5 電球を交換し取り付ける

① リヤ方向指示／非常点滅灯

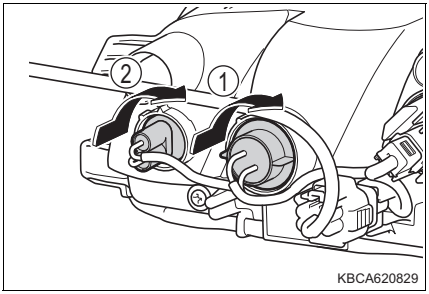
② 後退灯



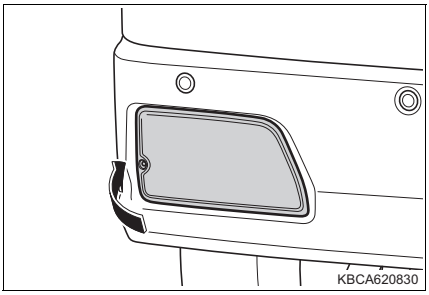
6 ソケットを取り付ける

① リヤ方向指示／非常点滅灯

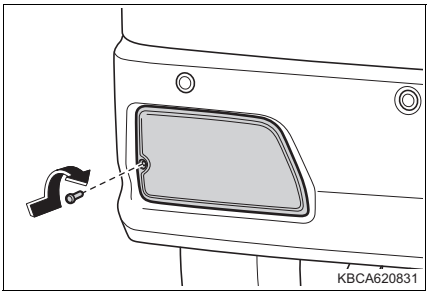
② 後退灯



7 ランプ本体を矢印の方向に取り付ける

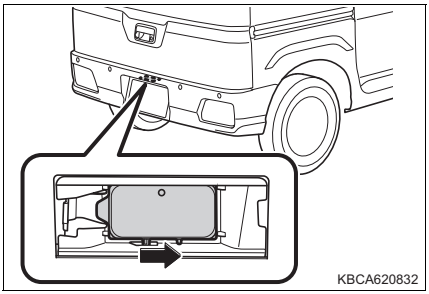


8 ネジを取り付ける

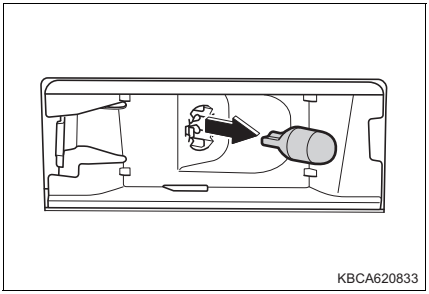


■ **番号灯**

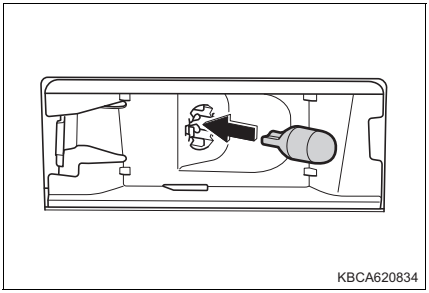
1 レンズをスライドして取り外す


KBCA620832

2 電球を取り外す

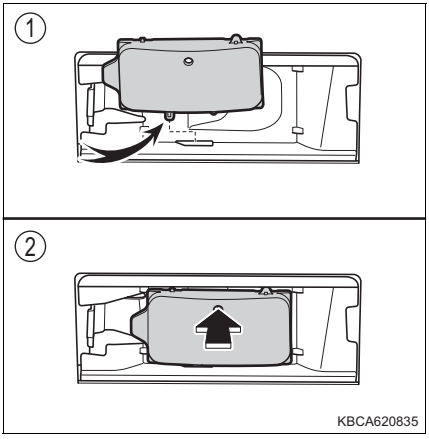

KBCA620833

3 新しい電球を取り付ける


KBCA620834

4 レンズを取り付ける

レンズの突起部をランプ本体の溝に入れ（①）、矢印の方向に押して（②）取り付ける



KBCA620835

■ その他の電球

次の電球が切れたときは、スズキ販売店またはスズキ代理店で交換してください。

●ヘッドランプハイビーム／ロービーム

●車幅灯

●制動灯／尾灯

●ハイマウントストップランプ

●サイドビューランプ

知識

■ヘッドランプについて

ヘッドランプを固定しているボルトには、ゆるみ止め剤が使用されています。

ヘッドランプを脱着するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

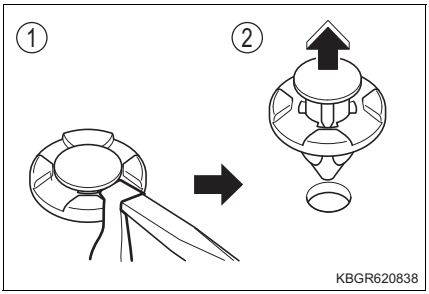
■LED ランプについて

LED ヘッドランプ、ハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、スズキ販売店またはスズキ代理店で交換してください。

■クリップを取り外し、取り付けするときは

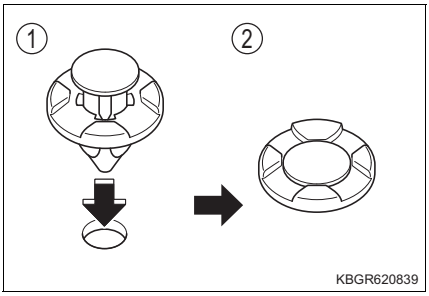
●クリップを取り外すときは、マイナスドライバーなどを使ってクリップの中心部を引き出し（①）、クリップを引き抜いて（②）ください。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



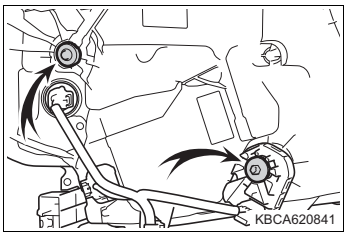
知識

●クリップを取り付けるときは、クリップを差し込み（①）、中心部を押して（②）ください。



■ヘッドランプを交換するときは

ヘッドランプの光軸がずれるおそれがあるため、光軸調整用ネジに触れないでください。
電球を交換したあとはスズキ販売店またはスズキ代理店でヘッドランプ光軸の点検を受けてください。



■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

●レンズ内側に大粒の水滴が付いている

●ランプ内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 371

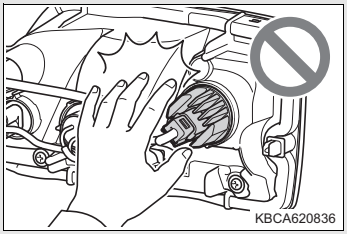
⚠ 警告

■電球を交換するときは

- ●ランプは消灯してください。消灯直後は電球が高温になっているため、交換しないでください。
  やけど・感電をするおそれがあり危険です。
- ●電球のガラス部を素手で触れないでください。
  やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
  また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- ●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- ●電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
  感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■後退灯、リヤ方向指示／非常点滅灯の電球を交換するときは

制動灯／尾灯の消灯直後は、裏側の放熱板が高温になるため、触れないでください。やけどをすることがあります。



■お車の故障や火災を防ぐために

- ●電球が正しい位置にしっかり取り付けられていることを確認ください。
- ●発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

万一の場合には 9

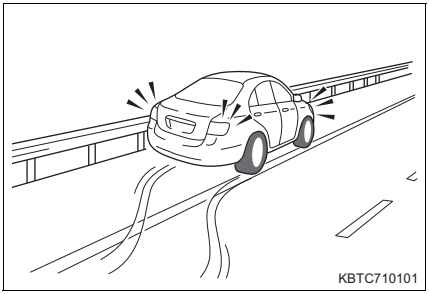
9-1. まず初めに
故障したときは …… 386
非常点滅灯（ハザードランプ） …… 387
発炎筒 …… 388
車両を緊急停止するには … 390
水没・冠水したときは …… 391
車中泊が必要なときは …… 392
9-2. 緊急時の対処法
けん引について …… 393
警告灯がついたときは …… 399
警告メッセージが表示されたときは …… 403
「スマアシ停止」が表示されたときは …… 421
パンクしたときは …… 424
EV システムが始動できないときは …… 435
携帯リモコンが正常に働かないときは … 436
補機バッテリーがあがったときは …… 438
オーバーヒートしたときは …… 442
スタックしたときは …… 445

故障したときは

故障のときはただちに次の指示に従ってください。

非常点滅灯（→ P. 387）を点滅させながら、お車を路肩に寄せ停車する。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



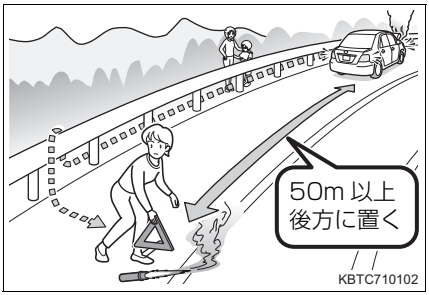
高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

●同乗者を避難させる

●車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 388）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

- 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
- 発炎筒は、燃料漏れの際やトンネル内では使用しないでください。

●その後、ガードレールの外側などに避難する

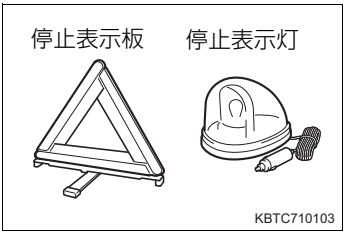


知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

●停止表示板のご購入については、スズキ販売店またはスズキ代理店にお問い合わせください。



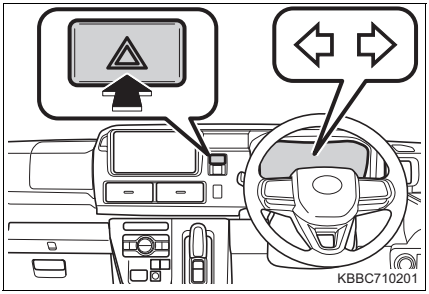
非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。

再度押すと消灯します。



⚠ 注意

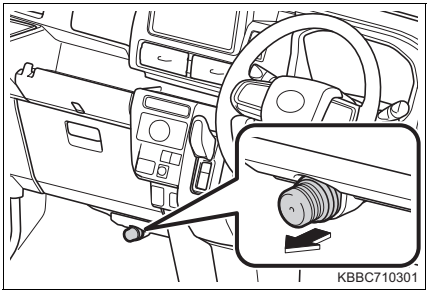
■非常点滅灯について

EV システム停止中に非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

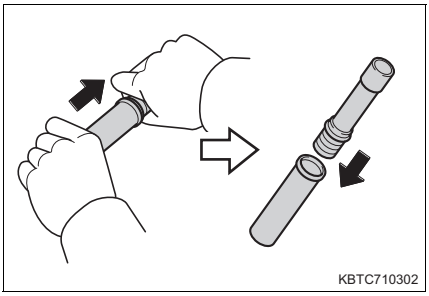
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

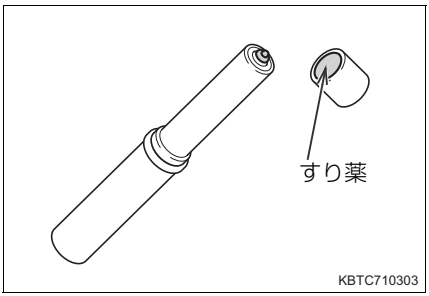
1 助手席足元の発炎筒を取り出す



2 本体を回しながら抜き、本体を逆さにして差し込む



3 先端のふたを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、スズキ販売店またはスズキ代理店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠ 警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

●トンネル内

●ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない

●発炎筒は、お子さまに触れさせない

車両を緊急停止するには

万一、お車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかり踏み続ける

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトポジションを N にする

▶シフトポジションが N になった場合

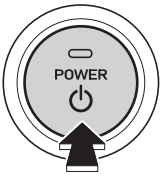
3 減速後、お車を安全な道路脇に停める

4 EV システムを停止する

▶シフトポジションが N にならない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを３秒以上長押しするか、素早く３回以上連続で押して EV システムを停止する



３秒以上長押しする
または
３回以上連続で押す

KBRO710401

5 お車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ず EV システムを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなるとともにハンドル操作が重くなるため、お車のコントロールがしにくくなり危険です。EV システムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。
冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。
車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内にとどまると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドースイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

  車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドーが作動しなくなったり、モーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※ の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。

この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはスズキ販売店またはスズキ代理店にお問い合わせください。

⚠ 警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

⚠ 警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

けん引について

けん引は、できるだけスズキ販売店またはスズキ代理店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

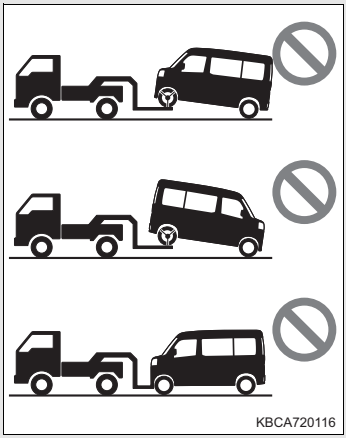
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

必ず４輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、お車の向きが変わり事故につながったりするおそれがあります。また、モーターが回転して発電し、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パワースイッチを“OFF”にしないでください。
  パーキングロックにより、後輪が固定され思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 他車をけん引する能力はありません。車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。

⚠ 警告

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかり取り付けてください。

指定の位置にしっかり取り付けていないと、けん引時にフックが外れるおそれがあります。

⚠ 注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

- ワイヤーロープは使用しない
- 速度は 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
- 前進方向でけん引する
- サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■パワースイッチが故障したときは

ハンドルロックが解除できないため、ロープによるけん引はできません。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■輸送用フックについて

フロント側の固縛位置で他車をけん引したり、リヤ側の固縛位置で他車に引っ張り出してもらったりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより後輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。

スズキ販売店またはスズキ代理店または専門業者にご依頼ください。

●シフト制御システムに異常があるとき（→ P. 194, 416）

●キーフリーシステムに異常があるとき（→ P. 436）

●補機バッテリーがあがったとき（→ P. 438）

けん引の前にスズキ販売店またはスズキ代理店への連絡が必要な状況

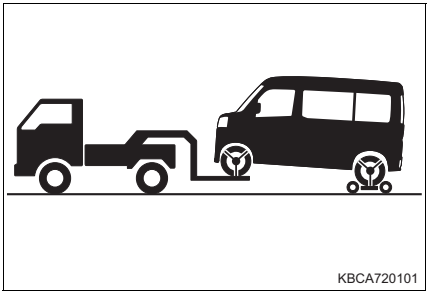
次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、スズキ販売店またはスズキ代理店または専門業者へご連絡ください。

●EV システムの異常を示す警告メッセージが表示され、お車が動かない

●異常な音がする

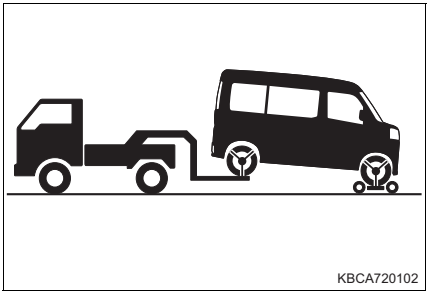
レッカー車でけん引するとき

▶前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶後ろ向きにけん引するときは

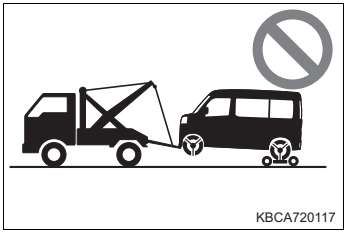


台車を使用して前輪を持ち上げる

⚠ 注意

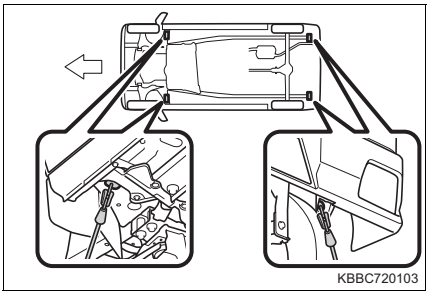
■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

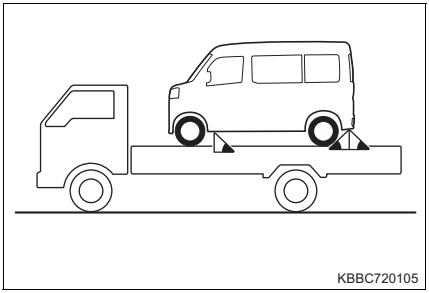


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する


KBBC720103

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が目安で 45° になるように固縛する


KBBC720105

⚠ 注意

■車両運搬車にお車を固縛するとき

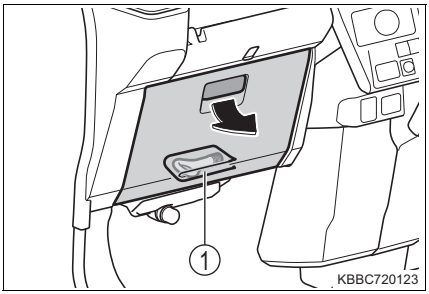
- ケーブルなどを過度に締め付け過ぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。
- リヤ側の固縛位置で他車に引っ張り出してもらうなどしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

1 グローブボックスからけん引フックを取り出す（→ P. 307）

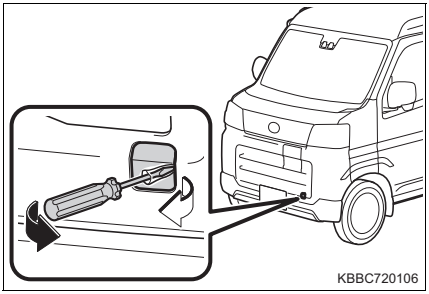
工具袋に入った状態で収納されています。



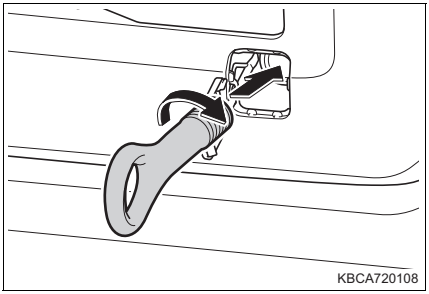
KBBC720123

2 マイナスドライバーなどを使ってふたを外す

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。

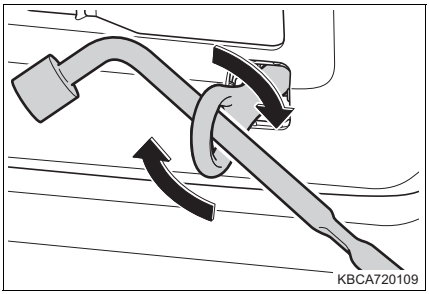

KBBC720106

3 けん引フックを穴に差し込んで回し、軽く締める


KBCA720108

4 ホイールナットレンチ※ や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

※ スズキ販売店またはスズキ代理店で購入することができます。

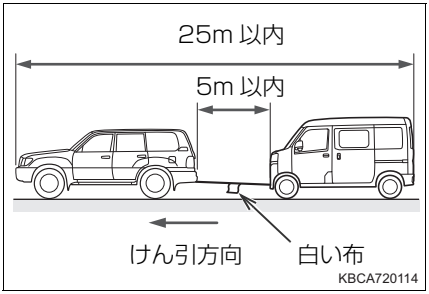

KBCA720109

5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



KBCA720114

7 運転者はけん引される車両に乗り、EV システムを始動する

EV システムが始動しないときは、パワースイッチを“ON”にしてください。

8 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

EV システムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

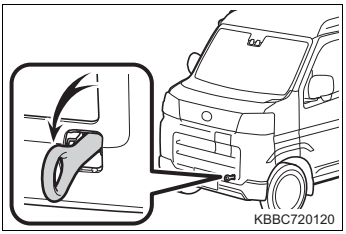
■ホイールナットレンチについて

スズキ販売店またはスズキ代理店で購入することができます。

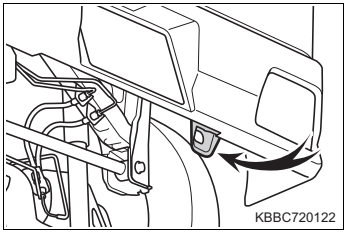
■輸送用フックについて

図に示す位置は船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。また、フロント側の固縛位置で他車をけん引したり、リヤ側の固縛位置で他車に引っ張り出してもらったりすることはできません。

▶フロント



▶リヤ（車両右側）※



※ 車両左側のフックは、車両運搬車固縛用です。（→ P. 396）船舶固縛で使用しないでください。

■けん引が終わったら

けん引フックを取り外し、カバーを確実に取り付けてください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 （赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー※1）** • ブレーキ液の不足 • ブレーキ系統の異常 • 電動負圧ポンプシステムの異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
 （黄色）	**ブレーキ警告灯** 電動負圧ポンプシステムの異常 **→ ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**
	**SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯** • SRS エアバッグシステムの異常 • シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターの異常 **→ ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**
	**ABS 警告灯** ABS の異常 **→ ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**
 （赤色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**
※2  （黄色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** 電圧不足・パワーステアリングのオーバーヒート **→ ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作を控えてください。約 10 分経過すると通常の重さに戻ります。**
 （黄色）	**ADB（アダプティブドライビングビーム）警告灯** ADB（アダプティブドライビングビーム）の異常 **→ スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 （点滅）  （点滅） 	**スマートアシスト OFF 表示灯** **車線逸脱警報 OFF 表示灯** **マスターウォーニング** スマートアシストの一部機能の異常 **→ スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**
 （点灯）  （点灯） 	**スマートアシスト OFF 表示灯** **車線逸脱警報 OFF 表示灯** **スマートアシスト停止警告灯** スマートアシストの機能停止 **→ 表示された各機能停止コードごとに対処してください。** **（→ P. 421）**
 （点灯）	**スリップ表示灯** • ブレーキアシストの異常 • VSC システムの異常 • TRC システムの異常 （VSC・TRC 作動時は点滅します→ P. 280） • ヒルホールドコントロールの異常 **→ スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**
	**手放し運転警告灯（警告ブザー）** ハンドルの手放し運転をしている **→ ハンドルをしっかりと握って操作してください。**
	**電池残量警告灯** 駆動用電池の残量や状態から充電が必要（低温時には、早めの充電を促すために早く点灯することがあります） **→ 駆動用電池を充電してください。** **さらに残量が低下すると、EV システムの出力が制限されます。**
	**運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯※3（警告ブザー※4）** 運転席・助手席シートベルトの締め忘れ **→ シートベルトを着用する**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	**後席シートベルト締め忘れ警告灯★※5、6（警告ブザー※7）** 後席シートベルトの締め忘れ **→ シートベルトを着用する**
	**パーキングブレーキ未解除警告灯（警告ブザー※8）** パーキングブレーキがかかっているとき **→ パーキングブレーキを解除する**

※1 ブレーキ液警告ブザー：
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったときは、ブレーキ液の不足が考えられます。

※2 パワーステアリング警告灯（黄色）：
消灯しない場合、繰り返し点灯する場合はスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

※3 助手席シートベルト締め忘れ警告灯の乗員検知センサー：
助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

※4 運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告ブザー：
運転席・助手席シートベルトを締め忘れたまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを締め忘れたままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

※5 インストルメントパネル中央に表示されます。

※6 後席シートベルト締め忘れ警告灯★：
後席シートベルトが非装着の状態で、パワースイッチを“ON”にしたとき、または後席シートベルトを外すと点灯します。
後席シートベルトを着用する、または車速約 20km/h 以上で走行後約 60 秒経過（警告ブザーが鳴っている場合は約 30 秒経過）すると消灯します。
また、約5km/h以下で後席シートベルトを外し、リヤドアを開閉すると点灯します。

※7 後席シートベルト締め忘れ警告ブザー★：
車速が約 20km/h 以上で乗員が後席シートベルトを外すと約 30 秒間鳴り続けます。一度警告ブザーが鳴ると、約20km/h以下で走行しても約30秒間鳴り続けます。
後席シートベルトを着用する、または約 5km/h 以下でリヤドアを開閉すると、ブザーが停止します。

※8 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

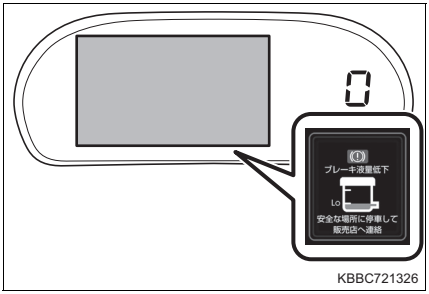
⚠ 警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操舵力補助が制限され、赤色に点灯したときは操舵力補助がなくなるため、ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかり持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、スズキ販売店またはスズキ代理店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

警告メッセージ	警告内容・対処方法
  （赤色）	**ブレーキ液の不足** 車速が約 5km/h を超えたときには警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
  （赤色）	**ブレーキ系統の異常** **→ ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 （赤色）	**電動負圧ポンプシステムの異常** **→ ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
 （黄色）	**電動負圧ポンプシステムの異常** **→ ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**
	**補機バッテリー充電系統の異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店へ連絡してください。**
	**補機バッテリー充電系統の異常** **→ ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	補機バッテリーが劣化している可能性がある → ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。 パーキングロックの機能が作動しない場合があります。駐車時は平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけてください。
	補機バッテリーが劣化している可能性がある → ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
	SRS エアバッグシステムの異常 シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターの異常 → ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
	ABS の異常 → ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 （赤色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
 （黄色）	電圧不足・パワーステアリングのオーバーヒート 警告ブザーが鳴ります。 → ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作を控えてください。約 10 分経過すると通常の重さに戻ります。
	キーフリーシステムの異常 → ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
	自動光軸調整システムの異常 → ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
  （黄色）	ADB（アダプティブドライビングビーム）の異常 → スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
  （点滅）  （点滅） 	スマートアシストの異常 → スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
 	コーナーセンサーの異常 警告ブザーが鳴ります。 → スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
	コーナーセンサー機能低下 警告ブザーが鳴ります。 → 雨、雪、氷、汚れなどがバンパーのソナーに付着していないか確認し、取り除いてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	**車両接近通報装置の異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**
  （点灯）	**ブレーキアシストの異常** **VSC システムの異常** **TRC システムの異常** **ヒルホールドコントロールの異常** **→ スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**
 	**車両通信システムの異常** **→ スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**
 	**車両のセンサー、ユニット系統の異常** **→ スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	ブレーキオーバーライドシステムの異常 → スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
	ドライブスタートコントロールの異常 → スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
	ブレーキオーバーライドシステムが作動 → アクセルペダルから足を離してください。
	ドライブスタートコントロールの作動時 → ただちにアクセルペダルから足を離す
	シフトポジションがNでアクセルペダルを踏んでいる → アクセルペダルから足を離し、シフトポジションをDまたはRにしてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	**回生ブレーキが制限されている** 次のような状況では、回生ブレーキが制限されることがあります。 • 満充電により、これ以上回生ができないとき • 駆動用電池の温度が極端に高いとき、または極端に低いとき • 駆動モーターやインバーターの温度が極端に高いとき **→ ブレーキペダルをしっかり踏んで減速してください。**
	**上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持している** そのままの状態を続けるとEVシステムが過熱するおそれがあります。 **→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。**
	**EV システムが高温になり出力が制限されている** 負荷の高い走行をしている（例えば、長い上り坂を走行）ときに表示される場合があります。アクセルペダルを踏んでも速度が上がりにくくなります。 **→ 安全な場所に停車し、EV システムの冷却系統に異常がないか点検してください。（→ P. 442）**
 	**手放し運転をしている** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ハンドルをしっかりと握って操作してください。**
	**いずれかのドアが確実に閉まっていない** 開いているドアが表示されます。 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h（スライドドアは約 3km/h）を超えたときにはブザーが鳴ります。 **→ 全ドアを閉める**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	**駆動用電池の残量や状態から充電が必要になった** 低温時には、早めの充電を促すために早く表示することがあります。 **→ 駆動用電池を充電してください。** **さらに残量が低下すると、EV システムの出力が制限されます。**
	**運転席、または助手席シートベルト締め忘れ** 警告ブザーが鳴ります。 車速が約 20km/h を超えたときに表示されます。 **→ シートベルトを着用する**
	**後席シートベルト締め忘れ** 警告ブザーが鳴ります。 車速が約 20km/h を超えてシートベルトを外したときに表示されます。 **→ シートベルトを着用する**
	**パーキングブレーキが解除されていない** パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h を超えたときには警告ブザーが鳴ります。 **→ パーキングブレーキを解除する**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 ※1 	**衝突警報機能（対車両、対歩行者 [昼夜]、対自転車）が作動** **衝突回避支援ブレーキ機能（対車両、対歩行者 [昼夜]、対自転車）が作動** **ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のブレーキ制御が作動** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする**
 ※2 	**ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の警報が作動** **ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の EV システム出力の抑制制御が作動** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする**
 ※2 	**ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする**
	**先行車発進お知らせ機能が作動** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の安全を確認し、車両を発進させる**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
  （点滅）	**車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の安全を確認し、ハンドルを操作して車両を車線内に戻す**
  （点灯）	**ふらつき警報機能が作動** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の安全を確認し、ハンドルを操作して車両を車線内で適切な運転をする**
	**システムが休憩が必要と判断した** **→ 安全な場所に停車し、休憩する**
	**コーナーセンサー作動** 作動しているソナーの箇所が表示されます。 警告ブザーが鳴ることがあります。 **→ 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
  （点滅）	VSC が作動 → 特に慎重な運転をする
	車幅灯点灯時に、運転席ドアを開けた 警告ブザーが鳴ります。 → 車幅灯を消灯する
 	停車時、ハンドルが左、または右に操作されている → タイヤの向きを確認し、安全に車両を発進させる
	外気温が約 3 ℃以下になった → 路面凍結の可能性があるため、路面状況を確認し慎重な運転をする

※1 衝突回避支援ブレーキ機能の 1 次ブレーキ・2 次ブレーキ、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のブレーキ制御が作動したとき点灯します。

※2 ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の EV システム出力制御、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）の EV システム出力制御・ブレーキ制御が作動したとき点灯します。

EV システム異常のメッセージ

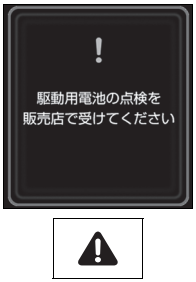
次の EV システム異常のメッセージが表示されたときは、表示内容に従い、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店へ連絡する、またはスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けるなどの対処をしてください。

警告メッセージ（表示例）	警告内容
	●バッテリー系故障 ●アクセル系故障 ●プラグイン充電システム故障 ●EV システム故障 ●EV システム停止 警告ブザーが鳴ります。

次の EV システム異常のメッセージが表示されたときは、けん引による輸送をしないでください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	**EV システムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ けん引による輸送をせず、ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店へ連絡してください。**

次の駆動用電池のメッセージが表示されたときは、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。そのまま放置しておくと、EV システムが始動できなくなる場合があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	**駆動用電池の機能低下** **→ ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。EV システムが始動できなくなる場合があります。**

シフト制御システム異常のメッセージ

次のシフト制御システム異常のメッセージが表示されたときは、表示内容に従い、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店へ連絡する、またはスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けるなどの対処をしてください。

警告メッセージ（表示例）	警告内容
	●シフトシステム故障 ●P スイッチ故障 ●シフトシステム不作動

パーキングブレーキの対処方法のメッセージが表示された場合は、次の対処方法に従ってください。

警告メッセージ	対処方法
	駐車時は平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかける

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示とは異なる場合があります。

■警告メッセージの表示について

パワースイッチが“ON”のときに RETURN スイッチを押すと、警告メッセージが非表示になります。

（非表示にしても、数秒後に再表示する警告メッセージがあります）

■「開いています」の警告メッセージが表示されたときは

補機バッテリーあがりを防ぐため、パワースイッチを“ACC”または“OFF”でドアを開けたまま約 10 分が経過すると、自動で非表示になります。

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能について

次のような場合は、車線・道路※ を逸脱しても、警告メッセージが表示されないおそれがあります。

●作動条件以外の車速で走行しているとき

●走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき

また、その他にも、システムが正常に作動しない場合があります。（→ P. 254）

※ アスファルトと草・土などの境界

■シフト操作に関するメッセージが表示されたときは

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切り替わったり、シフトポジションの操作が指示されたりすることがあります。その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、キーフリーシステムの警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	—		携帯リモコンを携帯していない状態でEV システムを始動しようとした **→ 携帯リモコンを携帯する※1**
5 回	3 回		パワースイッチが“ACC”または“ON”のときにいずれかのドアを開けて、携帯リモコンを車外に持ち出し、ドアを閉めた • 警告ブザーが鳴ります。 **→ 携帯リモコンを携帯して乗車する**
—	1 回		車内に携帯リモコンを置いたまま、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチ★でドアを施錠しようとした **→ 車内から携帯リモコンを取り出したあと、再度施錠する**
—	1 回		パワースイッチが“OFF”のときに、車内に携帯リモコンを置いたまま、すべてのドアが施錠されている状態で運転席以外のドアのロックレバーを解錠側にして、ドアを開けて閉めた **→ 携帯リモコンを携帯して施錠する**
—	1 回		パワースイッチが“OFF”のときに、車内に携帯リモコンを置いたまま、運転席ドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした **→ 車内から携帯リモコンを取り出したあと、再度施錠する**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	—		携帯リモコンを携帯していない状態で 2 回 EV システムを始動しようとした **→ 携帯リモコンを携帯する※1**
—	—		自動でパワースイッチが “OFF” になった • パワースイッチが “ACC” のときは 1 時間以上、“ON” のときは 20 分以上経過すると表示されます。 **→ 次回 EV システム始動時に、約 5 分間 EV システムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電する**
3 回	—		携帯リモコンの電池切れが近いときにパワースイッチを “OFF” にした※2 • 警告ブザーが鳴ります。 **→ 新しい電池に交換する（→ P. 367）**
—	—		パワースイッチを押してハンドルロックが解除できなかった **→ ブレーキペダルを踏んでハンドルを左右に回しながらパワースイッチを押す**
—	1 回		パワースイッチが “ACC” または “ON” のときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチ★でドアを施錠しようとした **→ パワースイッチを “OFF” にして施錠する**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 携帯リモコンが車内にあっても EV システムが始動しない場合は、電池が切れている可能性があります。(→ P. 367)

※2 電池切れが近い状態を継続すると、パワースイッチを“ACC”または“ON”にしたときも表示されます。

知識

■警告メッセージについて

→ P. 417

■警告メッセージの表示について

→ P. 417

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザーが聞こえない場合があります。

「スマアシ※ 停止」が表示されたときは

スマートアシストの機能が停止すると、「スマアシ停止」と機能停止コードがディスプレイに表示され、スマートアシスト OFF 表示灯と車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。その場合は、次のように対処してください。

また、機能停止のメッセージを表示することができます。（→ P. 113）

※ “スマアシ” はダイハツ工業株式会社の登録商標です。

機能停止コード一覧

機能停止コード	メッセージ	警告内容・対処方法
5E スマアシ停止		雨、雪、氷、汚れなどがフロントソナー部に付着している **→ ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると復帰**
6E スマアシ停止		フロントワイパーを “高速” で作動させている **→ 原因状態が解消されると復帰**
11E スマアシ停止		ステレオカメラが視界不良により前方を認識できない **→ 原因状態が解消されると復帰**
12E スマアシ停止		ステレオカメラ（車両前側）内が高温になった **→ 原因状態が解消されると復帰**

機能停止コード	メッセージ	警告内容・対処方法
14E スマアシ停止		スマートアシスト初期学習中 **→ しばらく走行すると復帰**
15E スマアシ停止		雨、雪、氷、汚れなどがリヤソナー部に付着している **→ ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると復帰**
16E スマアシ停止		フロントワイパーを“高速”で作動させている **→ 原因状態が解消されると復帰**

知識

■機能停止コードについて

- ●処置をしても、機能停止コードが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。
  通常の走行に支障はありませんが、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
- ●「5E」「6E」「15E」「16E」は、車速が上がると消灯します。
- ●「5E」「6E」は、シフトポジションがP・R・N以外のときに表示します。
- ●「11E」はシフトポジションがR以外のときに表示します。
- ●「15E」「16E」はシフトポジションがRのときに表示します。
- ●「5E」が表示されていても、「スマアシ停止」が表示されないことがあります。
- ●「5E」が表示されていても、スマートアシストOFF表示灯および車線逸脱警報OFF表示灯が表示されないことがあります。
- ●「15E」「16E」が表示されていても、車線逸脱警報OFF表示灯が点灯しないことがあります。

知識

- シフトポジションがDのときは、ワイパーを“高速”で作動させていても、「6E」、「スマアシ停止」が表示されないことがあります。
- グレード、オプションなどによる装備の有無によっては、表示されない停止コードがあります。

パンクしたときは

この車両には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク修理剤ボトル 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です) パンクしたタイヤの損傷状況により、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できない場合があります。(→ P. 425)

タイヤパンク応急修理セットで応急修理したタイヤの修理・交換については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。タイヤパンク応急修理セットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

⚠ 警告

■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。

短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

●地面が固く平らで安全な場所に移動する

●パーキングブレーキをかける

●シフトポジションを P にする

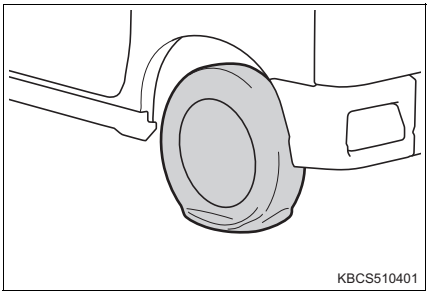
●EV システムを停止する

●非常点滅灯を点滅させる

●タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなり過ぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- パンク修理剤が漏れないようにするため、パンク箇所がわかっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。


KBCS510401

知識

■タイヤパンク応急修理セットで修理できないパンク

次の場合は、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できません。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき

●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき

●タイヤがホイールから明らかに外れているとき

●タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき

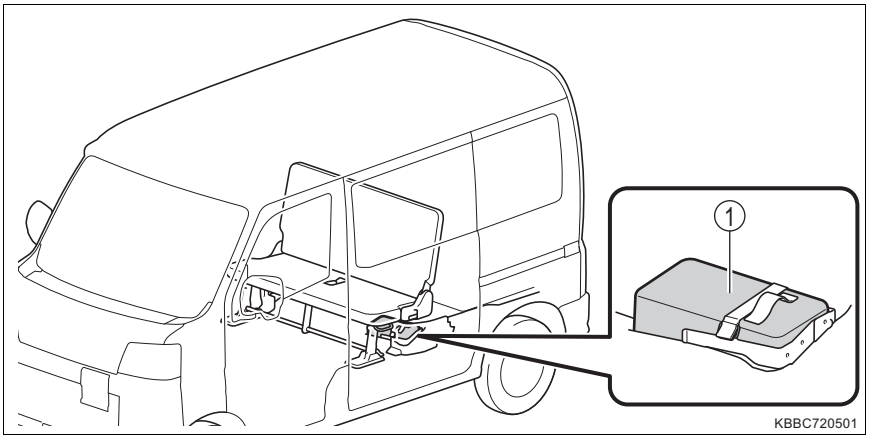
●ホイールが破損しているとき

●2 本以上のタイヤがパンクしているとき

●1 本のタイヤに 2 か所以上の切り傷や刺し傷があるとき

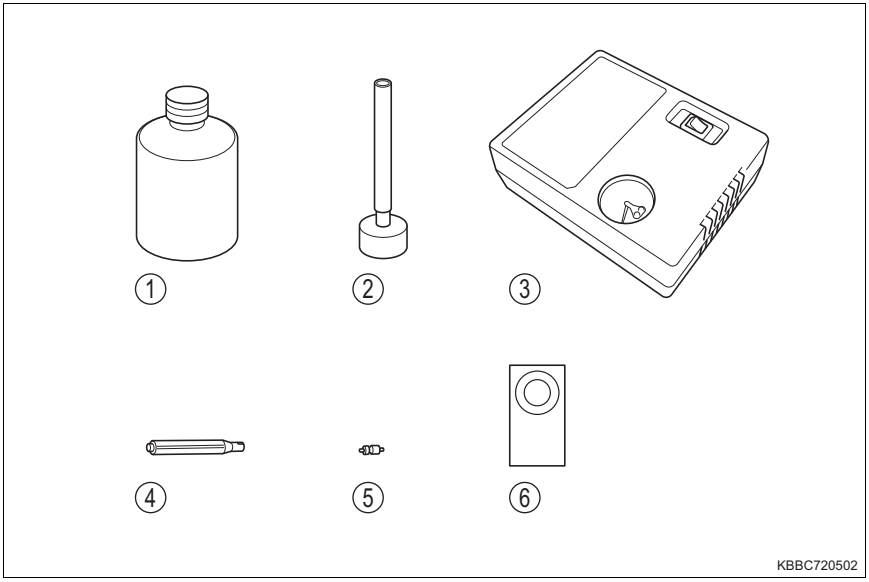
●パンク修理剤の有効期限が切れているとき

タイヤパンク応急修理セットの搭載位置



① タイヤパンク応急修理セット

タイヤパンク応急修理セットの内容／各部の名称

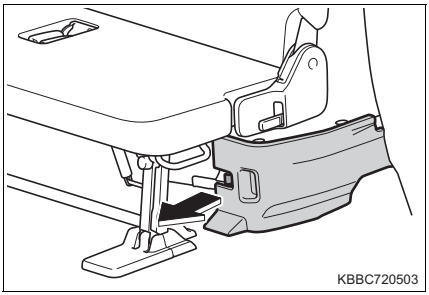


① パンク修理剤ボトル
② 注入ホース
③ コンプレッサー
④ バルブコア回し
⑤ 予備バルブコア
⑥ 速度制限シール

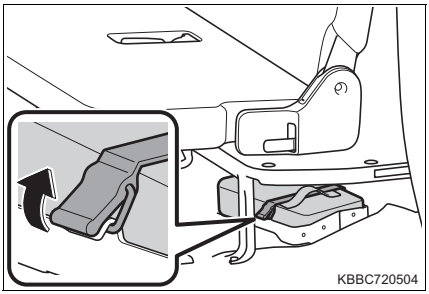
タイヤパンク応急修理セットの取り出し方

1 助手席側のスライドドアを開ける（→ P. 149）

2 サイドカバーのツマミ部をつまみながら矢印の方向へ取り外す（2 シーター仕様車以外）


KBBC720503

3 バンドを取り外し、タイヤパンク応急修理セットを取り出す


KBBC720504

知識

■タイヤパンク応急修理セットを収納するときは

使用後はもとの位置に戻し、確実に固定してください。

応急修理するとき

1 パンク修理剤ボトルとコンプレッサーを取り出す

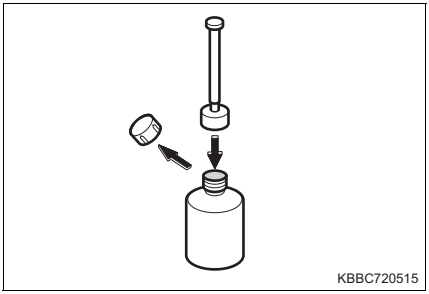
緩衝材が入っている場合は、応急修理後に破棄しないよう注意してください。
（新しく購入したパンク修理剤ボトルには、緩衝材が入っていません）

2 パンク修理剤ボトルをよく振る

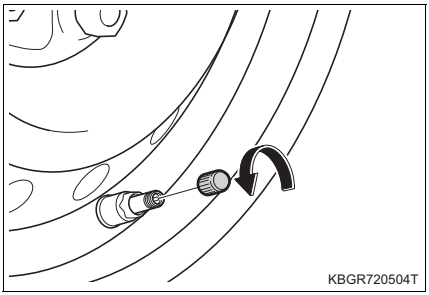
パンク修理剤ボトルは注入ホースをねじ込む前に振ってください。

3 パンク修理剤ボトルのキャップを取り外し、中ぶたを付けたまま注入ホースをねじ込む

注入ホースをねじ込むと中ぶたが破れます。

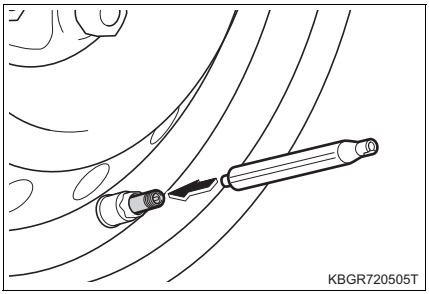

KBBC720515

4 パンクしたタイヤのバルブキャップを取り外す


KBGR720504T

5 タイヤに残った空気を完全に抜く

バルブにバルブコア回しを図の向きで押し付けると空気が抜けます。

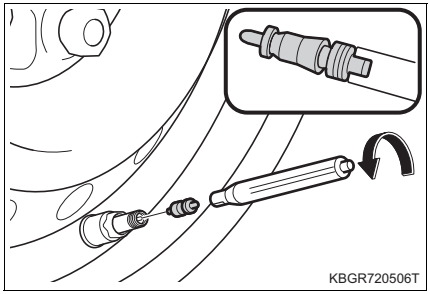

KBGR720505T

6 バルブコアを取り外す

バルブコア回しの溝がある部分を使ってバルブコアを回します。

タイヤに空気が残っているとバルブコアが飛び出すことがあります。慎重に外してください。

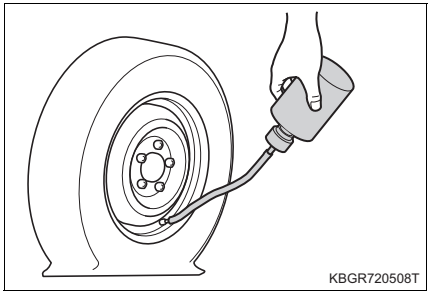
バルブコアは再度使用しますので汚れないようにきれいなところに保管してください。


KBGR720506T

7 注入ホースをタイヤのバルブに差し込む

8 パンク修理剤をタイヤ内にすべて注入する

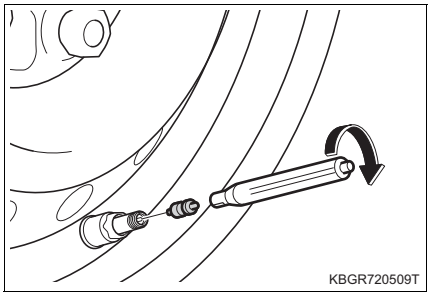
パンク修理剤ボトルを逆さまに持ち、手で何回も圧迫します。


KBGR720508T

9 注入し終わったら、注入ホースをタイヤバルブから引き抜く

10 バルブコアをタイヤバルブにしっかりとねじ込む

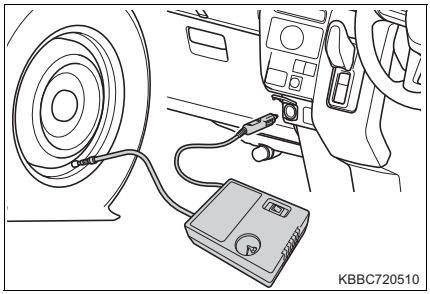
空になったパンク修理剤ボトルは、タイヤ交換または恒久修理のときに修理剤の抜き取りに使いますので、捨てずにスズキ販売店またはスズキ代理店までお持ちください。


KBGR720509T

11 コンプレッサーからホースと電源プラグを取り出し、車両に接続する

ホースはタイヤバルブにしっかりとねじ込みます。

電源プラグは車両のアクセサリーソケットに差し込みます。


KBBC720510

12 パワースイッチを“ACC”にする

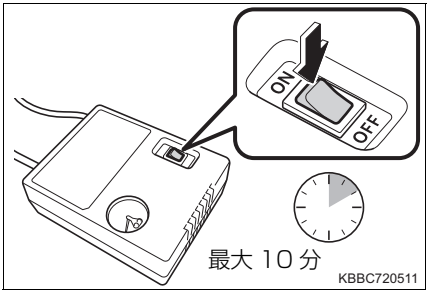
13 タイヤの指定空気圧を確認する

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。(→ P. 352)

14 コンプレッサーの電源を ON にし、タイヤに空気を入れる

空気圧ゲージで確認しながら、指定空気圧まで昇圧してください。

タイヤを指定の空気圧まで昇圧するには、約 10 分程度必要です。



▶10 分以内に指定の空気圧まで昇圧できない場合は

タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、タイヤパンク応急修理セットで修理することができません。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

15 指定の空気圧まで昇圧できれば、コンプレッサーの電源を OFF にして、車両から取り外す

16 ただちに走行を開始する

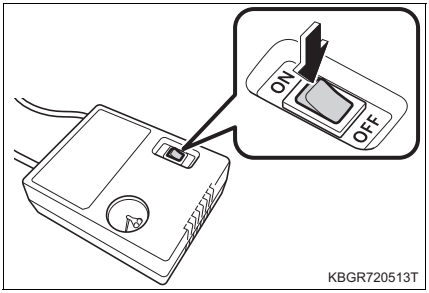
急加速・急ブレーキ・急ハンドルをさけ、80km/h 以下で慎重に運転してください。

17 10 分間または 5km 程度走行後、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、パワースイッチを “ON” にする

18 コンプレッサーを車両に接続し、タイヤの空気圧を空気圧ゲージで確認する

パワースイッチを “ACC” にする

コンプレッサーの電源をONにして作動させたあと電源を OFF にしてから、空気圧ゲージで確認する



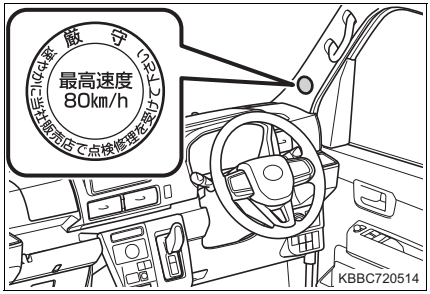
19 空気圧が 130 kPa 以上であれば、パンク応急修理を完了する

130 kPa 以上で指定空気圧に満たない場合は、コンプレッサーの電源を ON にし、昇圧する

▶空気圧が 130 kPa 以下に低下していたら

タイヤパンク応急修理セットによる修理はできません。走行を中止し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

20 付属の速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼る



21 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してスズキ販売店またはスズキ代理店へ行きます

タイヤの修理・交換についてはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

知識

■応急修理後のタイヤのバルブについて

タイヤパンク応急修理セットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■タイヤパンク応急修理セットの点検について

- パンク修理剤の有効期限の確認は定期的に行ってください。
  有効期限はパンク修理剤ボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク修理剤は使用しないでください。タイヤパンク応急修理セットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに差し込み、パワースイッチを “ACC” にして、作動の確認をしてください。

■タイヤパンク応急修理セットについて

- タイヤパンク応急修理セットは自動車タイヤの空気充填用です。
- タイヤパンク応急修理セットのパンク修理剤ボトルとホースは、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク修理剤ボトルとホースの交換は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 外気温度が− 30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。
- タイヤパンク応急修理セット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク修理剤が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク修理剤がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などでただちにふき取ってください。

知識

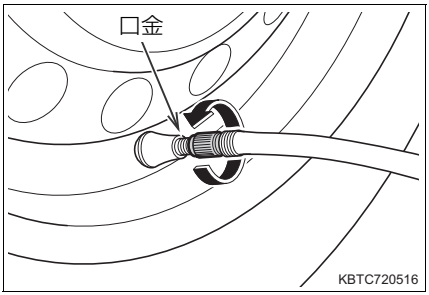
●コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●コンプレッサーをタイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

●新しいパンク修理剤ボトルは、スズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。

■空気を入れ過ぎてしまったとき

ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。



警告

■タイヤパンク応急修理セットについて

●タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などにタイヤパンク応急修理セットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●タイヤパンク応急修理セットはお客様のお車専用です。他車には使わないでください。他車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク修理剤について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

●コンプレッサーは、長時間作動させると過熱する可能性があります。10 分以上連続で作動させないでください。

●コンプレッサーの使用中に、作動がにぶくなったり、本体が熱くなったりしたときは、ただちに電源を“OFF”にし、30 分以上放置してください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。また、メーターやウインドーガラスなど、運転の妨げになるようなところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク修理剤を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●お車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルを取られたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
- タイヤを確認してください。タイヤがホイールから外れている可能性があります。
- 空気圧を確認してください。130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■応急修理をするとき

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
取り除いてしまうと、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●タイヤパンク応急修理セットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■タイヤパンク応急修理セットについて

●タイヤパンク応急修理セットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。

●タイヤパンク応急修理セットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●タイヤパンク応急修理セットは砂ぼこりや水を避けて収納してください。

●タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧ゲージなどに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

EV システムが始動できないときは

EV システムが始動できない原因は状況によって異なります。次の状況の中であてはまるものをご確認いただき、適切に対処してください。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしても EV システムが始動できないときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

正しい EV システムの始動方法（→ P. 192）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

●車両に充電ケーブルが接続している可能性があります。（→ P. 72）

●携帯リモコンが正常に働いていない可能性があります。※（→ P. 436）

●駆動用電池が電欠している可能性があります。駆動用電池を充電してください。（→ P. 70）

●シフト制御システムに異常がある可能性があります。※（→ P. 194, 416）

●携帯リモコンの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。

●駆動用電池の温度が極端に低い（およそ -25 ℃以下）可能性があります（→ P. 51, 194）

※ シフトポジションを P から切り替えることができない可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

●補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 438）

●補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

●補機バッテリーのターミナルが外れている可能性があります。

●補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 438）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしても EV システムが始動できないときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

携帯リモコンが正常に働かないときは

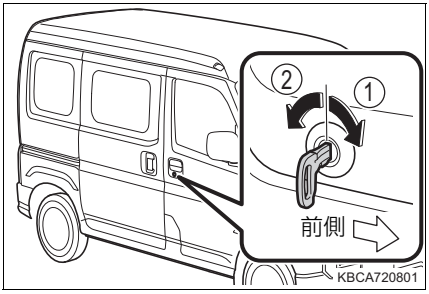
携帯リモコンと車両間の通信が妨げられたり（→ P. 139）、携帯リモコンの電池が切れたときは、キーフリーシステムと携帯リモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、EV システムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

エマージェンシーキー（→ P. 132）を使って次の操作ができます。

① 全ドア施錠

② 全ドア解錠

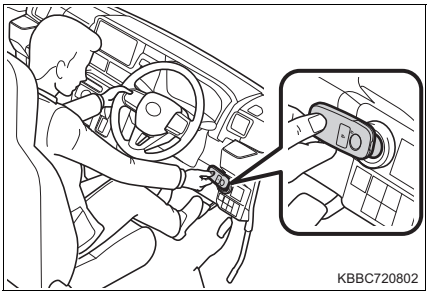


EV システム始動の方法

1 シフトポジションが P の状態でブレーキペダルを踏む

2 携帯リモコンを図のようにパワースイッチに接触させる

パワースイッチの表示灯が緑色に点灯します。



3 パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

知識

■EV システムの停止方法

通常の EV システム停止のしかたと同様、シフトポジションを P にしてパワースイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明している EVシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→ P. 367）

■パワースイッチモードの切り替え

EV システム始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、EV システムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切り替わります。（→ P. 193）

■携帯リモコンが正常に働かない場合

携帯リモコンが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は、解除してください（→ P. 139）

補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順で EV システムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、EV システムを始動させることができます。

1 補機バッテリーの＋端子のカバーを開ける

2 ブースターケーブルを次の順につなぐ

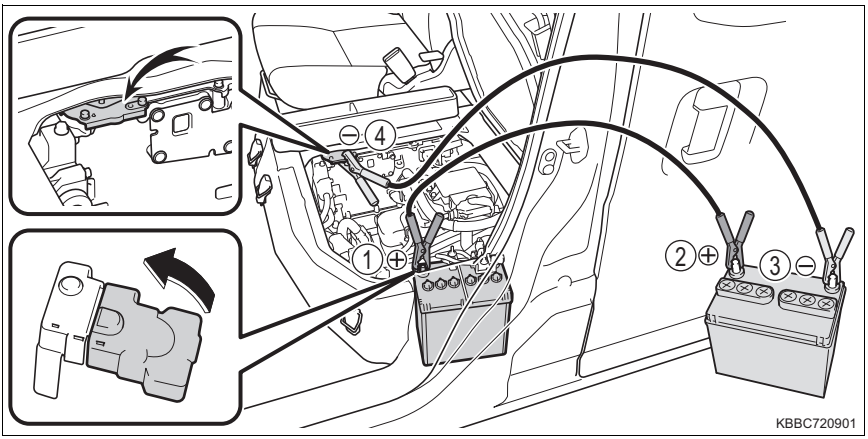
① 赤色のブースターケーブルを自車の補機バッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を図に示す位置につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

4 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチを一旦“ON”にしてから自車の EV システムを始動する

5 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

6 自車のEVシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順で外す

7 ＋端子のカバーを閉める

EV システムが始動しても、早めにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがりのときの始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していない間も、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがって EVシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがりのときや取り外し時など

- 補機バッテリーがあがった場合は、P から他のポジションに切り替えることができない可能性があります。その場合は、後輪が固定されているため、後輪を持ち上げないと車両の移動ができません。
- 補機バッテリーがあがったあとの、最初の EV システム始動は失敗することがあります。2 回目以降の EV システム始動は正常に作動しますので、問題ではありません。
- 車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがりのとき、補機バッテリー脱着後は、補機バッテリーを外す前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを“OFF”にしてから行ってください。
  補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

⚠ 警告

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

救援車のバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- ●補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない
- ●補機バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- ●補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- ●必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- ●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部に当てておく
- ●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- ●補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- ●お子さまを補機バッテリーに近付けない

■補機バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは

確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■**補機バッテリーあがりを防止するために**

●EV システムが作動していないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■**補機バッテリーを交換するとき**

装着されているバッテリーと同等の性能のものを使用してください。

適切なバッテリーをご使用いただかない場合、車両の性能に影響するおそれがあります。

詳しくはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

■**ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取り外すときは、冷却ファンに巻き込まれないように十分注意してください。

■**ブースターケーブルを接続するときは**

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

■**救援用端子について**

点検口内（→ P. 341）のヒューズボックスにある救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］に「EV システム高温出力制限中です」が表示される場合は、オーバーヒートの可能性があります。

対処方法

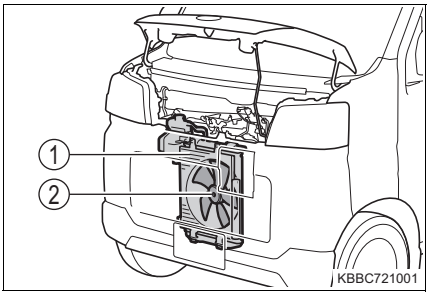
1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にする

2 EV システムが作動している状態で、ボンネットと点検口を開ける

3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているかを確認する

ファンが作動している場合：
「EV システム高温 出力制限中です」の表示が消えるまで待ち、EV システムを停止する

ファンが作動していない場合：
すぐに EVシステムを停止し、スズキ販売店またはスズキ代理店に連絡する



① ラジエーター

② ファン

4 EV システムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水漏れを点検する

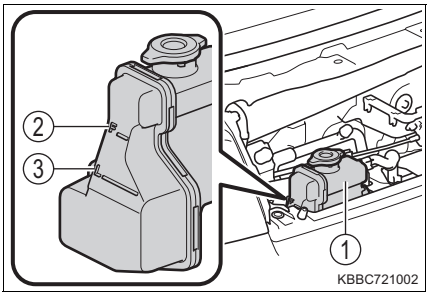
多量の冷却水漏れがある場合は、ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店に連絡してください。

5 冷却水の量が“F”（上限）と“L”（下限）の間にあるかを点検する

① リザーバータンク

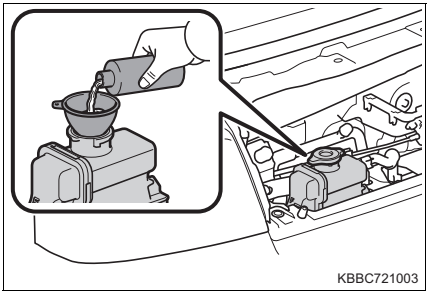
② “F”（上限）

③ “L”（下限）



6 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



できるだけ早く最寄りのスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■処置を行う前に

水温が高いときは、リザーバータンクのキャップを外さないでください。冷却水の圧力がキャップにかかっているので、蒸気や熱湯が吹き出し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■点検中の事故やけがを防ぐために

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- ボンネット内、点検口内から蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットと点検口を開けないでください。ボンネット内、点検口内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ボンネット（→ P. 345）・点検口（→ P. 341）の注意事項も併せてお読みください。
- EVシステムおよびラジエーターが熱い場合は冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって吹き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■冷却水を入れるとき

EV システムが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

EV システムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、EV システムが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない

●市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

1 パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、EV システムを停止する
2 タイヤ前後の土や雪を取り除く
3 タイヤの下に木や石などをあてがう
4 EV システムを再始動する
5 シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

VSC・TRC の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC・TRC を停止してください。（→ P. 280, 281）

⚠ 警告

■脱出するとき

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。

スタックから脱出するとき、お車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

お車が急発進したり、トランスミッションなどに重要な損傷を与えるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- アクセルペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤが破裂したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 10

10-1.仕様一覧
メンテナンスデータ …… 448
10-2.カスタマイズ機能
カスタマイズ機能一覧 …… 451
10-3.初期設定
初期設定が必要な項目 …… 456

メンテナンスデータ

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものを使用してください。

ラジエーター

指定銘柄	容量［L］（参考値）
アミックス※　ロングライフクーラント （高防錆力タイプ　ピンク） 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12 ℃	5.5

※“アミックス”はダイハツ工業株式会社の登録商標です。

eAxle（EV トランスアクスル）

指定銘柄	容量［L］（参考値※）
e- トランスアクスルフルード TE	3.7

※容量は参考値です。交換が必要な際はスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

⚠ 注意

■EV トランスアクスルオイルについて
指定銘柄以外のオイルを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
アミックスブレーキフルード（DOT3 相当）

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	0.5 ～ 2
踏み込んだときの床板とのすき間※	100

※EV システムが作動している状態で、294 N（30 kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 踏力 245N（25kgf）のときのノッチ※ 数	5 ～ 7

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

補機バッテリー

型式
M-42

ウォッシャータンク

容量［L］（参考値）
2.0

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
145/80R12 86/84N LT	12×4.00B	300（3.0）	450（4.5）

電球（バルブ）

電球	W（ワット）数
フロント方向指示／非常点滅灯	21
リヤ方向指示／非常点滅灯	21
後退灯	16
番号灯	5

※表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	電動機型式	駆動方式
S781Z	1CG	2WD 車（後輪駆動）

カスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてスズキ販売店またはスズキ代理店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］の操作により設定を変更できる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはスズキ販売店またはスズキ代理店へお問い合わせください。

カスタマイズ設定一覧

① マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］で設定可能（→ P. 115）

② スズキ販売店またはスズキ代理店で設定可能

■ マルチインフォメーションディスプレイ［カラー］（→ P. 109）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
12H/24H 表示	24H	12H	○	—
ターンシグナル（方向指示灯）ブザーの音色	トーン 1	トーン 2	○	—
		トーン 3		
オープニング音量	大	小	○	—
		OFF		
オープニング画面表示	する	しない	○	—
ハンドルポジションモニター（ハンドル位置の表示）	する	しない	○	—
充電電流	MAX	8A	○	—
		16A		
メーター照明が夜照度になる感度	0	-2 ～ 2	—	○

■ キーフリーシステム、ワイヤレスドアロック共通（→ P. 135）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	○
		120 秒		
作動の合図（音量）	レベル 5	OFF	○	○
		レベル 1 ～ 7		

■ キーフリーシステム（→ P. 135）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
キーフリーシステムの作動	あり	なし	—	○
携帯リモコンの室外自動検知機能の作動	あり	なし	—	○

■ ドアロック（→ P. 144）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
携帯リモコンを携帯して解錠範囲に入ったときの全ドア解錠（ウェルカムドアロック解除★）	なし	あり	○	○
ウェルカムドアロック解除★が作動してから 15 秒後に自動再ロック	あり	なし	—	○

■ 衝突警報機能（→ P. 229）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
衝突警報機能の警報タイミング	標準	早い	○	○
		遅い		

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能（→ P. 252）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
車線逸脱警報機能の警報タイミング	標準	早い	○	○
車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能の警報ブザー（音量）	大きい	小さい	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ふらつき警報機能（→ P. 259）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ふらつき警報機能の作動	あり	なし	○	○

■ 車線逸脱抑制機能（→ P. 252）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
車線逸脱抑制機能の作動	あり	なし	○	○

■ 先行車発進お知らせ機能（→ P. 262）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
先行車発進お知らせ機能の作動	あり	なし	○	○
先行車発進お知らせ機能の発進告知タイミング	標準	やや早い	○	○
		早い		
先行車発進お知らせ機能の警報ブザー（音量）	大きい	小さい	○	—

■ 標識認識機能 [車両進入禁止、最高速度、一時停止]（→ P. 265）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
標識認識機能 [車両進入禁止、最高速度、一時停止] の作動	あり	なし	○	○
標識認識機能 [車両進入禁止] 作動のブザー	なし	あり	○	—

■ オートエアコン（→ P. 296）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切り替える	する	しない	—	○

■ コーナーセンサー（→ P. 269）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
コーナーセンサーのブザー（音量）	レベル 2	レベル 1	○	○
		レベル 3		

■ ランプ（→ P. 147, 204）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ランプ消し忘れ防止機能	パワースイッチと連動	運転席ドアと連動	—	○
携帯リモコンで全ドア解錠時に車幅灯、番号灯、尾灯が自動点灯（ウェルカムランプ設定（テールランプ連動★））	しない	する	○	○

■ ADB（アダプティブドライビングビーム）（→ P. 207）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ADB（アダプティブドライビングビーム）の作動	あり	なし※	○	○

※ ADB（アダプティブドライビングビーム）の作動を「なし」に設定しても、サイドビューランプ（→ P. 209）は作動します。

■ イルミネーション（→ P. 304）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ドア開閉後に点灯している室内灯が自動で消灯する時間	15 秒	OFF	—	○
		7.5 秒		
		30 秒		
室内灯が自動で消灯する	する	しない	—	○
パワースイッチ“OFF”後の室内灯自動点灯機能	あり	なし	—	○
携帯リモコンを携帯して車両に近付いたときの室内灯自動点灯（ウェルカムランプ設定（ルームランプ連動））★	する	しない	○	○

■ フロントワイパー（→ P. 212）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
車速感応間欠作動機能	する	しない	○	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リヤワイパー&ウォッシャー（→ P. 214）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
リバース連動機能	する	しない	○	○
間欠作動時間の調整	標準	早い	—	○
		遅い		
間欠作動開始時に 4 秒間の低速作動	する	しない	—	○
リヤウォッシャー連動機能	する	しない	—	○

■ 方向指示レバー（→ P. 202）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
レバーを途中まで動かしたときの 3回点滅する機能	する	しない	○	○
逆方向にレバーを操作して点滅を中止させるときの、逆方向の 3 回点滅が始まるまでのレバー保持時間	レベル 2	レベル 1 ～ 4	—	○
右左折後に消灯させるハンドルの角度調整	レベル 3	レベル 1 ～ 9	—	○

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です

項目	機能の内容	参照
パワーウインドー	●補機バッテリーの充電・交換後の再接続 ●ヒューズ交換時	P. 178

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）…… 458
お車から音が鳴ったときは
（音さくいん）…… 461
アルファベット順さくいん…… 462
五十音順さくいん…… 463

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

●キーまたはエマージェンシーキーをなくした場合、スズキ販売店またはスズキ代理店でスズキ純正の新しいキーまたはエマージェンシーキーを作ることができます。（→ P. 132）

●キーまたは携帯リモコンをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。（→ P. 134）

施錠・解錠できない

●キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 367）

●パワースイッチが“ON”になっていませんか？
施錠するときはパワースイッチを“OFF”にしてください。（→ P. 193）

●携帯リモコンを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは携帯リモコンを携帯していることを確認してください。

●電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 139）

故障かな？と思ったら

EVシステムが始動できない

●充電ケーブルが接続されていませんか？（→ P. 72）

●ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押していますか？（→ P. 192）

●シフトポジションがPになっていますか？（→ P. 192）

●キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 136）

●ハンドルロックされていませんか？（→ P. 195）

●キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法で EVシステムを始動することができます。（→ P. 436）

●補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 438）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトポジションがPから動かない

●パワースイッチが“ON”になっていますか？

EVシステムを停止したあとにハンドルが回せなくなった

●盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 195）

パワーウインドースイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

●ウインドーロックスイッチが押されていませんか？
ウインドーロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドーは操作できなくなります。（→ P. 177）



パワースイッチが自動的に OFF になった

●一定時間“ACC”または“ON”（EV システムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 194）



警告音が鳴りだした

●警告音が鳴りだしたときは、「お車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 461）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

●警告灯や警告メッセージが表示されたときは、（→ P. 399，403）をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

●お車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理セットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 424）



立ち往生した

●ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 445）

お車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、お車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

お車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 206

走行しているとき

状況	原因	詳細
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 187

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）…… P. 296
ABS
（アンチロックブレーキシステム）…… P. 279
ACC
（アクセサリー）…… P. 193
ADB
（アダプティブドライビングビーム）…… P. 207
EDR
（イベントデータレコーダー）…… P. 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）…… P. 279
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）…… P. 30
TRC …… P. 279
USB
（ユニバーサルシリアルバス）…… P. 315
VSC …… P. 279

五十音順さくいん

あ

アウターハンドル
（ドアハンドル） …… 144
アウターミラー …… 173
　調整…… 173
アクセサリーソケット …… 314
アシストグリップ …… 316
アンチロックブレーキシステム
（ABS） …… 279
アンテナ …… 294

い

イグニッションスイッチ …… 192
位置交換
（タイヤローテーション） …… 351
イベントデータレコーダー
（EDR） …… 8
イルミネーテッドエントリーシステム
（ドア連動）
　カスタマイズ機能…… 451
　作動について…… 305
　点灯する部位…… 304
インジケーター（表示灯） …… 106
　エラーインジケーター…… 64
　充電インジケーター
　（普通充電ケーブル）…… 64
　電源インジケーター…… 64
　普通充電ケーブル…… 61
　READY …… 192
インターロックプラグ …… 50
EV システム …… 46
　インターロックプラグ …… 50
　運転のアドバイス …… 55
　オーバーヒート …… 442
　回生ブレーキ …… 47
　急速充電のしかた …… 85
　緊急時の停止方法 …… 390
　緊急停止システム …… 54
　駆動モーター …… 46
　高電圧部位 …… 50
　事故が発生したとき …… 52
　始動できないときは …… 435
　始動方法 …… 192
　車両接近通報装置 …… 49
　注意 …… 50
　電欠になったとき …… 54
　点検口 …… 341
　特徴 …… 46
　特有の音と振動 …… 48
　ドライブスタート
　コントロール …… 184
　パワー（イグニッション）
　スイッチ …… 192
　普通充電のしかた …… 77
　ブレーキオーバーライド
　システム …… 184
　補機バッテリーが
　あがった …… 438
　ボンネット …… 345
　メンテナンス・修理・廃車
　するとき …… 48

う

ウインカー（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換…… 373
方向指示レバー…… 202
ワット数…… 450
ウインドー …… 177
ウォッシャー…… 212, 214
手動式ウインドー…… 180
パワーウインドー…… 177
リヤデフォッガー…… 298
ウインドーロックスイッチ（パワーウインドーOFF スイッチ） …… 177
ウェルカムドアロック解除 …… 145
ウェルカムランプ設定 …… 124
ウォッシャー …… 212, 214
液の補給…… 349
スイッチ…… 212, 214
タンク容量…… 449
冬の前の準備・点検…… 285
ウォーニングランプ（警告灯） …… 399
動けなくなったときは（スタックした） …… 445
運転 …… 182
寒冷時の運転…… 285
走行可能距離……57
正しい運転姿勢……24
手順…… 182
電気自動車運転のアドバイス…55
運転席シートベルト締め忘れ警告灯 …… 400

え

エアコン
オートエアコン …… 296
フィルターの交換 …… 361
エアバッグ…… 30
SRS エアバッグ警告灯…… 399
配置 …… 30
エマージェンシーキー（メカニカルキー）…… 132
エマージェンシーストップシグナル（緊急ブレーキシグナル）…… 279
AC 電源コンセント …… 318
ADB（アダプティブドライビングビーム） …… 207

お

応急修理セット…… 424
お子さまを乗せるとき…… 35
ウインドーロックスイッチ（パワーウインドーOFF スイッチ）…… 177
エアバッグに関する警告 …… 30
お子さまのシートベルト着用 …… 28
お子さまを乗せるときの警告 …… 29
キーの電池に関する警告 … 369
シートベルトに関する警告 … 29
チャイルドシート …… 36
発炎筒の取り扱いに関する警告 …… 389
バックドアに関する警告 … 155
バッテリーに関する警告 … 440
パワーウインドーに関する警告 …… 178

お手入れ
外装…… 334
シートベルト…… 338
内装…… 338
オドメーター …… 111
機能…… 111
表示切り替えスイッチ…… 110
オートエアコン …… 296
オートライト
（自動点灯・消灯機能） …… 204
オーバーヒート …… 442
オープナー
バックドア…… 154
ボンネット…… 345
オープニング画面 …… 114

か

外気温度表示 …… 109
回生ブレーキ ……47
外装の電球（バルブ） …… 373
交換要領…… 373
ワット数…… 450
カスタマイズ機能 …… 451
型式 …… 450
ガラスの曇り取り
（リヤデフォッガー） …… 298
ガレージジャッキ …… 348
冠水路走行 …… 190
寒冷時の運転 …… 285
カーペット …… 338
洗浄…… 338
フロアマットの取り付け方……22

き

緊急時のシートベルト固定機構… 26
緊急時の対処
イベントデータレコーダー
（EDR） …… 8
EV システムが
始動できない …… 435
オーバーヒートした …… 442
キーの電池が切れた …367, 436
キーを失くした ……132, 134
警告灯がついた …… 399
警告メッセージが
表示された …… 403
携帯リモコンが
正常に働かない …… 436
けん引 …… 393
故障したときは …… 386
車中泊が必要なときは …… 392
車両を緊急停止する …… 390
水没・冠水したときは …… 391
スタックした …… 445
発炎筒 …… 388
パンクした …… 424
非常点滅灯
（ハザードランプ） …… 387
補機バッテリーが
あがった …… 438
緊急停止システム…… 54
緊急ブレーキシグナル
（エマージェンシー
ストップシグナル） …… 279

キー …… 132
イグニッションスイッチ…… 192
キーナンバープレート…… 132
キーの構成…… 132
キーの電池が切れた…… 367
キーを失くした…… 132, 134
携帯リモコン…… 132
携帯リモコンの作動範囲 …… 136
正常に働かない…… 436
施錠・解錠ができない…… 436
電池交換…… 367
パワースイッチ…… 192
メカニカルキー（エマージェンシーキー） …… 132, 436
キーフリーシステム …… 135
アンテナの位置…… 136
EV システムの始動 …… 192
カスタマイズ機能…… 451
警告ブザー…… 137, 418
作動範囲…… 136
正常に働かない…… 436
節電機能…… 139
電波がおよぼす影響について …… 143
ドアの施錠・解錠…… 135
パワースイッチ（プッシュボタンスタートスイッチ） …… 192
キーレスエントリー（ワイヤレス機能） …… 144
キーフリーシステム…… 135

く

空気圧（タイヤ）…… 450
空調（エアコン）
オートエアコン …… 296
フィルターの交換 …… 361
区間距離計（トリップメーター）…… 111
機能 …… 111
表示切り替えスイッチ …… 110
駆動モーター…… 46
駆動用電池
充電について …… 58
搭載位置 …… 46
駆動用電池残量計…… 109
駆動用電池充電
警告灯 …… 400
曇り取り
フロントウインドーガラス …… 298
リヤデフォッガー …… 298
クラクション（ホーン）…… 162
クリアランスランプ（車幅灯）…… 204
ランプスイッチ（ライトスイッチ） …… 204
電球（バルブ）の交換 …… 373
クリップ
フロアマット …… 22
クリーンエアフィルター…… 361
グローブボックス…… 307

け

警音器（ホーン） …… 162
計器類（メーター） …… 108
マルチインフォメーション
ディスプレイ（カラー） … 109
警告灯 …… 399
ADB（アダプティブ
ドライビングビーム） …… 399
アンチロックブレーキシステム
（ABS）…… 399
運転席シートベルト
締め忘れ …… 400
SRS エアバッグ …… 399
後席シートベルト
締め忘れ …… 401
車線逸脱警報 OFF 表示灯 … 400
助手席シートベルト
締め忘れ …… 400
スマートアシスト
OFF 表示灯…… 400
スリップ表示灯…… 400
手放し運転…… 400
電池残量…… 400
パワーステアリング…… 399
パーキングブレーキ
未解除 …… 401
プリテンショナー…… 399
ブレーキ…… 399
マスターウォーニング…… 400
警告ブザー
EV システム …… 415
運転席シートベルト
締め忘れ …… 400, 411
キーフリーシステム… 137, 418
後席シートベルト
締め忘れ …… 401, 411
コーナーセンサー…… 270, 413
車線逸脱警報機能・路側逸脱
警報機能 ……224, 413
衝突回避支援ブレーキ
機能 ……222, 412
衝突警報機能 ……222, 412
助手席シートベルト
締め忘れ ……400, 411
先行車発進
お知らせ機能 ……225, 412
手放し運転 ……224, 410
パワーステアリング …399, 406
半ドア走行時 …… 410
パーキングブレーキ
未解除走行時 ……401, 411
ブレーキ ……399, 403
ブレーキ制御付誤発進抑制機能
（前方・後方） ……223, 412
ランプ消し忘れ ……206, 414
リバース …… 199
警告メッセージ…… 403
警告ラベル（EV システム） …… 50
携帯リモコン
キーの電池が切れた …… 436
作動の合図 …… 135
作動範囲 …… 136
正常に働かないとき …… 436
操作 …… 144
電池交換（キー）…… 367
けん引
けん引されるとき …… 393
フック …… 396

こ

交換
エアコンフィルター…… 361
キーの電池…… 367
タイヤ…… 354
電球（バルブ）…… 373
ヒューズ…… 370
ワイパーゴム…… 363
後席シートベルト
締め忘れ警告灯 …… 401
航続可能距離 …… 109
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換…… 373
ワット数…… 450
高電圧部位 ……50
コンセント …… 318
コンライト
（自動点灯・消灯装置） …… 204
コーナーセンサー …… 269

さ

サイドビューランプ …… 209
サイドミラー（ドアミラー） … 173
操作…… 173
サンバイザー …… 313

し

事故が発生したとき
（EV システムの注意）……52
室内灯（インテリアランプ） … 304
荷室灯…… 305
ルームランプ…… 304
ワット数…… 450
始動のしかた …… 192
シフトポジション …… 197
シフトレバー …… 197
リバース警告ブザー…… 199
車線逸脱警報機能・
路側逸脱警報機能 …… 252
車線逸脱抑制機能…… 252
車速
スピードメーター …… 108
車中泊が必要なときは…… 392
ジャッキ
ガレージジャッキ …… 348
タイヤ交換 …… 354
車幅灯…… 204
ランプスイッチ
（ライトスイッチ） …… 204
電球（バルブ）の交換 …… 373
車両カスタマイズ機能…… 451
車両型式…… 450
車両仕様（スペック）…… 450
車両接近通報装置…… 49
車両データの記録…… 7
車両を緊急停止するには…… 390
充電
急速充電 …… 85
車載普通充電器（6kW） …… 81
充電装備 …… 58
充電に関するアドバイス …… 71
充電に関する警告 …… 80, 88
充電のしかた …… 77, 85
充電方法 …… 70
充電リッドの開閉 …… 59
正常に充電できない …… 94
電源について …… 67, 70
V2H 充電…… 85
普通充電 …… 77
普通充電ケーブル …… 61
メッセージ ……102, 403

充電ケーブル（普通充電ケーブル）
安全機能……64
インジケーター……64
コントロールボックス……63
充電ケーブルに関する警告……61
充電スタンドでの情報 …… 480
充電ポート ……58
充電リッドの開閉……59
収納装備 …… 306
ジュニアシート ……36
仕様（車両仕様） …… 450
衝突回避支援ブレーキ機能
（対車両、対歩行者（昼夜）、
対自転車）…… 229
衝突警報機能
（対車両、対歩行者（昼夜）、
対自転車）…… 229
初期設定 …… 456
パワーウインドー…… 178
マルチインフォメーション
ディスプレイ（カラー） … 128
助手席シートベルト
締め忘れ警告灯 …… 400
ショッピングフック …… 317
シート
お手入れ…… 339
シートに関する警告…… 159
シートの調整に関する
警告 …… 159, 161
シートヒーター…… 303
正しい運転姿勢……24
チャイルドシート……36
調整…… 158
フロントシート…… 158
リヤシート…… 160
シートヒーター …… 303
シートベルト…… 26
お子さまの着用 …… 29
お手入れ …… 338
緊急時のシートベルト
固定機構 …… 26
シートベルト
締め忘れ警告灯 ……400, 401
正しく着用するには …… 26
着け方・外し方 …… 26
妊娠中の方の着用 …… 28
シートベルト
締め忘れ警告灯 ……400, 401
シートベルトプリテンショナー… 26
機能 …… 26
プリテンショナー警告灯 … 399

す

スイッチ
イグニッション …… 192
ウインドーロック …… 177
ウォッシャー ……212, 214
AC100V スイッチ …… 318
コーナーセンサー …… 271
シートヒーター …… 303
スマートアシスト
OFF スイッチ …… 220
ドアミラー …… 173
荷室灯 …… 305
パワーウインドー …… 177
パワースイッチ …… 192
非常点滅灯
（ハザードランプ） …… 387
VSC・TRC OFF …… 280
メーター操作スイッチ …… 110
ランプスイッチ
（ライトスイッチ） …… 204
リヤデフォッガー …… 298
ルームランプ …… 304

ワイパー…… 212, 214
スタック …… 445
ステアリングホイール（ハンドル） …… 162
パワーステアリング警告灯 …… 399
ステレオカメラ …… 219
ストップランプ（制動灯）
電球（バルブ）の交換…… 373
スノータイヤ（冬用タイヤ） … 285
スピードメーター …… 108
スペック（車両仕様） …… 450
スマートアシスト …… 216
スマートアシスト機能停止コード …… 421
スモールランプ（車幅灯） …… 204
電球（バルブ）の交換…… 373
ランプスイッチ（ライトスイッチ）…… 204
ワット数…… 450
スライドドア …… 149
スライドドアクローザー…… 150
ドアガラス…… 180
ロックレバー…… 149
スライドドアクローザー
スライドドア…… 150

せ

清掃
外装…… 334
シートベルト…… 338
内装…… 338
制動灯
電球（バルブ）の交換…… 373
積算距離計（オドメーター） … 111
機能…… 111
表示切り替えスイッチ…… 110
先行車発進お知らせ機能 …… 262
洗車…… 334
前照灯（ヘッドランプ）…… 204
電球（バルブ）の交換 …… 373
ライトセンサー …… 205
ランプ消し忘れ警告ブザー …… 206
ランプ消し忘れ防止機能 … 206
ランプスイッチ（ライトスイッチ） …… 204

そ

速度計（スピードメーター）… 108
ソナー……219, 269

た

タイヤ…… 351
空気圧 …… 450
交換 …… 354
締め付けトルク …… 358
点検 …… 351
パンク応急修理セット …… 424
パンクしたときは …… 424
冬用タイヤ …… 285
ホイールサイズ …… 450
ローテーション（位置交換） …… 351
タイヤが空回りする（スタックした）…… 445
タイヤチェーン…… 285
ターンシグナルランプ（方向指示灯）…… 202
電球（バルブ）の交換 …… 373
方向指示レバー …… 202
ワット数 …… 450

ち

チェンジレバー
（シフトレバー）…… 197
チェンジレバー（シフトレバー）
リバース警告ブザー…… 199
チェーン（タイヤチェーン）… 285
チャイルドシート …… 36
シートベルトでの固定…… 43
選択方法…… 36
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）…… 203
操作…… 203
未解除走行時
警告ブザー …… 401, 411
メンテナンスデータ…… 449

て

デジタルルームミラー …… 164
デフォッガー
フロントガラス…… 298
リヤデフォッガー…… 298
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）…… 373
ワット数…… 450
電欠になったとき …… 54
点検基準値
（メンテナンスデータ）…… 448
電費
平均電費…… 111
テールランプ（尾灯）…… 204
電球（バルブ）の交換…… 373
ランプスイッチ
（ライトスイッチ）…… 204

と

ドア…… 144
キーフリーシステム …… 135
ドアガラス ……177, 180
半ドア警告灯 …… 410
ロックレバー
（パワードアロック）…… 145
ドアガラス……177, 180
ドアハンドル
（アウターハンドル）…… 144
ドアミラー…… 173
操作 …… 173
ドア連動（イルミネーテッド
エントリーシステム）…… 305
時計…… 109
時計の調整…… 117
トランスミッション…… 197
操作 …… 197
トリップインフォメーション… 111
トリップメーター…… 111
機能 …… 111
表示切り替えスイッチ …… 110
ドリンクホルダー…… 309

な

内装
お手入れ …… 338
収納装備 …… 306

に

荷物
積むときの注意 …… 191

ぬ

ぬかるみにはまった
（スタックした）…… 445

は

ハイビーム（ヘッドランプ） … 204
電球（バルブ）の交換…… 373
ランプスイッチ（ライトスイッチ）…… 204
ワット数…… 450
挟み込み防止装置
パワーウインドー…… 177
ハザードランプ（非常点滅灯） …… 387
スイッチ…… 387
電球（バルブ）の交換…… 373
ワット数…… 450
発炎筒 …… 388
バックアイカメラ …… 275
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換…… 373
ワット数…… 450
バックドア …… 154
BEV（バッテリーエレクトリックビークル）……46
バッテリー（補機バッテリー）
冬の前の準備・点検…… 285
補機バッテリーあがりを防止するために …… 441
補機バッテリーがあがった …… 438
メンテナンスデータ…… 449
バッテリー（駆動用電池）
充電について……58
搭載位置……46
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）… 373
ワット数…… 450
パワーウインドー…… 177
ウインドーロックスイッチ（パワーウインドーOFF スイッチ）…… 177
閉めることができないときは …… 178
操作 …… 177
挟み込み防止機能 …… 177
パワースイッチ
操作方法 …… 192
パワーステアリング…… 279
パワーステアリング警告灯 …… 399
パワードアロック（ロックレバー）…… 145
パワーメーター…… 109
パンクした…… 424
番号灯（ライセンスプレートランプ） …… 204
電球（バルブ）の交換 …… 373
ランプスイッチ（ライトスイッチ） …… 204
ワット数 …… 450
ハンドル（ステアリングホイール）…… 162
パワーステアリング警告灯 …… 399
ハンドルポジションモニター… 113
ハンドルロック…… 195
パーキングブレーキ…… 203
操作 …… 203
パーキングブレーキ未解除警告灯 …… 401
未解除走行時警告ブザー ……401, 411
メンテナンスデータ …… 449

ひ

非常時給電システム …… 318
非常点滅灯
（ハザードランプ） …… 387
スイッチ…… 387
電球（バルブ）の交換…… 373
ワット数…… 450
尾灯（テールランプ） …… 204
電球（バルブ）の交換…… 373
ランプスイッチ
（ライトスイッチ）…… 204
ヒューズ …… 370
標識認識機能（車両進入禁止、
最高速度、一時停止）…… 265
表示灯 …… 106
日よけ（サンバイザー） …… 313
ヒルホールドコントロール …… 279
ヒーター
オートエアコン…… 296
シートヒーター…… 303

ふ

V2H 給電 ……85
ブザー
EV システム …… 415
運転席シートベルト
締め忘れ …… 400, 411
キーフリーシステム… 137, 418
後席シートベルト
締め忘れ …… 401, 411
コーナーセンサー…… 270, 413
車線逸脱警報機能・
路側逸脱警報機能 … 224, 413
衝突回避支援ブレーキ
機能 …… 222, 412
衝突警報機能…… 222, 412
助手席シートベルト
締め忘れ ……400, 411
先行車発進
お知らせ機能 ……225, 412
手放し運転 ……224, 410
パワーステアリング …399, 406
半ドア走行時 …… 410
パーキングブレーキ
未解除走行時 ……401, 411
ブレーキ ……399, 403
ブレーキ制御付誤発進抑制機能
（前方・後方） ……223, 412
ランプ消し忘れ ……206, 414
リバース …… 199
普通充電ケーブル
安全機能 …… 64
インジケーター …… 64
コントロールボックス …… 63
充電ケーブルに関する警告 … 61
フック
けん引フック …… 396
ショッピングフック …… 317
フロアマット固定フック …… 22
プッシュボタン
スタートスイッチ …… 192
冬の前の準備
（寒冷時の運転）…… 285
冬用タイヤ…… 285
ブレーキ
回生ブレーキ …… 47
パーキングブレーキ …… 203
ブレーキ警告灯 …… 399
メンテナンスデータ …… 449

ブレーキアシスト …… 279
機能…… 279
スリップ表示灯…… 400
ブレーキ制御付
誤発進抑制機能 …… 242
ブレーキ付近から
キーキー音が聞こえる …… 187
ブレーキフルード …… 449
フロアマット …… 22
フロントシート …… 158
お手入れ…… 339
シートヒーター…… 303
正しい運転姿勢…… 24
調整…… 158
フロントシート調整に
関する警告 …… 159
フロントターン
シグナルランプ …… 202
電球（バルブ）の交換…… 373
方向指示レバー…… 202
フロント方向指示灯 …… 202
電球（バルブ）の交換…… 373
方向指示レバー…… 202
ブースターケーブルの
つなぎ方 …… 438

へ

平均電費 …… 111
ヘッドランプ …… 204
電球（バルブ）の交換…… 373
ライトセンサー…… 205
ランプ消し忘れ
警告ブザー …… 206
ランプ消し忘れ防止機能…… 206
ランプスイッチ
（ライトスイッチ）…… 204
ワット数…… 450
ベビーシート …… 36

ほ

ホイール
交換 …… 354
メンテナンスデータ …… 450
方向指示灯…… 202
電球（バルブ）の交換 …… 373
方向指示レバー …… 202
ワット数 …… 450
補機バッテリー
冬の前の準備・点検 …… 285
補機バッテリーあがりを
防止するために …… 441
補機バッテリーがあがった 438
メンテナンスデータ …… 449
保証…… 9
補助確認装置…… 176
ボンネット
開けかた …… 345
ホーン（警音器）…… 162

ま

マスターウォーニング…… 400
マルチインフォメーション
ディスプレイ（カラー）…… 109

み

ミラー
デジタルルームミラー …… 164
ドアミラー …… 173
ルームミラー …… 163

め

メカニカルキー
（エマージェンシーキー） …… 132
メンテナンスデータ …… 448
メーター（計器類） …… 108
警告灯…… 399
表示切り替えスイッチ…… 110
表示灯…… 106
マルチインフォメーション
ディスプレイ（カラー） … 109

も

モーター（駆動モーター） ……46

ゆ

雪道で滑って動けない
（スタックした） …… 445
油脂類 …… 448
USB ソケット
充電用…… 315
ユーザーカスタマイズ機能 …… 451

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯） …… 204
電球（バルブ）の交換…… 373
ランプスイッチ
（ライトスイッチ）…… 204
ワット数…… 450
ライトセンサー …… 205
ラジエーター（冷却装置）
オーバーヒート…… 442
メンテナンスデータ…… 448
ランプ
ウェルカムランプ …… 124
室内灯 …… 304
前照灯（ヘッドランプ）…… 204
電球（バルブ）の交換 …… 373
荷室灯 …… 305
非常点滅灯
（ハザードランプ） …… 387
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー）…… 202
ライトセンサー …… 205
ランプ消し忘れ防止機能 … 206
ルームランプ …… 304
ワット数 …… 450
ランプ消し忘れ防止機能…… 206
ランプスイッチ
（ライトスイッチ）…… 204

り

リヤシート…… 160
リヤシートに関する警告 … 161
リヤデフォッガースイッチ…… 298
リヤ方向指示灯…… 202
電球（バルブ）の交換 …… 373
方向指示レバー …… 202
ワット数 …… 450
リヤワイパー…… 214

る

ルームミラー……163, 164
ルームランプ…… 304
スイッチ ……304, 305
ワット数 …… 450

れ

冷却水 …… 448
冬の前の準備・点検…… 285
メンテナンスデータ…… 448
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート…… 442
メンテナンスデータ…… 448
レバー
シフト…… 197
方向指示…… 202
ボンネット解除…… 345
ロック（ドア）…… 145

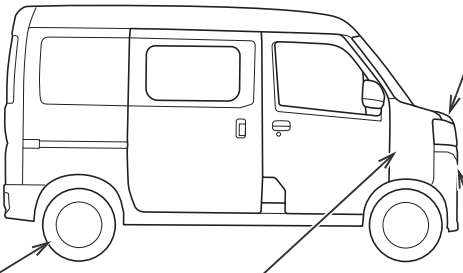
ろ

ロック
ウインドーロック…… 177
ウェルカムドアロック解除… 145
キーフリーシステム…… 135
携帯リモコン…… 144
ドア…… 144

わ

ワイパー＆
ウォッシャー …… 212, 214
ワックス …… 334
ワット数 …… 450

充電スタンドでの情報



ボンネットフック
P. 345

タイヤ空気圧
P. 450

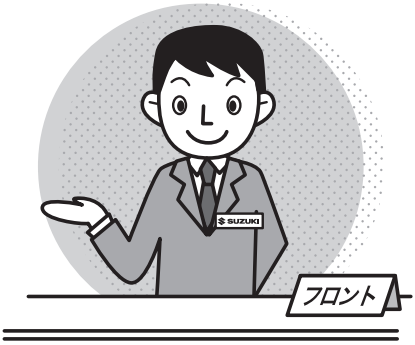
ボンネット解除レバー
P. 345

充電ポート
P. 58

外部電源	P. 70
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 450

お問い合わせ、ご相談は

お車のことや、車検・点検などのアフターサービスについてのお問い合わせやご相談がございましたら、まずはお買い上げいただきましたスズキ販売店またはスズキ代理店にお尋ねください。



スズキ代理店にお問い合わせやご相談をいただくときは、別冊の「スズキ4輪車サービスネットワーク」に記載してありますお近くの代理店にお気軽にご連絡ください。
お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするため、あらかじめ、お手元に車検証をご準備いただき、次の事項をご確認のうえ、ご連絡願います。

①車名、車台番号、ナンバープレートの番号など
②ご購入年月日
③走行距離
④ご相談内容
⑤お客様のご住所、お名前、お電話番号